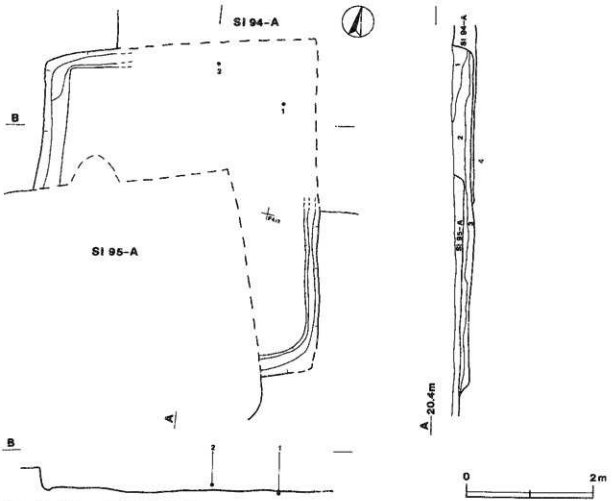


第204図　第95-B号住居跡実測図

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

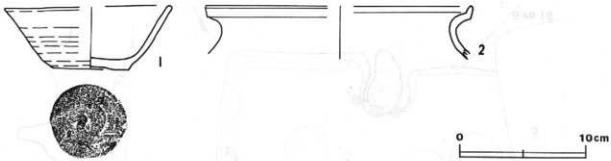
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
3　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片6点，須恵器片23点が出土している。第205図1の坏，2の甕は北壁付近床面から出土している。

所見　本跡は，遺物や重複関係から見て竈が存在する時期のものと考えられるが，竈の粘土や焼土等の散らばりが確認できないため，一般的な住居以外の用途に使用した可能性も考えられる。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第95　B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第205図 1	坏 須恵器	A［13.2］ B　5.2 C　6.1	底部からLI縁部片。平底。体部は直線的に立ちあがり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	パミス・雲・針状鉱物 灰色 普通	P 481 床面 PL76 70%
2	甕 土師器	A［21.2］ B（4.2）	口縁部片。口縁部は外反し，端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	石英・雲母 赤色 普通	P 482 床面 PL76 10%



第205図　第95−B号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡（第206図）

位置　調査区の南西部，F4g$_3$区。

重複関係　本跡は，第98号住居跡と第94−B号住居跡を掘り込んでおり，西部を第94−A号住居跡に掘り込まれていることから，第98号住居跡と第94−B号住居跡より新しく，第94−A号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸5.84m，短軸5.70mの方形である。

主軸方向　N−22°−W

壁　壁高は16〜42cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，東壁の一部を除いて壁溝が巡っており，ほぼ全周するものと思われる。上幅約22cm，下幅約14cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。

貯蔵穴　南西コーナーに付設され，長径104cm，短径72cmの不整楕円形で，深さは49cm，断面形は擂り鉢形である。

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
2　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
3　褐　　色　黒色土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

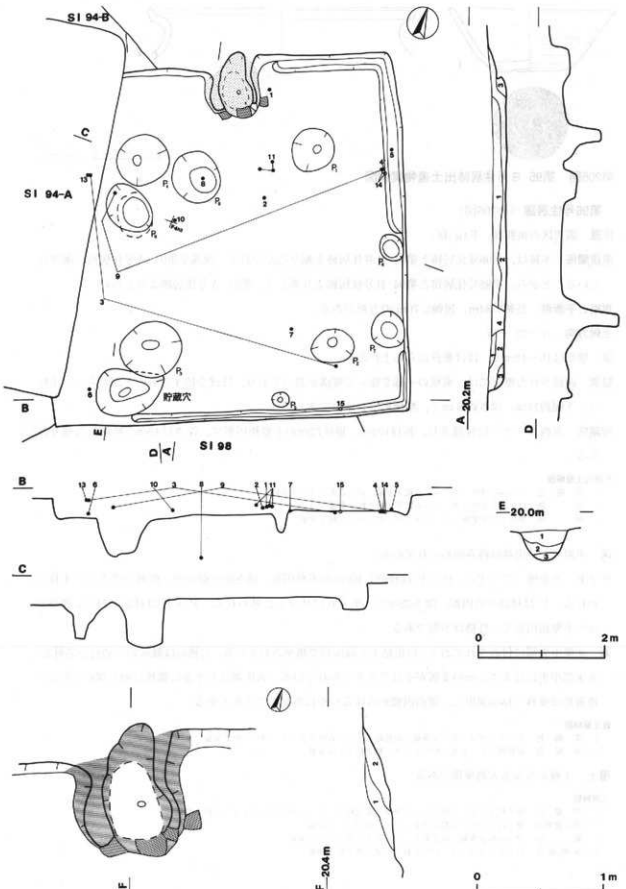
ピット　9か所（P$_1$〜P$_9$）。P$_1$〜P$_4$は径68〜100cmの不整円形，深さ60〜88cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P$_5$は径28cmの円形，深さ32cmで，出入り口ピットと思われる。P$_6$〜P$_9$は径36〜74cm，深さ20〜71cmの不整楕円形で，性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設されており，白色粘土と凝灰岩で構築されている。右袖には凝灰岩の切石が芯材として，火床部中央には太さ5cmの支脚がそれぞれ立てられている。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ18cm突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

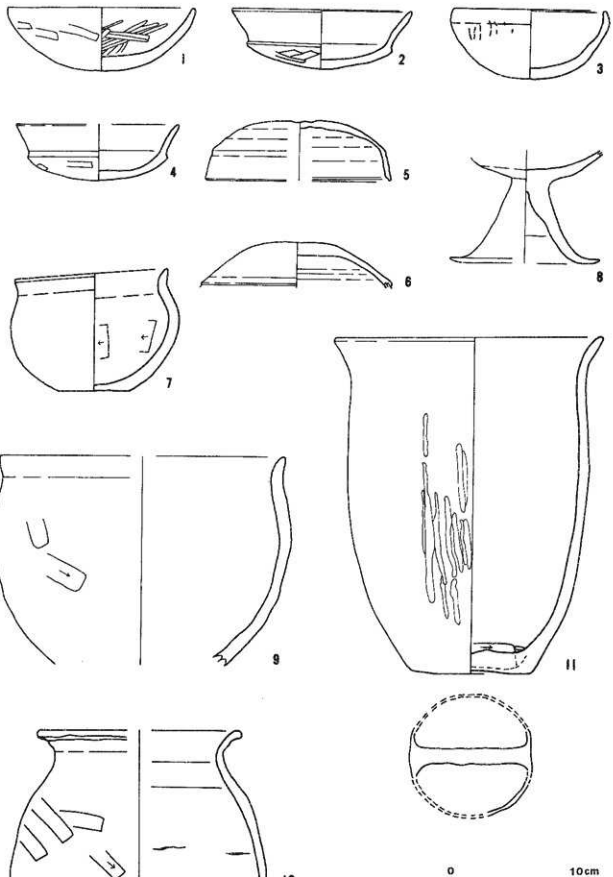
竈土層解説
1　黄　褐　色　ローム小ブロック・灰多量，炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
2　赤　褐　色　炭化物・ローム大・中ブロック・粘土粒子・灰多量

覆土　4層からなる人為堆積である。

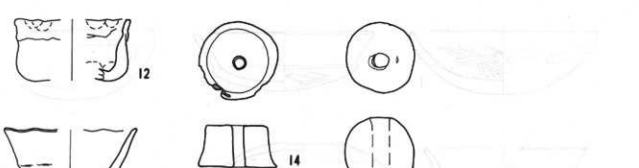
土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・ローム中ブロック中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　鈍い黄褐色　焼土粒子・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム大・中ブロック少量
4　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量



第206図　第96号住居跡実測図



第207図　第96号住居跡出土遺物実測図(1)



第208図　第96号住居跡出土遺物実測図(2)

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第207図 1	坏 土師器	A 14.8 B 5.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・礫 橙色 普通	P483 90% 覆土下層 PL76
2	坏 土師器	A 14.2 B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面刺離，外面横ナデ。体部内面刺離，外面ヘラ削り。	長石・石英・パミス 明赤褐色 普通	P484 70% 床面 PL76
3	坏 土師器	A 12.1 B 5.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内面刺離，外面横ナデ。体部内面刺離，外面ナデ。底部粗いヘラ削り調整。	石英・長石 鈍い橙色 普通	P485 70% 覆土下層 PL76
4	坏 土師器	A [12.8] B 4.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面刺離，外面ヘラ削り。	石英・スコリア 橙色 普通	P486 60% 床面 PL76
5	壺 須恵器	A [14.5] B 4.8	口縁部から天井部片。天井部は平坦で，内彎しながら口縁端部に至り，口縁部との境に鋭い稜を持つ。口縁部はわずかに開き，端部に段を持つ。	天井部左ロクロ回転ヘラ削り。口縁部内・外面及び体部内面ロクロナデ。体部内面に仕上げナデが施される。	石英 灰色 良好	P488 70% 床面 PL76
6	壺 須恵器	B (3.6)	天井部片。天井部はドーム状で，内彎しながら口縁端部に至り，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。	天井部内面ロクロナデ，外面回転ヘラ削り。	パミス・長石 暗灰色 良好	P489 60% 床面
7	椀 土師器	A 11.8 B 10.0 C 5.7	底部から口縁部片。平底。体部は球形状で，口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。口縁部から体部上半赤彩。	長石・石英・礫 赤色 普通	P490 80% 床面 PL76
8	高坏 土師器	B (9.0) D 6.4 E [11.8]	脚部から体部片。脚部は円錐形で，裾部で大きく開く。坏体部は内彎して立ち上がる。	坏体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	雲母・パミス 橙色 普通	P491 50% 覆土下層 PL76
9	甕 土師器	A [22.4] B (16.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・石英・パミス・長石・礫 明赤褐色 普通	P492 40% 覆土下層
10	甕 土師器	A [15.8] B (12.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・パミス・礫 橙色 普通	P493 20% 覆土下層
11	甑 土師器	A 21.1 B 26.8 C 9.5	底部から口縁部片。2孔式。体部は内彎気味に直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。底部孔周囲ヘラ削り。	雲母・石英・パミス・礫 橙色 普通	P494 80% 覆土下層 PL76
第208図 12	手捏土器 土師器	A [9.2] B 4.9 C [7.1]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。体部内・外面に輪積み痕を残す。	礫 黄橙色 普通	P495 40% 覆土中
13	手捏土器 土師器	A [10.4] B 5.2 C 5.7	口縁部一部欠損。突出気味の平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部上位内・外面横ナデ，下位ナデ。	スコリア・石英・パミス・雲母・礫 鈍い黄褐色 普通	P496 80% 覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第208図14	紡錘車	6.2	6.2	3.4	0.8	129.0	東壁際床面	DP41
15	土玉	3.7	3.6	3.7	0.9~1.1	45.5	南壁際床面	DP42 PL115

遺物　土師器片932点，須恵器片７点，縄文・弥生土器片３点，軽石１点が出土している。第207・208図１の坏，11の甕は竈前覆土下層から，２の坏，６の須恵器蓋は南西コーナー付近床面から，３の坏は西コーナー付近覆土下層から，４の坏，５の須恵器蓋，14の紡錘車は東壁際床面から，７の椀は南東コーナー付近床面から，８の高坏はピット内覆土中から，９の甕は散在した状態で覆土下層から，10の甕は中央部覆土下層から，13の手捏土器は西壁付近覆土下層から，15の土玉は南壁床面から，12の手捏土器は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀前半）と思われる。

第97号住居跡（第209図）

位置　調査区の南西部，F4i$_2$区。

重複関係　本跡は，第98号住居跡の南西部を掘り込んでおり，東部を第99号住居跡に掘り込まれていることから，第98号住居跡より新しく，第99号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する西壁から推定すると，一辺4.36mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約12cm，下幅約６cm，深さ約５cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，全体的に軟らかい。

ピット　７か所（P$_1$～P$_7$）。P$_1$，P$_2$は径28～46cmの不整円形，深さ70～76cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P$_3$は径22cmの円形，深さ17cmで，位置と形状から出入り口ピットと思われる。P$_4$～P$_7$は径34～66cmの不整円形及び楕円形，深さ19～31cmで，性格は不明である。

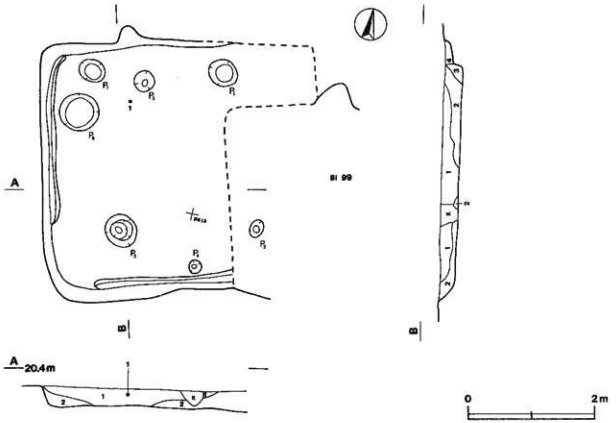
竈　北壁中央やや西寄りに付設されている。砂粒まじりの白色粘土と凝灰岩の切石で構築されている。左袖部先端に凝灰岩の切石が立てられ，そのまわりに，崩落した粘土が残っている。火床部の掘り込みは見られない。煙道部は壁外に28cm程突出し，ゆるやかに外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなる人為堆積である。

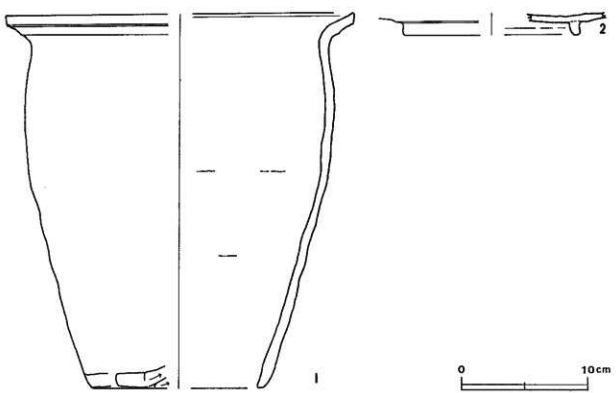
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　褐色　ローム大ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　灰黄褐色　焼土小ブロック・白色粘土粒子少量

遺物　土師器片131点が出土している。第210図１の土師器甑は竈前覆土下層から，２の須恵器盤は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（８世紀頃）と思われる。



第209図　第97号住居跡実測図



第210図　第97号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表

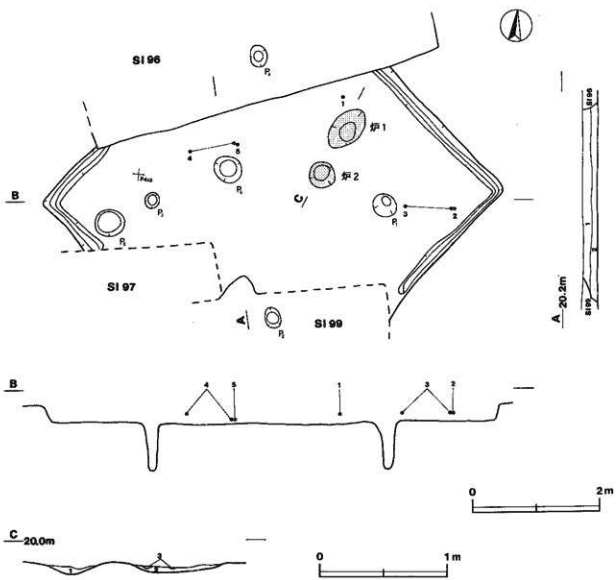
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第210図 1	甕 上師器	A [27.6] B 29.8 C [13.5]	底部から体部片。無底式。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部孔周囲ヘラ削り。	石英・雲母 鈍い橙色 普通	P497 30% 覆土ド層 PL76
2	盤 須恵器	B (1.8) D [14.1] E 1.1	高台部片。直線的に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P498 10% 覆土中 PL76

第98号住居跡（第211図）

位置　調査区の南西部，F4 i$_2$区。

重複関係　本跡は，第96号住居跡，第97号住居跡及び第99号住居跡にそれぞれ掘り込まれており，3軒の住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する東コーナー及び西コーナーから推定すると，一辺5.26mの方形あるいは長方形である。



第211図　第98号住居跡実測図

主軸方向　N－38°－E

壁　壁高は30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，壁溝が巡っている。全周するものと思われる。上幅約10cm，下幅約４cm，深さ約４cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，全体的に踏み固められている。

ピット　６か所（P_1～P_6）。P_1～P_3は径22～40cmの不整円形，深さ48～74cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_4～P_6は径24～48cm，深さ９～16cmで，性格は不明である。

炉　２か所。炉１は中央から北東壁寄りに位置し，長径76cm，短径42cmの楕円形で，床面を５cm程掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。炉２は炉１の南寄りに位置し，径48cmの円形で，床面を８cm程掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉１・炉２土層解説
1　赤　褐　色　焼土大・中ブロック・焼土粒子多量
2　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量
3　黒　　色　含有物なし

覆土　２層からなる自然堆積である。

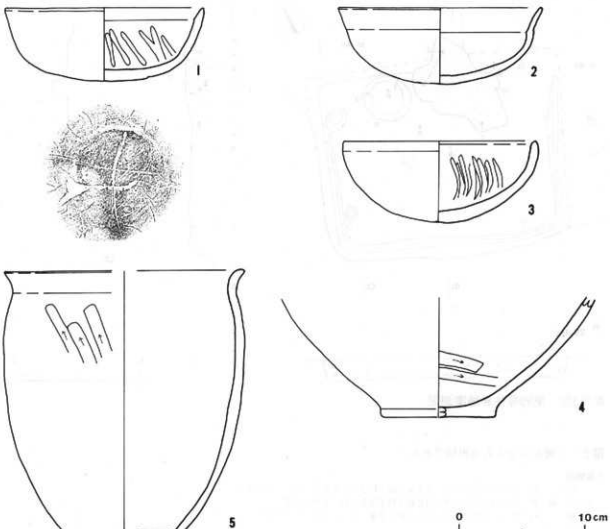
土層解説
1　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

遺物　土師器片224点，須恵器片４点，弥生土器片１点，石英　片１点，軽石１点が出土している。第212図１の坏は北東壁付近床面から，２，３の坏は東コーナー覆土下層から，４の甕は中央部床面からそれぞれ出土している。５の瓶は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀末～６世紀初頭）と思われる。

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第212図 1	坏 土師器	A 15.6 B 5.9	口縁部一部欠損。平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。内面に飼い槐を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。	石英・スコリア 明赤褐色 普通	P499　95% 床面 PL77　底面にヘラ記号あり
2	坏 土師器	A 16.2 B 6.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する内面に槐を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面粗いヘラナデ。	スコリア・石英 鈍い赤褐色 普通	P500　80% 覆土下層 PL77
3	坏 土師器	A 15.2 B 6.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面剥離。	パミス・礫 橙色 普通	P501　70% 覆土下層 PL77
4	甕 土師器	B（9.6） C［9.0］	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラ削り，外面剥離。	長石・石英 赤色 普通	P502　40% 床面 PL77
5	瓶 土師器	A［19.0］ B 20.9 C［9.0］	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	スコリア・石英・長石・パミス・礫 黄橙色 普通	P503　40% 床面 PL77



第212図　第98号住居跡出土遺物実測図

第99号住居跡（第213図）

位置　調査区の南西部，F4i$_3$区。

重複関係　本跡は，第97号住居跡及び第98号住居跡を掘り込んでおり，第97号住居跡及び第98号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.9m，短軸3.5mの長方形である。

主軸方向　N－13°－W

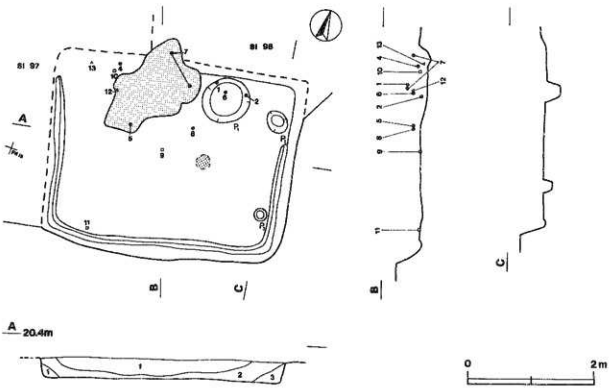
壁　壁高は35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約12cm，下幅約6cm，深さ約2cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1～P_3は径20～74cmの不整円形，深さ18cm程で，性格は不明である。

竈　北壁中央やや西寄りに付設されている。砂粒まじりの白色粘土と凝灰岩で構築されているが，遺存状況が悪く，粘土及び凝灰岩は風化の過程で周りに広がってしまい，袖部は残っていない。火床部は12cm程皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ40cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。



第213図　第99号住居跡実測図

覆土　3層からなる人為堆積である。

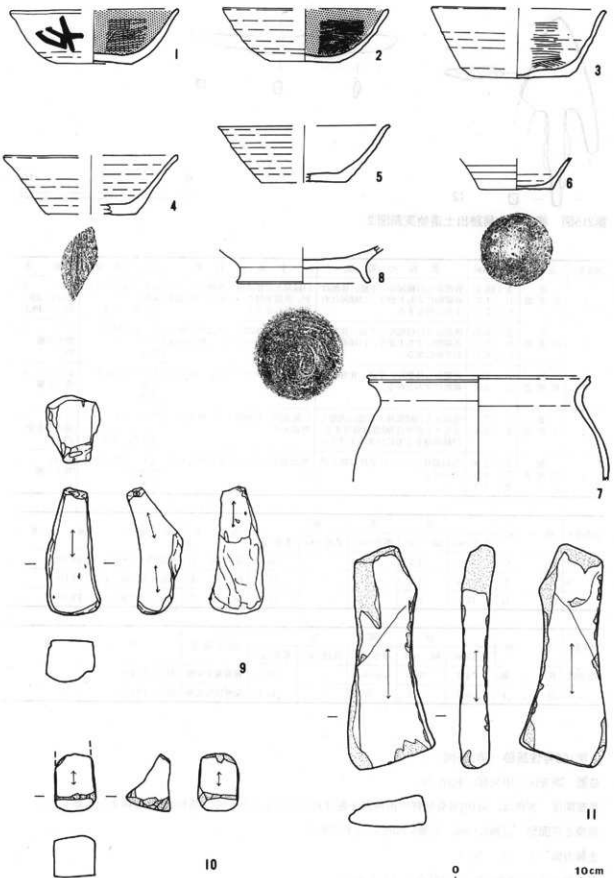
土層解説
1　褐　　色　ローム中・小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック・白色粘土粒子多量，ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

遺物　土師器片276点，須恵器片34点，縄文土器片1点，不明鉄製品片1点が出土している。第214・215図4，5の須恵器坏，8の須恵器蓋，10の砥石は，竈前覆土下層から，12の鉄鎌は同竈土中層から，7の土師器甕は竈内覆土中から，1の土師器坏は北壁付近覆土中層から，2の土師器坏は同覆土中層から，13の刀子は同床面から，9の砥石は中央部覆土下層から，11の砥石は南西コーナー付近床面から，3の土師器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

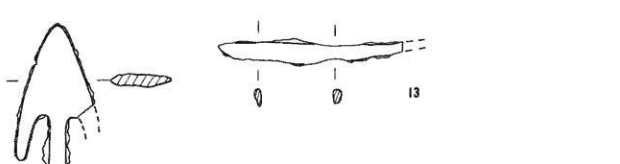
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第99号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図 1	坏 土師器	A [12.2] B 4.4 C 6.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ，体部下端回転ヘラ削り，底部下持ちヘラ削り調整。内面黒色処理。	雲母 橙色 普通	P504 90% 覆土中層 体部外面墨書[_]方 PL77
2	坏 土師器	A [13.0] B 4.2 C [5.6]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に平る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ，体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り調整。内面黒色処理。	石英 黄小粒色 普通	P505 50% 覆土中層 PL77
3	坏 土師器	A [13.6] B 5.5 C 13.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ，体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	スコリア・石英・パミス・長石・雲母 黄橙色 普通	P506 30% 覆土中



第214図　第99号住居跡出土遺物実測図(1)



第215図　第99号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	坏 須恵器	A［13.6］ B　4.7 C　7.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。底部周縁回転ヘラナデ。	石英・長石・針状鉱物 灰黄色　普通	P507　20% 覆土下層　底部にヘラ記号あり　PL77
5	坏 須恵器	A［12.6］ B　4.6 C［5.7］	底部から口縁部片。平底。体部は直線的にやや上がり，口縁端部でわずかに反る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。底部周縁回転ヘラ削り。	礫・針状鉱物 灰色 普通	P508　15% 覆土下層 PL77
6	坏 須恵器	B（2.6） C　5.8	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	石英・針状鉱物 灰色 普通	P509　10% 覆土下層
7	甕 土師器	A　17.6 B（8.4）	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・石英・パミス・スコリア 褐灰色　普通	P510　10% 覆土中 PL77
8	甕 須恵器	B（2.9） D　9.9 E　1.4	高台部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P511　50% 覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第214図9	砥石	10.2	4.2	4.4	−	180.4	凝灰岩	中央部覆土下層	Q55　PL119
10	砥石	4.6	3.2	3.6	−	51.2	凝灰岩	竈前覆土下層	Q56　PL119
11	砥石	17.7	6.8	2.5	−	321.7	凝灰岩	南西コーナー床面	Q57　PL119

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第215図12	鉄鏃	4.3	10.0	0.6～0.8	−	(37.8)	竈前覆土中層	M21　PL124
13	刀子	(9.7)	1.0	0.4	−	(10.2)	北壁付近床面	M22　PL123

第100号住居跡（第216図）

位置　調査区の中央部，E3h$_8$区。

重複関係　本跡は，第101号住居跡の南西部を掘り込んでいることから，第101号住居跡よりも新しい。

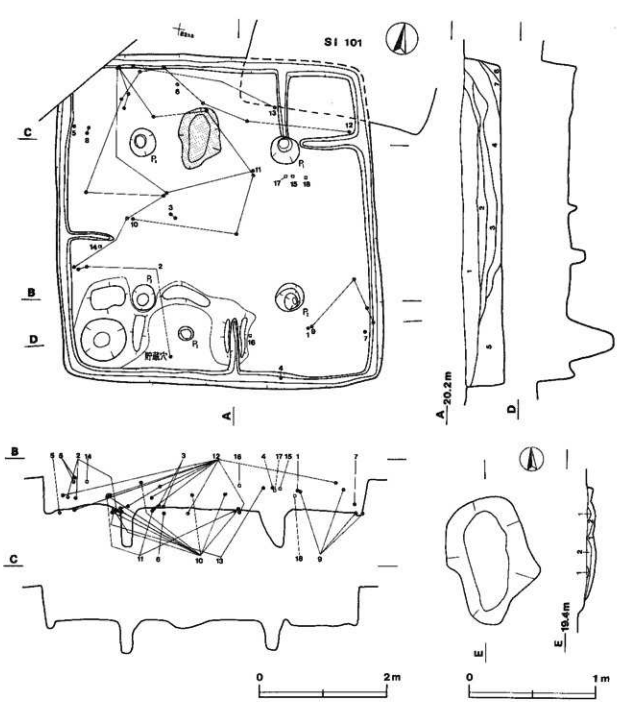
規模と平面形　長軸5.08m，短軸5.03mの方形である。

主軸方向　N−14°−W

壁　壁高は53～62cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約14cm，下幅約7cm，深さ約8cmで，断面形はU字形及び逆台形である。

貯蔵穴　南西コーナーに付設され，径72cmの円形，深さは60cm，断面形は擂り鉢形である。



第216図　第100号住居跡実測図

床　平坦で，中央部は踏み固められている。北東コーナー部及び南東コーナー部は締まりがなく柔らかである。P_5及び貯蔵穴の周囲には，幅30～62cm，高さ3～5cmの馬の背状の高まりが認められる。貯蔵穴北側の高まりは地山をそのまま掘りとらずに残すことで構築している。北壁，東壁からP_1に向かって，南壁，西壁から中央に向かって各1条ずつ溝が延びている。上幅約20cm，下幅約8cm，深さ10～14cm，長さ80～105cmで，断面形はU字形である。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径32～45cmの不整円形，深さ47～55cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径28cm，深さ25cmで，出入り口ピットと思われる。

炉　中央から北寄りに位置し，長径100㎝，短径65㎝の楕円形で，床面を７㎝掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　粘土小ブロック多量
2　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック少量

覆土　７層からなる人為堆積である。

土層解説

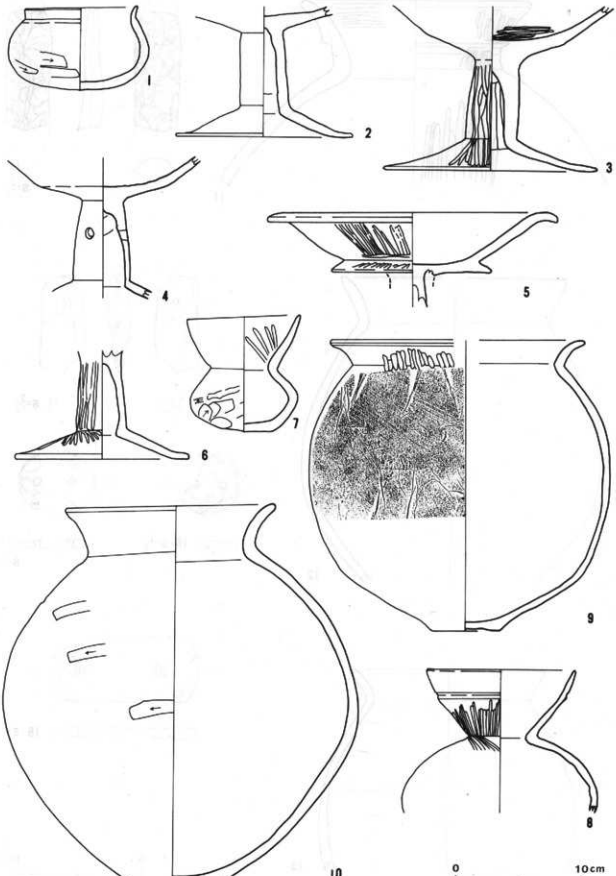
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
6　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
7　黒　　色　ローム粒子少量

遺物　土師器片1491点，須恵器片12点，縄文・弥生土器片６点，貝片（オオアカフジツボ）１点が出土している。第217・218図１の椀，４の高坏，16の有孔円板は南壁付近覆土上層から，９の甕は東壁付近覆土下層，15の石製模造品，17，18の有孔円板は同覆土上層から，６の高坏は北壁付近床面から，13の甕は同覆土中層から，２の高坏，14の尖頭器は西壁際覆土上層から，５の高坏は北西コーナー床面から，８の坩は同覆土上層から，３の高坏は放在した状態で床面から，11，12の甕は同覆上下層から，７の坩は南東コーナー覆土上層から，10の甕は中央部覆土下層からそれぞれ出土している。14の尖頭器は流れ込みと思われる。

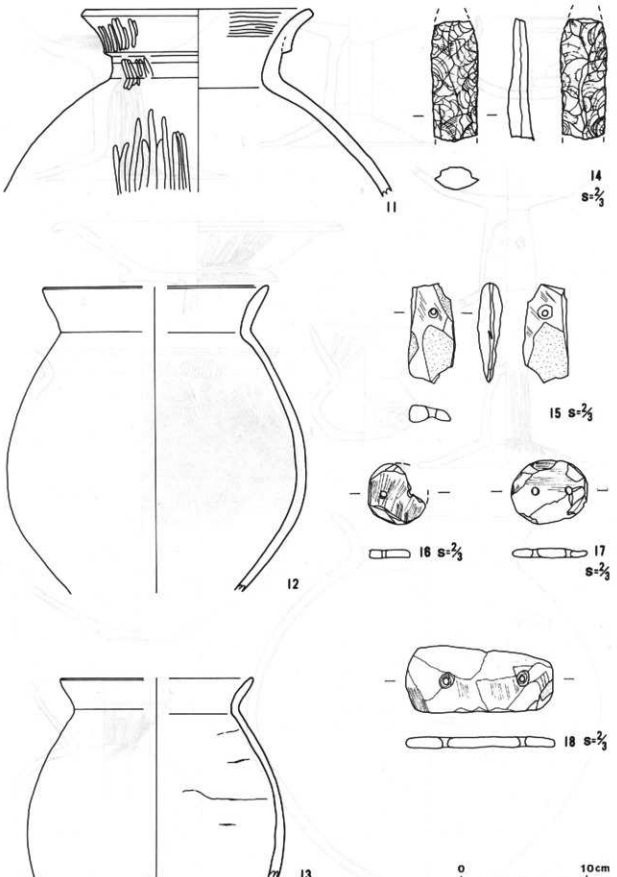
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀前半）と思われる。

第100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第217図 1	椀 土師器	A 8.8 B 6.7	口縁部～部欠損。平底気味の丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英・雲母 橙色 普通	P512 覆土上層 PL77 95%
2	高坏 土師器	B (10.3) D 13.9 E 8.2	脚部片。脚部は円筒状で，下位で「ハ」の字状に大きく開く。	脚部外面ヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。	スコリア・雲母・パミス・長石 明赤褐色 普通	P513 覆土上層 60%
3	高坏 土師器	B (13.1) D 17.0 E 8.8	脚部から坏部片。脚部は円筒状で，下位で大きく「ハ」の字状に開く。坏部は内弯して立ち上がり，外面下位に鋭い稜を持つ。	坏体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。裾部内面横ナデ，外面横ナデ後ヘラ磨き。	長石・スコリア・石英 橙色 普通	P514 床面 PL77 50%
4	高坏 土師器	B (11.2) E (7.7)	脚部から坏部片。脚部は円筒状で，中位に円孔が１か所穿たれる。坏部は下位に鋭い稜を持ち，内弯して立ち上がる。	脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。坏体部内面斜位，外面ナデ。	長石・スコリア・石英 鈍い橙色 普通	P515 覆土上層 PL77 45%
5	高坏 土師器	A 22.9 B (7.5)	坏部片。坏部は内弯して立ち上がり下位に斜め下方に突出する段を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	石英・長石・スコリア 鈍い橙色 普通	P516 床面 PL77 45%
6	高坏 土師器	D 13.8 E (8.6)	脚部片。脚部は円筒状で，下位で大きく「ハ」の字状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。	雲母・スコリア・パミス・礫・石英 明赤褐色 普通	P517 床面 45%
7	坩 土師器	A 8.9 B 9.3 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で，口縁部はわずかに内弯気味に外傾する。	口縁部上半内・外面横ナデ，下半内面ヘラ磨き，外面ヘラナデ。体部外面上半ヘラナデ，下半ヘラ削り。	礫・石英 橙色 普通	P518 覆土上層 PL77 90%
8	坩 土師器	A 11.8 B (11.4)	体部から口縁部片。体部は球形状で口縁部は外傾する。口縁部外面中位に沈線を巡らす。	口縁部内面横ナデ，外面上半横ナデ，下半縦位のヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き。	石英・長石 鈍い褐色 普通	P519 覆土上層 50%



第217図　第100号住居跡出土遺物実測図(1)



第218図　第100号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	甕 土師器	A [20.0] B 23.1 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は「く」の字状に外傾し端部で強く外反する。	口縁部内面横ナデ，外面横ナデ一部ヘラ磨き。体部内面ナデ，外面ハケナデ。	長石・石英 鉢い褐色 普通	P520 80% 覆土下層 PL78
10	甕 上師器	A 16.5 B 30.7 C 6.6	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・スコリア 橙色 普通	P521 70% 覆土下層 PL77
第218図 11	甕 土師器	A 17.7 B (15.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部は複合口縁を呈する。	口縁部内・外面横ナデ後ヘラ磨き。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	スコリア・パミス・石英・雲 鉢い橙色 普通	P522 50% 覆土下層 PL77
12	甕 土師器	A [17.4] B (24.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラナデ。	長石・パミス 鉢い褐色 普通	P523 20% 覆土下層 PL78
13	甕 土師器	A [15.1] B (16.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕を残す。	石英 鉢い橙色 普通	P524 20% 覆土中層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第218図14	尖頭器	(4.8)	1.9	0.9	—	(8.9)	安山岩	西壁付近覆土上層	Q58
15	石製模造品	3.9	1.8	0.7	0.2～0.4	8.2	滑石	東壁付近覆土上層	Q59 PL119
16	有孔円板	2.4	(2.2)	0.4	0.2	(2.8)	滑石	南壁付近覆土上層	Q60 PL118
17	有孔円板	2.5	3.0	0.4	0.3	5.2	滑石	東壁付近覆土上層	Q61 PL118
18	有孔円板	3.8	5.9	0.4	0.3	12.3	滑石	東壁付近覆土上層	Q62 PL118

第101号住居跡（第219図）

位置　調査区の中央部，E3g$_8$区。

重複関係　本跡は，南西部を第100号住居跡に掘り込まれ，第102号住居跡の南西部を掘り込んでいるところから，第100号住居跡よりも古く，第102号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.28m，短軸2.99mの方形である。

主軸方向　N－3°－E

壁　壁高は38cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

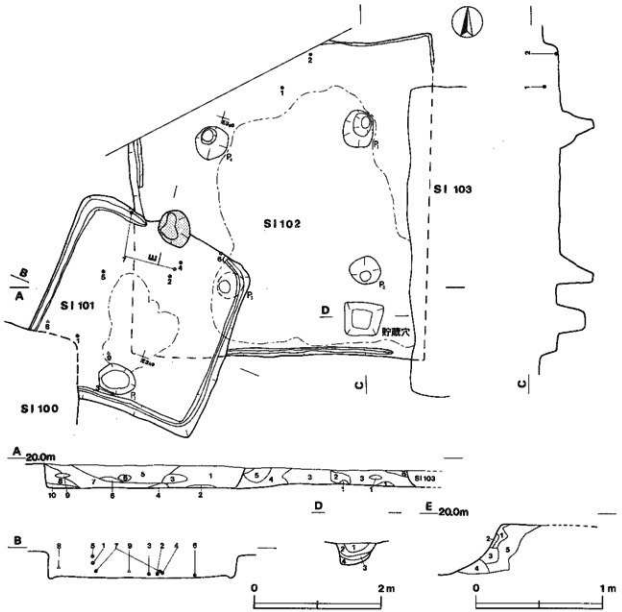
壁溝　確認された壁下には，北壁の一部を除いて壁溝が巡っている。上幅約8cm，下幅約4cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　P$_1$は長径58cm，短径44cmの楕円形，深さ19cmで，配置や深さから出入り口ピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されている。白色粘土で構築されていたと思われ，粘土ブロック及び粒子を確認するのみで，遺存状態は悪い。煙道部は20cm程壁外へ突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土大ブロック少量
2　黒 褐 色　ローム大ブロック多量，ローム粒子少量
3　黒 褐 色　焼土中・小ブロック・ローム中ブロック中量，炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土大ブロック少量
5　黒 褐 色　焼土大・中・小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

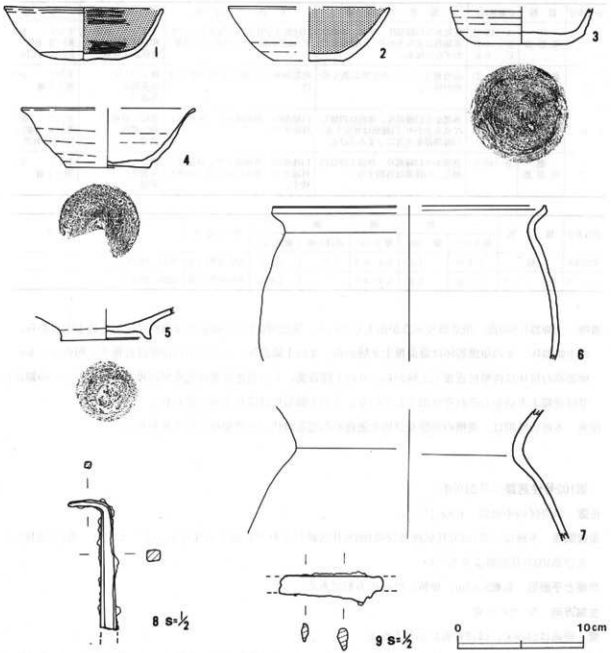


第219図　第101・102号住居跡実測図

覆土　10層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　焼土小ブロック・炭化粒子・ローム大・中ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
4　黒　褐　色　焼土小ブロック・ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム大・中ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・粘土中ブロック少量
7　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
8　黒　褐　色　ローム粒子多量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
10　黒　褐　色　焼土粒子・ローム粒子中量



第220図　第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第220図 1	坏 土師器	A 12.7 B 4.2 C 5.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後無調整。内面黒色処理。	雲母・パミス 鈍い褐色 普通	P527　80% 覆土中層 PL78
2	坏 土師器	A [12.6] B 4.2 C [5.5]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。内面黒色処理。	雲母 鈍い褐色 普通	P528　50% 覆土下層 PL78
3	坏 土師器	B (2.9) C 7.7	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整。二次底部面を残す。	長石・石英 鈍い橙色 普通	P529　40% 覆土下層 PL78

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	坏 須恵器	A [13.6] B 4.7 C 5.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部でわずかに反る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	スコリア・石英・礫・針状鉱物 黄灰色 普通	P530 40% 覆土下層 底部にヘラ記号あり PL78
5	高台付坏 土師器	B (1.5) D 7.2 E 1.1	高台部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。	礫・パミス 灰黄褐色 普通	P531 20% 覆土上層
6	甕 土師器	A [21.4] B (12.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・石英 鈍い橙色 普通	P532 30% 覆土下層 底部にヘラ記号あり PL78
7	甕 須恵器	B (10.3)	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は外開する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に当て具痕を残す。	礫 灰褐色 普通	P101 30% 覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第220図8	鎹	(7.0)	1.2	0.4～0.6	－	(11.2)	西壁付近覆土上層	M24 PL123
9	刀子	(5.5)	1.8	0.4～0.6	－	(6.9)	南壁付近覆土下層	M25 PL123

遺物　土師器片689点，須恵器片50点が出土している。第220図1の土師器坏は南西コーナー覆土中層から，2の土師器坏，4の須恵器坏は竈前覆土下層から，3の土師器坏，9の刀子は南壁付近覆土下層から，5の土師器高台付坏は西壁付近覆土上層から，6の土師器甕，7の須恵器甕は北壁付近覆土下層から，8の鎹は西壁付近覆土上層からそれぞれ出土している。3の土師器坏は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第102号住居跡（第219図）

位置　調査区の中央部，E3g$_9$区。

重複関係　本跡は，第101号住居跡及び第103号住居跡にそれぞれ掘り込まれていることから，第101号住居跡及び第103号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸5.13m，短軸4.71mの方形である。

主軸方向　N－17°－W

壁　壁高は24cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

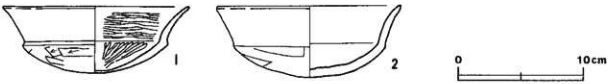
壁溝　確認された壁のうち，南壁下に壁溝が巡っている。上幅約7cm，下幅約4cm，深さ約3cmで，断面形はU字形である。

貯蔵穴　南東コーナーに付設され，長軸約60cm，短軸40cmの長方形で，深さは45cm，断面形は，逆台形である。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム大・中ブロック・ローム粒子多量
2　黒　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
3　黒褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　4か所（P$_1$～P$_4$）。P$_1$～P$_4$は径43～50cmの不整円形，深さ52～66cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。



第221図　第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第221図 1	坏 土師器	A 14.8 B 5.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ後ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	礫・雲母・パミス 橙色 普通	P534　80% 覆土下層 PL78
2	坏 土師器	A 14.4 B 5.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ後ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・礫・石英 明赤褐色 普通	P535　70% 覆土下層

竈　北壁中央部に付設されていたと思われる。白色粘土と凝灰岩の切石で構築されているが，竈の半分以上が調査区外に延びている上に，遺存状態が悪く，詳細は確認できない。袖に使われたと思われる25～30cmの凝灰岩の芯材のみを確認する。

覆土　6層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック微量
2　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
4　黒　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム極大ブロック・ローム粒子少量，ローム大・小ブロック微量
6　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量

遺物　土師器片210点，須恵器片1点が出土している。第221図1，2の坏は竈内覆土下層から正位の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代（6世紀前半）と思われる。

第103号住居跡（第222図）

位置　調査区の南西部，E3g6区。

重複関係　本跡は，第102号住居跡の東部を掘り込んでいることから，第102号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸5.01m，短軸4.68mの方形である。

主軸方向　N－21°－W

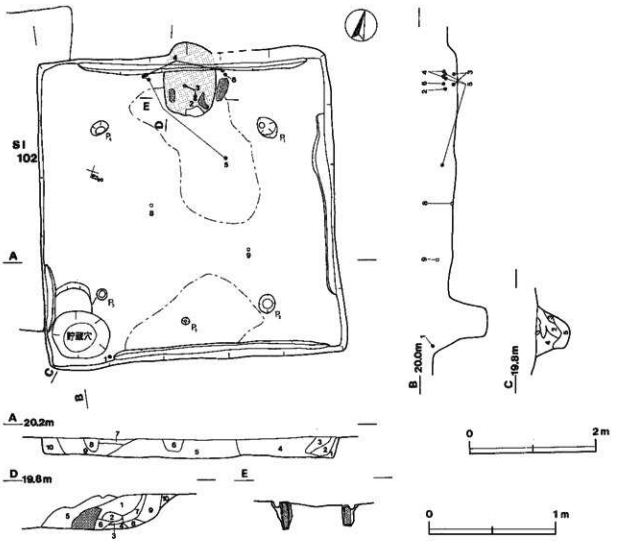
壁　壁高は20～33cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，西壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約11cm，下幅約8cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

貯蔵穴　南西コーナーに付設され，長径92cm，短径74cmの楕円形で，深さは53cm，断面形は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子・ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム大ブロック中量，焼土大ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量，炭化物微量
3　黒　褐　色　焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
4　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　黒　　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子中量



第222図　第103号住居跡実測図

床　平坦で，南壁下付近及び中央から竈前にかけて踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径17～32cmの不整円形，深さ68～83cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径14cm，深さ8cmで，出入り口ピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，白色粘土と凝灰岩とで構築されている。焚き口部の両側に幅約7cm，長さ15～20cmの凝灰岩の切石が上中に埋め込まれ，その上部及び周囲にも凝灰岩の切石が認められる。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　純い黄褐色　焼土大・中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土大ブロック少量
2　暗　褐　色　焼土大・小ブロック・ローム大ブロック中量，炭化粒子少量
3　褐　　色　粘土大・中ブロック多量，焼土小ブロック少量
4　黒　　色　ローム小ブロック多量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム大ブロック微量
6　褐　　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，焼土大ブロック・炭化粒子少量
7　暗 褐 色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
8　褐　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量
9　黒 褐 色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，焼土大ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子多量，粘土粒子少量

覆土　10層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック少量
4　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック少量
5　黒　褐　色　ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子少量
6　黒　　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・粘土大ブロック少量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量
8　黒　　色　ローム粒子少量
9　黒　褐　色　炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
10　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第223図1	坏 土師器	A [13.4] B 5.2	底部から口縁部片。平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ハケナデ，外面ナデ。	スコリア・パミス・石英・礫 鈍い橙色 普通	P536　20% 覆土上層
2	甕 土師器	A 18.1 B 28.5 C 5.8	体部～部欠損。平底。突出した底部から内彎して立ち上がり，最大径を体部中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	雲母・パミス・礫・石英 橙色 普通	P537　80% 竈内覆土下層 PL78
3	甕 土師器	B (24.0) C 6.5	口縁部欠損。平底。突出した底部から内彎して立ち上がり，最大径を体部上位に持つ。	体部内面ヘラ削り，外面縦縫。	雲母・スコリア・石英 明赤褐色 普通	P538　85% 竈内覆土下層 PL78
4	甕 土師器	A 18.0 B (27.5)	底部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・石英・雲母・長石・パミス・礫 鈍い褐色 普通	P539　80% 竈内覆土下層 PL78
5	甕 土師器	A [17.0] B 22.5 C 6.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・スコリア 橙色 普通	P540　60% 覆土下層 PL78
第224図6	小形甕 土師器	A 12.3 B 11.7 C 5.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・雲母・石英・礫 鈍い褐色 普通	P541　90% 竈内覆土下層 PL78

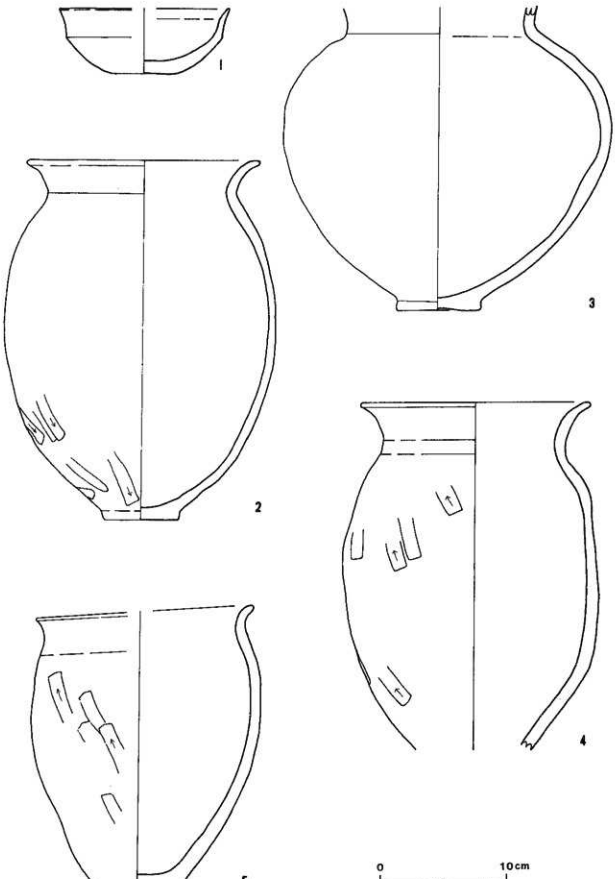
第224図7は須恵器体部片で，上半に自然釉が残り，下半に櫛描波状文が施される。

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備　考
第224図8	小　玉	1.0	1.0	1.0	0.1	0.6	中央部床面	DP43

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石　質	出土地点	備　考
第224図9	有孔円板	(2.2)	(2.5)	(0.4)	0.2	(1.9)	滑　石	竈東壁付近覆土上層	Q63

遺物　土師器片403点，須恵器片5点が出土している。第223・224図1の坏は南壁際覆土上層から，2，3，4の甕，6の小形甕は竈内覆土下層からまとまった状態で，5の甕は散在した状態で覆土下層から，9の有孔円板は東壁付近覆土上層から，8の小玉は中央部床面からそれぞれ出土している。有孔円板は流れ込みと思われる。

所見　本跡はほぼ全面に焼土や炭化材が散在しており，焼失家屋と思われる。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



第223図　第103号住居跡出土遺物実測図(1)

第224図　第103号住居跡出土遺物実測図(2)

第104号住居跡（第225図）

位置　調査区の中央部，E2i_9区。

重複関係　本跡は，南コーナーを第108号住居跡に掘り込まれていることから，第108号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸4.95m，短軸4.8mの方形である。

主軸方向　N－54°－W

壁　壁高は22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，南西壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約12cm，下幅約7cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は南コーナーに付設され，長径95cm，短径75cmの楕円形で，深さは48cm，断面形は箱形である。貯蔵穴2は東コーナーに付設され，長径95cm，短径72cmの楕円形で，深さは35cm，断面形はU字形である。

貯蔵穴1土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム極大ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量
4　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量
5　黒　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ローム大・中ブロック多量，ローム粒子中量

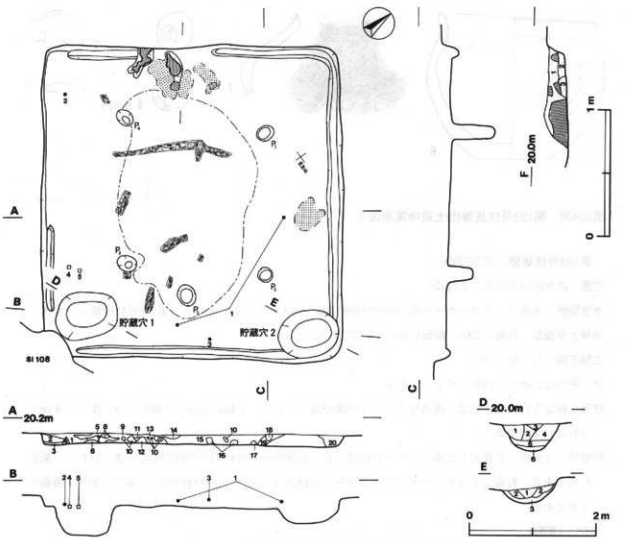
貯蔵穴2土層解説
1　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・粘土大ブロック少量
3　褐　　色　含有物なし

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径25～30cmの不整円形，深さ16～66cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径32cmの不整楕円形，深さ18cmで，出入り口ピットと思われる。

竈　北西壁中央部に付設されている。白色粘土と凝灰岩とで構築されているが，攪乱を受けており，遺存状態が悪い。火床部は8cm程皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側から直線的に立ち上がっている。

竈土層解説
1　黒　褐　色　粘土大ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
3　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

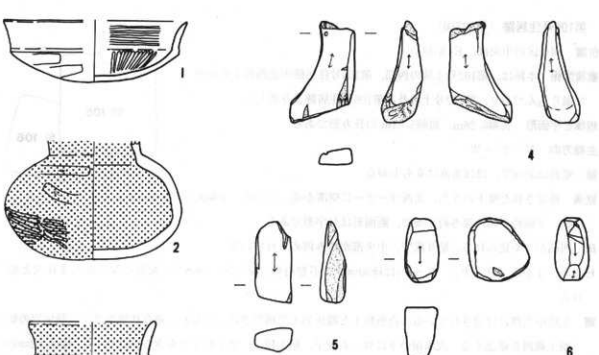


第225図　第104号住居跡実測図

覆土　20層からなる人為堆積である。

土層解説

1	黒	褐	色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
2	黒		色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3	鈍い黄褐		色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
4	黒	褐	色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量
5	暗	褐	色　ローム大・中ブロック・ローム粒子中量
6	暗	褐	色　ローム粒子中量
7	黒	褐	色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
8	褐		色　ローム小ブロック少量
9	褐		色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム大ブロック微量
10	鈍い黄褐		色　ローム大・小ブロック・ローム粒子多量
11	黒	褐	色　ローム小ブロック中量
12	暗	褐	色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック微量
13	黒	褐	色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
14	黒	褐	色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
15	黒	褐	色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
16	黒	褐	色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック微量
17	黒	褐	色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
18	黒	褐	色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
19	黒	褐	色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
20	黒	褐	色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量



第226図　第104号住居跡出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表

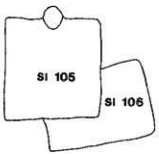
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第226図 1	坏 土師器	A［14.4］ B 4.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	スコリア 明赤褐色 普通	P542 覆土下層 PL78 40%
2	壺 土師器	B（ 9.4）	口縁部一部欠損，平底気味の丸底。体部は球形状である。	体部ヘラ削り後一部ヘラ磨き。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	石英・雲母 赤褐色 普通	P543 覆土下層 PL78 70%
3	小形壺 土師器	A［ 9.8］ B（ 8.8）	体部から口縁部片。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	雲母・パミス・雲母 赤褐色 普通	P544 覆土下層 PL78 30%

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第226図 4	砥石	8.1	5.1	3.2	－	96.3	凝灰岩	南西壁付近覆土下層	Q64
5	砥石	6.5	3.0	2.0	－	46.3	凝灰岩	南西壁付近覆土下層	Q65
6	砥石	5.0	2.7	4.5	－	81.3	砂岩	覆土中	Q66

遺物　土師器片364点，須恵器片11点が出土している。第226図1の坏は北東壁付近に散在して覆土下層から逆位の状態で，2の甕は西コーナー覆土下層から正位の状態で，3の小形壺は南東壁付近覆土下層から，4，5の砥石は南西壁付近覆土下層から，6の砥石は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第105号住居跡（第227図）



位置　調査区の中央部，E4h₁K。

重複関係　本跡は，第162号土坑の西部，第106号住居跡の北西部をそれぞれ掘り込んでおり，第162号土坑及び第106号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸6.28m，短軸5.04mの長方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下のうち，北西コーナーに壁溝が巡っている。上幅約18cm，下幅約5cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　凹凸がやや見られる。貼り床で，中央部が踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1～P_3は径50cm程の不整円形，深さ50～68cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。

竈　北壁中央部に付設されている。白色粘土と凝灰岩とで構築されているが，遺存状態が悪く，凝灰岩の切石と焼土範囲を確認する。火床面の下にローム粒子，粘土粒子，焼土粒子等を含む長径130cm，短径102cmの楕円形，深さ30cm程の掘り込みがあり，竈構築時のピットの可能性がある。煙道部は壁外へ70cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	黒	色	焼土中ブロック微量
2	暗 褐	色	焼土粒子中量，焼土大ブロック微量
3	黒 褐	色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土大ブロック微量
4	暗 赤 褐	色	焼土中・小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
5	黒 褐	色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
6	極 暗 褐	色	焼土中ブロック・ローム粒子中量
7	暗オリーブ褐	色	粘土大・中ブロック中量，焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8	暗 褐	色	粘土大・中・小ブロック多量，焼土大・中ブロック・炭化粒子・ローム大ブロック中量
9	鈍い黄褐	色	焼土中ブロック・ローム中ブロック・粘土中・小ブロック中量

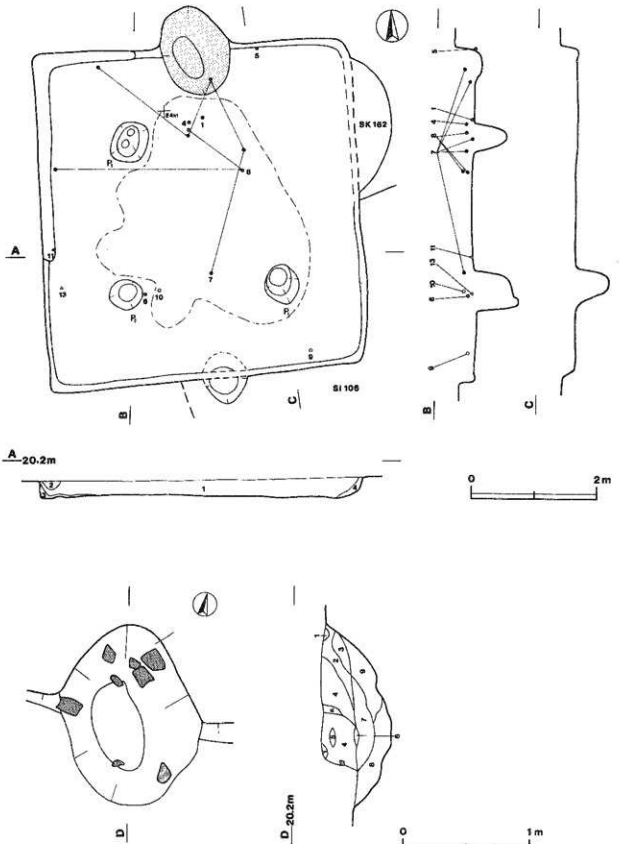
覆土　4層からなる人為堆積である。

土層解説

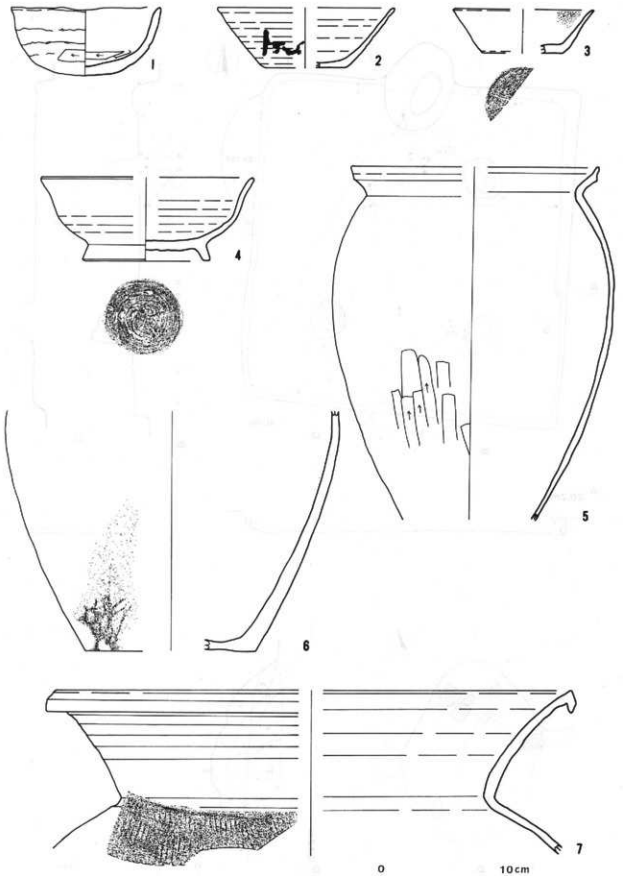
1	黒 褐	色	ローム粒子少量
2	黒	色	炭化粒子・ローム小ブロック中量
3	明 褐	色	ローム粒子多量
4	褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片857点，須恵器片113点が出土している。第228・229図1の土師器坏は竈前覆土下層，4の須恵器高台付坏は同覆土中層から，6の須恵器甕及び10の剣形模造品は南壁付近覆土下層から，9の砥石は南壁際覆土下層から，5の土師器甕は北壁際覆土下層から，7の須恵器甕，8の須恵器瓶は散在した状態で覆土中層から，11の刀子，13の不明鉄製品は西壁際覆土下層から，2の土師器坏，12の鎌は覆土中からそれぞれ出土している。10の剣形模造品は流れ込みと思われる。

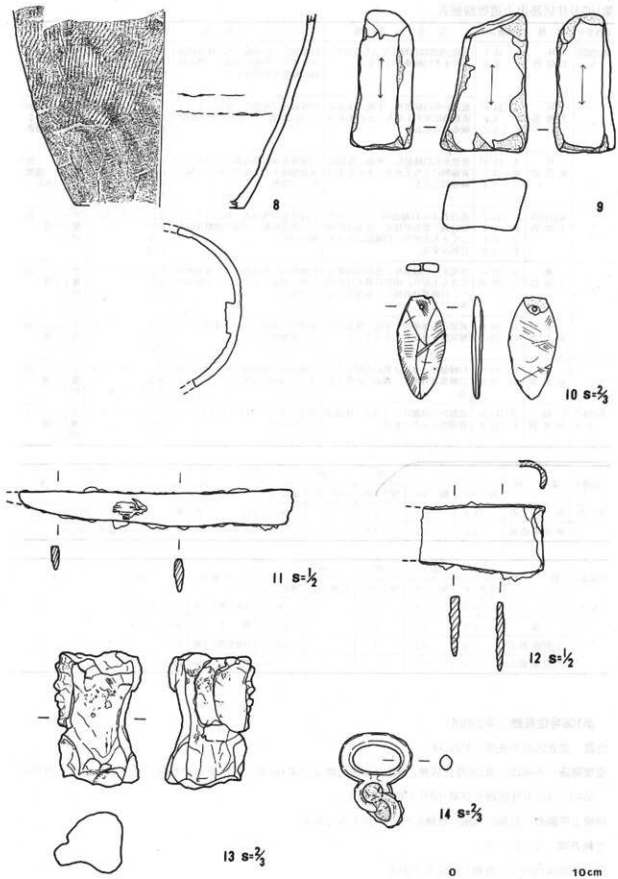
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。



第227図　第105号住居跡実測図



第228図　第105号住居跡出土遺物実測図(1)



第229図　第105号住居跡出土遺物実測図(2)

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第228図 1	坏 土師器	A 11.7 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り。体部外面に輪積み痕を残す。	長石・石英・パミス・スコリア 橙色 普通	P545 100% 覆土下層 PL78
2	坏 土師器	A [14.0] B 4.8 C [6.4]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	スコリア・石英・雲母 黄橙色 普通	P546 20% 覆土中 「上」 体部外面墨書
3	坏 須恵器	A [11.1] B 3.5 C [6.4]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ロクロナデ。底部周縁ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	石英・礫・パミス・針状鉱物 黄灰色 普通	P694 20% 覆土中 底部ヘラ記号あり
4	高台付坏 土師器	A [16.7] B 6.7 D 10.1 E 1.3	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整後高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P548 40% 覆土中層 PL79
5	甕 土師器	A [19.6] B (28.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径を持つ。口縁部は外反し，端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上半ナデ，下半縦位のヘラ削り。	長石・石英 橙色 普通	P549 30% 覆土下層 PL79
6	甕 須恵器	B (19.1) C [13.5]	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面下位に自然釉が見られる。	石英・パミス・雲母 黒褐色 普通	P550 30% 覆土下層
7	甕 須恵器	A [40.9] B (13.0)	口縁部片。体部上位は内傾する。口縁部は外傾し，端部に縁帯が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面平行叩き。	長石・石英・針状鉱物 黄灰色 普通	P551 20% 覆土中層 PL79
第229図 8	甕 須恵器	B (15.5) C [13.4]	底部から体部片。5孔式。体部は直線的に立ち上がる。	体部内面ナデ，外面上位平行叩き，下位ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 良好	P552 30% 覆土中層 PL78

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第228図 9	砥石	11.1	6.9	4.2	−	385.5	砂岩	覆土下層	Q67 PL120
10	剥形模造品	4.1	1.9	0.4	−	3.4	滑石	覆土中	Q68 PL119

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第229図 11	刀子	(14.5)	1.9	0.45	−	(30.5)	西壁際覆土下層	M26 PL122
12	鎌	(4.2)	5.7	0.4	−	(315.0)	覆土中	M27 PL123
13	不明鉄製品	5.4	3.5	2.5	−	107.0	西壁際覆土下層	M28
14	不明銅製品	3.8	2.9	−	−	15.9	覆土中	M41

第106号住居跡（第230図）

位置　調査区の中央部，E4i$_1$区。

重複関係　本跡は，第105号住居跡，第107号住居跡及び第160号土坑にそれぞれ掘り込まれていることから，第105・107号住居跡及び第160号土坑より新しい。

規模と平面形　長軸5.74m，短軸3.94mの長方形である。

主軸方向　N－15°－E

壁　壁高は19cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，すべて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約6cm，下幅約4cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1～P_3は径15～36㎝の不整円形，深さ20～35㎝で，性格は不明である。P_2，P_3は位置から柱穴の可能性も考えられる。

覆土　3層からなる自然堆積である。

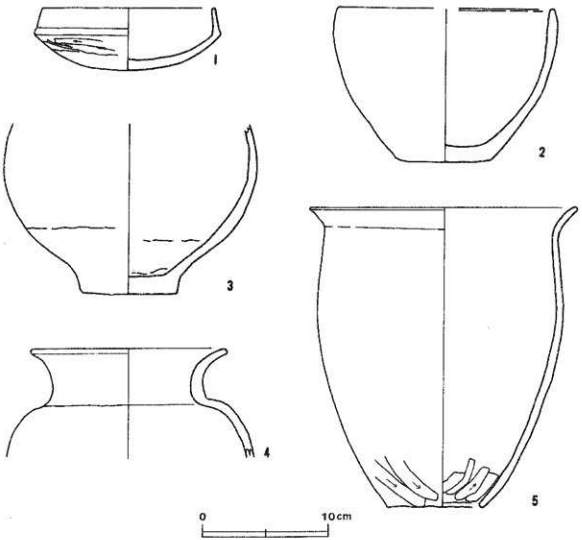
土層解説

1　黒　褐　色・ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

第230図　第106号住居跡実測図

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第231図 1	坏 土師器	A 13.6 B 5.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母 赤色 普通	P553　60% 覆土下層 PL79
2	鉢 土師器	A [17.1] B 12.3 C 7.7	底部から口縁部片。平底。体部は内湾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面粗いナデ，外面ナデ。	石英・長石 橙色 普通	P554　20% 覆土下層
3	甕 土師器	B (13.7) C 7.7	底部から体部片。平底。体部は内湾して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面刻雌。体部内・外面に輪積み痕を残す。	雌 橙色 普通	P556　70% 覆土下層 PL79
4	甕 土師器	A 15.1 B (8.7)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面刻雌。	長石・石英 橙色 普通	P557　30% 覆土下層 PL79
5	甕 土師器	A 21.2 B 23.7 C 7.8	底部から口縁部片。無底式。体部は内湾気味に直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ナデ。孔周囲内・外面ヘラ削り。	パミス・石英 鈍い赤褐色 普通	P558　70% 覆土下層 PL79



第231図　第106号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片208点，須恵器片３点が出土している。第231図１の土師器坏，２の土師器鉢，３と４の土師器甕及び５の上師器甑は東壁付近覆土下層からまとまってつぶれた状態で出上している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀前半）と思われる。

第107号住居跡（第232図）

位置　調査区の中央部，E4i区。

重複関係　本跡は，第106号住居跡の南西部，第110号住居跡の北部をそれぞれ掘り込んでおり，第111号住居跡が本跡の床の上に構築していることから，第106号住居跡，第110号住居跡より新しく，第111号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸5.4m，短軸4.69mの長方形である。

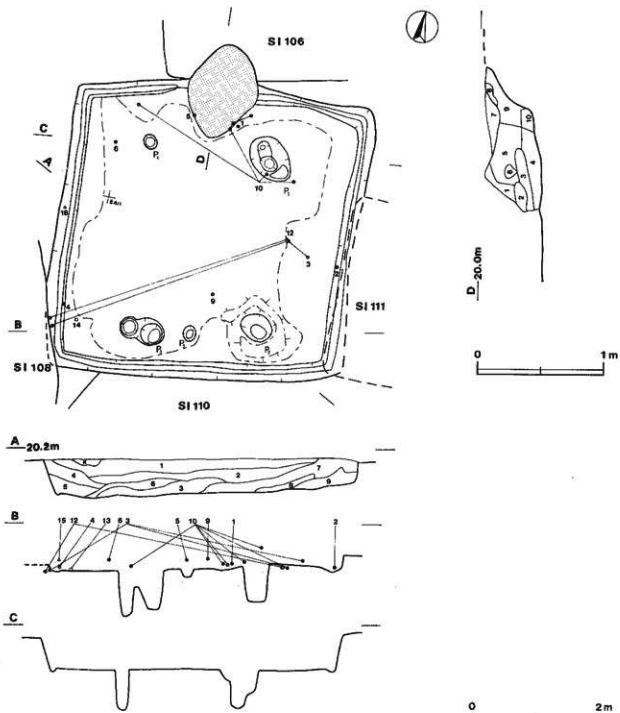
主軸方向　N－4°－W

壁　壁高は31cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約15cm，下幅約７cm，深さ約４cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，コーナー部を除き踏み固められている。P_3の周辺に，径112cmの不整円形で，幅12～20cmの馬の背状の高まりが見られる。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径24～80cmの不整円形及び楕円形，深さ60cm程で，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径20cm，深さ14cmで，出入り口ピットと思われる。P_3内に深さ72cmとそのすぐ東隣に65cmの2つのピットが確認できたことから，掘り換えの可能性が考えられる。



第232図　第107号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部や天井部は残っていない。火床部の掘り込みは見られない。煙道部は壁外へ30cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック・粘土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック・粘土粒子少量，ローム大ブロック微量
3　鈍い黄褐色　焼土粒子中量，ローム中・小ブロック・粘土大ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック・粘土大ブロック少量
6　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量
7　褐　　色　焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量，粘土中ブロック微量
8　オリーブ褐色　焼土粒子中量
9　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土大ブロック・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
10　赤　褐　色　焼土粒子多量

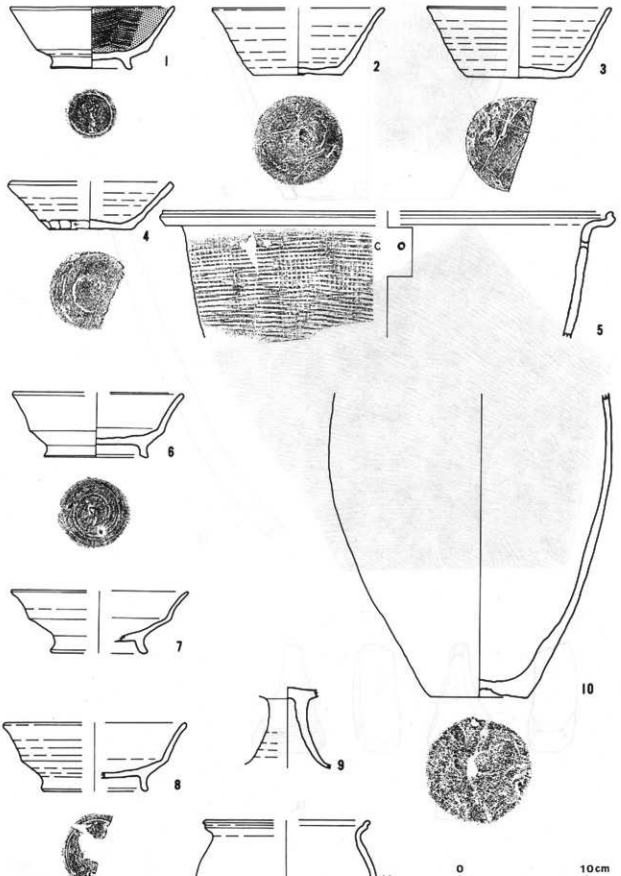
覆土　9層からなる自然堆積である。

土層解説

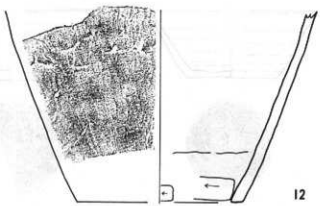
1　黒　褐　色　ローム大・中ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
3　黒　褐　色　炭化粒子・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック微量
5　黒　褐　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
7　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　黒　褐　色　炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量
9　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量

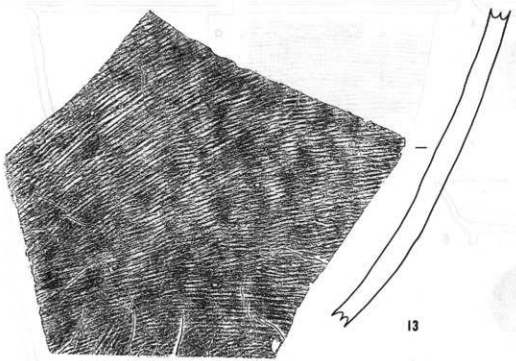
第107号住居跡出土遺物観察表

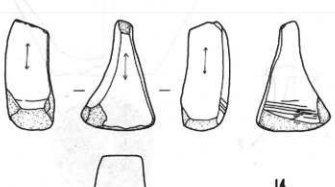
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第233図 1	高台付坏 土師器	A 13.0 B 5.0 D 6.5 E 0.9	口縁部一部欠損。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は下位に鈍い稜を持ち，外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。体部内面黒色処理。	石英・パミス・礫 橙色 普通	P 559　95% 覆土下層 PL79
2	坏 須恵器	A [13.5] B 5.3 C 7.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	礫・石英・針状鉱物 灰黄褐色 普通	P 560　60% 床面 底部ヘラ記号あり　PL79
3	坏 須恵器	A [14.4] B 5.6 C 8.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P 561　40% 覆土下層 底部ヘラ記号あり　PL79
4	坏 須恵器	A [22.6] B 3.8 C [6.4]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り調整。	雲母・スコリア・石英・長石 暗灰黄色 普通	P 562　40% 覆土下層
5	鉢 須恵器	A [35.6] B (10.1)	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面平行叩き。	スコリア・雲母・石英・パミス 褐灰色 普通	P 563　20% 覆土中層　3礼の補修孔あり PL79
6	高台付坏 須恵器	A [13.4] B 5.1 D 8.1 E 1.0	高台部から口縁部片。直線的に開く高台が付く。体部は下位に鈍い稜を持ち，やや外反気味に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色 良	P 564　60% 覆土中層 PL79
7	高台付坏 須恵器	A [14.0] B 5.0 D [7.6] E 1.0	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は下位に稜を持ち，外反気味に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整後高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P 565　25% 覆土中



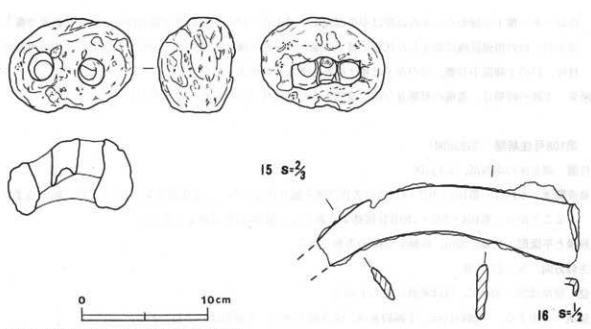
第233図　第107号住居跡出土遺物実測図(1)







第234図　第107号住居跡出土遺物実測図(2)



第235図　第107号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	高台付坏 須恵器	A [14.2] B 5.5 D [8.0] E 1.2	高台部から口縁部片。直線的に開く高台が付く。体部は下位に鋭い稜を持ち，やや外反気味に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	石英・長石・パミス・礫 黄灰色 普通	P566　30% 覆土中 PL80
9	高　坏 須恵器	B (6.4) E (5.5)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内・外面横ナデ。	石英 暗灰色 普通	P567　20% 覆土中層
10	甕 土師器	B (24.2) C 7.9	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ナデー部縦位のヘラ磨き。	長石・石英 橙色 普通	P568　50% 覆土下層 PL79
11	小形甕 土師器	A [12.8] B (5.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部をつまみ上げる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	石英・長石 鈍い赤褐色 普通	P569　10% 覆土中 PL79
第234図 12	鉢 須恵器	B (15.2) C [13.0]	底部から体部片。無底式。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。孔周囲内・外面ヘラ削り。	石英・長石・礫・針状鉱物 灰色 普通	P570　10% 覆土下層 PL79

第234図13は須恵器甕体部片で，外面に平行タタキが施されている。

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第235図14	砥石	(8.8)	5.8	3.4	−	(164.2)	凝灰岩	西壁付近覆土下層	Q69　PL120
15	浮子	3.7	4.9	3.0	0.8～1.1	12.5	軽石	覆土中	Q70　PL122

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第235図16	鎌	(13.9)	4.5	0.5～0.7	−	(53.5)	西壁際覆土中層	M29　PL123

遺物　土師器片1208点，須恵器片173点，縄文・弥生土器片２点が出土している。第233～235図１の土師器高台付坏は竈前覆土下層から，５の須恵器鉢は同覆土中層から，２の須恵器坏は東壁付近床面から，３の須恵器坏は散在した状態で覆土下層から，４の須恵器坏，14の砥石は西壁付近覆土下層から，６の高台付坏は北

西コーナー覆土中層から，9の高坏は中央部覆土中層から，10の土師器甕は竈周囲に散在した状態で覆土下層から，12の須恵器瓶は散在した状態で覆土下層から，16の鎌は西壁際覆土中層から，7，8の須恵器高台付坏，11の土師器小形甕，15の浮子は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第108号住居跡（第236図）

位置　調査区の南西部，E3 j₀区。

重複関係　本跡は，第104・107・110号の各住居跡を掘り込んでおり，南東部を第109号住居跡に掘り込まれていることから，第104・107・110号住居跡より新しく，第109号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸5.33m，短軸5.23mの方形である。

主軸方向　N－21°－W

壁　壁高は26～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約11cm，下幅約8cm，深さ約7cmで，断面形はU字形である。

床　凹凸がやや見られる。中央部は踏み固められている。

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_3は径19～28cmの不整円形，深さ42～55cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_4，P_5は径19～37cm，深さ24～32cmで，両方あるいはどちらかが出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6は径26cmの円形，深さ20cmで，竈構築時に掘り込んだピットの可能性がある。

竈　北壁中央部に付設され，山砂まじりの白色粘土で構築されている。壁のローム地山を削り残して袖部にしているが，粘土部分は床に広がり，竈自体の残りは良くない。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

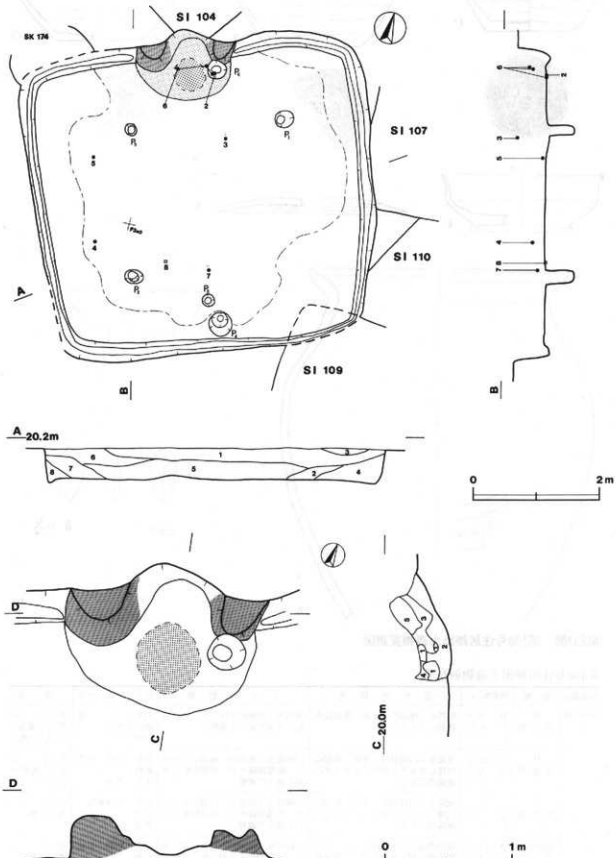
竈土層解説
1　暗灰黄色　含有物なし
2　黒　褐　色　焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
5　黒　　色　炭化粒子・粘土粒子少量

覆土　8層からなる人為堆積である。

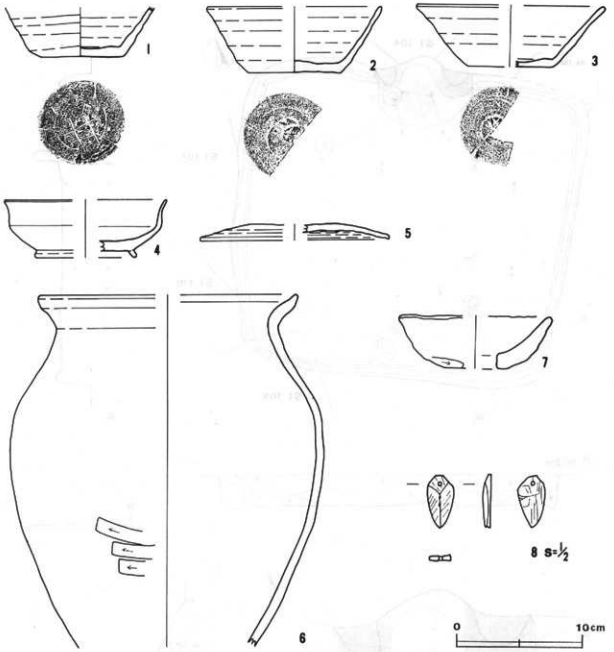
土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子・ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
3　黒　　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム大ブロック中量，炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子・ローム極大ブロック・粘土大ブロック少量
6　黒　褐　色　ローム大ブロック中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　黒　褐　色　炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ローム大・中ブロック・ローム粒子中量

遺物　土師器片1737点，須恵器片42点，縄文・弥生土器片2点，刀子片4点，鉄滓4点，軽石4点が出土している。第237図2の須恵器坏は竈前床面から，6の土師器甕は同覆土下層から，3の須恵器坏は中央部覆土上層から，7の甑形土器は同覆土中層，8の剣形模造品は同覆土下層から，4の須恵器高台付坏は西壁付近覆土中層から，5の須恵器蓋は同覆土下層から，1の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。7の土師器，8の剣形模造品は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。



第236図　第108号住居跡実測図



第237図　第108号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第237図 1	坏 須恵器	B（4.0） C　6.4	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	石英・パミス・雲母 鈍い黄橙色 普通	P571　50% 覆土中　底部ヘラ記号あり　PL79
2	坏 須恵器	A［13.6］ B　5.2 C　7.4	底部から口縁部片。平底。体部は内湾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	長石・石英・針状鉱物 灰色　普通	P572　30% 床面　底部ヘラ記号あり　PL79
3	坏 須恵器	A［14.7］ B　4.9 C［6.6］	底部から口縁部片。平底。体部は内湾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	石英・針状鉱物 灰色 普通	P573　30% 覆土上層
4	高台付坏 須恵器	A［12.7］ B　4.6 D［7.8］ E　0.7	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く短い高台が付く。体部は中位に稜を持ち，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 黄灰色 普通	P574　40% 覆土中層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	壺 須恵器	A［15.0］ B（ 4.2）	口縁部から天井部片。天井部は平坦で、緩く内湾しながら口縁端部に至る。	天井部左ロクロ回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・針状鉱物 灰色 良好	P575　30% 覆土下層
6	壺 土師器	A［20.4］ B（28.1）	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり、最大径を上位に持つ。口縁部は外反し、端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ナデ一部ヘラ削り。	石英 褐色 普通	P576　20% 覆土下層 PL79
7	甑形土器 土師器	A［11.7］ B　4.2 C　4.8］	底部から口縁部片。無底式。体部は内湾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ナデ。外面上位ナデ、下位ヘラ削り。	礫・長石 褐い褐色 普通	P577　25% 覆土中層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第237図8	剣形模造品	2.7	1.4	0.4	0.2	1.8	滑石	中央部覆土下層	Q71　PL119

第109号住居跡（第238図）

位置　調査区の中央部，F4a$_1$区。

重複関係　本跡は，第108号住居跡及び第110号住居跡を掘り込んでおり，第108号住居跡及び第110号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸5.00m，短軸4.06mの長方形である。

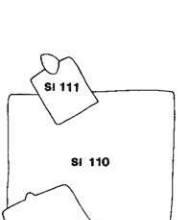
主軸方向　N－0°

壁　壁高は40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下のうち，西壁に壁溝が巡っている。上幅約14cm，下幅約6cm，深さ約3cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$～P$_4$は径30～38cmの不整楕円形，深さ48～72cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P$_5$は径28cmの円形，深さ30cmで，その位置から竈との関連の可能性が考えられる。

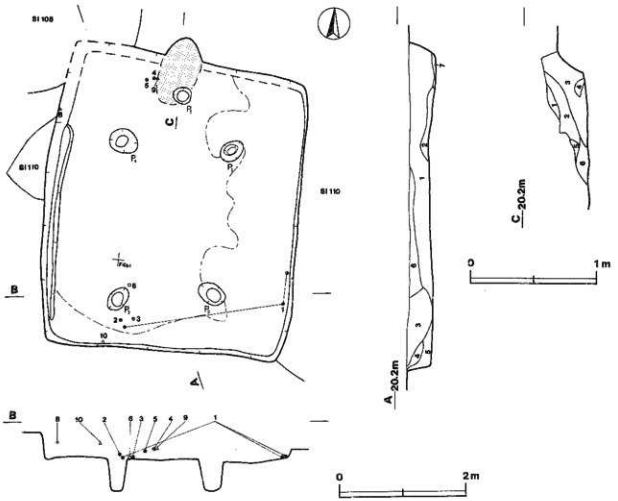


竈　北壁中央部に付設されている。白色粘土と凝灰岩とで構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は残っておらず，粘土粒子と凝灰岩片が確認されている。火床部の掘り込みは見られない。煙道部は壁外へ30cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　黒褐色　炭化粒子・ローム粒子少量
2　鈍い黄褐色　粘土粒子中量，焼土大ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　焼土大・中・小ブロック・焼土粒子中量
4　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子少量
6　黒褐色　焼土中・小ブロック・焼土粒子・粘土大・中ブロック中量，炭化粒子少量

覆土　7層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム大・中ブロック・粘土大・中ブロック少量，焼土中ブロック微量
2　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・粘土大ブロック少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
5　黒褐色　炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
6　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
7　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量



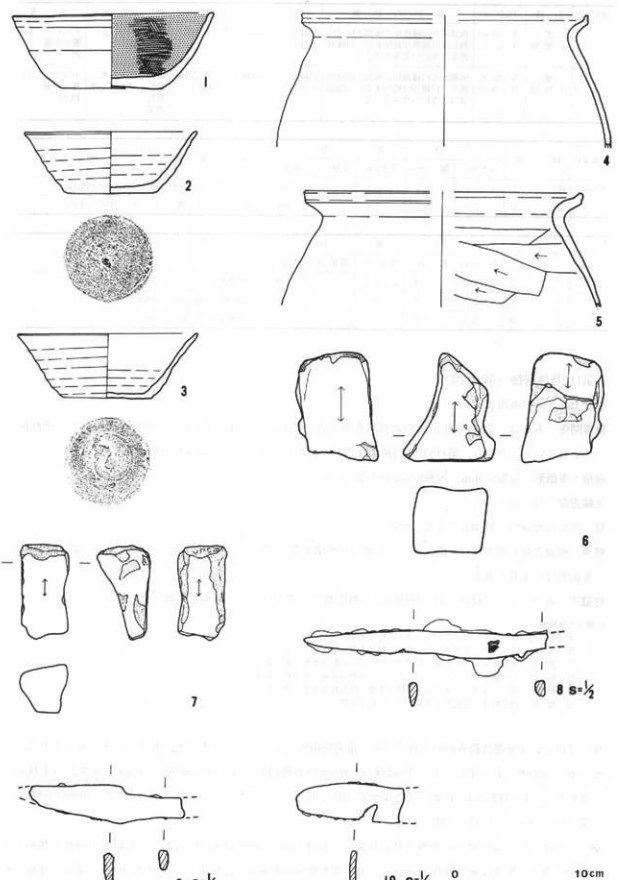
第238図　第109号住居跡実測図

遺物　土師器片608点，須恵器片54点，粘土塊片1点が出土している。第239図1の土師器坏は散在した状態で覆土下層から，2，3の須恵器坏は南壁際覆土下層から，10の手鎌は同覆土上層から，6の砥石は南壁付近覆土下層から，4，5の土師器甕，9の刀子は竈前覆土中層から，8の刀子は西壁際覆土上層から，7の砥石は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第109号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第239図 1	坏 土師器	A 15.9 B 6.0 C 7.8	底部から口縁部片。平底。体部は内湾してのち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り調整。内面黒色処理。	石英・雲母・パミス・礫 褐色 普通	P378　60% 覆土下層 PL79
2	坏 須恵器	A 13.5 B 5.0 C 7.3	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラナデ調整。	礫・若干の石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P579　95% 覆土下層 底部にヘラ記号あり PL80
3	坏 須恵器	A 14.2 B 5.3 C 7.1	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後無調整。	礫・針状鉱物 浅黄色 普通	P580　85% 覆土下層 PL80



第239図　第109号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	甕 上師器	A [20.6] B (10.5)	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は外反する。口縁端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・パミス・雲母 明赤褐色 普通	P581 10% 覆土中層 PL79
5	甕 土師器	A [22.0] B (9.0)	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は外反する。口縁端部は上方につまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ状工具によるナデ，外面ナデ。	スコリア・石英・雲母・パミス・礫 橙色 普通	P582 10% 覆土中層 PL80

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第240図6	紡石	7.4	8.6	5.4	−	383.0	凝灰岩	南壁付近覆土下層	Q72 PL120
7	砥石	7.5	3.7	3.9	−	107.0	凝灰岩	覆土中	Q73 PL120

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第240図8	刀子	(12.9)	1.4	0.5	−	(20.1)	西壁際覆土上層	M30 PL122
9	刀子	(7.1)	2.1	0.5	−	(14.1)	竈前覆土中層	M31 PL122
10	手鎌	(5.7)	2.1	0.3	−	(9.0)	南壁際覆土上層	M32 PL123

第110号住居跡（第240図）

位置　調査区の南西部，F4a₁区。

重複関係　本跡は，第115号住居跡の北西部を掘り込んでおり，第112・A・107・109号住居跡にそれぞれ掘り込まれていることから，第115号住居跡より新しく，第112・A・107・109号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸8.56m，短軸8.5mの方形である。

主軸方向　N−60°−W

壁　壁高は32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，南コーナーを除いて壁溝が巡っている。上幅約18cm，下幅約10cm，深さ約7cmで，断面形はU字形である。

貯蔵穴　南コーナーに付設され，径80cmの不整円形で，深さは72cm，断面形は掘り鉢形である。

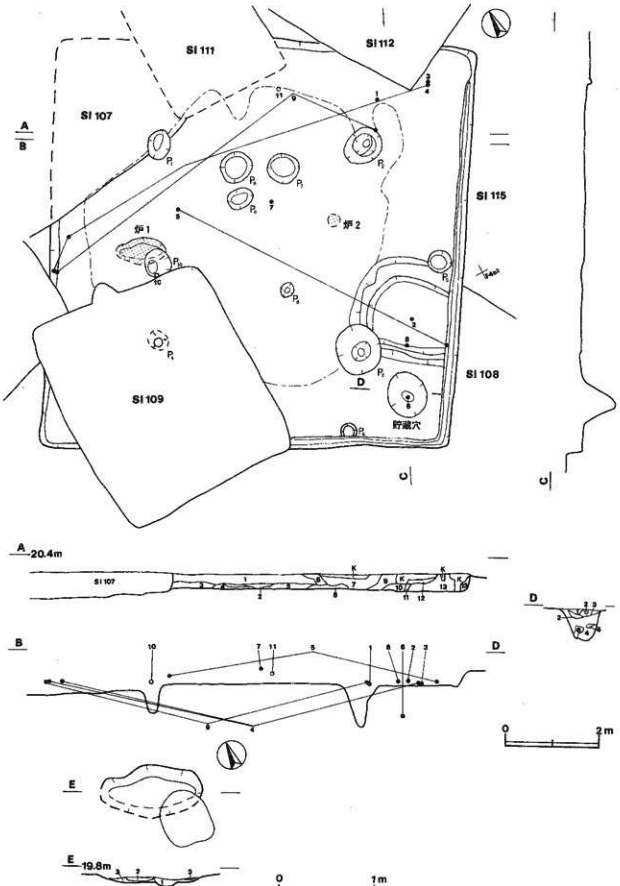
貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量
3　黒褐色　炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　黄褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量

床　平坦で，中央部は踏み固められている。南東壁南寄りに「コ」の字形に馬の背状の高まりが見られる。

ピット　10か所（P_1〜P_{10}）。P_1〜P_4は径44〜104cmの不整円形，深さ62〜88cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径46cmの円形，深さ13cmで，出入り口ピットと思われる。P_6〜P_{10}は径28〜60cmの不整円形，深さ18〜54cmで，性格は不明である。

炉　2か所。炉1は中央から北西寄りに位置し，長径100cm，短径54cmの楕円形で，床面を7cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。炉2は中央から南東寄りに位置し，径24cmの円形である。床面をわずかに掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。



第240図　第110号住居跡実測図

炉1土層解説

1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量，焼土大ブロック少量
3 赤 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量

覆土 13層からなる人為堆積である。

土層解説

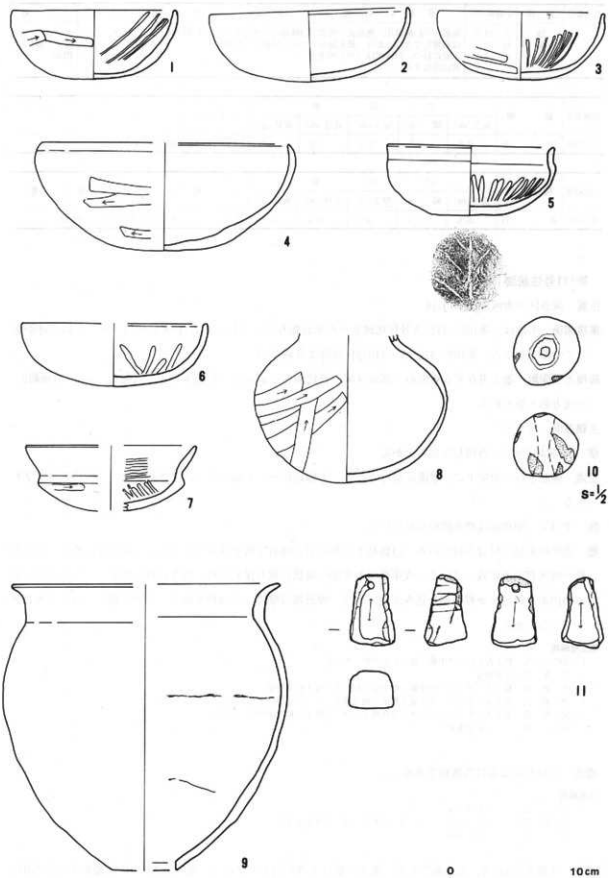
1 暗 褐 色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
2 黒 色 ローム粒子中量
3 黒 褐 色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
4 黒 色 ローム粒子少量，焼土大ブロック微量
5 黒 色 ローム粒子少量
6 黒 褐 色 ローム大ブロック・ローム粒子多量
7 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
8 黒 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
9 黒 色 ローム粒子少量
10 黒 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム大ブロック微量
11 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
12 黒 色 炭化粒子少量
13 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物 土師器片983点，須恵器片17点，瓦質土器片1点，陶器片1点，縄文・弥生土器片2点，軽石1点が出土している。第241図1，3の土師器坏は東コーナー床面から，2の土師器坏，8の土師器坩は南東壁付近床面から坏は逆位，坩は正位の状態で，4の土師器坏，9の上師器甑は散在した状態で覆土下層から，5の上師器坏は散在した状態で覆土中層から，6の土師器坏は南コーナー貯蔵穴覆土中から，7の土師器坏，11の砥石は中央部覆土中層から，10の土玉は北西壁付近覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，一部に6世紀初頭の新しい様相も見られるが，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第110号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第241図 1	坏 土師器	A 12.8 B 5.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	石英 鈍い橙色 普通	P583 90% 床面 PL80
2	坏 土師器	A 15.6 B 5.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・スコリア・雲母・橙 鈍い褐色 普通	P584 80% 床面 PL80
3	坏 土師器	A 13.0 B 5.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。	パミス・石英・雲母 赤色 普通	P585 75% 床面 PL80
4	坏 土師器	A (19.4) B 8.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	石英・スコリア 明赤褐色 普通	P586 70% 覆土下層 PL80
5	坏 土師器	A 13.1 B 5.5 C 5.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 赤褐色 普通	P587 70% 覆土中層 底部に木葉痕あり PL80
6	坏 土師器	A (15.0) B 5.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	パミス・石英 明赤褐色 普通	P588 40% 貯蔵穴内覆土中 PL80
7	坏 土師器	A (13.3) B (5.2)	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	石英・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P589 30% 覆土中層 底部にヘラ記号あり PL80
8	坩 土師器	B (11.8)	口縁部欠損。丸底。体部は球形状である。	体部外面ヘラ削り。	長石・石英 橙色 普通	P591 80% 床面 PL80



第241図　第110号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	甕 土師器	A［21.0］ B 22.7 C［5.2］	底部から口縁部片．無底式．体部は内湾して立ち上がり，最大径を上位に持つ．口縁部は「コ」の字状に外反する．	口縁部内・外面横ナデ．体部内面ナデ．外面ナデ後削き．	長石・石英 黄橙色 普通	P532 10% 覆土下層 PL80

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第241図10	土	3.3	3.5	3.3	1.2	36.9	北側床直覆土中層	DP46 PL115

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第241図11	紡	石	5.6	3.5	3.0	0.6	64.9	滝石	中央部覆土中層	Q74 PL120

第111号住居跡（第242図）

位置　調査区の南西部，F4j$_3$区。

重複関係　本跡は，第107・112-A号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり，第110号住居跡の床の上に本跡が構築していることから，第107・112-A・110号住居跡より新しい。

規模と平面形　竈と遺存する東壁の一部及び床の硬化面の広がりから推定すると，長軸約3.7m，短軸約2.5mの長方形と思われる。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された東壁下に，壁溝が巡っている。上幅約15cm，下幅約7cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。白色粘土と凝灰岩の切石で構築されているが，遺存状態が悪く，10～20cm程の凝灰岩のみが残っている。火床部はわずかに皿状に掘り窪められ，焼き口部と思われるところに，径20cmの円形，深さ8cm程の掘り込みが見られる。煙道部は壁外へ70cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

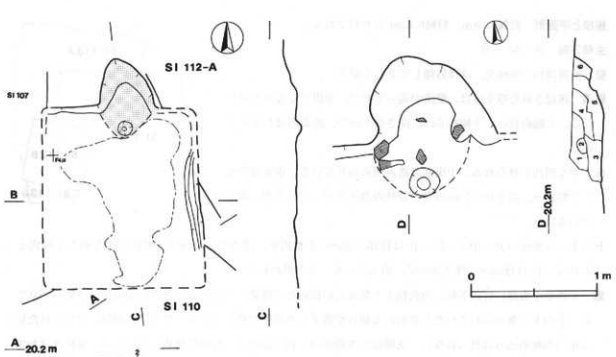
竈土層解説
1　暗褐オリーブ色　粘土大ブロック中量，ローム小ブロック少量
2　黄　褐　色　含有物なし
3　黒　褐　色　粘土大・中ブロック中量，焼土中ブロック・焼土粒子少量
4　黒　褐　色　焼土大・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
5　暗　褐　色　焼土大・中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土中ブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子多量

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　黒　　色　ローム粒子少量

遺物　土師器片326点，須恵器片40点，縄文土器片1点が出土している。第243図1の坏は竈覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀以降）と思われる。



第242図　第111号住居跡実測図

第243図　第111号住居跡出土遺物実測図

第111号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第243図 1	坏 土師器	A 12.5 B 4.7 C 6.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	パミス 鈍い橙色 普通	P593　50% 竈覆土中 PL80

第112-A号住居跡（第244図）

位置　調査区の中央部，E4i_3区。

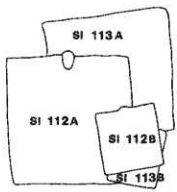
重複関係　本跡は，第113-A号住居跡の床の上に構築しており，第110・117号住居跡を掘り込んでおり，第111号住居跡，第112-B号住居跡が本跡を掘り込んでいるところから，本跡は第117・110号住居跡より新しく，第111・112-B・113-A号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸7.08m，短軸6.63mの方形である。

主軸方向　N－30°－W

壁　壁高は15～35cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約12cm，下幅約6cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。



床　やや凹凸が見られる。中央部は踏み固められている。南東壁中央下に幅15cm，高さ10～15cmの馬の背状の高まりが「コ」の字形に巡っている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径18～32cmの不整円形，深さ45～84cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径38cm，深さ36cmで，出入り口ピットと思われる。

竈　北西壁中央部に付設され，白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されている。焚き口部両側には切石が立てられ，その上に乗せられていたと思われる切石が落下した状態で残っている。焚き口部両側に立てられた切石は床への埋め込みは見られない。支脚は太さ約8cm，長さ35cmで，17cm程埋められている。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ30cm程突出し，壁の内側から急に立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子中量，焼土中・小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
3　褐　　色　焼土粒子多量，焼土大ブロック中量
4　暗　褐　色　焼土中・小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
5　暗　褐　色　焼土大・中・小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量
6　赤　褐　色　焼土大・中・小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　鈍い黄褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
8　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

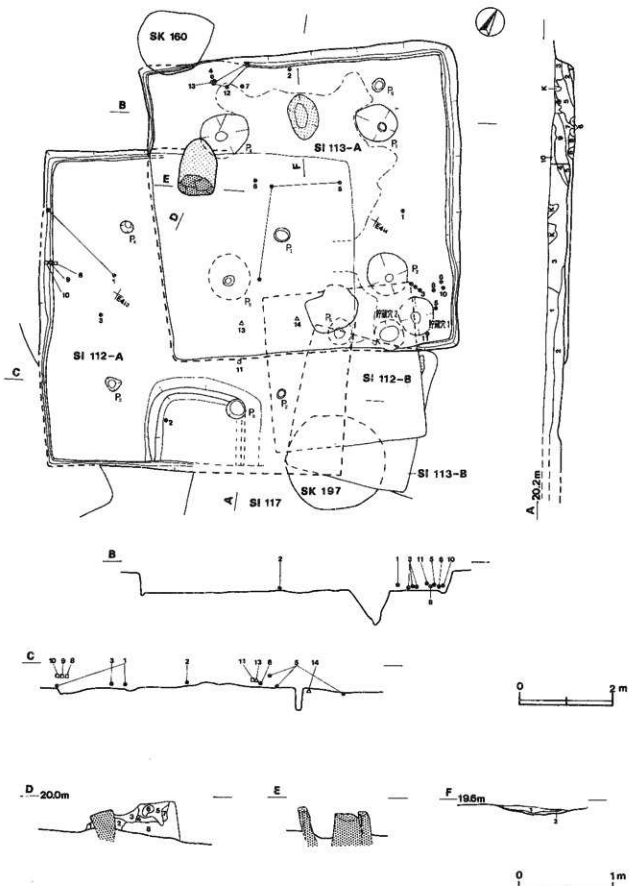
覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

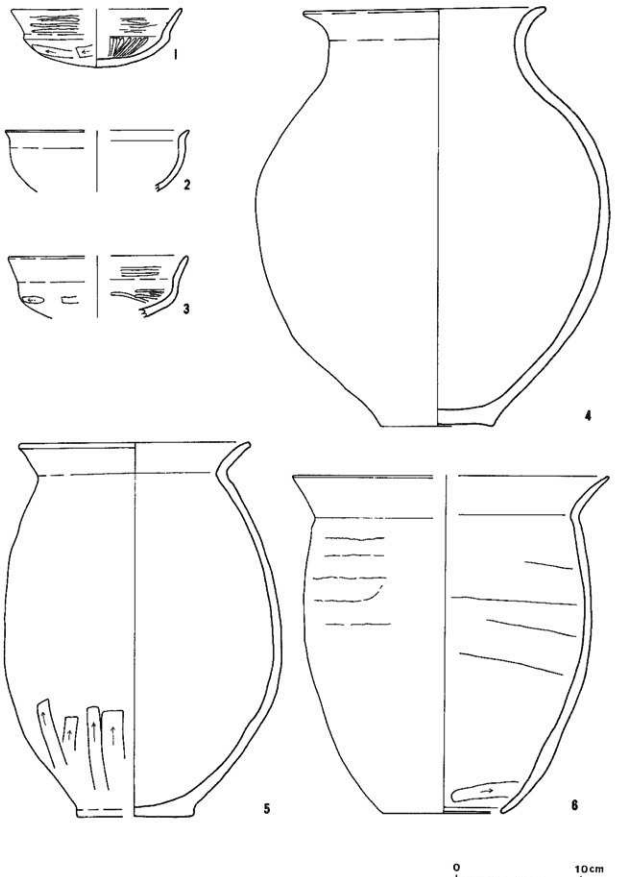
1　黒　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック少量
5　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片1007点，須恵器片2点，縄文・弥生土器片4点が出土している。第245・246図1，2，3の坏は南西壁付近覆土下層から，4の甕は竈の上でそのままつぶれた状態で，5の甕は北コーナー付近覆土下層，6の甑は北西壁付近覆土中層から，14の刀子は北東壁付近床面から，8，9，10の有孔円板は北西壁際覆土上層から，12の砥石は中央部覆土上層から，11の砥石は同覆土中層から，7の土器片錘は覆土中からそれぞれ出土している。7の土器片錘は流れ込みと思われる。

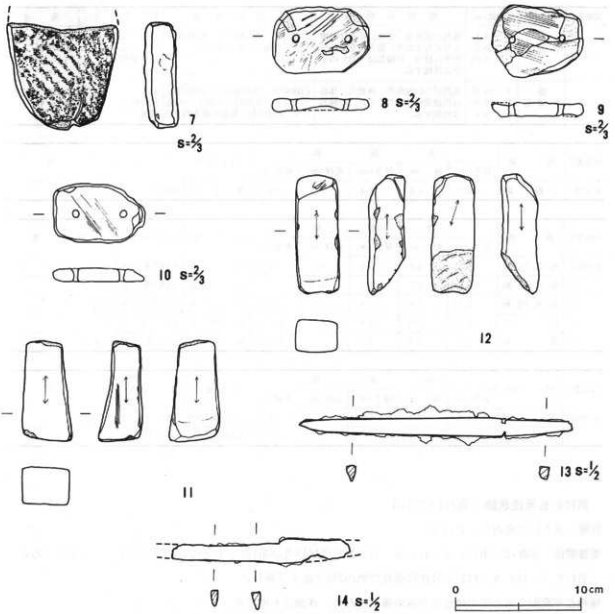
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（5世紀末～6世紀初頭）と思われる。



第244図　第112-A・112-B・113-A・113-B号住居跡実測図



第245図　第112-A号住居跡出土遺物実測図(1)



第246図　第112-A号住居跡出土遺物実測図(2)

第112-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第245図 1	坏 土師器	A [13.6] B 4.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	雲母 赤褐色 普通	P594 50% 覆土下層 PL80
2	坏 土師器	A [14.5] B (4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外傾する。	口縁部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 鈍い黄橙色 普通	P595 20% 覆土下層
3	坏 土師器	A [14.0] B (4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	石英・雲母・礫 赤褐色 普通	P597 10% 覆土下層
4	甕 土師器	A 19.0 B 83.3 C 8.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	礫・石英・パミス 橙色 普通	P598 80% 覆内覆土中 PL80

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	甕 土師器	A 18.1 B 29.0 C 〔9.0〕	体部～部欠損。平底。体部は内湾してのびち上がり，最大径を中位やや下に持つ。口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・雲母・スコリア・長石 鈍い黄橙色 普通	P599　75% 覆土下層 PL80
6	瓶 土師器	A 〔24.9〕 B 26.8 C 9.6	底部から口縁部片。無底式。体部は内湾気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，孔開後ヘラ削り，外面ナデ，体部外面に輪積み痕を残す。	石英 鈍い橙色 普通	P600　70% 覆土中層 PL81

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第246図8	土器片錘	4.3	1.4	1.4	－	24.7	縄文中	DP47

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第246図8	有孔円板	2.7	3.9	0.5	0.2	9.4	滑石	北西壁際覆土下層	Q76
9	有孔円板	2.9	3.7	1.6	0.2	7.9	滑石	北西壁際覆土下層	Q77
10	有孔円板	2.4	3.6	0.6	0.2	8.2	滑石	北西壁際覆土下層	Q78
11	紡錘石	〔8.0〕	4.0	2.9	－	〔146.6〕	凝灰岩	北コーナー覆土中層	Q79
12	紡錘石	9.6	3.5	2.7	－	151.1	凝灰岩	中央部覆土上層	Q80

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第216図13	刀子	14.5	2.1	0.5～0.6	－	21.9	中央部覆土中層	M33　PL122
14	刀子	〔9.3〕	1.6	0.3～0.5	－	〔12.9〕	北西壁付近床面	M34　PL123

第112-B号住居跡（第244・247図）

位置　調査区の南西部，E4 j₁区。

重複関係　本跡は，第112-A・113-A・113-B号住居跡及び第197号土坑の上に床を構築しているところから，第112-A・113-A・113-B号住居跡及び第197号土坑より新しい。

規模と平面形　竈と床の硬化面のみの確認のため，詳細は不明である。

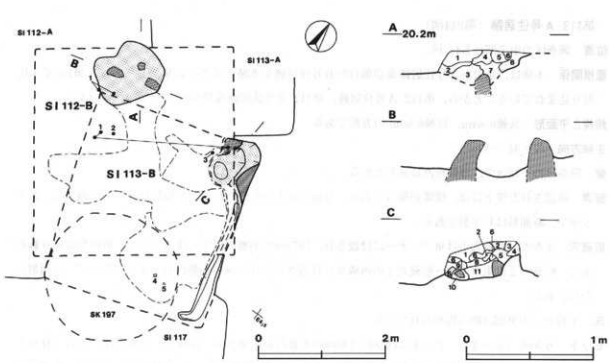
主軸方向　〔N－34°－E〕

床　平坦で，竈前から中央部にかけて踏み固められている。

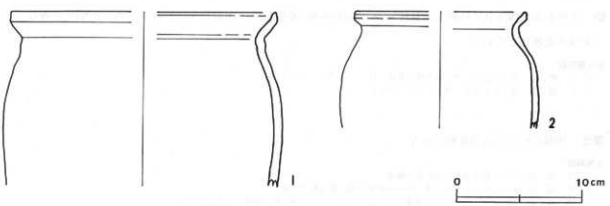
竈　北西壁中央部に付設されている。白色粘土と凝灰岩とで構築されているが，遺存状態が悪く，両袖先端に立てられた凝灰岩の切石と同じく凝灰岩製の支脚が立てられた状態で残っている。火床部の掘り込みは見られない。煙道部は壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土中・小ブロック・炭化粒子少量
2　褐色　焼土小ブロック，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐色　焼土大・中ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　焼土大・小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック少量
6　黒褐色　焼土小ブロック・ローム中ブロック少量
7　黒褐色　焼土大・中・小ブロック・焼土粒子中量
8　暗褐色　焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック少量



第247図　第112-B・113-B号住居跡竈実測図



第248図　第112-B号住居跡出土遺物実測図

第112-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第248図 1	甕 土師器	A〔21.0〕 B (13.8)	体部から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり,口縁部は外傾する。口縁端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面縦位のヘラナデ。	長石・パミス 橙色 普通	P601 30% 覆土下層 PL80
2	甕 土師器	A〔13.4〕 B (9.2)	体部から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり,口縁部は外傾する。口縁端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・パミス・雲母・スコリア 黒い赤褐色 普通	P602 20% 覆土中 PL80

遺物　土師器片41点，須恵器片22点が出土している。第248図1の土師器甕は竈内覆土下層から，2の甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，第113-B号住居跡との重複関係，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀頃）と思われる。

第113-A号住居跡（第244図）

位置　調査区の中央部，E4i$_3$区。

重複関係　本跡は，第112-A号住居跡及び第112-B号住居跡が本跡の床の上に構築しており，第160号土坑に掘り込まれていることから，第112-A号住居跡，第112-B号住居跡及び第160号土坑よりも古い。

規模と平面形　長軸6.64m，短軸6.50mの方形である。

主軸方向　N－34°－W

壁　壁高は33～43cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約14cm，下幅約7cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は東コーナーに付設され，径75cmの不整円形で，深さは45cm，断面形は擂り鉢形である。貯蔵穴2は東コーナー貯蔵穴1の西隣りに付設され，径60cmの不整円形，深さは30cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は径85～100cmの不整円形，深さ65～78cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径50cmの円形，深さ35cmで，出入り口ピットと思われる。P_6は径28cmの円形で，性格は不明である。

炉　中央から北西寄りに位置し，長径98cm，短径60cmの楕円形で，床面を9cm程掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック微量
2　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土大ブロック少量

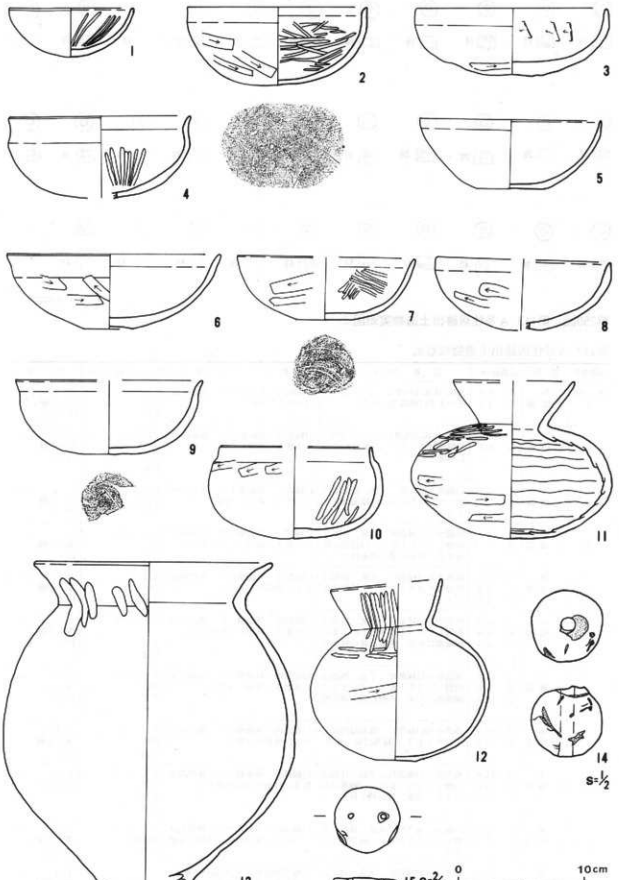
覆土　10層からなる人為堆積である。

土層解説

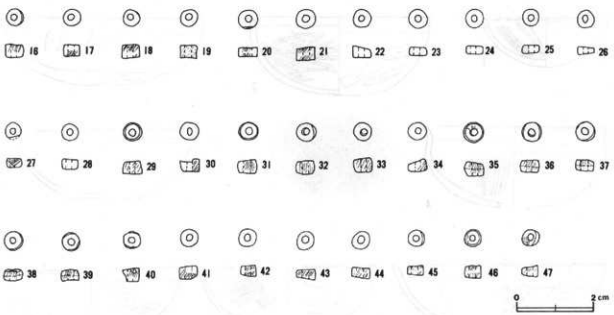
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ローム大・中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム中・小ブロック多量，炭化粒子・ローム大ブロック少量
6　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック少量
7　黒　褐　色　ローム大ブロック中量，炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
9　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
10　黒　　色　炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片320点，須恵器片2点が出土している。第249・250図1の坏は北東壁付近覆土下層から，2の坏は北西壁際覆土下層から，3，5，8の坏，11の坩は東コーナー付近覆土中層から，同位置で，6の坏の上に10の椀が逆せられた状態で，4の坏，12の坩，13の甕は西コーナー覆土中層から，16～46の臼玉は散在した状態で床面から，9の坏，15の有孔円板，14の土玉は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。



第249図　第113-A号住居跡出土遺物実測図(1)



第250図　第113－A号住居跡出土遺物実測図(2)

第113－A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第249図 1	坏 土師器	A 9.6 B 3.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。	長石・石英 赤褐色 普通	P603 100% 覆土下層 PL80
2	坏 土師器	A 14.0 B 6.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。端部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア・パミス 赤色 普通	P604 100% 覆土下層 PL81
3	坏 土師器	A 15.1 B 5.5 C 3.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り。	石英 赤褐色 普通	P605 90% 覆土中層 PL81
4	坏 土師器	A 14.1 B (6.5)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。内面に緩い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 赤色 普通	P606 85% 覆土中層 PL81
5	坏 土師器	A 14.5 B 5.6 C 5.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ後磨き。	雲母 橙色 普通	P607 80% 覆土中層 PL81
6	坏 土師器	A 16.9 B 6.0 C 3.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。内面に鋭い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 赤色 普通	P608 70% 覆土中層 PL81
7	坏 土師器	A [14.2] B 5.0 C 4.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。内面に鋭い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	雲母・石英 橙色 普通	P609 60% 覆土中 PL81
8	坏 土師器	A [13.9] B (5.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英・スコリア 橙色 普通	P610 45% 覆土中層 PL81
9	坏 土師器	A [14.8] B 5.9 C 3.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。内面に鋭い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P611 40% 覆土中
10	椀 土師器	A [12.0] B 7.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，体部外面ヘラ削り後磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P612 90% 覆土上層 PL81
11	坩 土師器	A [9.7] B 12.6	底部から口縁部片。丸底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面ヘラ磨き。体部外面上半ヘラ磨き，下半ヘラ削り。体部内面に輪積み痕を残す。	パミス 赤褐色 普通	P613 90% 覆土中層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
12	壺 土師器	A 8.7 B 14.5 C 3.3	口縁部一部欠損。平底。体部は球形状で，口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面ヘラ磨き。体部外面上半ヘラ磨き，下半ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P614 70% 覆土中 PL81
13	壺 土師器	A 18.6 B (25.9)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面横ナデ一部ヘラ磨き。体部内・外面ナデ。	長石・石英 黄い褐色 普通	P615 80% 覆土中 PL81

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第24図14	土玉	3.9	3.8	3.8	0.7~0.8	46.8	床面	DP48 PL115

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第24図15	石孔円板	2.1	2.1	0.4	0.2	4.7	滑石	覆土中	Q81
第24図16	円盤	0.4	0.5	0.38	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q82 PL118
17	円盤	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q83 PL118
18	円盤	0.45	0.45	0.4	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q84 PL118
19	円盤	0.45	0.5	0.3	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q85 PL118
20	円盤	0.5	0.5	0.25	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q86 PL118
21	円盤	0.45	0.45	0.35	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q87 PL118
22	円盤	0.4	0.5	0.3	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q88 PL118
23	円盤	0.45	0.45	0.2	0.15	0.2	滑石	覆土中	Q89 PL118
24	円盤	0.45	0.45	0.2	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q90 PL118
25	円盤	0.45	0.45	0.2	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q91 PL118
26	円盤	0.45	0.45	0.2	0.1	0.1	滑石	覆土中	Q92 PL118
27	円盤	0.4	0.4	0.2	0.1	0.1	滑石	覆土中	Q93 PL118
28	円盤	0.4	0.4	0.25	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q94 PL118
29	円盤	0.5	0.5	0.3	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q95 PL118
30	円盤	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q96 PL118
31	円盤	0.5	0.5	0.4	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q97 PL118
32	円盤	0.5	0.5	0.35	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q98 PL118
33	円盤	0.5	0.5	0.35	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q99 PL118
34	円盤	0.5	0.5	0.3	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q100 PL118
35	円盤	0.55	0.5	0.35	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q101 PL118
36	円盤	0.5	0.5	0.3	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q102 PL118
37	円盤	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q103 PL118
38	円盤	0.5	0.5	0.3	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q104 PL118
39	円盤	0.5	0.5	0.3	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q105 PL118
40	円盤	0.5	0.45	0.35	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q106 PL118
41	円盤	0.45	0.45	0.4	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q107 PL118
42	円盤	0.45	0.45	0.3	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q108 PL118
43	円盤	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q109 PL118
44	円盤	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q110 PL118
45	円盤	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q111 PL118
46	円盤	0.4	0.4	0.35	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q112 PL118
47	円盤	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q113 PL118

第113-B号住居跡（第244・247図）

位置　調査区の南西部，E4i区。

重複関係　本跡は，第112-A号住居跡及び第113-A号住居跡のそれぞれ南東部を掘り込んでいることから，第112-A号住居跡及び第113-A号住居跡より新しい。

規模と平面形　遺存する東壁から推定すると，一辺3.05mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－17°－W

壁　壁高は25cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

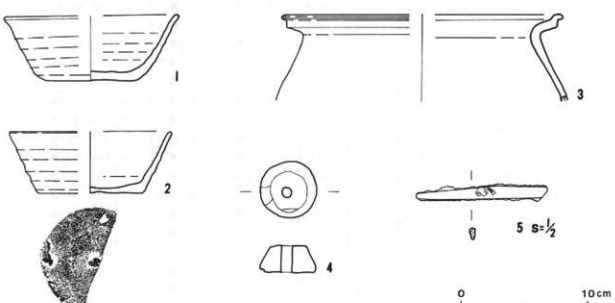
壁溝　確認された壁下には，壁溝が巡っている。全周するものと思われる。上幅約10cm，下幅約5cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，竈前が踏み固められている。

竈　北東コーナーに付設されている。白色粘土と凝灰岩で構築されているが，遺存状態が悪く，両袖の位置にわずかに粘土が残っているのみである。火床部は皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出がなく，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　粘土大ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
4　黒　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
5　黒　褐　色　焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
6　黄　褐　色　粘土小ブロック多量，焼土小ブロック少量
7　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量
8　褐　　色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土大ブロック・炭化大ブロック微量
10　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
11　黄　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第251図　第113-B号住居跡出土遺物実測図

第113-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第251図 1	坏 須恵器	A [13.5] B 5.2 C 7.5	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部でわずかに反る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 灰色 普通	P616 60% 覆土下層 PL81
2	坏 須恵器	A [12.8] B 4.9 C [8.2]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後同転ヘラ削り調整。底部周縁ナデ。	パミス・石英・褐・針状鉱物 灰色 普通	P617 50% 覆土下層 PL81
3	甕 土師器	A [21.4] B (7.2)	体部から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P618 5% 覆土下層 PL81

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第251図 4	紡錘車	4.4	4.5	2.1	0.8	49.1	滑石	南東壁付近床面	Q120 PL120

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第251図 5	刀子	(6.9)	0.6	0.3	－	(4.1)	東コーナー付近床面	M35 PL123

遺物　土師器片63点，須恵器片14点，弥生土器片１点，陶器片２点が出土している。第251図１の須恵器坏は竈内覆土下層から，２の須恵器坏は西コーナー覆土下層から正位の状態で，３の土師器甕は竈前覆土下層から，５の刀子は東コーナー付近床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀前葉）と思われる。

第114号住居跡（第252図）

位置　調査区の中央部，E4g_5区。

規模と平面形　長軸4.05m，短軸2.35mの長方形である。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約16cm，下幅約５cm，深さ約６cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

ピット　P_1は径38cmの不整円形，深さ60cmで，位置や深さから柱穴と思われるが，対応する柱穴が見られないため確定はできない。

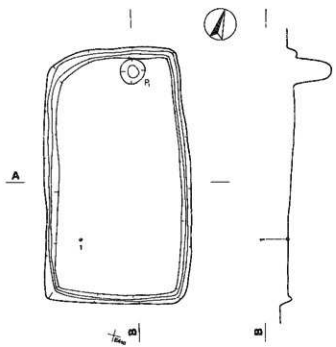
覆土　３層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック少量
3　黄　褐　色　ローム小ブロック中量

遺物　土師器片35点が出土している。第253図１の土師器坏は西壁付近覆土下層から正位の状態で出土している。

所見　本跡は，住居跡として調査したが方形竪穴状遺構の可能性がある。住居の平面形が長方形であること，竈等が見られないこと，床が硬化していない点などから，住居以外の用途としての使用が想定される。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半～７世紀頃）と思われる。



第252図　第114号住居跡実測図

第253図　第114号住居跡出土遺物実測図

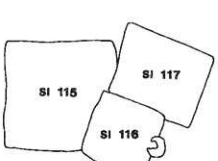
第114号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第253図 1	坏 土師器	A 14.4 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・スコリア・長石・礫 鈍い橙色 普通	P619　80% 覆土下層 PL81

第115号住居跡（第254図）

位置　調査区の中央部，F4a₂区。

重複関係　本跡は，第110号住居跡及び第116号住居跡によって掘り込まれていることから，第110号住居跡及び第116号住居跡よりも古い。



規模と平面形　長軸5.74m，短軸4.22mの長方形である。

主軸方向　N－29°－W

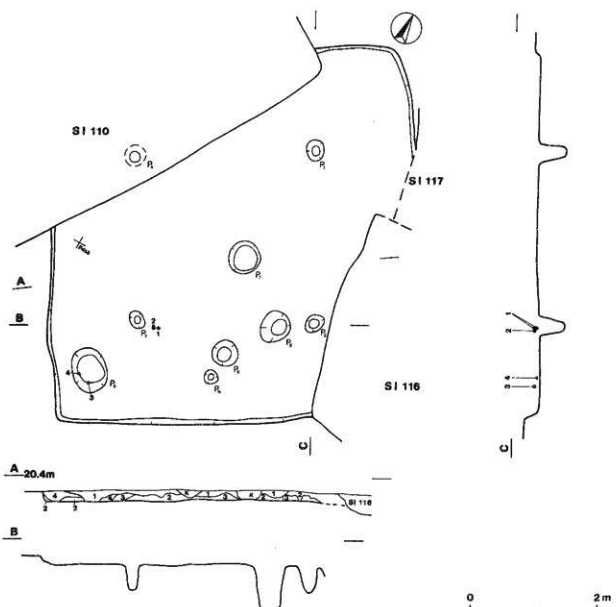
壁　残存高は15cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，踏み固めた部分は見られない。

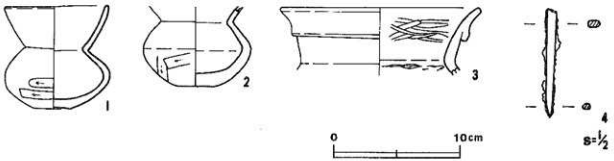
ピット　9か所（P_1～P_9）。P_1～P_4は径24～30cmの不整円形，深さ42～72cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径14cm，深さ11cmで，出入り口ピットと思われる。P_6は径68cmの不整円形，深さ22cmで，やや深さに疑問は残るが，位置や形状から貯蔵穴可能性がある。P_7～P_9は径44～50cmの不整円形，深さ35～70cmで，性格は不明である。

覆土　4層からなる人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　黄　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，黒色土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
4　黒　褐　色　炭化粒子・炭化中・小ブロック・ローム粒子少量



第254図　第115号住居跡実測図



第255図　第115号住居跡出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第255図 1	坩 土師器	A 8.6 B 8.2 C 2.8	底部から口縁部片。平底。体部は算盤玉状で，口縁部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部上半ナデ，下半ヘラ削り。	長石・石英 鈍い赤褐色 普通	P620 床面 PL81	80%
2	坩 土師器	B（6.4） C 2.9	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部上半ナデ，下半ヘラ削り。	雲母・石英・パミス・褐 鈍い赤褐色 普通	P621 床面	50%
3	甕 土師器	A 15.7 B（5.4）	口縁部片。口縁部は複合口縁を呈する。	口縁部内面横位のヘラ磨き，外面縦位のヘラ磨き。	スコリア・石英・雲母・パミス 鈍い赤褐色 普通	P622 床面 PL81	20%

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第255図4	角釘	（5.8）	1.0	0.4	—	（3.4）	南コーナー床面	M36　PL124

遺物　土師器片354点，須恵器片９点，縄文・弥生土器片２点，陶器片１点が出土している。第255図１，２の坩は正位の状態で２つが重なって南コーナー付近床面から，４の鉄鏃も同位置から，３の甕は同覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀前半）と思われる。

第116号住居跡（第256図）

位置　調査区の中央部，F4a$_1$区。

重複関係　本跡は，第115号住居跡及び第117号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり，第115号住居跡及び第117号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸4.6m，短軸3.34mの長方形である。

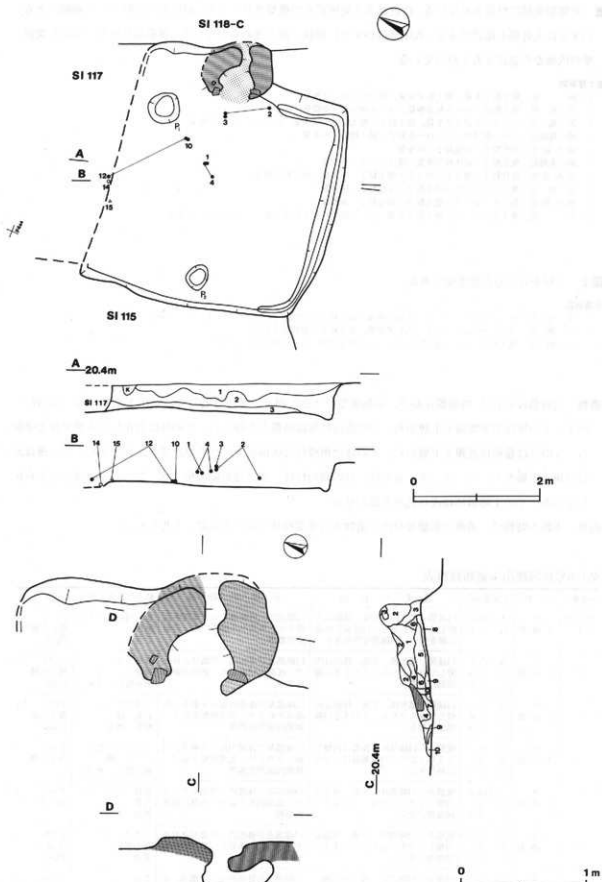
主軸方向　N－82°－E

壁　壁高は42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下のうち，竈のある東壁から南壁まで壁溝が巡っている。上幅約20cm，下幅約９cm，深さ約７cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。

ピット　２か所（P_1～P_2）。P_1は径32cmの不整円形，深さ41cmで，配置や深さから，出入り口ピットと思われる。P_2は径50cm，深さ21cmの不整楕円形で，性格は不明である。



第256図　第116号住居跡実測図

竈　東壁中央部に付設されている。白色粘土と凝灰岩とで構築されており，凝灰岩を芯材とした袖部とともに，わずかに天井部も確認できる。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ60cm程突出し，壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量，焼土中ブロック微量
2　黒 褐 色　焼土粒子・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック多量，焼土粒子・粘土粒子・灰少量，ローム中ブロック微量
4　鈍い黄褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子・灰少量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・灰多量
6　鈍い赤褐色　焼土粒子・粘土粒子多量，焼土小ブロック少量
7　暗 赤 褐 色　炭化粒子，焼土小ブロック・焼土粒子・灰少量，粘土粒子微量
8　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰多量
9　暗 赤 褐 色　焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰多量
10　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子・粘土粒子少量，焼土中ブロック微量

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

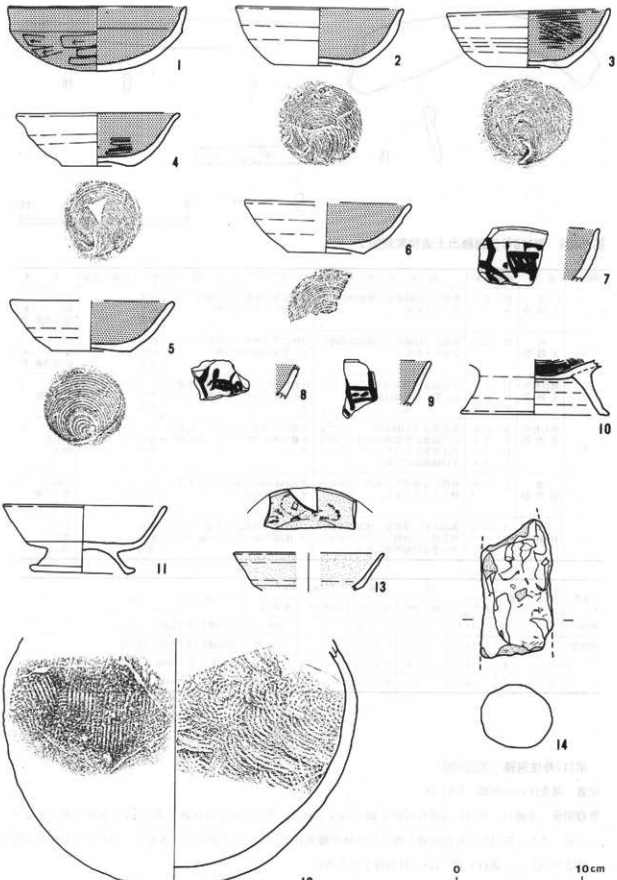
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子小量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片844点，須恵器片48点，灰釉陶器片1点，縄文・弥生土器片3点が出土している。第257・258図1，4の坏は中央部覆土上層から，10の高台付坏は同覆土下層から，2の坏は散在した状態で覆土中層から，3の坏は竈前付近覆土上層から，6の坏は南壁付近床面から，12の須恵器甕，14の支脚，15の鍾は北壁付近覆土下層から，5，7，8，9の坏，11の高台付坏，13の緑釉陶器椀，16，17の刀子は覆土中から出土している。1の土師器坏は流れ込みと思われる。

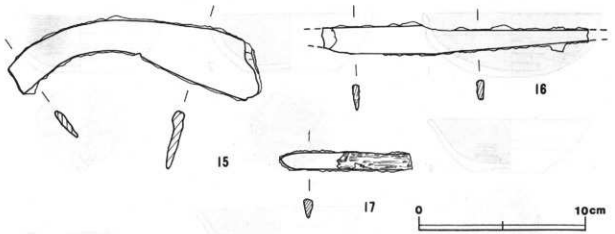
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀以降）と思われる。

第116号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第257図1	坏 土師器	A 14.0 B 5.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	長石・石英・パミス 黒色 普通	P623　95% 覆土上層 PL81
2	坏 土師器	A 13.1 B 4.6 C 6.8	口縁部一部欠損，平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	雲母・スコリア・長石・パミス 明赤褐色　普通	P624　95% 覆土中層 PL82
3	坏 土師器	A 12.9 B 4.8 C 7.0	口縁部一部欠損，平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	スコリア・パミス・雲母 橙色　普通	P625　80% 覆土上層 PL81
4	坏 土師器	A 12.7 B 4.3 C 5.9	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	スコリア・雲母・パミス・礫 鈍い橙色　普通	P626　70% 覆土上層
5	坏 土師器	A [12.8] B 4.0 C 6.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	雲母・スコリア・石英 橙色　普通	P627　40% 覆土中
6	坏 土師器	A [13.0] B 4.0 C [6.0]	底部から口縁部片。半底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	パミス・雲母 暗赤褐色 普通	P628　40% 床面 PL82
7	坏 土師器	B [4.6]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部内面黒色処理。	雲母 鈍い橙色 普通	P629　5% 覆土中［高］体部外面墨書　PL82



第257図　第116号住居跡出土遺物実測図(1)



第258図　第116号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	坏 土師器	B（3.1）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面黒色処理。	雲母 橙色 普通	P630　3% 覆土中　「高」体 部外面墨書　PL82
9	坏 土師器	B（4.7）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面黒色処理。	石英 橙色 普通	P631　3% 覆土中　「高」体 部外面墨書　PL82
10	高台付坏 土師器	B（4.4） D 11.6 E 3.0	高台部から坏底部片。「ハ」の字状に開く長い高台が付く。	坏部内面ヘラ磨き。底部切り離し後高台貼り付け。高台部ロクロナデ。	スコリア 橙色 普通	P632　45% 覆土下層 PL82
11	高台付坏 須恵器	A 12.9 B 5.5 D 7.4 E 1.8	高台部から口縁部片。「ハ」の字状で端部が反る高台が付く。坏体部は外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	坏部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後高台貼り付け。高台部ロクロナデ。	パミス・石英 鈍い灰色 普通	P633　80% 覆土中 PL82
12	甕 須恵器	B（19.8）	底部から体部片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面同心円状の当て具痕を残す。外面平行叩き。	長石 灰白色 普通	P634　50% 覆土下層 PL82
13	鉢 緑釉陶器	A［11.6］ B（3.0）	体部から口縁部片。体部は下位に稜を持ち，外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面に花弁文が施される。	砂粒 緑色 普通	P635　5% 覆土中 PL82

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第257図14	支脚	(11.1)	5.9	5.0	－	(337.6)	北壁付近覆土下層	DP49　PL118
第258図15	鎌	(13.5)	3.3	0.4～0.6	－	(34.9)	北壁付近覆土下層	M37　PL124
16	刀子	(14.1)	1.8	0.3～0.5	－	(26.0)	覆土中	M38　PL122
17	刀子	(6.9)	1.2	0.4～0.5	－	(7.4)	覆土中	M39　PL122

第117号住居跡（第259図）

位置　調査区の中央部，E4j区。

重複関係　本跡は，第118－A号住居跡を掘り込んでおり，第113－B号住居跡，第116号住居跡に掘り込まれている。また，第118－C号住居跡の床上に本跡が構築している。したがって，本跡は，118－A・118－C号住居跡より新しく，第113－B・116号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸4.94m，短軸3.92mの長方形である。

主軸方向　N－80°－E

壁　壁高は38cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，硬緻を除き大部分が踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径24～48cmの不整円形，深さ52～57cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径38cmの不整円形，深さ53cmで，性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設されている。白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，焼土の範囲のみを確認する。火床部は皿状に8cm程掘り窪められている。煙道部等は第113-B号住居跡によって掘り込まれているため確認できない。

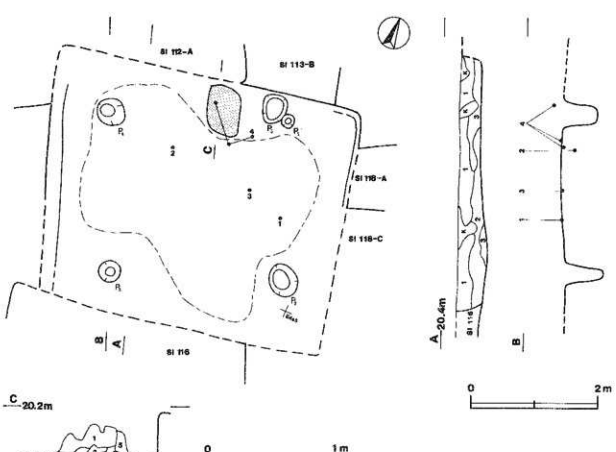
竈土層解説

1　褐　　色　粘土大ブロック多量，粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・ローム中ブロック少量
2　暗 褐 色　粘土粒子多量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
3　黒 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量，焼土中ブロック・ローム粒子・灰少量，ローム中ブロック微量
5　暗 褐 色　焼土小ブロック中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック・焼土粒子微量
6　赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土大ブロック微量
7　黄 褐 色　焼土粒子・粘土粒子多量，焼土大ブロック微量
8　黒 褐 色　炭化粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大・中ブロック微量

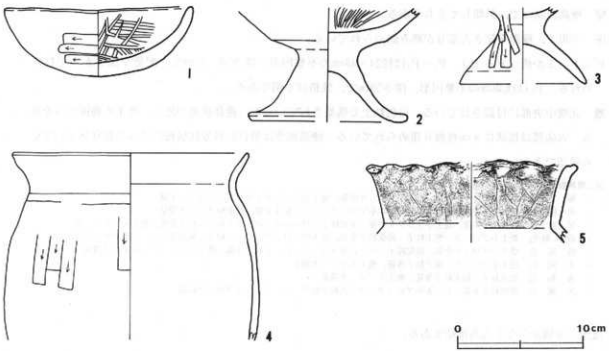
覆土　3層からなる人為堆積である。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　暗 褐 色　焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量



第259図　第117号住居跡実測図



第260図　第117号住居跡出土遺物実測図

第117号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第260図 1	坏 土師器	A 14.6 B 5.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・パミス 赤黒色 普通	P636 床面 PL81	90%
2	高坏 土師器	B（9.1） D [12.0] E 5.0	脚部から坏部片。脚部は「ハ」の字状に大きく開き，端部は反る。坏部は下位に鈍い稜を持つ。	坏体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。脚部内面ナデ，外面磨き。裾部内・外面横ナデ。	パミス・雲母 明赤褐色 普通	P637 床面 PL82	40%
3	高坏 土師器	B（6.1） D [10.0] E 4.7	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ削り。	雲母・パミス 明赤褐色 普通	P638 床面	50%
4	甕 土師器	A 18.4 B（14.9）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に直線的に立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英 明赤褐色 普通	P639 床面 PL82	50%
5	甕 土師器	A [16.8] B（6.2）	口縁部片。口縁部は外傾し，口縁端部は反り，波状を呈する。	口縁部内・外面ヘラナデ。口縁端部内面に指頭圧痕を残す。	石英・スコリア 鈍い褐色 普通	P640 覆土中 PL82	50%

遺物　土師器片439点，須恵器片19点，弥生土器片２点が出土している。第260図１の坏，２，３の高坏は中央部床面から，４の甕は北壁付近床面からつぶれた状態で，５の甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半）と思われる。

第118－A号住居跡（第262図）

位置　調査区の中央部，E4j6区。

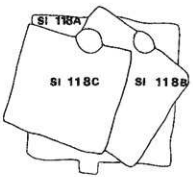
重複関係　本跡は，第117・118－B・118－C号住居跡にそれぞれ掘り込まれていることから，第117・118－B・118－C号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸8.96m，短軸7.7mの長方形である。

主軸方向　N－36°－W

壁　壁高は26cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，壁溝が巡っている。全周するものと思われる。上幅約8cm，下幅約6cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。



貯蔵穴　南東壁中央部に壁外へ62cm程張り出して付設されている。長軸72cm，短軸54cmの長方形で，深さは35cmまでの箱形の部分と，それ以下の幅30cm，長さ52cm，深さ50cmの箱形の部分との二段構造になっている。

床　大部分が掘り込まれているため，詳細は不明である。

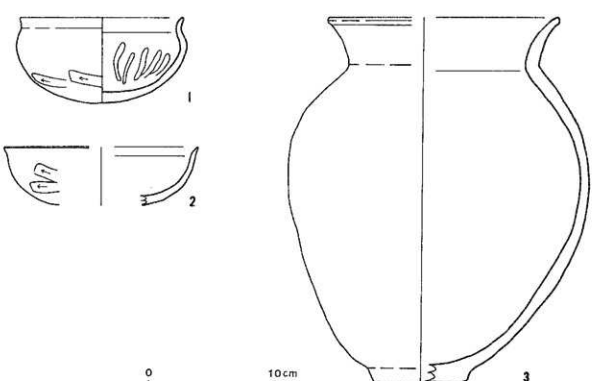
ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径38～45cmの不整円形，深さ12～45cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径50cmの円形，深さ47cmで，出入り口ピットと思われる。

覆土　3層からなる自然堆積である。

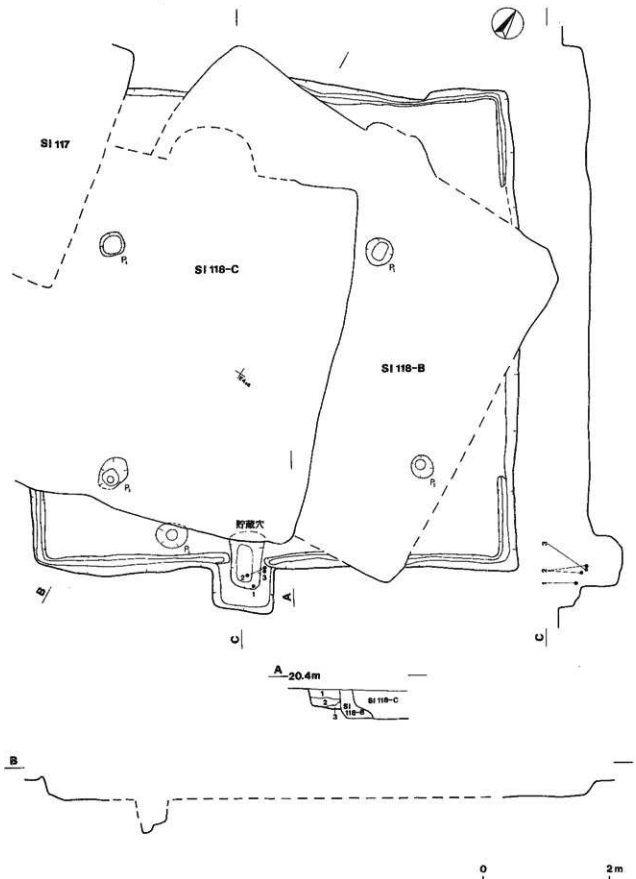
土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　鈍い黄褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
3　黒　褐　色　炭化材・ローム中・小ブロック少量，ローム大ブロック微量

遺物　土師器片598点，須恵器片4点，鉄滓6点が出土している。第261図1の坏，2の坏は正位，3の甕は横位で貯蔵穴覆土上面からまとまって出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。



第261図　第118-A号住居跡出土遺物実測図



第262図　第118-A号住居跡実測図

第118－A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第262図 1	坏 土師器	A 12.8 B 6.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。内面に鋭い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・スコリア 明赤褐色 普通	P641 100% 貯蔵穴内覆土中 PL82
2	坏 土師器	A［15.3］ B（4.7）	体部から口縁部片。体部は内湾してやや上がり，口縁端部は直く外傾する。内面に鋭い稜を持つ。	口縁部及び体部内面横ナデ，外面ヘラ削り。	石英 橙色 普通	P642 30% 貯蔵穴内覆土中
3	甕 土師器	A［18.2］ B 29.1 C［7.5］	底部から口縁部片。平底。体部は内湾して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母 橙色 普通	P643 80% 貯蔵穴内覆土中 PL82

第118－B号住居跡（第263図）

位置　調査区の南西部，E4j₅区。

重複関係　本跡は，第118－A号住居跡を掘り込んでおり，第118－C号住居跡に掘り込まれていることから，第118－A号住居跡より新しく，第118－C号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.9m，短軸6.48mの方形である。

主軸方向　N－4°－W

壁　壁高は34cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦であるが，踏み固められた部分は部分的で散在している。

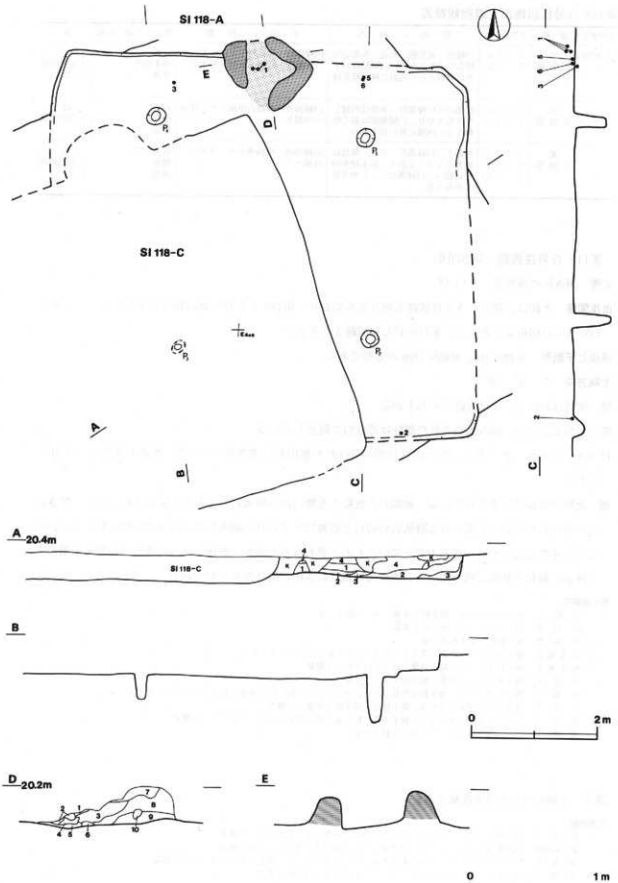
ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は径26～29cmの不整円形，深さ52～62cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。

竈　北壁中央部に付設されている。袖部の白色粘土と焚口部の凝灰岩の切石とで構築されている。焚き口部天井に架けられていたと思われる凝灰岩の切石と右袖に立てられた凝灰岩とにはほぞが切られており，両者は相互に重なることから，組み上がっていたものと思われる。また，直径7cm，長さ21cmの凝灰岩製の支脚が火床部に横位の状態で残っている。火床部は皿状に5cm程掘り窪められている。

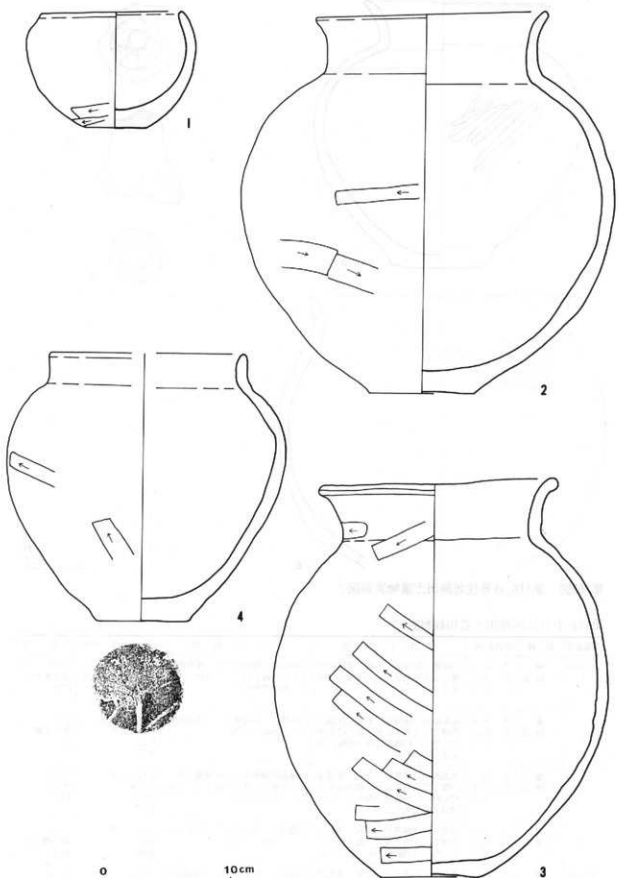
竈土層解説
1　暗褐色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子少量
2　暗褐色　粘土小ブロック・粘土粒子多量
3　黒褐色　焼土粒子・粘土粒子少量
4　明赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土大・中ブロック・粘土小ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
6　赤褐色　焼土大ブロック多量，粘土小ブロック中量
7　灰褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土大ブロック・炭微量
8　黒褐色　焼土大・小ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量，灰微量
9　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土大ブロック少量，ローム大ブロック微量
10　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量

覆土　4層からなる自然堆積である。

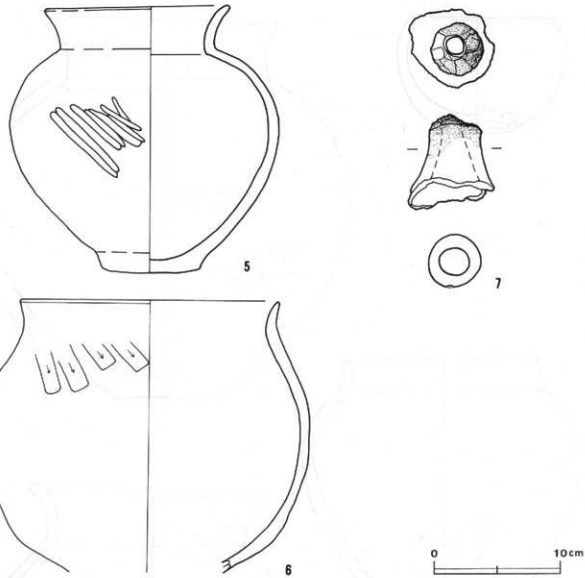
土層解説
1　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2　鈍い褐色　炭化粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量
3　黄褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック・黒色土粒子少量，炭化物微量
4　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量



第263図　第118-B号住居跡実測図



第264図　第118-B号住居跡出土遺物実測図(1)



第265図　第118－B号住居跡出土遺物実測図(2)

第118－B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第264図 1	椀 土師器	A 11.3 B 9.3 C 4.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上位ナデ，下位ヘラ削り。内面黒色処理。	雲母・スコリア・石英・パミス・礫 鈍い黄橙色 普通	P644 99% 竈内覆土中 PL82
2	甕 土師器	A 18.4 B 30.6 C 8.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は直立気味に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	スコリア・長石・雲母・石英 橙色 普通	P645 85% 覆土下層 PL82
3	甕 土師器	A 18.3 B 32.1 C 8.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反し，口容部は丸く肥大する。	口縁部内面横ナデ，外面横ナデ→ヘラ削り。体部内面ナデ，外面ナデ→ヘラ削り。	長石・石英・パミス・礫 床面 橙色 普通	P646 85% 床面 PL82
4	甕 土師器	A [15.4] B 21.2 C 7.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を上位に持つ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	パミス・礫 橙色 普通	P647 60% 竈内覆土中 PL82
第265図 5	甕 土師器	A 14.3 B 21.3 C 7.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位やや上に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ→ヘラ磨き。	スコリア・長石・石英・パミス・礫 暗赤褐色 普通	P648 60% 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	甕 土師器	A 20.2 B (21.6)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・パミス 橙色 普通	P649 30% 覆土下層 PL82

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第265図7	転用刃口	7.5	−	−	−	99.5	覆土中	DP89 PL117

遺物　土師器片186点，須恵器片1点が出土している。第264・265図1の椀，3の甕は竈横床面から，4の甕は竈に掛けられたままつぶれた状態で，2の甑は南東コーナー付近覆土下層から，5，6の甕は竈横覆土下層から，7の転用羽口は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第118 C号住居跡（第266図）

位置　調査区の中央部，F4a$_5$区。

重複関係　本跡は，第118−B号住居跡を掘り込んでおり，第117号住居跡の床の上に本跡が構築していることから，第118−B・117号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸6.24m，短軸5.74mの方形である。

主軸方向　N−22°−W

壁　壁高は28〜49cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，ほぼ全面にわたり踏み固められている。

ピット　9か所（P$_1$〜P$_9$）。P$_1$〜P$_4$は径28〜44cmの不整円形，深さ21〜48cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P$_5$は径34cmの円形，深さ17cmで，出入り口ピットの可能性がある。P$_6$〜P$_9$は径44〜62cmの不整円形，深さ15〜56cmで，性格は不明である。

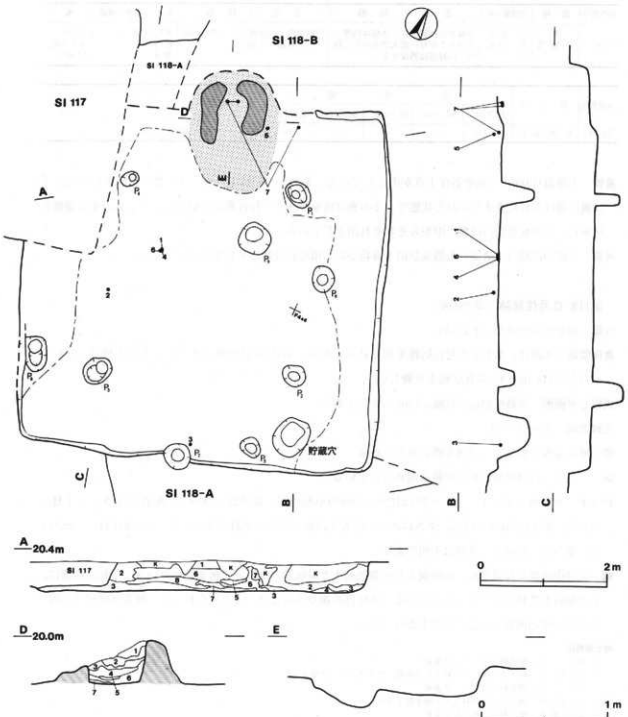
竈　北壁中央部に付設され，山砂混じりの黄色粘土と凝灰岩の切石とで構築されている。左袖先端部に，凝灰岩の切石が芯材として立てられている。火床部の掘り込みはほとんど見られない。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層解説
1　橙　　色　橙色粘土大ブロック多量
2　暗 褐 色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，焼土小ブロック微量
3　橙　　色　橙色粘土大ブロック多量
4　赤 褐 色　焼土中・小ブロック・焼土粒子多量
5　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子多量
6　暗赤褐色　焼土粒子・灰多量，粘土粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量

貯蔵穴　南東コーナーに付設され，径60cmの不整円形で，深さは50cm，断面形はU字形である。

遺物　土師器片164点，須恵器片3点が出土している。第267図1，2の坏，4の高坏，6の甕は中央部覆土下層から，7の甕は竈内火床部直上から，3の坏は南壁付近覆土下層から，5の椀は竈前覆土下層からそれぞれ出土している。4の高坏と8の有孔円板は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

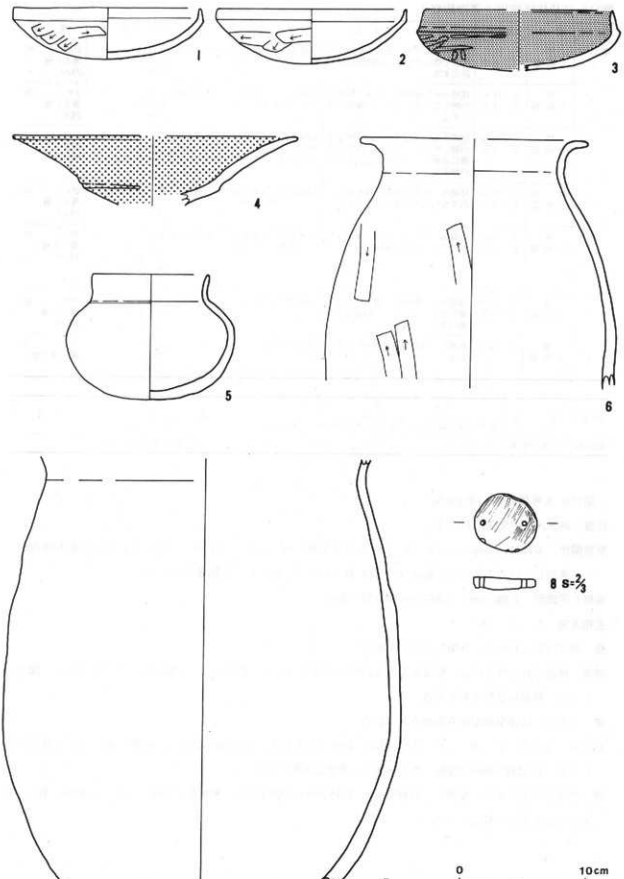


第266図　第118-C号住居跡実測図

覆土　8層からなる自然堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・ローム中ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中・小ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
6　鈍い褐色　焼土粒子・粘土中ブロック・粘土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
7　黄　橙　色　粘土中ブロック・粘土粒子・炭化粒子多量，炭化物中量
8　黄　橙　色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子多量，炭化粒子・粘土小ブロック少量，焼土大ブロック微量



第267図　第118−C号住居跡出土遺物実測図

第118-C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	坏 土師器	A 14.7 B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ヘラ削り。	石英・スコリア 明赤褐色 普通	P650 95% 覆土下層 PL83
2	坏 土師器	A 14.8 B 4.4	底部から口縁部片，丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ヘラ削り。	石英 鈍い橙色 普通	P651 70% 覆土下層 PL83
3	坏 土師器	A [14.8] B (4.8)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ヘラ磨き，内・外面黒色処理。	パミス 赤褐色 普通	P652 40% 床面 PL83
4	高坏 土師器	A [22.3] B (5.5)	坏部片。坏部は下位に稜を持ち，わずかに外反気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内面磨き，外面ナデ。内・外面赤彩。	雲母・石英・長石 赤色 普通	P653 10% 覆土下層 PL83
5	椀 土師器	A 9.2 B 9.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は球形状で，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面斜削。	石英・スコリア・長石・雲母・パミス・礫 鈍い黄橙色 普通	P654 95% 覆土下層 PL82
6	甕 土師器	A [18.0] B (19.7)	体部から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英 鈍い黄橙色 普通	P655 40% 覆土下層 PL82
7	甕 土師器	B (34.2)	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	礫・パミス 橙色 普通	P656 30% 竈内覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第267図8	有孔円板	2.3	2.5	0.5	0.2	3.9	滑石	竈内覆土中	Q116

第119-A号住居跡（第268図）

位置　調査区の中央部，F4c1区。

重複関係　本跡は，第88-C・120-A・120-B号住居跡に掘り込まれており，第119-B号住居跡が本跡の床の上に構築していることから，第88-C・119-B・120-A・120 B号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸7.6m，短軸7.2mの方形である。

主軸方向　N－23°－W

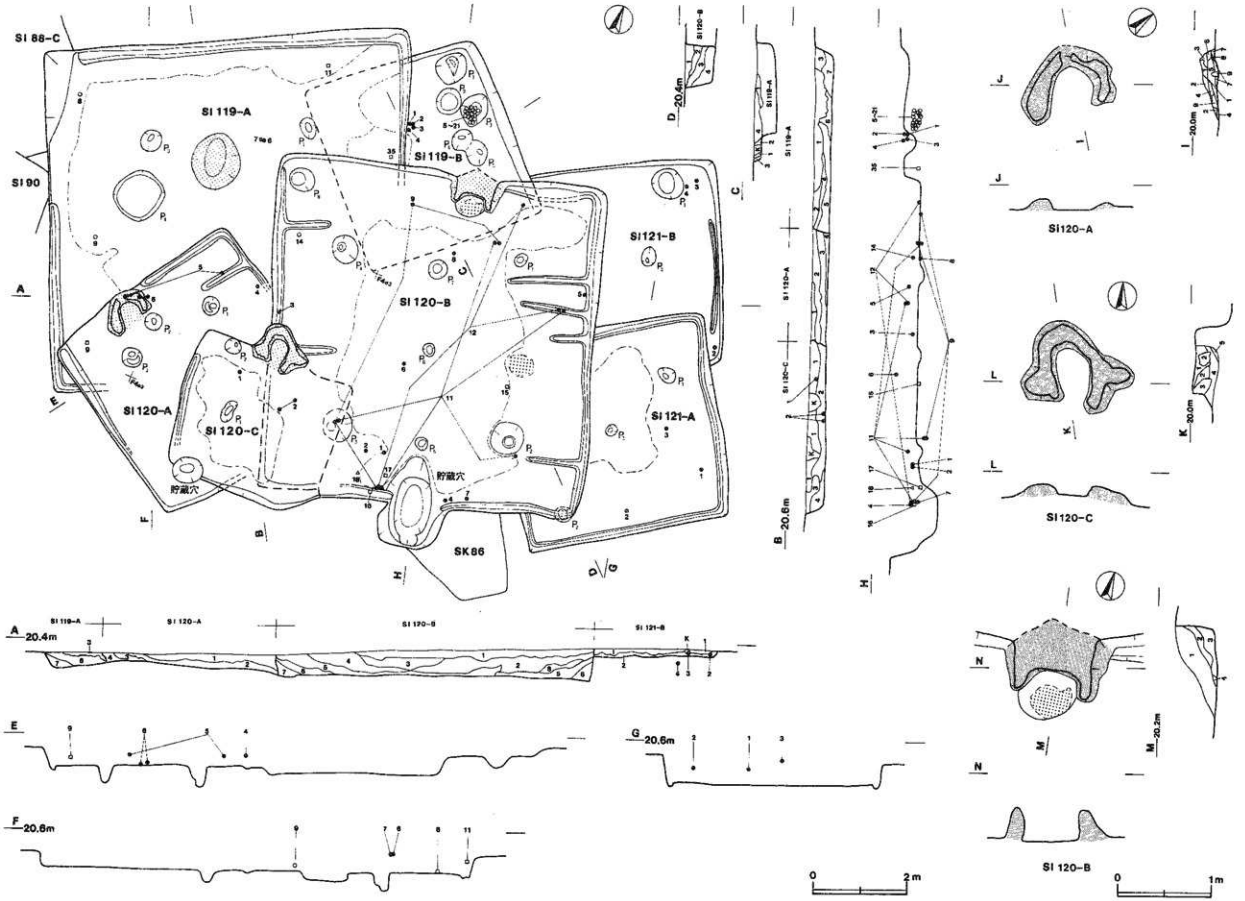
壁　壁高は32～46cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約16cm，下幅約8cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

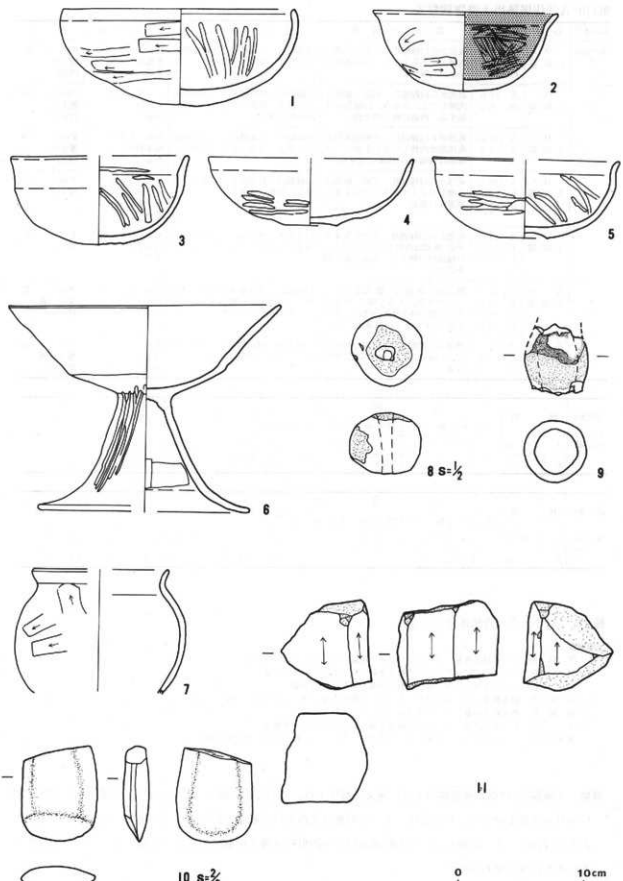
床　平坦で，ほぼ全面が踏み固められている。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_3は径36～48cmの不整円形，深さ28～42cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_4は径104cmの円形，深さ18cmで，性格は不明である。

炉　中央から北西寄りに位置し，長径118cm，短径100cmの楕円形で，床面を8cm掘り窪めた地床炉である。炉床は火熱を受けた程度である。



第268図　第119-A・119-B・120-A・120-B・120-C・121-A・121-B号住居跡実測図



第269図　第119-A号住居跡出土遺物実測図

第119 A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 1	坏 土師器	A 18.2 B 7.8 C 2.7	底部から口縁部片。平底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・石英 赤褐色 普通	P657 95% 覆土中 PL83
2	坏 土師器	A 14.6 B 6.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外傾する。内面に稜い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。体部内面黒色処理。	パミス・石英 赤褐色 普通	P658 70% 覆土中 PL83
3	坏 土師器	A 13.8 B 7.1	底部から口縁部片。平底気味の丸底体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外傾する。内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後粗さ。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P659 60% 覆土中 PL83
4	坏 土師器	A 16.1 B 5.3 C 6.2	底部から口縁部片。平底。体部は内湾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ磨き。	パミス・石英・スコリア・礫 暗赤褐色 普通	P660 30% 覆土中
5	坏 土師器	A 14.6 B 6.3 C 3.6	底部から口縁部片。上げ底気味の平底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外傾する。内面に稜い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英・パミス 暗赤色 普通	P661 60% 覆土中
6	高 坏 土師器	A 21.5 B 16.6 D [16.5] E 9.0	脚部から坏部片。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開く。坏部は下位に稜い稜を持ち，外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ナデ。脚部内面ヘラ削り，外部縦位のヘラ磨き。	長石・石英 橙色 普通	P662 70% 覆土下層 PL83
7	小形壺 土師器	A [10.7] B (9.6)	体部から口縁部片。体部は球形状で，口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英 赤褐色 普通	P663 80% 覆土下層 PL83

図版番号	種別	計測値 抜き(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第269図 8	上 玉	3.8	3.8	3.2	0.6～0.9	40.8	西コーナー寄床面	DP51 PL115
9	転用羽口	(5.5)	5.0	–	–	(63.4)	炭焼痕付着覆土中層	DP82 PL137

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第269図10	片刃石斧	3.8	2.9	0.9	–	17.2	安山岩	覆土中	Q117 PL122
11	砥石	(7.0)	(7.2)	–	–	(387.1)	砂岩	北側壁付近覆土中層	Q118 PL120

覆土　7層からなる自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
2 褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
3 褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，黒色土粒子少量
4 暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック微量
5 暗褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
6 黒色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
7 極暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片271点，須恵器片4点，縄文土器片1点，軽石2点が出土している。第269図1～5の坏，10の片刃石斧は覆土中から，6の高坏，7の小形甕は北西壁付近覆土下層から，11の砥石は同覆土中層から，8の上玉は西コーナー寄床面から，9の転用羽口は南西壁付近覆土中層からそれぞれ出土している。10の片刃石斧は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀中葉）と思われる。

第119 B号住居跡（第268図）

位置　調査区の中央部，F4c₃区。

重複関係　本跡は，第119-A号住居跡の床の上に構築しており，第120-B号住居跡に掘り込まれていることから，第119 A号住居跡より新しく，第120-B号住居跡よりも古い。

規模と平面形　コーナーを含む遺存する壁がないため一辺の長さを確定できず，規模及び平面形は不明である。

壁　壁高は19cmで，ゆるく外傾して立ち上がる。

床　やや凹凸があり，締まりがなく遺存状態はよくない。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_5は径54～64cmの不整円形，深さ25～43cmで，性格は不明である。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

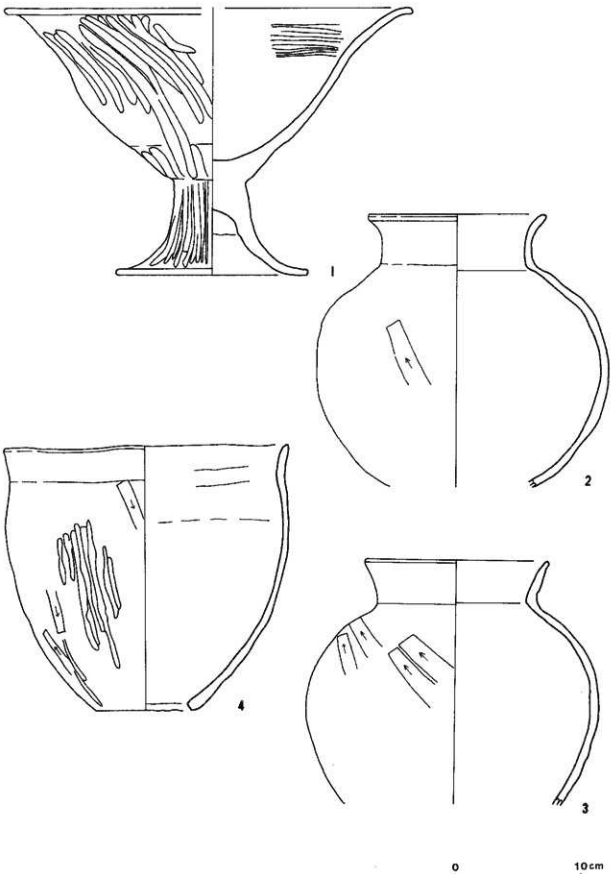
1　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック少量
4　黒　褐　色　ローム大ブロック多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片102点，須恵器片1点が出土している。第270～272図1の高坏，2，3の甕，4の甑は中央部覆土上層から，5～21の土玉はP_2内からまとまった状態で，35の有孔円板は中央部床面からそれぞれ出土している。

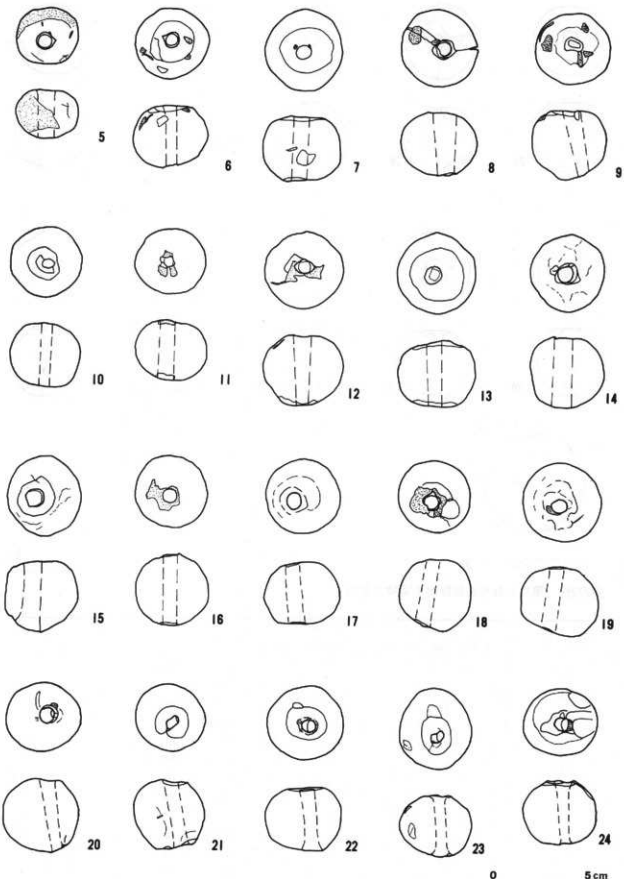
第119-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 1	高坏 土師器	A 32.4 B 21.2 D 15.2 E 7.4	脚部から口縁部片。脚部は下位で大きく「ハ」の字状に開く。坏部は内湾気味に立ち上がり，口縁端部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。脚部内面ヘラナデ，外面縦位のヘラ磨き。	パミス・雲母・礫 赤褐色 普通	P664　70% 覆土上層 PL83
2	甕 土師器	A 13.8 B (21.6)	体部から口縁部片。体部は球形状で，口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英 橙色 普通	P665　50% 覆土上層 PL83
3	甕 土師器	A 14.3 B (19.5)	体部から口縁部片。体部は球形状で口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ，体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英 赤色 普通	P666　60% 覆土上層 PL83
4	甑 土師器	A 22.4 B 21.1 C 7.6	底部から口縁部片。無底式。体部は内湾気味に立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ磨き。孔周開外面ヘラ削り。	礫・パミス・雲母 赤色 普通	P667　80% 覆土上層 PL83

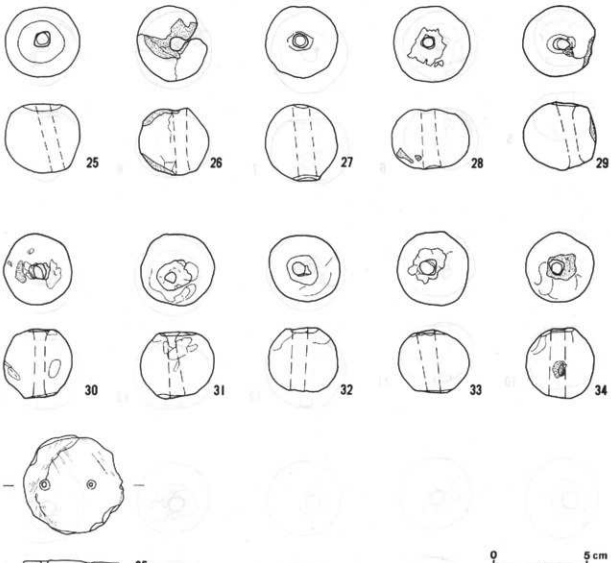
図版番号	種	調	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第271図 5	土	玉	3.0	3.3	2.6	0.1～0.9	24.9	P_2内覆土中	DP52　PL115
6	土	玉	3.8	4.0	3.3	0.7～0.8	44.9	P_2内覆土中	DP53　PL115
7	土	玉	4.3	4.1	3.4	0.8	59.8	P_2内覆土中	DP54　PL115
8	土	玉	4.1	4.0	3.3	1.3～0.9	45.5	P_2内覆土中	DP55　PL115
9	土	玉	3.7	4.0	3.7	0.6～1.0	49.9	P_2内覆土中	DP56　PL115
10	土	玉	3.7	3.7	3.4	0.6	44.3	P_2内覆土中	DP57　PL115
11	土	玉	3.4	3.7	3.2	0.7～0.9	37.7	P_2内覆土中	DP58　PL115
12	土	玉	4.0	4.1	3.7	0.7～0.9	53.2	P_2内覆土中	DP59　PL115
13	土	玉	4.3	4.1	3.5	0.7～0.8	57.9	P_2内覆土中	DP60
14	土	玉	3.7	3.9	3.7	1.0	54.5	P_2内覆土中	DP61
15	土	玉	3.8	3.9	3.8	0.9～1.3	55.5	P_2内覆土中	DP62
16	土	玉	3.8	3.9	3.8	0.8	50.9	P_2内覆土中	DP63
17	土	玉	3.3	4.1	3.3	0.8～0.9	52.3	P_2内覆土中	DP64
18	土	玉	3.8	3.7	3.8	0.8	51.2	P_2内覆土中	DP65



第270図　第119-B号住居跡出土遺物実測図(1)



第271図　第119-B号住居跡出土遺物実測図(2)



第272図　第119-B号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備　考
19	土　玉	3.6	4.2	3.6	0.8	62.1	P3内覆土中	DP66
20	土　玉	3.7	4.0	3.9	0.8	54.6	P3内覆土中	DP67
21	土　玉	3.6	3.7	3.7	0.7～0.9	46.6	P1内覆土中	DP68
22	土　玉	3.9	4.0	3.3	0.7～1.1	50.9	北東壁付近覆土上層	DP69
23	土　玉	4.3	3.8	3.3	0.6	48.8	北東壁付近覆土上層	DP70
24	土　玉	3.5	3.9	3.4	0.5～0.9	47.3	北東壁付近覆土上層	DP71
第272図25	土　玉	3.7	3.9	3.6	0.7～0.8	52.4	北東壁付近覆土上層	DP72
26	土　玉	4.0	3.7	3.6	－	35.6	北東壁付近覆土上層	DP73
27	土　玉	3.8	3.8	4.0	0.8～0.9	50.6	北東壁付近覆土上層	DP74
28	土　玉	4.0	4.0	3.1	0.7～0.9	49.8	北東壁付近覆土上層	DP75
29	土　玉	3.8	3.9	3.6	0.8	51.8	北東壁付近覆土上層	DP76
30	土　玉	3.8	3.7	3.7	0.6	48.6	北東壁付近覆土上層	DP77
31	土　玉	3.8	4.0	3.6	0.6～0.8	52.0	北東壁付近覆土上層	DP78
32	土　玉	3.4	3.7	3.4	0.7～0.8	44.8	北東壁付近覆土上層	DP79

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第272図33	土玉	3.3	3.7	3.3	0.7~1.0	45.9	表層中近現土上層	DP80
34	土玉	3.8	3.6	3.8	0.7~0.9	46.4	表層中近現土上層	DP81

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第272図35	石孔円板	4.0	4.0	0.5	0.2	10.8	滑石	表層中近現土上層	Q119

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第120-A号住居跡（第268図）

位置　調査区の中央部，F4d_2区。

重複関係　本跡は，第119-A号住居跡の南西部を掘り込んでおり，第120-B号住居跡と第120-C号住居跡に掘り込まれていることから，第119-A号住居跡より新しく，第120 B・120-C号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸4.7m，短軸4.55mの方形である。

主軸方向　N－56°－W

壁　壁高は35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，南西壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約12cm，下幅約8cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，部分的に一部踏み固められている。北東壁から中央に向かって溝が1条延びている。上幅約14cm，下幅約6cm，長さ104cmで，断面形はU字形である。

ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1，P_2は径38~42cmの不整円形，深さ38~43cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。

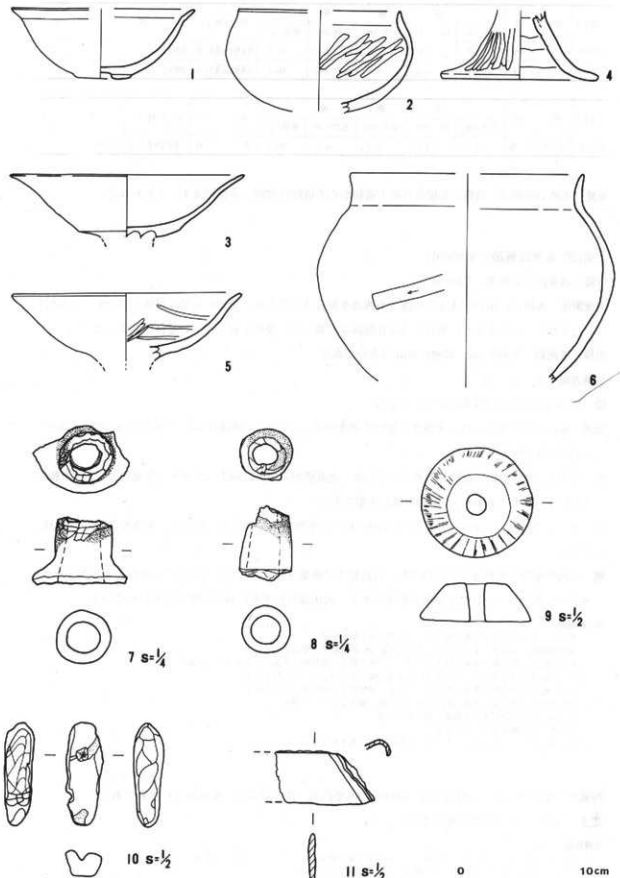
竈　北西壁中央やや西寄りに付設され，白色粘土で構築されていたと思われるが，耕作による削平を受け，両袖部の位置にわずかに粘土が残る程度である。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。

竈土層解説
1　黄　褐　色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　褐暗赤褐色　灰中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色土少量
3　明赤褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土大ブロック微量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・灰中量，黒色土少量
6　暗褐赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子・灰少量，焼土小ブロック微量
7　赤　褐　色　炭化粒子・灰多量，焼土粒子少量
8　灰　褐　色　粘土大ブロック多量
9　黄　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量

貯蔵穴　南西コーナーに付設され，径60cmの不整円形，深さは63cm，断面形はU字形である。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
2　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・ローム中ブロック微量
3　灰黄褐色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，粘土粒子中量
4　黄　褐　色　焼土粒子・粘土粒子・灰多量，焼土中ブロック・炭化粒子少量



第273図　第120-A号住居跡出土遺物実測図

第120-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第273図 1	坏 上師器	A [14.5] B 5.6 C 4.4	底部から口縁部片。中央に窪みを有する平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ハケ目状工具によるナデ後磨き，外面ナデ。	石英 鈍い橙色 普通	P672 40% 覆土中
2	椀 上師器	A [12.6] B (8.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面磨き。	長石・石英 赤色 普通	P668 40% 覆土中 PL83
3	高坏 上師器	A 18.4 B (5.0)	坏部片。坏体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲 橙色 普通	P669 45% 覆土中 PL83
4	高坏 土師器	D 12.3 E (5.5)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	パミス・雲母 赤色 普通	P670 40% 覆土中層
5	高坏 土師器	A 17.7 B 5.4	坏部片。坏体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。	長石・石英 赤褐色 普通	P671 20% 覆土中 PL83
6	甕 土師器	A [18.6] B (16.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，最大径を上位に持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・石英・雲母・パミス 鈍い橙色 普通	P673 40% 竈内覆土中 PL83

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第273図 7	転用羽口	7.5	6.7	—	—	99.5	覆土中	DP90 PL117
8	転用羽口	5.3	7.6	—	—	73.6	覆土中	DP91 PL117

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第273図 9	紡錘車	4.2	4.4	1.5	0.6~0.7	41.3	滑石	北西壁際土中層	Q121 PL120
10	棒状石製品	1.5	4.1	1.0	—	8.8	凝灰岩	覆土中	Q122

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第273図11	鎌	(5.3)	2.8	0.4	—	(15.1)	覆土中	M42 PL123

遺物　上師器片1556点，須恵器片62点，弥生土器片3点，鉄滓4点が出土している。第273図1の坏，2の椀，3の高坏，7，8の転用羽口，11の鎌，10の棒状石製品は覆土中から，5の高坏，6の甕は竈内覆土中から，4の高坏，9の紡錘車は北西壁付近覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第120-B号住居跡（第268図）

位置　調査区の中央部，F4d$_4$区。

重複関係　本跡は，第119-A・119-B・121-A・121-B号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり，第120-C号住居跡に本跡の床の上に構築されていることから，第119-A・119-B・121-A・121-B号住居跡より新しく，第120-C号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸7.1m，短軸6.8mの方形である。

主軸方向　N-16°-W

壁　壁高は25cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約16cm，下幅約10cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。東壁，西壁から1条ずつ中央に向かって，溝が延びている。上幅約14cm，下幅約8cm，深さ約10cm，長さ70～170cmで，断面形はU字形である。

ピット　8か所（P_1～P_8）。P_1～P_4は径28～74cmの不整円形，深さ40～55cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径24cmの円形，深さ14cmで，出入り口ピットと思われる。P_6～P_8は径26～58cm，深さ18cm程の不整楕円形で，性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設されている。山砂まじりの白色粘土と芯材として使用した凝灰岩とで構築されており，袖部先端には切石が立てられている。火床部の掘り込みは見られない。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　黄　褐　色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土中・小ブロック・焼土粒子・灰多量
3　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子多量，粘土粒子・焼土小ブロック中量
4　赤　褐　色　焼土中ブロック・焼土粒子多量

貯蔵穴　南壁中央に壁外へ90cm程張り出すように付設されている。長径190cm，短径90cmの長楕円形で，深さは30cm，断面形は逆台形である。

覆土　8層からなる自然堆積である。

土層解説

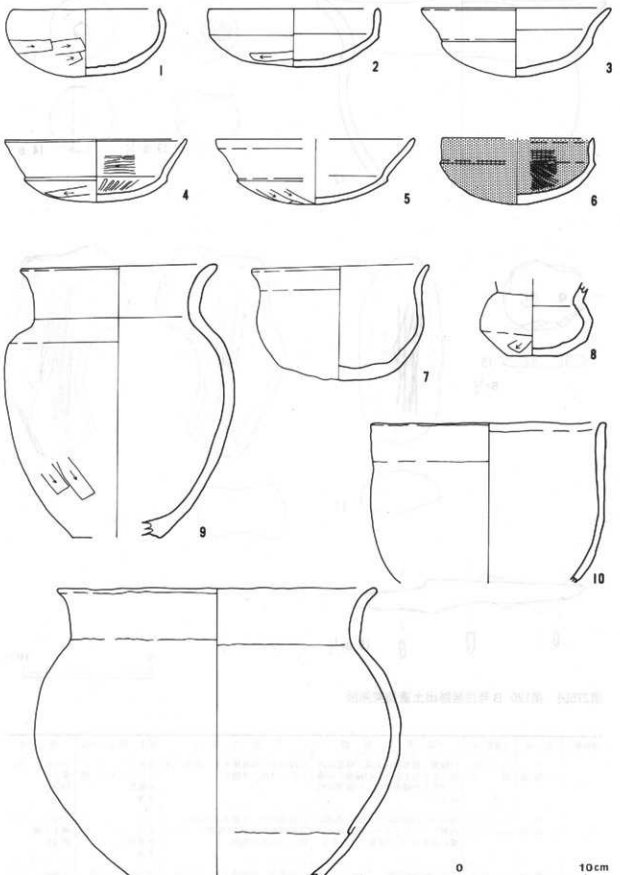
1　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・ローム大ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子多量，ローム中ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・ローム大ブロック微量
5　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック微量
6　暗　褐　色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　黒　褐　色　炭化物・炭化粒子多量，焼土大ブロック中量，ローム粒子少量
8　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片425点が出土している。第274・275図1，2の坏，7の椀，16，17の砥石は南壁付近覆土下層から，4の坏は同覆土中層から，18の刀子は南壁付近床面から，3の坏，14の土玉は西壁付近覆土中層から，6の坏は中央部覆土上層から，8の壺は北壁付近覆土下層から，9，11，12の甕は散在した状態で覆土下層から，15の有孔円板は東壁付近床面から，5の坏，10の甕及び13の土玉は覆土中からそれぞれ出土している。

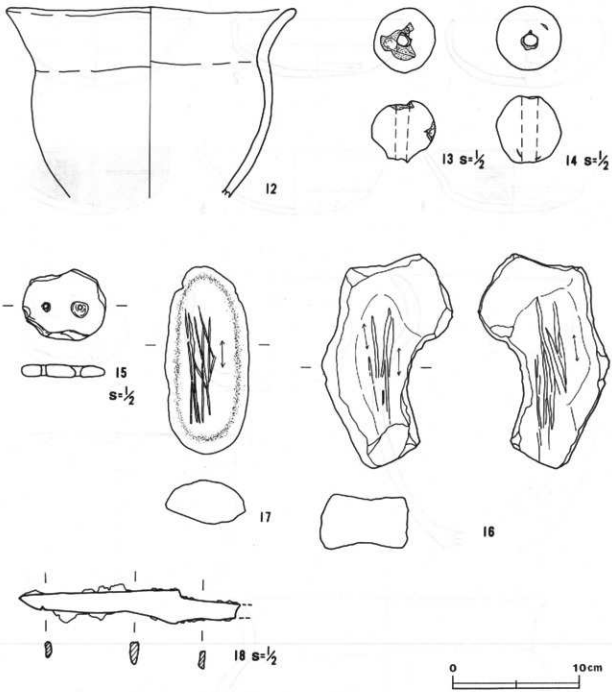
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第120－B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第274図1	坏 土師器	A 11.6 B 5.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面斜縦，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P674　90% 覆土下層 PL83
2	坏 土師器	A 13.3 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部との境に鋭い稜を持つ。口縁部は真直ぐ立つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面斜縦，外面ヘラ削り。	雲・石英・雲母 橙色 普通	P675　95% 覆土下層 PL84
3	坏 土師器	A 15.0 B 5.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部との境に鋭い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横撫，外面横ナデ。体部内面斜縦，外面ヘラ削り後ナデ。	パミス・石英 橙色 普通	P676　95% 覆土中層 PL84
4	坏 土師器	A 14.3 B 5.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内湾してやや上がり，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	石英 橙色 普通	P677　90% 覆土中層 PL84



第274図　第120-B号住居跡出土遺物実測図(1)



第275図　第120－B号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	坏 土師器	A［15.6］ B　5.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	石英・パミス・スコリア・雲母・礫 赤褐色 普通	P678　60% 覆土中 PL84
6	坏 土師器	A［12.0］ B　5.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	スコリア・パミス・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P679　50% 覆土上層 PL84
7	椀 土師器	A　14.0 B　9.3	丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	スコリア・石英・パミス・礫 橙色 普通	P680　100% 覆土下層 PL84

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	壺 土師器	B (5.9) C 4.1	口縁部欠損。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナデ，外面上半ナデ，下半ヘラ削り。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P681 80% 覆土下層 PL84
9	甕 土師器	A 15.5 B 21.8 C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は内湾して立ち上がり，最大径を上位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ一部ヘラ削り。	石英・パミス・スコリア・礫 明赤褐色 普通	P682 70% 覆土下層
10	甕 土師器	A 18.7 B (12.8)	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面刺離。	パミス・石英・礫 灰黄褐色 普通	P683 70% 覆土中
11	甕 土師器	A 25.0 B (23.6)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，最大径を上位に持つ。口縁部は直立し，端部で外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	礫・石英 橙色 普通	P684 50% 覆土中層
第275図 12	甕 土師器	A 22.6 B (15.2)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	礫・石英・雲母・パミス 明赤褐色 普通	P685 40% 覆土中層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第275図13	土玉	3.4	3.3	3.2	0.6～0.7	26.4	覆土中	DP83
14	土玉	3.4	3.4	3.6	0.8～0.9	36.3	東壁付近覆土中層	DP84

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第275図15	有孔円板	2.8	3.3	0.5	0.2	8.1	滑石	東壁付近床面	Q123
16	砥石	17.1	10.4	4.4	－	882.4	砂岩	南壁付近覆土下層	Q124 PL120
17	砥石	14.9	6.5	3.5	－	423.0	凝灰岩	南壁付近覆土下層	Q125 PL120

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第275図18	刀子	(11.7)	2.2	0.3～0.4	－	(15.2)	南壁付近床面	M40 PL122

第120－C号住居跡（第268図）

位置　調査区の中央部，F4e$_2$区。

重複関係　本跡は，第120－A号住居跡の南東部を掘り込んでおり，第120－B号住居跡の床の上に構築していることから，第120－A号住居跡と第120－B号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸3.74m，短軸3.44mの方形である。

第276図　第120－C号住居跡出土遺物実測図

第120-C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第276図 1	坏 須恵器	A 13.7 B 3.7 C 9.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ削り調整。	石英・長石・針状鉱物 淡い橙色 普通	P 686　60% 覆土下層 PL.81
2	坏 須恵器	A [13.0] B 4.1 C 9.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ削り調整。二次底部面を残す。	石英・パミス・スコリア・長石・礫・針状鉱物 黄灰色 普通	P 687　60% 覆土下層 PL.84
3	ヘラ瓶 須恵器	B 10.9 D [13.0] E 0.7	高台部から体部片。直線的に開く短い高台が付く。体部は外傾して直線的に立ち上がり，上位で強く屈曲する。	体部内・外面ロクロナデ。	スコリア・パミス 灰白色 普通	P 689　30% 覆土中 PL.84

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は32cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下のうち，南西壁に壁溝が巡っている。上幅約14cm，下幅約6cmである。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1，P_2は径25～34cmの不整円形及び楕円形，深さ25～39cmで，性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設され，山砂混じりの白色粘土で構築されている。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。燃道部は壁外へ76cm程突出し，壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層断説
1　黒　褐　色　粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黄　褐　色　粘土中ブロック多量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子・粘土小ブロック中量，炭化物・炭化粒子微量
4　褐　　色　粘土大ブロック多量，焼土小ブロック少量，炭化物微量
5　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層断説
1　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子・灰多量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　黄　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片38点，須恵器片4点が出土している。第276図1の須恵器坏は北壁付近覆土下層から，2の須恵器坏は中央部覆土下層から，3の須恵器平瓶は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（8世紀前半）と思われる。

第121-A号住居跡（第268図）

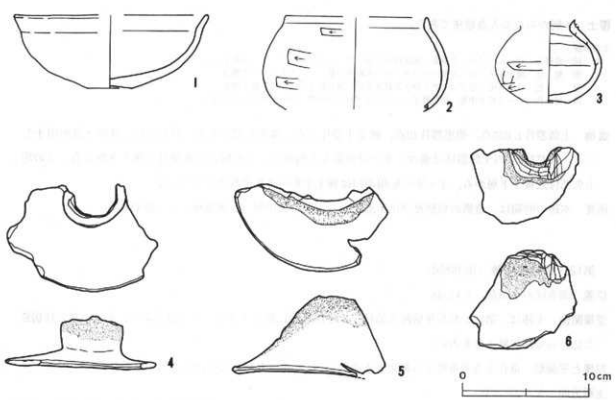
位置　調査区の中央部，F4d$_4$区。

重複関係　本跡は，第121-B号住居跡の南東部を掘り込んでおり，北西部を第120-B号住居跡に掘り込まれていることから，第121-B号住居跡より新しく，第120-B号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸2.22m，短軸2.2mの方形である。

主軸方向　N－32°－W

壁　壁高は58cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。



第277図　第121－A号住居跡実測図

第121－A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 1	坏 土師器	A〔15.2〕 B 5.9 C 3.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。口縁部内面に貧い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後磨き。	礫 赤褐色 普通	P696　30% 覆土下層
2	椀 土師器	A〔11.0〕 B（7.4）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P697　30% 覆土下層
3	坩 土師器	B（6.7） C 3.3	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナデ，外面上半ナデ，下半ヘラ削り。	砂粒・スコリア・長石 鈍い赤褐色 普通	P698　40% 覆土下層 PL84

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第277図4	転用羽口	4.1	－	－	－	84.9	覆土中	DP92　PL117
5	転用羽口	6.3	－	－	－	89.1	覆土中	DP93　PL117
6	転用羽口	7.9	－	－	－	76.4	覆土中	DP94　PL117

壁溝　確認された壁下には壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約９cm，下幅約５cm，深さ約６cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　３か所（P_1～P_3）。P_1は径38cmの不整円形，深さ50cmで，他に対応する柱穴は確認できないが，位置や深さから主柱穴の可能性がある。P_2，P_3は径21～44cmで，性格は不明である。

覆土　4層からなる人為堆積である。

土層解説
1　鈍い黄褐色　ローム中ブロック多量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
3　褐　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子中量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片1,035点，須恵器片12点，縄文土器片１点，弥生土器片６点，軽石１点，鉄滓２点が出土している。第277図１の土師器坏は東コーナー付近覆土下層から，２の椀は南東壁付近覆土下層から，３の甑は中央部付近覆土下層から，４～６の転用羽口は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀後半）と思われる。

第121-B号住居跡（第268図）

位置　調査区の中央部，F4c4区。

重複関係　本跡は，第120-B号住居跡と第121-A号住居跡に掘り込まれていることから，第120-B号住居跡，第121-A号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する北東壁から推定すると，一辺4.3mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は17cmで，外傾して立ち上がる。

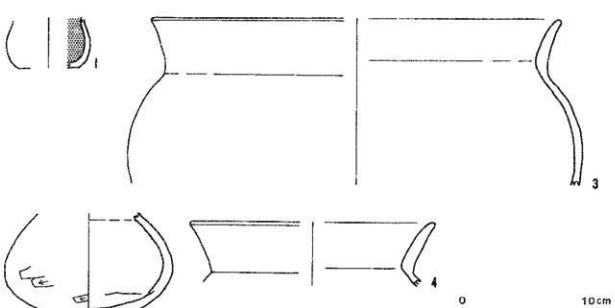
壁溝　確認された壁下のうち，北西壁に壁溝が巡っている。上幅約８cm，下幅約４cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で全体的に軟らかである。

ピット　２か所（P_1・P_2）。P_1・P_2は径30～72cmの不整円形，深さ22～33cmで，性格は不明である。

覆土　２層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量



第278図　第121-B号住居跡出土遺物実測図

第121-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第278図 1	椀 土師器	B［4.1］ C（4.6）	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。内面黒色処理。	長石 黒褐色 普通	P701 覆土下層 20%
2	坩 土師器	B（8.3） C 4.0	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナデ，外面上半ナデ，下半ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 鈍い褐色 普通	P700 覆土下層 PL84 60%
3	甕 土師器	A［32.0］ B（13.2）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	礫・長石 褐色 普通	P702 覆土下層 PL84 10%
4	甕 土師器	A［18.0］ B（5.0）	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・スコリア・礫 明褐色 普通	P703 覆土下層 10%

遺物　土師器片114点，鉄滓２点が出土している。第278図３の甕は北コーナー付近覆土下層から，４の甕は同床面から，２の坩は東コーナー付近覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀）と思われる。

第122号住居跡（第279図）

位置　調査区の中央部，F4c$_0$区。

重複関係　本跡は，南部を第123号住居跡に掘り込まれていることから，第123号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸4.57m，短軸4.40mの方形である。

主軸方向　N－64°－E

壁　壁高は27～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東壁から南東壁まで壁溝が巡っている。上幅約14cm，下幅約10cm，深さ約７cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，住居の東寄りに踏み固められた部分がある。

ピット　４か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は径20～31cmの不整円形，深さ64～81cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

炉　中央から北寄り床面に焼土がわずかに確認できたが，火熱等で硬化した様子は見られず，短期間使用されただけの炉なのかあるいは単に焼土塊なのかは不明である。

貯蔵穴　南コーナーに付設され，径51cmの不整円形，深さは35cmで，断面形はU字形である。

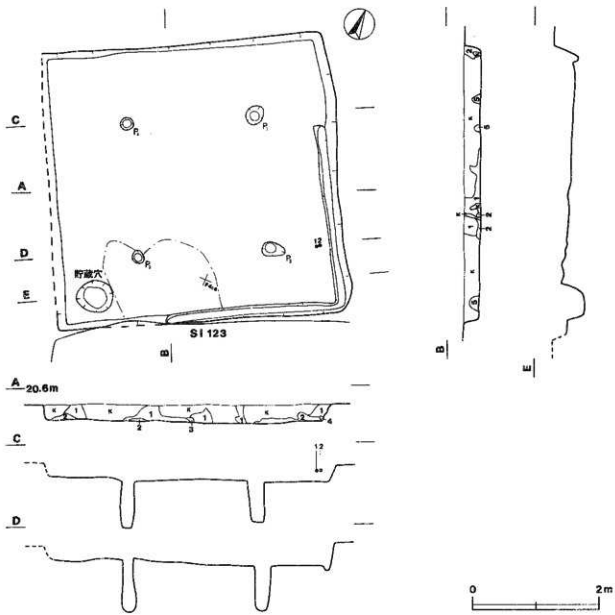
覆土　５層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・ローム小ブロック微量
2　黒　褐　色　炭化材中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　炭化粒子・ローム粒子少量
5　暗　褐　色　炭化材中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片190点，須恵器片28点，弥生土器片１点が出土している。第280図１の土師器椀，２の甕は南東壁付近覆土中層から，３の手捏土器，４の敲石は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀）と思われる。

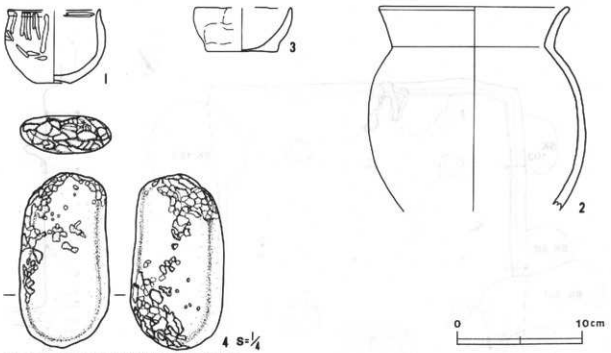


第279図　第122号住居跡実測図

第122号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第122図 1	椀 土師器	A［7.2］ B 4.8 C 2.7	底部から口縁部片。上げ底気味の平底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ磨き。	長石・パミス 褐赤褐色 普通	P704 70% 覆土中層 PL84
2	甕 土師器	A 14.7 B (16.2)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面斜位のヘラ削り。	長石・スコリア 明褐色 普通	P705 60% 覆土中層
3	手捏土器 土師器	A［7.6］ B 3.5 C 5.4	底部から体部片。突出気味の平底。体部は内湾気味に外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。外面に輪積み痕を残す。	長石・スコリア 赤褐色 普通	P706 50% 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第280図4	敲石	18.3	9.6	3.7	—	1172.8	安山岩	覆土中	Q134



第280図　第122号住居跡出土遺物実測図

第123号住居跡（第281図）

位置　調査区の中央部，F4d$_4$区。

重複関係　本跡は，第98及び103号土坑を掘り込んでおり，第101・102号土坑に掘り込まれていることから，第122号住居跡，第98・103号土坑より新しく，第101・102号土坑よりも古い。

規模と平面形　長軸6.55m，短軸6.40mの方形である。

主軸方向　N－24°－W

壁　壁高は14～41cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には北東壁と北西壁の一部を除いて壁溝が巡っている。上幅約12cm，下幅約8cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

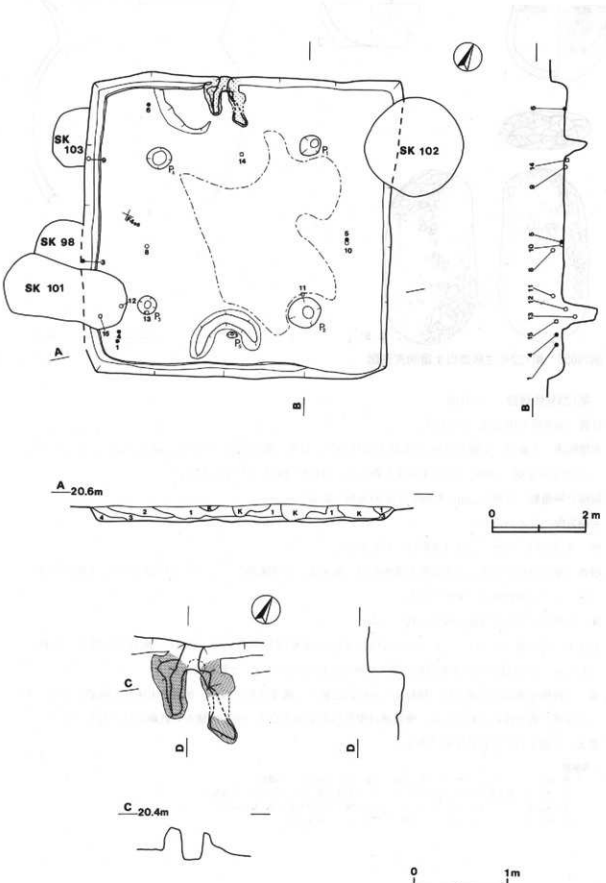
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径39～65cmの不整円形，深さ14～72cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径21cmの不整円形，深さ19cmで，出入り口ピットと思われる。

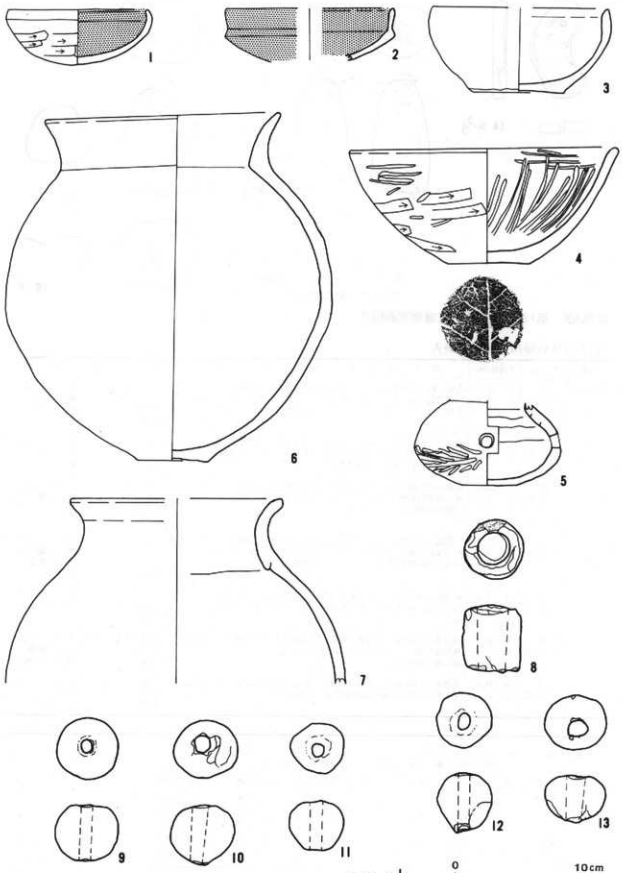
竈　北西壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されており，袖部と火床部が確認できた。火床部は皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出がなく，壁の内側から直線的に立ち上がる。

覆土　4層からなる自然堆積である。

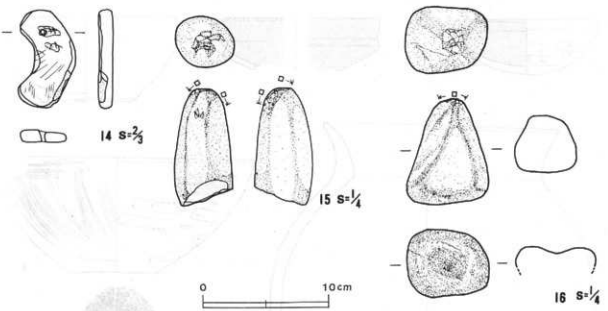
土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム中・小ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量



第281図　第123号住居跡実測図



第282図　第123号住居跡出土遺物実測図(1)



第283図　第123号住居跡出土遺物実測図(2)

第123号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第282図 1	坏 土師器	A 11.0 B 4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。体部内面黒色処理。	雲母・パミス・スコリア・長石 暗赤褐色 普通	P707　100% 覆土中層 PL84
2	坏 土師器	A [13.0] B 4.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 褐色 普通	P709　30% 床面 PL84
3	椀 土師器	A [13.8] B 6.8 C 7.2	底部から口縁部片。突出気味の平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・長石・スコリア 赤褐色 普通	P708　40% 覆土中層 PL84
4	鉢 土師器	A 21.0 B 9.3 C 6.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面暗文状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。	スコリア・長石・パミス 暗褐色 普通	P710　90% 覆土中層　底部に木葉痕あり PL85
5	甑 土師器	B (6.8) C 4.4	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状で，体部上半に穿孔が見られる。	体部内面ナデ，外面上半磨き，下半ヘラ削り後ヘラ磨き。	パミス 暗赤褐色 普通	P711　60% 床面 PL85
6	甕 土師器	A 18.4 B 27.8 C 6.0	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒・雲母 暗赤褐色 普通	P712　90% 床面　底部に木葉痕あり　PL85
7	甕 土師器	A [16.6] B (14.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・スコリア 暗褐色 普通	P713　10% 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第282図 8	管状土錘	5.2	4.6	−	2.1～2.5	88.9	覆土上層	DP95
9	土玉	2.9	3.3	−	0.6	28.9	床面	DP96
10	土玉	3.2	3.3	−	0.7～0.9	28.0	覆土下層	DP97
11	土玉	2.6	2.9	−	0.6～0.7	15.6	覆土上層	DP98
12	土玉	3.2	3.0	−	0.6	20.7	床面	DP99
13	土玉	2.6	3.2	−	0.9～1.0	19.4	ピット内覆土中	DP100

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第283図14	勾玉	3.9	2.3	0.5	0.1～0.3	5.9	滑石	床面	Q135 PL119
15	敲石	12.2	6.1	5.2	－	472.4	砂岩	覆土中層	Q136
16	敲石	10.9	8.5	7.1	－	788.2	安山岩	覆土中	Q137凹石兼用

遺物　土師器片894点，須恵器片18点，弥生土器片3点，軽石4点が出土している。第282・283図1の杯，4の鉢，15の敲石は南コーナー覆土中層から，12の上玉は同床面から，8の管状土錘は南西壁付近覆土上層から，3の椀は同覆土中層から，9の土玉は同床面から，11の土玉は北東壁付近覆土上層から，5の坩，10の土玉は同覆土下層から，6の甕は竈横覆土下層から，14の勾玉は竈前床面から，7の甕，13の土玉はピット内覆土中から，2の坏，16の敲石は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第124号住居跡（第284図）

位置　調査区の中央部，F4f$_1$区。

重複関係　本跡は，東部を第126号住居跡に掘り込まれ，第125号住居跡に本跡の上に構築されていることから，第125と126号住居跡より古い。

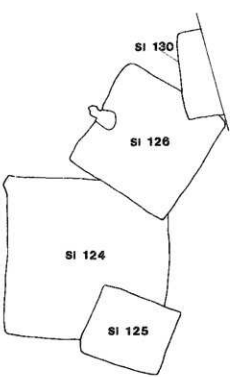
規模と平面形　長軸8.60m，短軸8.50mの方形である。

主軸方向　N－34°－W

壁　壁高は23～62cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約22cm，下幅約12cm，深さ約5cmで，断面形は逆台形である。

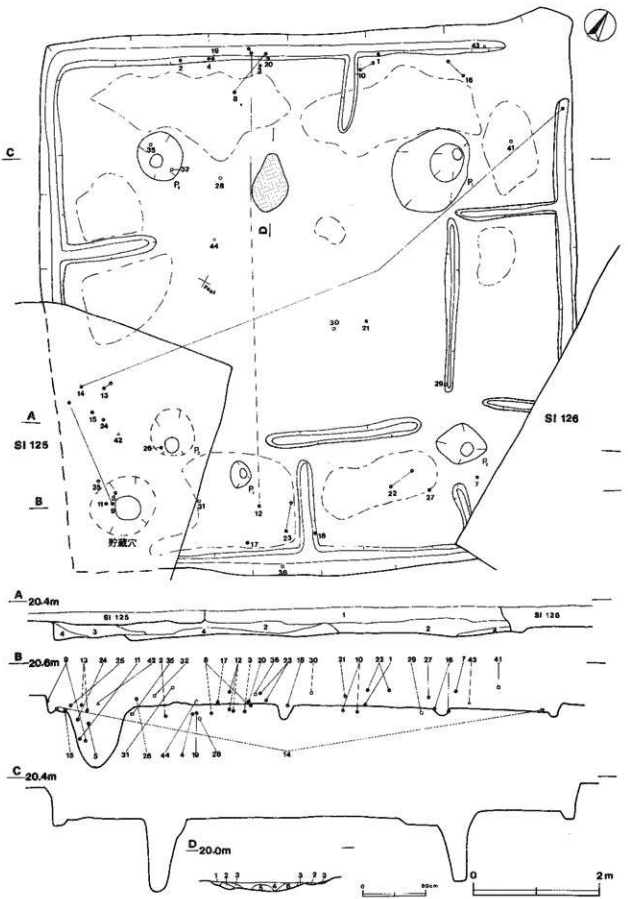
床　平坦で，中央部周囲に踏み固められた部分が見られる。北西壁，南西壁から各1条ずつ，北東壁，南東壁から各2条ずつの溝が中央に向かって延びている。上幅約36cm，下幅約9cm，深さ約12cm，長さ92～164cm，断面形は逆台形である。北東壁，南東壁から85～95cm離れた位置に，壁に平行して各1条ずつ溝が延びている。上幅32～44cm，下幅12～20cm，深さ約10cm，長さ244～270cm，断面形はU字形である。



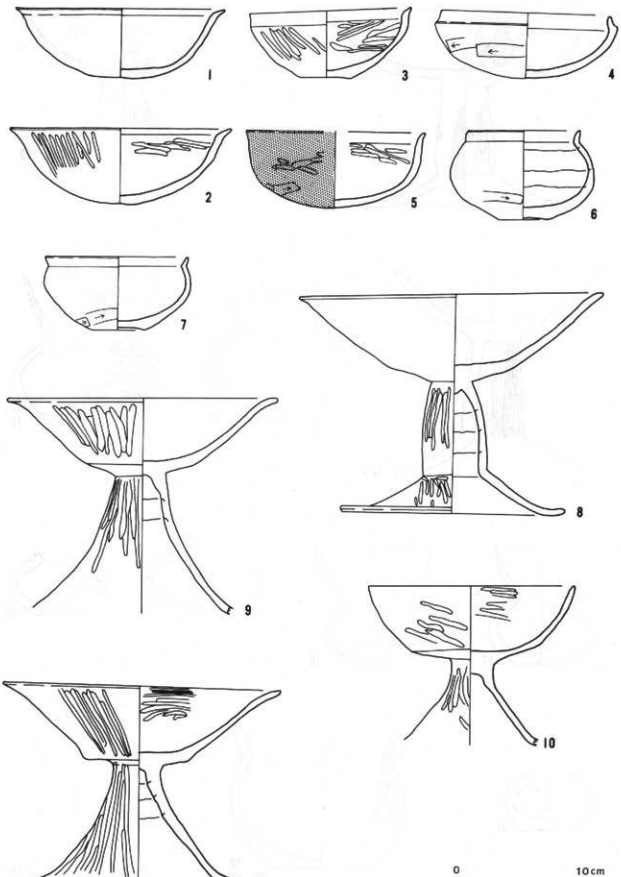
ピット　5か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$～P$_4$は径68～148cmの不整円形，深さ107～123cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_5$は径42cmの不整円形，深さ27cmで，出入り口ピットと思われる。

炉　中央から北寄りに位置し，長径90cm，短径76cmの楕円形，深さ7cmの地床炉である。炉床は熱変硬化している。

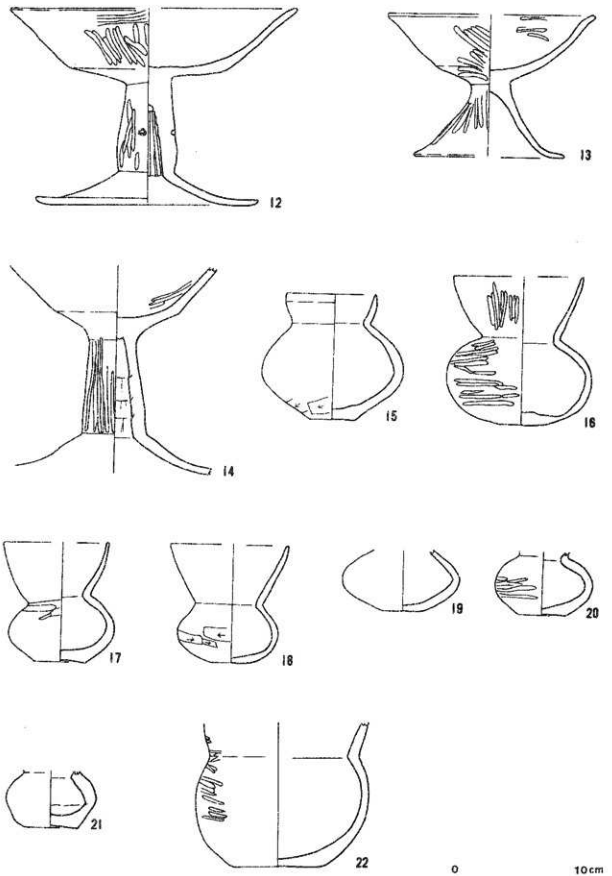
炉土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
3　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化物微量
4　黒　褐　色　焼土粒子中量，炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　鈍い褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化物微量
6　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化物少量



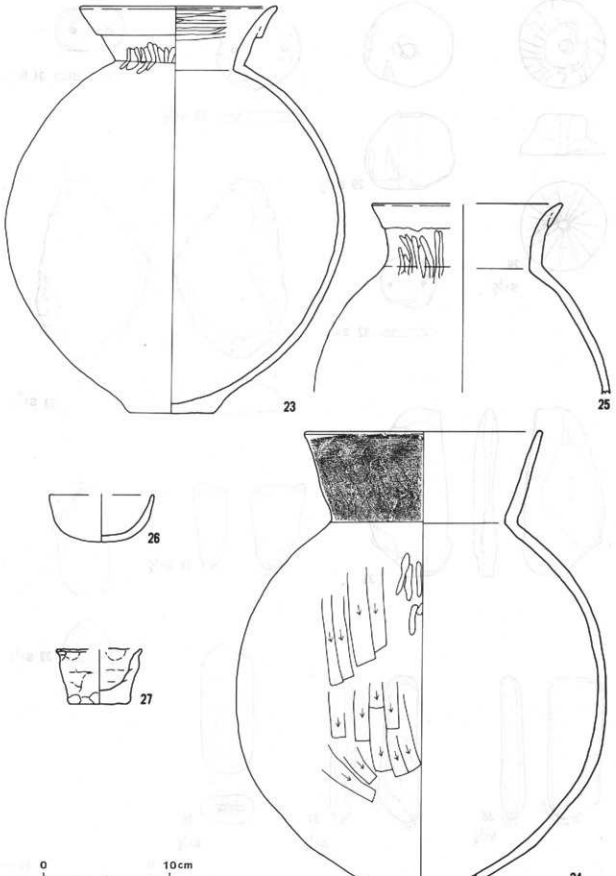
第284図　第124号住居跡実測図



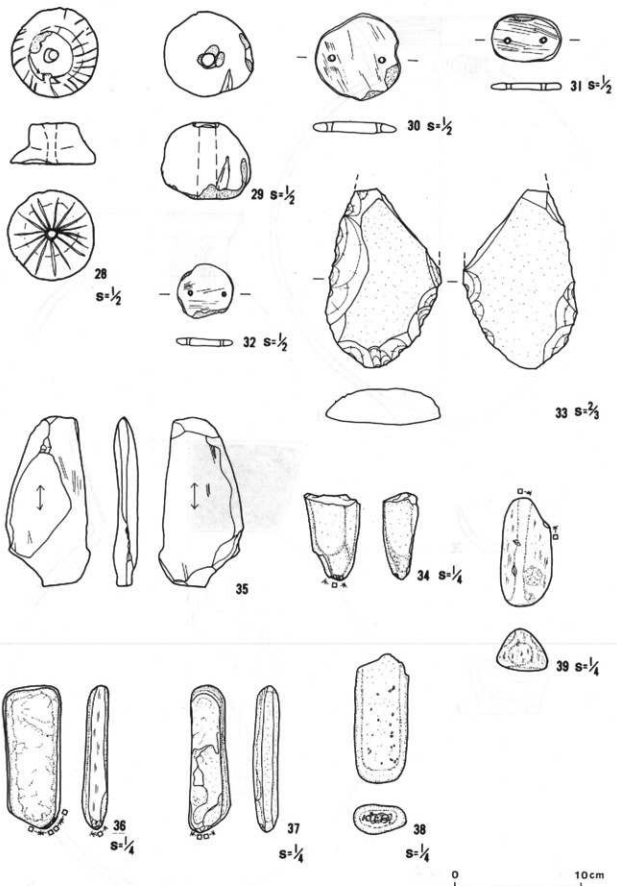
第285図　第124号住居跡出土遺物実測図(1)



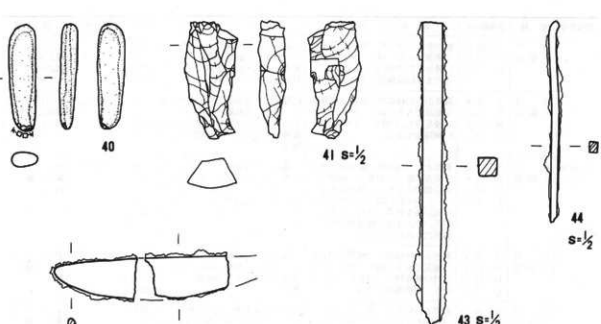
第286図　第124号住居跡出土遺物実測図(2)



第287図　第124号住居跡出土遺物実測図(3)



第288図　第124号住居跡出土遺物実測図(4)



第289図　第124号住居跡出土遺物実測図(5)

第124号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第285図 1	坏 土師器	A 16.5 B 5.5 C 4.2	丸底気味の平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。内面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。	長石・砂粒 鈍い褐色 普通	P714 100% 覆土下層 PL85
2	坏 土師器	A 17.5 B 6.0 C 3.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。内面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面刺離，外面上半ヘラ磨き，下半ナデ。	長石・スコリア・砂粒 明褐色　普通	P715 95% 床面 PL85
3	坏 土師器	A 12.6 B 5.7 C 3.8	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外傾する。内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ナデ。	長石・礫 黄橙色 普通	P716 95% 覆土下層 PL85
4	坏 土師器	A 13.3 B 5.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英・雲母・スコリア 鈍い褐色　普通	P717 70% 床面 PL85
5	坏 土師器	A [14.0] B 6.1	底部から口縁部片。平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き一部刺離，外面ヘラ削り後ナデ。外面赤彩。	石英・長石・礫 鈍い橙色 普通	P718 70% 貯蔵穴覆土中 PL85
6	椀 土師器	A 8.8 B 7.0 C 3.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上半ナデ，下半ヘラ削り。内面に輪積み痕を残す。	礫・長石・スコリア 赤褐色 普通	P719 95% 覆土中 PL85
7	椀 土師器	A 11.1 B 5.8 C 4.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英・長石・スコリア 橙色　普通	P720 70% 覆土中層 PL85
8	高坏 土師器	A 23.8 B 17.7 D 17.7 E 10.5	脚部から口縁部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり，裾部との接合部がくびれる。裾部は大きく「ハ」の字状に開き，端部は反る。坏部は下位に鈍い稜を持ち，外傾して立ち上がり，口縁端部はわずかに反る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦位のナデ。脚部内面に輪積み痕を残す，外面縦位のヘラ磨き。裾部内面横ナデ，外面放射状のヘラ磨き。	長石・スコリア・パミス 明褐色 普通	P721 80% 覆土下層 PL84
9	高坏 土師器	A 21.1 B (17.1) E (10.7)	脚部から口縁部片。脚部は円錐形で裾部で大きく開く。坏部は下位に稜を持ち，内彎して立ち上がり，口縁端部で反る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面刺離，外面上半縦位のヘラ磨き，下半横ナデ。脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	礫・石英・スコリア 橙色 普通	P722 80% 貯蔵穴覆土中 PL84

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	高坏 土師器	A 16.2 B (12.7) E (6.5)	脚部から口縁部片。脚部は円錐形で脚部で大きく開く。坏部は下位に稜を持ち、内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き一部斜痕、外面上半ヘラ磨き下半ヘラ削り。脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	石英・長石・スコリア 橙色 普通	P723 80% 覆土下層 PL84
11	高坏 土師器	A 21.8 B 15.4 D [16.5] E 9.3	脚部から口縁部片。脚部は円錐形で裾部で大きく開く。坏部は下位に稜を持ち、内彎して立ち上がり、口縁端部で尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き一部斜痕、外面上半ヘラ磨き、下半ヘラ削り。脚部内面に輪積み痕を残す、外面縦位のヘラ磨き。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P724 70% 竪穴覆土中 PL84
第286図 12	高坏 土師器	A [22.4] B 15.6 D 17.5 E 10.9	脚部から口縁部片。脚部は円筒形で下方に膨らみがあり、裾部との境目部が くびれる。底部は大きく「ハ」の字状に開く。坏部は下位に鋭い稜を持ち、外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。脚部に4孔が穿たれる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横撫、外面ヘラ磨き。脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。縦角内面横ナデ、外面放射状のヘラ磨き。	砂粒・石英・スコリア・パミス 明褐色 普通	P725 50% 覆土下層 PL85
13	高坏 土師器	A [16.4] B 11.3 D [12.6] E 8.9	脚部から口縁部片。脚部は円錐形で脚部で大きく開く。坏部は下位に鋭い稜を持ち、内彎して立ち上がり、口縁端部で反る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き一部斜痕、外面ヘラ磨き。脚部内面摩ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 黄橙色 普通	P726 50% 覆土下層 PL85
14	高坏 土師器	B (16.4) E (10.5)	脚部から坏部片。脚部は円錐状で下方がわずかに太い。脚部は大きく「ハ」の字状に開く。坏部は下方に鋭い稜を持ち、外傾して立ち上がる。	坏外部内面斜縦一部ヘラ磨き、外面ナデ。脚部内面に輪積み痕を残す、外面縦位のヘラ磨き。脚部内面ナデ、外面放射状のナデ。	砂粒・スコリア・石英 灰褐色 普通	P727 40% 覆土下層
15	坩 土師器	A 7.0 B 10.0 C 3.6	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で、口縁部は外傾して立ち上がり、端部は面立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ削り後ナデ。	長石 鈍い褐色 普通	P728 98% 覆土下層 PL85
16	坩 土師器	A [10.6] B 11.8 C 3.2	口縁部一部欠損。丸底気味の平底。体部は球形状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面横ナデ、外面縦位のヘラ磨き。体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。	砂粒 黒褐色 普通	P729 85% 未掲 PL85
17	坩 土師器	A [7.3] B 9.4 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ、外面上半ヘラ磨き、下半ヘラ削り。	雲母・長石 橙色 普通	P730 80% 覆土下層 PL85
18	壺 土師器	A [9.3] B 9.4 C 3.1	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面横ナデ、外面ナデ。体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ削り。	砂粒・長石 橙色 普通	P731 80% 覆土中層 PL85
19	壺 土師器	B (4.8) C 3.3	底部から体部片。平底。体部はつぶれた算盤玉状である。	体部内面ナデ。外面上半ナデ、下半粗いハケナデ。	長石 鈍い橙色 普通	P732 70% 底面 PL85
20	壺 土師器	B (5.0) C 3.7	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ磨き。	長石 黒褐色 普通	P733 70% 覆土中層 PL85
21	壺 土師器	B (5.5) C 4.2	底部から体部片。平底。体部は球形状である。	体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ削り後ナデ。	スコリア・砂粒 橙色 普通	P740 80% 覆土中層 PL85
22	短頸壺 土師器	B (11.5) C 7.0	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ一部ヘラ磨き、外面ヘラ磨き。	長石 明赤褐色 普通	P734 50% 覆土中層 PL86
第287図 23	壺 土師器	A 15.3 B 32.3 C 7.4	底部からは縁部片。平底。体部は球形状で、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。口縁部は複合口縁を呈する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P735 85% 覆土中層 PL86
24	甕 土師器	A 18.3 B 36.0	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面横ナデ、外面縦位のヘラナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	長石 鈍い赤褐色 普通	P736 50% 未掲 PL86
25	甕 土師器	A [14.9] B (15.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は裏ひし、端部で外傾する。口縁部は複合口縁を呈する。	口縁部内面ナデ、外面上半横ナデ、下半縦位のヘラ磨き。体部内・外面ナデ。	長石 鈍い黄橙色 普通	P737 40% 竪穴覆土中 PL86

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
26	ミニチュア土師器	A［8.2］ B 3.8	口縁部一部欠損。平底気味の丸底。体部は内湾して立ち上がり、そのままほぼ口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	砂粒 橙色 普通	P739 95% 覆土中層 PL86
27	手捏土師器	A［6.5］ B 4.4 C 4.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのままほぼ口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。体部内・外面に輪積み痕と指頭圧痕を残す。	砂粒 灰褐色 普通	P741 60% 覆土中層 PL86

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第288図28	鈴鏡	4.7	4.6	2.1	0.6～0.8	27.7	北西壁付近床面	DP101 PL116
29	土玉	4.5	4.7	4.1	0.7～1.0	74.4	北コーナー付近覆土下層	DP102

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第288図30	有孔円板	4.6	4.5	0.7	0.3	22.0	滑石	中央部覆土中層	Q138
31	有孔円板	2.6	3.7	0.4	0.2	6.7	滑石	南東壁付近覆土上層	Q139
32	有孔円板	2.9	3.0	0.4	0.2～0.3	5.4	滑石	北西壁付近覆土下層	Q140
33	不明石器	7.1	4.5	1.3	－	54.8	砂岩	覆土中	Q141打製石斧か
34	敲石	9.1	25.8	3.7	－	181.8	安山岩	覆上中	Q142 PL121
35	砥石	17.7	8.7	2.6	－	393.8	粘板岩	南コーナー付近床面	Q143 PL120
36	磨石	15.0	6.2	2.5	－	368.4	安山岩	北東壁付近覆土上層	Q144敲石兼用
37	敲石	15.3	4.3	2.6	－	256.1	安山岩	覆上中	Q145
38	敲石	13.4	5.5	3.1	－	343.6	安山岩	覆土中	Q146
39	磨石	11.2	5.2	4.4	－	94.4	安山岩	覆土中	Q147
第289図40	敲石	8.4	2.2	1.1	－	35.8	安山岩	覆上中	Q149
41	剝片	5.2	2.7	1.5	－	220.0	チャート	南コーナー覆土上層	Q150 PL121

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第289図42	刀子	(8.8)	2.5	0.4～0.6	－	(44.7)	南東壁付近覆土下層	M44 PL122
43	剣	(16.2)	1.9	1.0	－	(72.5)	南コーナー付近覆土中層	M45
44	不明鉄製品	(10.7)	0.8	0.6	－	(9.2)	南東壁付近覆土下層	M46 PL124

貯蔵穴　南コーナーに付設され、長径104cm、短径94cmの楕円形、深さは95cmで、断面形は擂鉢形である。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物　土師器片4,751点、須恵器片33点、縄文土器片5点、弥生土器片6点、灰釉陶器片1点、軽石7点が出土している。第285～289図2、4の坏、19の坩、28の紡錘車は北西壁付近床面から、1、3の土師器坏、10の高坏は同覆土下層から、32の有孔円板、20の坩は同覆土中層から、5の坏、9、11の高坏、25の甕は貯蔵穴内壁に貼り付くように、24の甕は南コーナー付近床面から、13の高坏、15の坩は同覆土下層から、26のミニチュア土器は同覆土中層から、17、18の坩、22の土師器短頸壺、23の壺は南東壁付近覆土中層から、31の有孔円板は同覆土上層から、42の刀子は同覆土下層から、7の椀、27の手捏土器は東コーナー付近覆土中層

から，29の土玉は同覆土下層から，16の坩は北コーナー付近床面から，35の砥石は西コーナー付近床面から，12，14の高坏は散在した状態で覆土下層から，21の坩，30の有孔円板は中央部覆土中層から，41の剝片は北コーナー付近覆土上層から，43の釘は同覆土中層から，6の椀，33の不明石器，34の敲石，38～42の石器類は覆土中からそれぞれ出土している。33の石器，41の剝片は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第125号住居跡（第290図）

位置　調査区の中央部，F4h$_4$区。

重複関係　本跡は，第124号住居跡の上に構築していることから，第124号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸4.42m，短軸3.38mの長方形である。

主軸方向　N－85°－E

壁　壁高は10～13cmで，外傾して立ち上がる。

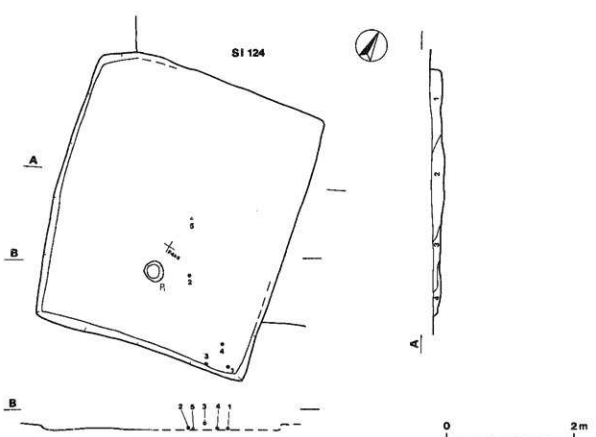
床　平坦である。

ピット　P$_1$は径28cmの不整円形，深さ16cmで，性格は不明である。

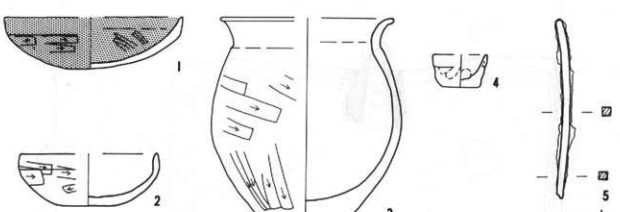
覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量



第290図　第125号住居跡実測図



第291図　第125号住居跡出土遺物実測図

第125号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第291図 1	坏 土師器	A [13.9] B 4.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	パミス・スコリア 黒褐色 普通	P742 覆土下層 PL86 50%
2	坏 土師器	A [10.6] B 4.1 C 3.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	礫 褐色 普通	P743 覆土下層 50%
3	小形甕 土師器	A [13.1] B 15.8 C 7.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反し，端部で肥厚する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	雲母 橙色 普通	P745 覆土下層 PL86 50%
4	手捏土器 土師器	A [4.2] B 2.6 C 3.2	底部から口縁部片。平底。体部は突出した底部から直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。体部内・外面に指頭圧痕を残す。	礫・長石 暗赤褐色 普通	P746 覆土上層 70%

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第291図5	釘	(9.5)	0.8	0.4～0.5	－	(9.6)	中央部覆土下層	M47 PL124

遺物　土師器片303点，須恵器片９点，弥生土器片１点が出土している。第291図１の土師器坏，３の小形甕は南東コーナー付近覆土下層から，４の手捏土器は同覆土上層から，２の坏，５の釘は中央部覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，出土遺物から見て竈の存在が想定できるが確認できなかったため，住居以外の使用の可能性も考えられる。本跡の時期は，第124号住居跡との重複関係と出土遺物から古墳時代後期（６世紀）と思われる。

第126号住居跡（第292図）

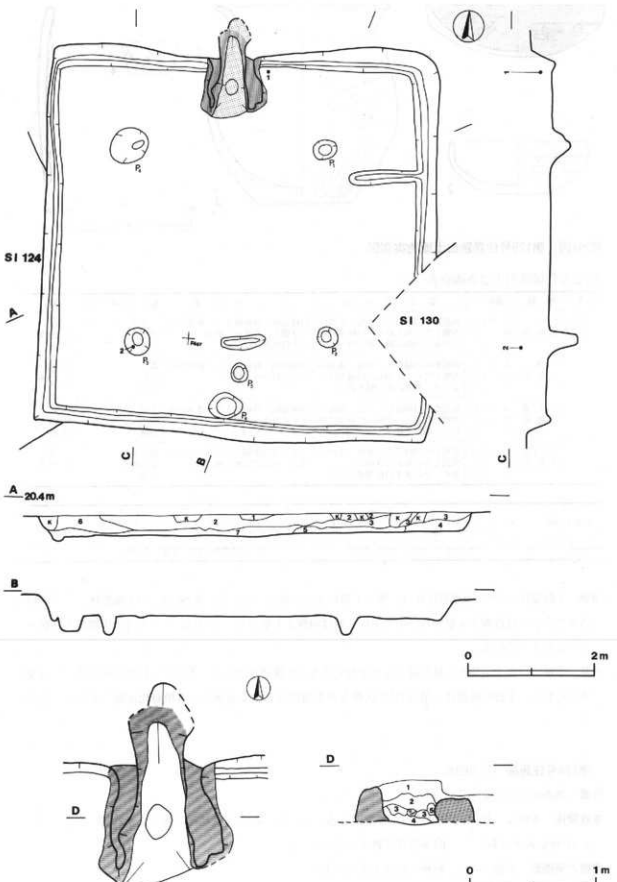
位置　調査区の中央部，F4f₇区。

重複関係　本跡は，第124号住居跡の東部を掘り込んでおり，第130号住居跡に掘り込まれていることから，第124号住居跡より新しく，第130号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.72m，短軸6.27mの方形である。

主軸方向　N－4°－W

壁　壁高は34～42cmで，外傾して立ち上がる。



第292図　第126号住居跡実測図

壁溝　全周する。上幅約16cm，下幅約７cm，深さ約８cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。東壁から中央に向かって１条の溝が延びている。上幅約21cm，下幅約９cm，深さ約12cm，長さ115cmで，断面形はU字形である。

ピット　６か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は径33～54cmの不整円形，深さ30～54cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5，P_6は径28～44cmの不整楕円形，深さ25～31cmで，出入り口ピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設され，山砂混じりの白色粘土で構築されており，芯材は使用していないが，遺存状態が良く，両袖部が残っている。火床部は皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ134cm程突出し，ゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム大ブロック微量
2　暗　褐　色　焼土小ブロック中量，ローム中・小ブロック少量，焼土大ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
3　黒　褐　色　焼土大・中・小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
4　黒　褐　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック中量，焼土大ブロック微量
5　褐　　色　焼土大・中・小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量

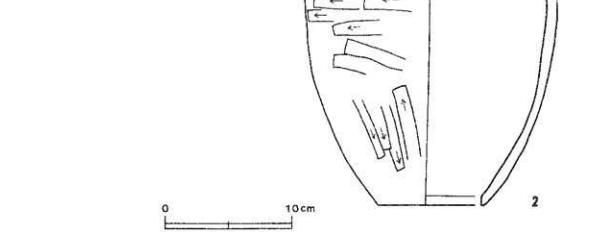
覆土　７層からなる自然堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
2　黒　褐　色　ローム中・小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，炭化粒子少量
4　明　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子少量・ローム大ブロック微量
5　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
6　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
7　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

遺物　土師器片504点，須恵器片８点，軽石８点が出土している。第293図１の土師器坏は竈横覆土下層から，２の甕は南西コーナー付近覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半）と思われる。



第293図　第126号住居跡出土遺物実測図

第126号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第293図 1	坏 土師器	A [14.8] B 5.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	スコリア 黒褐色 普通	P747 40% 覆土下層
2	甕 土師器	A 23.6 B 21.9 C 8.4	底部から口縁部片。無底式。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ，外面ヘラ削り。体部内面磨き，外面上半横位のヘラ削り，下半縦位のヘラ削り。	スコリア・長石 明赤褐色 普通	P748 90% 覆土上層 PL86

第127号住居跡（第294図）

位置　調査区の中央部，F4i₅区。

重複関係　本跡は，第128・129号住居跡の上に構築していることから，第128・129号住居跡より新しい。

規模と平面形　遺存する壁がなく，床も硬化面のみの確認のため，規模及び平面形は不明であるが，竈が東壁中央にあったとすれば，長軸3.3m，短軸2.85mの長方形と思われる。

主軸方向　N－75°－E

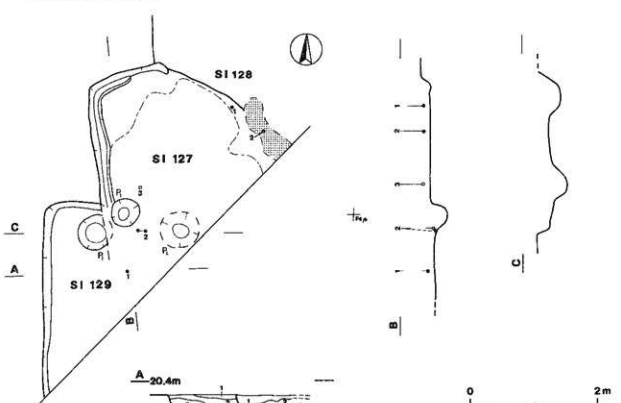
壁　壁高は15cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁から西壁にかけて壁下に壁溝が巡っている。上幅約14cm，下幅約8cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　P₁は径42cmの不整円形，深さ24cmで，配置や規模から出入り口ピットと思われる。

竈　東壁中央部に付設されていた可能性があるが，竈付近がエリア外に延びており，焼土と灰が散在するのみのため確定はできない。



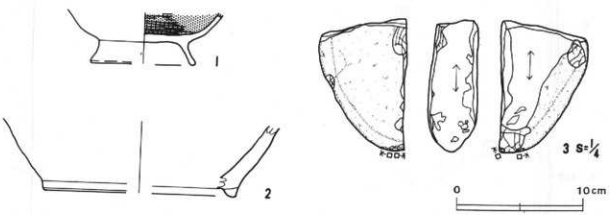
第294図　第127・129号住居跡実測図

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黄褐色　焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片419点，須恵器片12点，軽石１点が出土している。第295図１の土師器高台付坏，２の須恵器長頸瓶は東壁付近覆土下層から，３の砥石は中央部覆土下層からそれぞれ出土している。２の須恵器長頸瓶は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。



第295図　第127号住居跡出土遺物実測図

第127号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第295図 1	高台付坏 土師器	B（4.2） D［8.0］ E 1.8	高台部から体部片。[ハ]の字状に開く高台が付く。体部は内湾して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整後高台貼り付け。内面黒色処理。	スコリア・礫 橙色 普通	P749　30% 覆土下層 PL86
2	長頸瓶 須恵器	B（5.8） D［15.2］ E 0.7	高台部から体部片。[ハ]の字状に開く短い高台が付く。体部は内湾して立ち上がる。	体部内面ロクロナデ，外面ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	P750　5% 覆土下層 PL86

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第295図 3	砥石	13.7	9.0	5.0	－	848.4	砂岩	中央部覆土下層	Q152敲石兼用　PL120

第128号住居跡（第296図）

位置　調査区の中央部，F4h$_3$区。

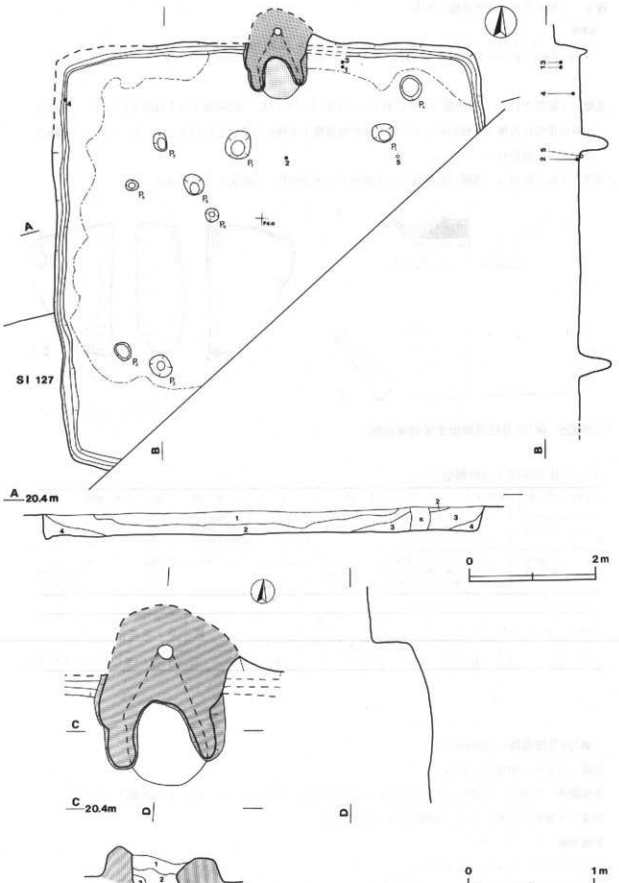
重複関係　本跡は，南部を第127号住居跡に掘り込まれていることから，第127号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸7.29m，短軸6.80mの方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は32～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下にはすべて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約10cm，下幅約４cm，深さ約７cmで，断面形は逆台形である。



第296図　第128号住居跡実測図

床　平坦で，壁下を除いて大部分が踏み固められている。

ピット　9か所（P_1～P_9）。P_1～P_3は径24～33cmの不整円形，深さ34～52cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_4～P_9は径20～41cmの不整楕円形で，性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設され，砂粒混じりの白色粘土で構築されており，天井部，煙道部及び袖部等が残っている。火床部は皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ25cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

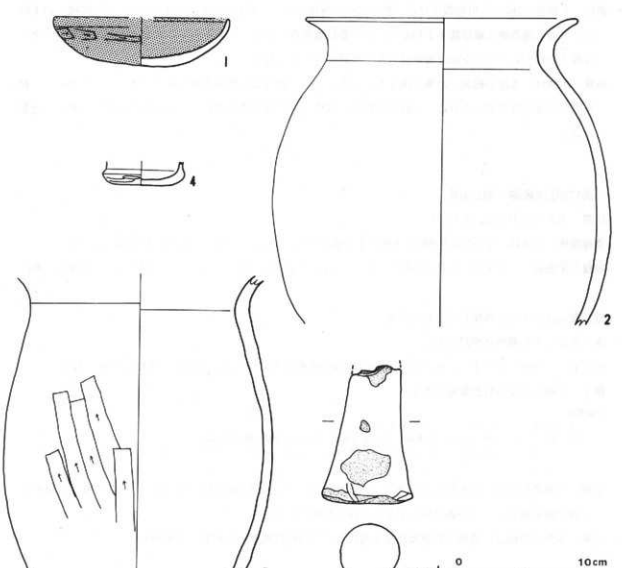
竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・ローム粒子少量
2　褐　　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
3　黒　褐　色　炭化粒子・ローム大・中・小ブロック・粘土大ブロック少量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子中量，焼土中ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム中・小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量
4　黒　　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量



第297図　第128号住居跡出土遺物実測図

第128号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第297図1	坏 土師器	A [13.8] B 3.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は底立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り，内・外面黒色処理。	スコリア 黒褐色 普通	P751 50% 覆土下層 PL87
2	坏 土師器	A 21.2 B (24.2)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ナデ→部ヘラ削り。	長石・雲母・赤粒 鈍い黄褐色 普通	P752 50% 覆土下層 PL86
3	甕 土師器	B (24.1)	体部から口縁部片。体部は内型気味に直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面横位のヘラ削り。	雲母・長石 明褐色 普通	P753 50% 覆土下層 PL86
4	ミニチュア土器 土師器	B (2.0) C 5.0	底部から体部片。丸底気味の平底。体部は内湾して立ち上がり，体部下位に突出した稜を持つ。	体部内面ナデ，外面ナデ→部ヘラ磨き。	スコリア・長石 鈍い褐色 普通	P754 70% 覆土中層 底部外面へラ記号あり PL86

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第297図5	支脚	(14.3)	9.4	6.1	-	(840.5)	底面付近覆土下層	DP103 PL117

遺物　土師器片187点，須恵器片12点，鉄滓15点，椀状滓1点，軽石5点が出土している。第297図1の土師器坏，3の土師器甕は竈横覆土下層から，2の甕は竈前覆土下層から，4のミニチュア土器は北西コーナー付近覆土中層から，5の支脚は竈煙道付近覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，鉄滓や椀状滓が多く出土しいるが，羽口や鍛造剥片等の遺物が確認できないことから，一括投棄された可能性が考えられる。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀）と思われる。

第129号住居跡（第294図）

位置　調査区の中央部，P4i区。

重複関係　本跡は，第127号住居跡に本跡の土に構築されていることから，第127号住居跡より古い。

規模と平面形　エリア外に大部分が延びており，遺存する壁が一部しかないため，規模及び平面形は不明である。

壁　壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

床　確認できた範囲は平坦である。

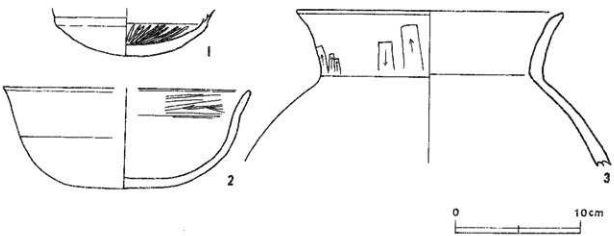
ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1・P_2は径52～57cmの不整円形，深さ18～26cmで，性格は不明である。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層断面
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化ローム・ローム大ブロック少量

遺物　土師器片246点，須恵器片8点，軽石2点が出土している。第298図1の土師器坏は中央部覆土下層から，2の椀は同床面から，3の甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀）と思われる。



第298図　第129号住居跡出土遺物実測図

第129号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第298図 1	坏 土師器	B (3.8)	底部から体部片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。	砂粒 明赤褐色 普通	P755 70% 覆土下層 PL86
2	椀 上師器	A (19.4 B 8.0 C 7.1	底部から口縁部片。丸底気味の平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・スコリア・石英 鈍い黄橙色 普通	P756 60% 床面 PL86
3	甕 上師器	A 21.0 B 12.0	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ，外面横ナデ→部ヘラ削り。体部内・外面ナデ。	雲母・パミス・長石 灰黄褐色 普通	P757 10% 覆土中

第130号住居跡（第299図）

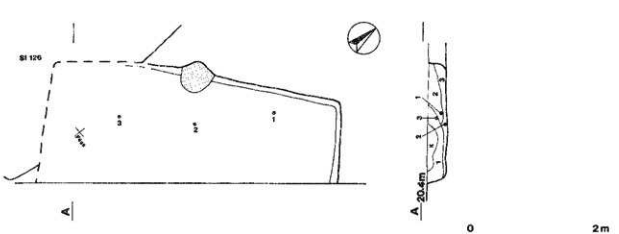
位置　調査区の中央部，F4f区。

重複関係　本跡は，第126号住居跡の南部を掘り込んでいることから，第126号住居跡より新しい。

規模と平面形　遺存する北西壁から推定すると，長軸4.70mの長方形あるいは方形と思われる。

主軸方向　N－45°－W

床　凹凸があり，全体的に軟らかである。



第299図　第130号住居跡実測図

竈　北西壁中央部に付設され，砂粒まじりの橙色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は残っていない。火床部はわずかに皿状に掘り窪められ，焼土が確認できる。

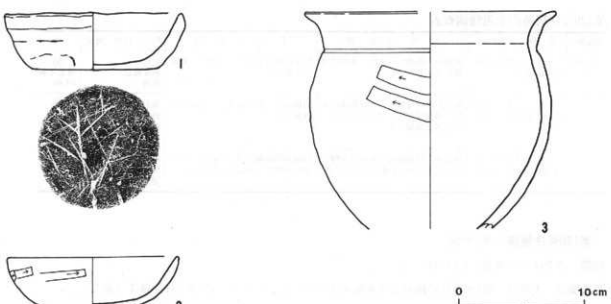
覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　焼土粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量
3　極暗褐色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片324点，須恵器片5点が出土している。第300図1の土師器坏は北コーナー付近覆土下層から，2の坏は北西壁付近床面から，3の甕は同覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物，第126号住居跡との重複関係から古墳時代後期（6世紀後半～7世紀）と思われる。



第300図　第130号住居跡出土遺物実測図

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第300図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.5 C 9.4	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ一部輪積み痕を残す。	スコリア 褐色 普通	P758　95% 覆土下層　PL86 底部に木葉痕あり
2	坏 土師器	A 13.4 B 4.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石 橙色 普通	P759　60% 床面 PL86
3	甕 土師器	A [19.8] B 17.4	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	砂粒・スコリア 黒褐色 普通	P760　50% 覆土下層 PL87

第131号住居跡（第301図）

位置　調査区の中央部，E4d$_2$区。

重複関係　本跡は，第5号井戸に掘り込まれていることから，第5号井戸より古い。

規模と平面形　大部分がエリア外に延びているため，遺存する南壁から推定すると，一辺5.13mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は39～46cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

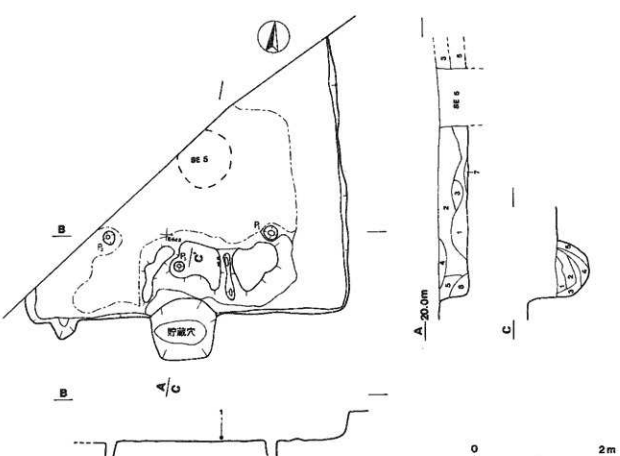
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1・P_2は径21～23cmの不整円形，深さ38～47cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_3は径17cmの不整円形，深さ12cmで，出入り口ピットと思われる。

貯蔵穴　南壁中央部に70cm程壁外へ張り出して付設されている。長軸98cm，短軸95cmの不整方形，深さは52cm，断面形はU字形である。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量
3　黒　　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
4　黒　　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
5　黒　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量



第301図　第131号住居跡実測図

覆土　7層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
2　黒　　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
3　黒　　色　ローム大ブロック・ローム粒子中量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量
5　黒　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
6　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック少量
7　黒　　色　ローム小ブロック少量

遺物　土師器片457点，須恵器片5点，弥生土器片1点，軽石1点が出土している。第302図1の土師器坏は南壁付近覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀）と思われる。

第302図　第131号住居跡出土遺物実測図

第131号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第302図1	坏 土師器	A［13.4］ B（3.5）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内面ヘラ磨き，外面ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。	礫・スコリア 褐色 普通	P761　25% 覆土下層 PL87

第132－A号住居跡（第303・304図）

位置　調査区の中央部，E4d$_3$区。

重複関係　本跡は，第132－B号住居跡と第133号住居跡が本跡の上に床をそれぞれ構築していることから，2軒よりも古い。

規模と平面形　長軸7.35m，短軸6.85mの方形である。

主軸方向　N－51°－W

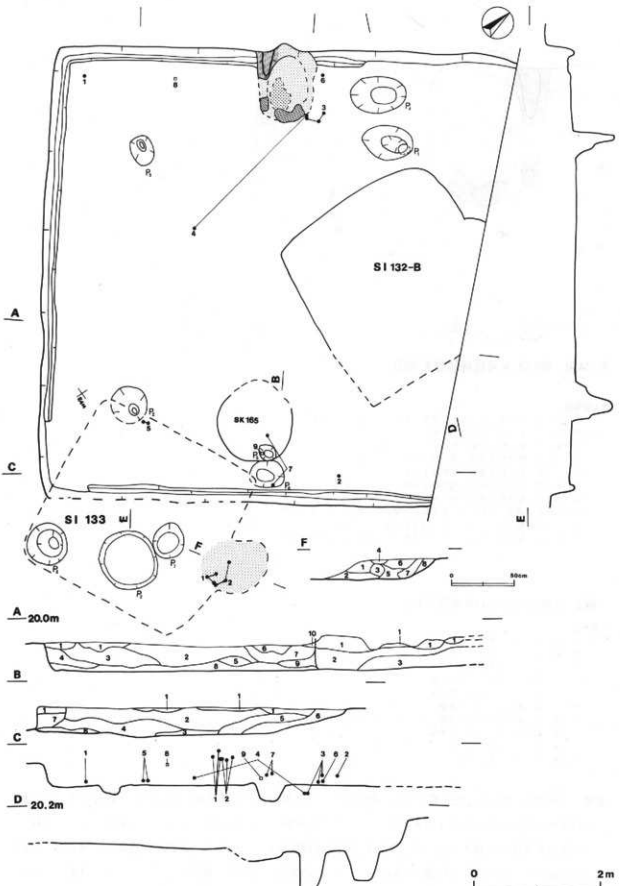
壁　壁高は37～47cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には北西壁を除いて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約9cm，下幅約5cm，深さ約11cmで，断面形はU字形である。

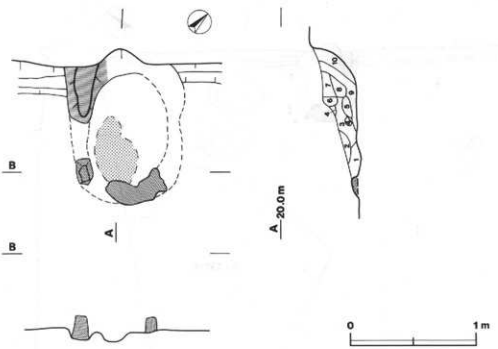
床　平坦で，南東部を中心に踏み固められている。

ピット　6か所（P$_1$～P$_6$）。P$_1$～P$_3$は径45～79cmの不整楕円形，深さ63～71cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_4$は径92cmの不整円形，深さ44cmで，性格は不明である。P$_5$は径25cmの不整円形，深さ18cm，P$_6$は長径52cm，短径46cmの不整楕円形，深さ28cmで，位置と形状から出入り口ピットの可能性がある。

竈　北西壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されている。袖部は一部しか残っておらず，先端に凝灰岩の切石が6～10cm床に埋め込まれた状態で確認できた。火床部は皿状にわずかに掘り窪められている。煙道部は壁外へ20cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。



第303図　第132-A・133号号住居跡出土遺物実測図



第304図　第132-A号住居跡竈実測図

竈土層解説

1　明　褐　色　焼土大・中ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック少量
3　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　暗灰黄色　粘土粒子多量，焼土粒子中量
5　褐　　色　粘土粒子多量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
7　暗　褐　色　粘土粒子多量，焼土小ブロック微量
8　暗灰黄色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，粘土粒子・炭化粒子少量
9　褐　　色　焼土中・小ブロック・焼土粒子多量，焼土大ブロック中量，炭化粒子少量
10　黄　褐　色　焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子少量

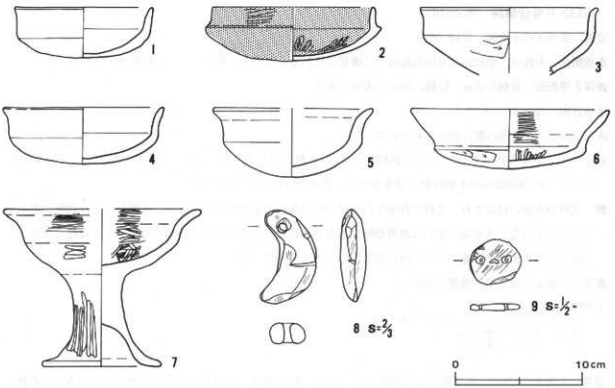
覆土　10層からなる自然堆積である。

土層解説

1　灰　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック中量
3　黒　　色　ローム粒子中量
4　黒　　色　ローム小ブロック中量
5　黒　　色　ローム小ブロック中量
6　黒　　色　粘土大ブロック多量
7　黒　褐　色　粘土大ブロック多量，ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ローム小ブロック多量
9　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
10　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物　土師器片1,229点，須恵器片25点，陶器皿1点，体部外面に不明墨書の見られる土師器坏片1点，裾部に刷毛痕の見られる高坏片1点が出土している。第305図1の土師器坏は東コーナー床面から，2の坏，7の高坏は南東壁付近覆土下層から，9の有孔円板は同床面から，3の坏は北西壁付近覆土下層から，6の坏は同床面から，8の勾玉は同覆土上層から，4の坏は散在した状態で覆土下層から，5の坏は南コーナー付近床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



第305図　第132－A号住居跡出土遺物実測図

第132－A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第305図 1	坏 土師器	A 10.8 B 4.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鋭い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ナデ。	スコリア・パミス 褐灰色 普通	P762 100% 床面 PL87
2	坏 土師器	A 12.8 B 4.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内面横ナデ，外面ヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	長石 黒褐色 普通	P763 85% 覆土下層 PL87
3	坏 土師器	A 14.0 B (5.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面斜暉，外面粗いナデ→部へラ削り。	長石・石英・長石 鈍い褐色 普通	P764 60% 覆土下層 PL87
4	坏 土師器	A 12.6 B 4.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	礫・長石 明赤褐色 普通	P765 60% 覆土下層 PL87
5	坏 土師器	A [12.4] B 5.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア 黒褐色 普通	P766 40% 床面
6	坏 土師器	A 15.6 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・スコリア 橙色 普通	P994 95% 床面 PL87
7	高坏 土師器	A [15.6] B 12.5 D 9.2 E 7.3	脚部から口縁部片。脚部は円筒状で，下位で大きく「ハ」の字状に開く。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き	石英・パミス・長石 明赤褐色 普通	P767 60% 覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第305図 8	勾玉	3.7	1.5	0.9	0.2	8.7	滑石	北西壁付近覆土上層	Q153
9	有孔円板	4.3	4.4	1.6	0.7	35.6	滑石	南東壁付近床面	Q154

第132-B号住居跡（第306図）

位置　調査区の中央部，E4d$_4$区。

重複関係　本跡は，第132-B号住居跡の上に構築していることから，第132-B号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸3.15m，短軸3.07mの方形である。

主軸方向　N－4°－E

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1・P_2は径32～34cmの不整円形，深さ21～64cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_3は径32cmの不整円形，深さ32cmで，出入り口ピットと思われる。

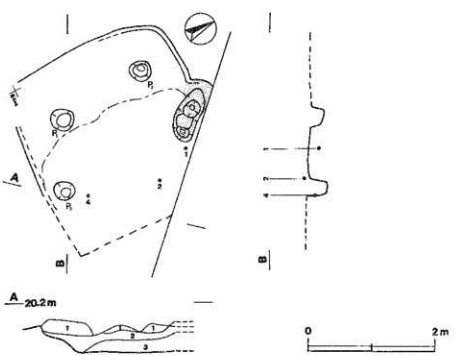
竈　北壁中央部に付設され，芯材に使用したと思われる凝灰岩が散在していたが，範囲等は遺存状態が悪く確認できなかった。火床部下部には竈構築時に掘り込まれたと思われる深さ20cm程のピットが確認できた。煙道部の立ち上がり等は竈がエリア外に延びているため不明である。

覆土　3層からなる自然堆積である。

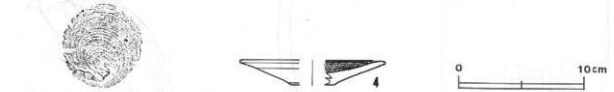
土層解説
1　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　黒　　色　ローム粒子中量

遺物　土師器片127点，須恵器片9点が出土している。第307図1の土師器坏は中央部覆土中層から正位の状態で，2の坏は同覆土上層から，4の土師器甑は南壁付近覆土上層から，3の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。3の坏は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。



第306図　第132-B号住居跡実測図



第307図　第132－B号住居跡出土遺物実測図

第132－B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第307図 1	坏 土師器	A 14.3 B 4.5 C 6.5	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒 黒褐色 普通	P768 覆土中層 80%
2	坏 土師器	A [14.0] B 4.2 C [7.2]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	長石 赤褐色 普通	P769 覆土上層 30%
3	坏 須恵器	A 13.6 B 4.6 C 9.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部周縁ナデ。底部ナデ調整。	長石・針状鉱物 灰黄褐色 普通	P770 覆土中 70%
4	甕 土師器	A [11.4] B 2.0 C [3.7]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒 褐色 普通	P771 覆土上層 20%

第133号住居跡（第303図）

位置　調査区の中央部，E4f$_4$区。

重複関係　本跡は，第132号住居跡の上に構築していることから，第132号住居跡より新しい。

規模と平面形　遺存する南コーナー部と北東壁にある竈から推定すると，一辺2.80mの方形と思われる。

主軸方向　N－62°－E

床　平坦で，特に踏み固めた部分は見られない。

ピット　3か所（P$_1$～P$_3$）。P$_1$～P$_3$は径42～92cmの不整円形，深さ14～17cmで，性格は不明である。

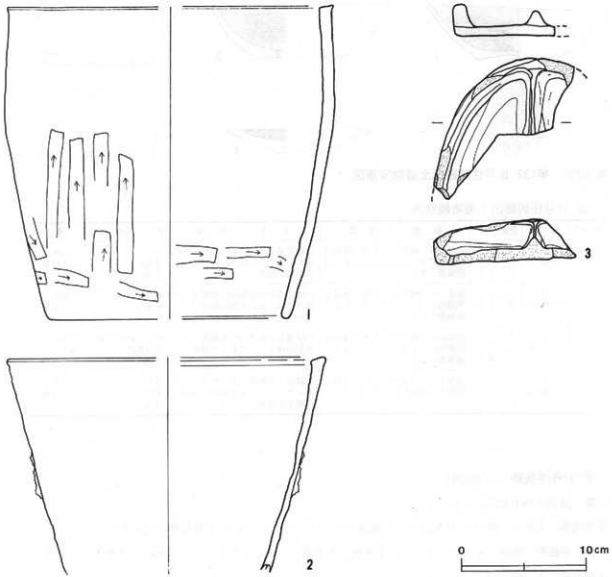
竈　北東壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部等は残っていない。火床部の掘り込みは見られない。煙道部は壁外へ68cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　色　焼土大・中・小ブロック・ローム中・小ブロック中量，粘土大ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒 褐 色　焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
3　赤 褐 色　焼土大ブロック多量，炭化粒子中量，粘土粒子少量
4　黒　色　焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子・粘土大・小ブロック少量
6　黄い褐色　焼土中ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
7　灰 褐 色　焼土小ブロック・粘土粒子中量，焼土大ブロック少量
8　褐　色　焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片140点，須恵器片16点が出土している。第308図1，2の土師器甑は竈内覆土中から，3の須恵器風字硯は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀頃）と思われる。



第308図　第133号住居跡出土遺物実測図

第133号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第308図 1	甕 須恵器	A [25.8] B 24.8 C 19.0	底部から口縁部片。無底式。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半ナデ，下半孔周囲へラ削り，外面上半ナデ，下半縦位のヘラ削り。	礫・石英 灰黄褐色 普通	P772　20% 覆覆土中
2	甕 須恵器	A [25.2] B 17.1	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部は肥厚する。体部中位に把手を有する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	雲母 褐灰色 普通	P773　20% 覆覆土中
3	鳳字硯 須恵器	A (11.2) B 3.0	硯首部片。硯部周囲に縁，中央に突帯がある。陸部周囲に低い内堤が巡る。	硯面陸部磨き，内堤ナデ。縁内面ナデ，外面ヘラ削り。突帯上面ナデ。	長石・礫・針状鉱物 褐灰色 普通	P774　25% 覆土中 PL87

第134号住居跡（第309図）

位置　調査区の中央部，E4f$_4$区。

重複関係　本跡は，第135号住居跡の上に構築していることから，第135号住居跡より新しい。

規模と平面形　東半分がエリア外に延びているため，遺存する南西壁で推定すると，一辺5.71mの方形あるいは長方形と思われる。

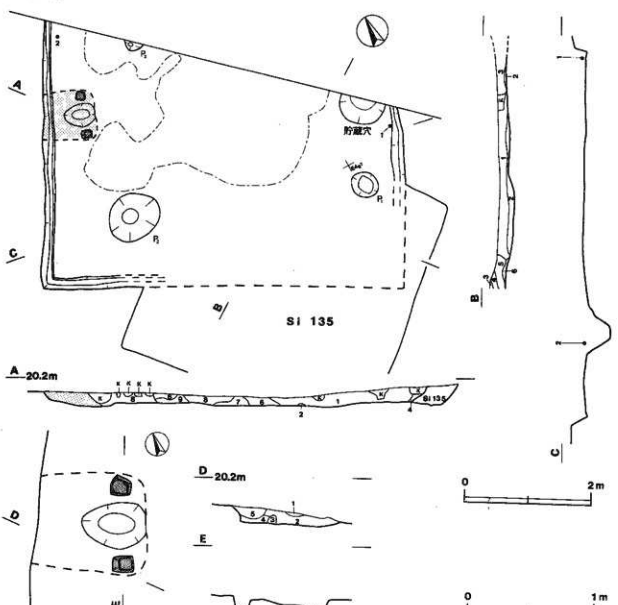
主軸方向　N－59°－W

壁　壁高は14～22cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，南西壁を除いて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約8cm，下幅約4cm，深さ約3cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1～P_3は，径45～76cmの不整円形，深さ約36cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。



第309図　第134号住居跡実測図

竈　北西壁中央部に付設されている。砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部の先端に凝灰岩の切石が，床面から10cm程掘り込んで埋め込まれているのみである。火床部は皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量
2　黄　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
3　黄　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒　　色　炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
5　暗　褐　色　焼土大・中ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子中量

貯蔵穴　南東隅際中央部に付設され，深さは49cmであるが，半分がエリア外のため，全体の形状は不明である。

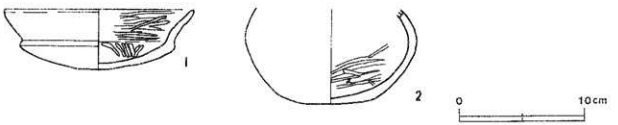
覆土　9層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック少量
4　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
6　黒　褐　色　炭化粒子・ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
7　黒　褐　色　ローム中・ローム粒子・粘土小ブロック少量
8　暗　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
9　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片100点が出土している。第310図1の土師器坏は南東壁付近覆土下層から，2の椀は北西壁付近床面から正位の状態でそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀）と思われる。



第310図　第134号住居跡出土遺物実測図

第134号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第310図 1	坏 土師器	A 14.8 B 4.8	丸底，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は，内彎気味に外傾し，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石 黒褐色 普通	P775　98% 覆土下層 PL87
2	椀 土師器	B（7.5） C 5.0	底部から体部片，平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	スコリア 黒褐色 普通	P776　85% 床面　PL88 体部外面煤付着

第135 A号住居跡（第311図）

位置　調査区の中央部，K4g₁区。

重複関係　本跡は，第134号住居跡と第136号住居跡が本跡の床の上に構築していることから，第134号住居跡と第136号住居跡よりも古い。また，本跡は第135-B号住居跡の上に床を作り直していることから，第135-B号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸3.96mの方形である。

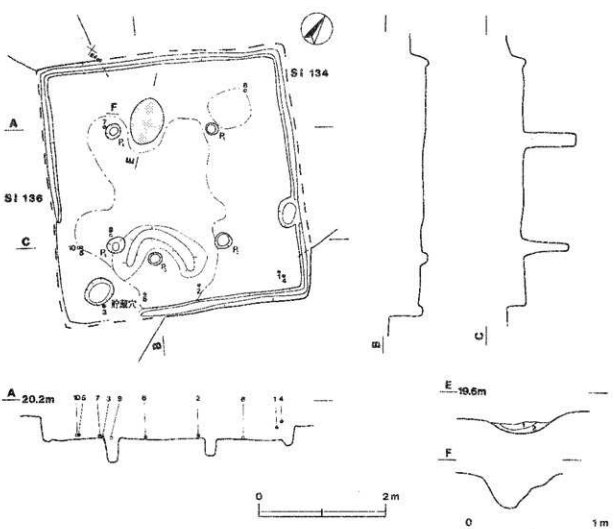
主軸方向　N－39°－W

壁　壁高は28～54cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，南コーナー付近を除いて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約14cm，下幅約6cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，入り口部から中央部にかけて踏み固められている。入り口部ピットの周囲に幅45cm，高さ5cmで，半円状の高まりが見られる。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径19～26cmの不整円形，深さ28～84cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径21cmの不整円形，深さ10cmで，出入り口ピットと思われる。



第311図　第135-A号住居跡実測図

炉　中央から北西よりに位置し，長径60cm，短径42cmの楕円形で，床面を掘り窪めた地床炉である。

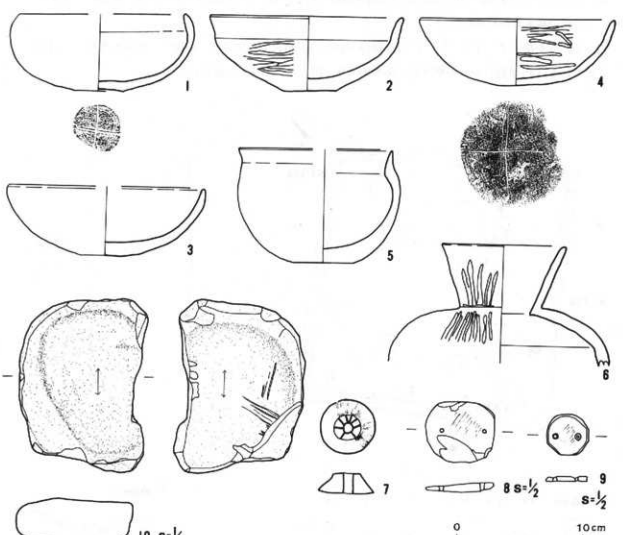
炉土層解説

1　赤　褐　色　焼土大・中・小ブロック多量
2　褐　　色　焼土大・中・小ブロック多量，炭化粒子少量

貯蔵穴　南コーナーに付設され，長径48cm，短径39cmの楕円形で，深さは36cm，断面形は逆台形である。

遺物　土師器片738点，須恵器片15点，軽石７点が出土している。第312図１，４の土師器坏は東コーナー覆土中層から，２の坏は南東壁付近覆土下層から，３の坏，５の椀は南コーナー付近床面から，10の砥石は同覆土下層から，９の有孔円板は同床面から，６の坩は中央部覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第135-B号住居跡の上に床を作り直して構築されている。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀後半）と思われる。



第312図　第135-A号住居跡出土遺物実測図

第135-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第312図 1	坏 土師器	A 13.1 B 6.3 C 3.9	口縁部一部欠損。上げ底気味の平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	砂粒・石英・礫 明赤褐色 普通	P777 90% 覆土中層 PL87 底部ヘラ記号あり
2	坏 土師器	A 15.0 B 5.9 C 4.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。体部との境に鋭い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア 橙色 普通	P778 90% 覆土下層 PL87
3	坏 土師器	A [15.3] B 5.5 C 3.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・砂粒 黒褐色 普通	P779 80% PL 床面 PL87
4	坏 土師器	A 15.3 B 5.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。	長石 赤褐色 普通	P780 70% PL 覆土中層 PL87 底部ヘラ記号あり
5	椀 土師器	A [12.0] B 9.0 C 4.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。体部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英 赤褐色 普通	P782 50% 床面 PL87
6	埦 土師器	A 9.7 B (9.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面横ナデ後ヘラ磨き。体部内面ナデ，外面放射状のヘラ磨き。	長石・スコリア 暗褐色 普通	P783 50% 覆土下層 PL87

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第312図 7	紡錘車	4.3	4.4	1.6	0.7	35.6	滑石	北コーナー床面	Q155 PL121
8	有孔円板	3.2	3.7	0.5	0.2	6.8	滑石	北西壁付近床面	Q156
9	有孔円板	2.3	2.3	0.3	0.1	2.8	滑石	南西壁付近床面	Q157
10	砥石	18.1	13.2	6.0	−	1713.6	砂岩	南コーナー床土下層	Q177

第135-B号住居跡（第313図）

位置　調査区の中央部，E4g$_6$区。

重複関係　本跡は，第134号住居跡と第136号住居跡が本跡の床の上に構築していることから，第134号住居跡と第136号住居跡よりも古い。また，本跡は第135-A号住居跡の下に床があることから，第135-A号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸3.96mの方形である。

主軸方向　N－39°－W

壁　壁高は28～54cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央部周辺が踏み固められている。平坦で，入り口部から中央部にかけて踏み固められている。

ピット　P$_1$は，径26cmの不整円形で，配置や規模から主柱穴と思われる。

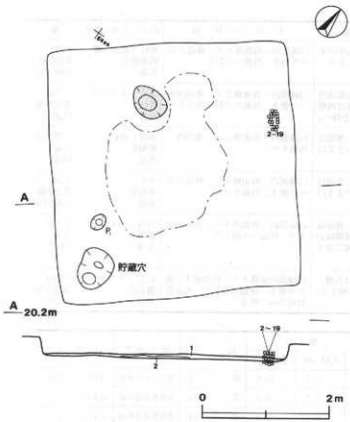
炉　中央から北西よりに位置し，長径58cm，短径42cmの楕円形で，床面をわずかに掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

貯蔵穴　南コーナーに付設され，長径65cm，短径52cmの楕円形で，深さは33cm，断面形は擂り鉢形である。

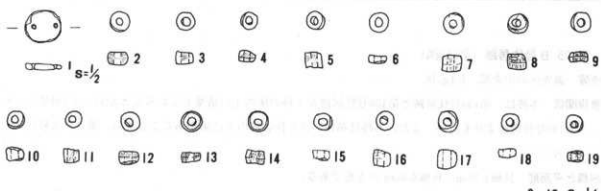
覆土　2層からなる人為堆積である。

土層解説

1　褐　色　ローム大・中ブロック中量
2　黒　色　ローム粒子少量



第313図　第135-B号住居跡実測図



第314図　第135-B号住居跡出土遺物実測図

第135-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第314図1	有孔円板	1.7	1.9	0.4	0.1~0.2	1.8	滑石	覆土中	Q158
2	臼玉	0.5	0.5	0.3	0.15	0.2	滑石	覆土中	Q159
3	臼玉	0.5	0.5	0.35	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q160
4	臼玉	0.4	0.45	0.3	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q161
5	臼玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q162
6	臼玉	0.55	0.5	0.2	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q163
7	臼玉	0.5	0.5	0.4	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q164
8	臼玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q165
9	臼玉	0.5	0.5	0.25	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q166

掲載番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
10	臼玉	0.45	0.45	0.35	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q167
11	臼玉	0.45	0.4	0.3	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q168
12	臼玉	0.5	0.5	0.3	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q169
13	臼玉	0.35	0.5	0.25	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q170
14	臼玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.2	滑石	覆土中	Q171
15	臼玉	0.5	0.45	0.25	0.15	0.1	滑石	覆土中	Q172
16	臼玉	0.5	0.5	0.4	0.15	0.2	滑石	覆土中	Q173
17	臼玉	0.5	0.5	0.5	0.2	0.2	滑石	覆土中	Q174
18	臼玉	0.5	0.5	0.5	0.2	0.2	滑石	覆土中	Q175
19	臼玉	0.4	0.45	0.25	0.2	0.1	滑石	覆土中	Q176

遺物　第314図1の有孔円板は南東壁付近床面から，2～19の臼玉は北東壁付近覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第135-A号住居跡によって床を作り直されているが，その時期差は遺物が少ないため不明である。本跡の時期は，第135-A号住居跡よりも古いと考えられるので，古墳時代中期(5世紀後半)と思われる。

第136-A号住居跡（第315図）

位置　調査区の中央部，E4h_5区。

重複関係　本跡は，第135号住居跡の床の上に構築しており，第134号住居跡に北東部を掘り込まれていることから，第135号住居跡より新しく，第134号住居跡より古い。また，遺構の形態により拡張が行われたと考えられ，本跡は拡張後のもので，第136-B号住居跡の床の上に構築しているところから，第136-B号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸9.66m，短軸8.23mの長方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は11cmで，外傾して立ち上がる。

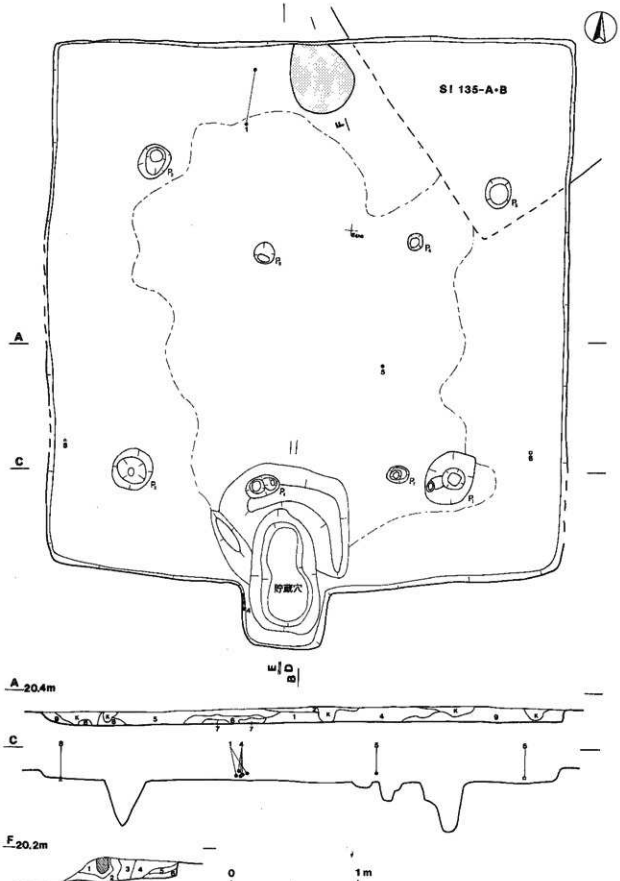
床　平坦で，入り口部から壁前にかけて踏み固められている。

ピット　8か所（P_1～P_8）。P_1～P_5は，径54～82cmの不整円形，深さ45～83cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_6は長径57cm，短径32cmの不整楕円形，深さ23～48cmで，出入り口ピットと思われる。P_7は径48cm，深さ75cmの不整円形で，第135号住居跡の貯蔵穴とも考えられるが，位置と規模から本跡の主柱穴の可能性がある。P_{11}　P_{12}は径18～28cm，深さ21～32cmの不整円形で，第136-B号住居跡（拡張前住居跡）の主柱穴の可能性がある。P_8は径34cm，深さ59cmで性格は不明である。

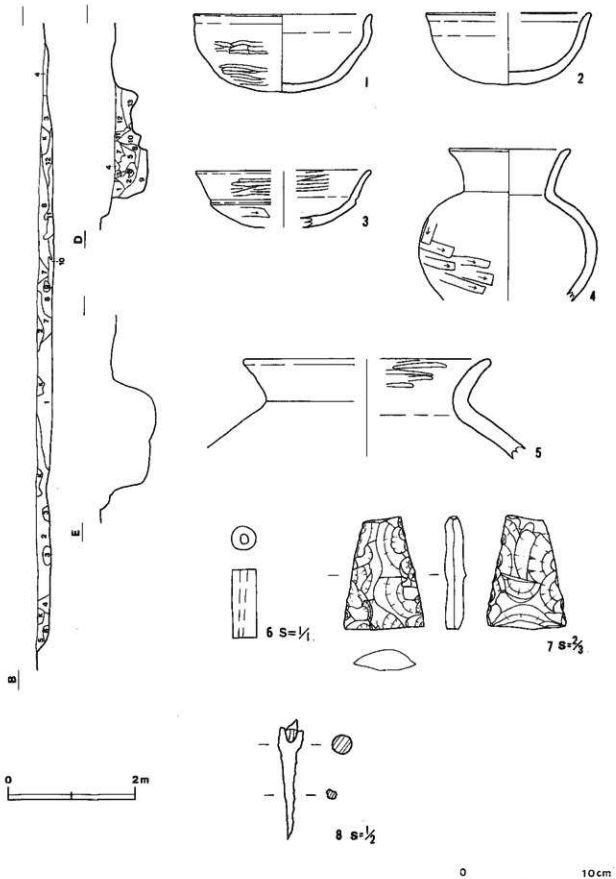
竈　北壁中央部に付設され，砂質まじりの白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されているが，遺存状態が悪く，左袖部の凝灰岩と右袖の一部のみが残っている。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰黄褐色　焼土大ブロック多量，焼土粒子少量
2　黒褐色　焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・凝灰岩中ブロック少量
3　黒褐色　炭化粒子少量・ローム大・小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
4　黄褐色　焼土粒子中量，焼土大ブロック・粘土大ブロック少量
5　暗灰黄色　粘土大・中・粘土粒子中量，焼土粒子・ローム中ブロック少量
6　黒褐色　焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量



第315図　第136－A号住居跡実測図



第316図　第136－A号住居跡出土遺物実測図

第136－A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第316図 1	坏 土師器	A 13.9 B 6.2	底部から口縁部片。平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ磨き。	長石 赤褐色 普通	P784 50% 覆土中層
2	坏 土師器	A [12.8] B 5.7	底部から口縁部片。平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外反する。内面に凸状の稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部ヘラ削り。	長石・スコリア 赤褐色 普通	P785 30% 貯蔵穴覆土中 PL87
3	坏 土師器	A '13.6' B 4.5	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部との境に稜を持つ。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	砂粒 赤褐色 普通	P786 30% 覆土中 PL87
4	小形壺 土師器	A 9.4 B (12.0)	体部から口縁部片。体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がり，端部でわずかに反る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ナデ→ヘラ削り。	長石 赤褐色 普通	P787 70% 覆土下層 PL87
5	甕 土師器	A [19.2] B (7.8)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P788 5% 覆土中層 PL87

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第316図 6	管玉	1.8	1.6	－	0.1～0.2	1.4	碧玉	覆土中	Q178 PL122
7	未製品	(4.5)	3.1	0.8	－	(12.9)	安山岩	覆土中	Q179 PL122

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第316図 8	不明鉄製品	(5.3)	(1.4)	－	－	(8.0)	西壁付近床面	M48

貯蔵穴　南壁中央部に壁外に張り出すように付設され，長径187cm，短径108cmの楕円形で，深さは68cm，断面形はU字形である。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量
2 黒色 ローム大ブロック中量，ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
3 黒色 ローム中・ローム粒子少量
4 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
6 黒色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
7 黒褐色 ローム大ブロック少量，ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
8 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・凝灰岩大ブロック少量
9 黒色 ローム粒子少量・凝灰岩大ブロック少量，ローム大ブロック微量
10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
12 黒色 ローム粒子少量
13 黒褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子・凝灰岩大ブロック中量

覆土　12層からなる自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム大・中ブロック・ローム粒子少量
2 黒褐色 ローム大・中ブロック・ローム粒子中量
3 黒色 ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
4 黒褐色 ローム大・中ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック少量
5 黒褐色 焼化粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6 黒褐色 ローム粒子・粘土大・中ブロック中量，ローム大・中ブロック少量
7 黒色 ローム大ブロック・ローム粒子微量
8 黒褐色 焼化粒子・ローム粒子中量，ローム大ブロック微量

9　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　黒　褐　色　ローム大・中ブロック・ローム粒子少量
11　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
12　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片1,478点，須恵器片20点，弥生土器片5点，軽石3点，カキガイ1点が出土している。第316図1の土師器坏は北壁付近覆土中層から，2の坏は貯蔵穴覆土中から，4の小形壺は貯蔵穴横覆土下層から，5の甕は中央部覆土中層から，8の不明鉄製品は西壁付近床面から，6の管玉は東壁付近覆土中層から，3の坏，7の尖頭器は覆土中からそれぞれ出土している。7の尖頭器は流れ込みと思われる。

所見　本跡は，第136-B号住居跡の東壁を89cm，北壁を106cmそれぞれ東及び北方向に拡張した住居跡である。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第136-B号住居跡（第317図）

位置　調査区の中央部，E4h$_3$区。

重複関係　本跡は，第135号住居跡の床の上に構築していることから，第135号住居跡より新しい。また，遺構の形態により拡張が行われたと考えられ，本跡は拡張前のもので，第136-A号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸8.55m，短軸7.08mの長方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は35cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかい。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_3は，径27～82cmの不整円形，深さ16～78cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_4は長径57cm，短径32cmの不整楕円形，深さ18～43cmで，出入り口ピットと思われる。P_5は径18cmの不整円形で，性格は不明である。P_3，P_4は第136-A号住居跡と共通の柱穴及びピットと思われる。

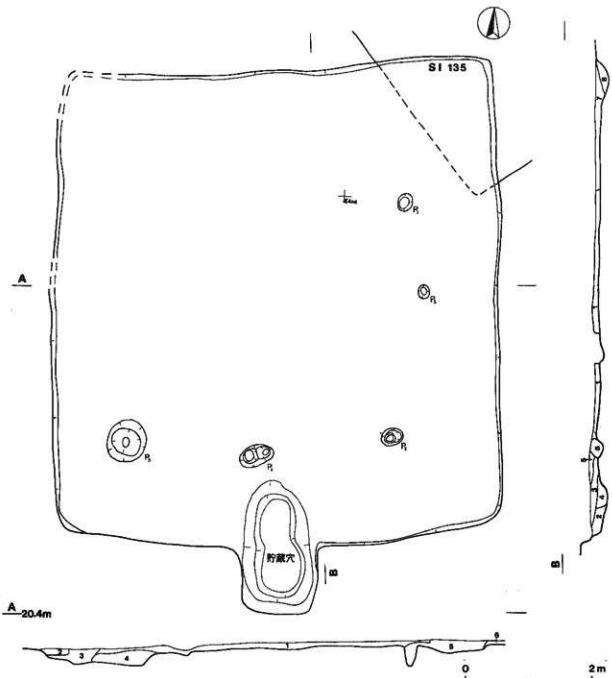
貯蔵穴　（第136-A号住居跡と共通）

覆土　8層からなる人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム斑大・大・中・小ブロック中量
2　暗　褐　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム極大・大・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム大・中ブロック中量，ローム粒子少量
5　黄　褐　色　ローム大ブロック中量，ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム極大・大・中・小ブロック・ローム粒子少量
7　黒　　色　ローム大・小ブロック少量
8　暗　褐　色　ローム大・中・小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片1,478点，須恵器片20点，弥生土器片5点，軽石3点，カキガイ1点が出土している。（第136-A号住居跡と共通）

所見　本跡は拡張前の住居跡である。遺物等から見て竈及び加等が見られるのが通例であるが，確認できなかった。拡張時に破壊されたとも考えられる。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期から後期（5世紀末～6世紀）と思われる。



第317図　第136-B号住居跡実測図

第137号住居跡（第318図）

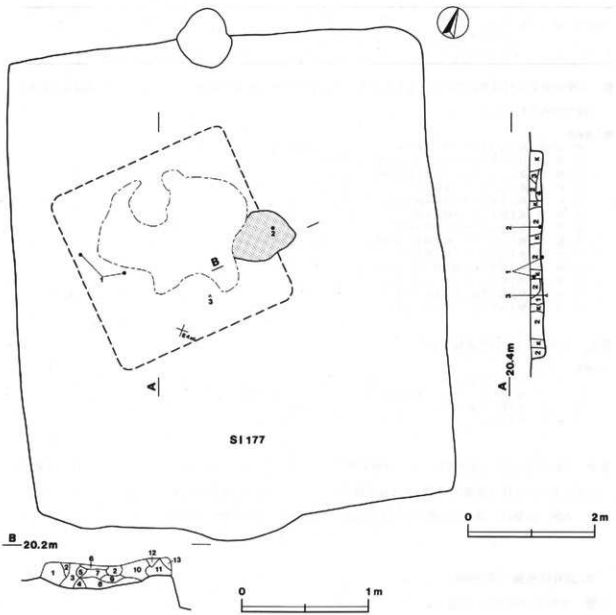
位置　調査区の中央部，D4 j_9区。

重複関係　本跡は，第177号住居跡の床の上に構築していることから，第177号住居跡より新しい。

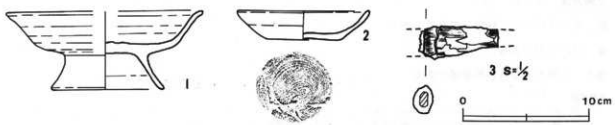
規模と平面形　確認されたのが竈と硬化面のみのため，規模及び平面形は不明である。

主軸方向　N－47°－E

床　竈前付近が踏み固められている。



第318図　第137号住居跡実測図



第319図　第137号住居跡出土遺物実測図

第137号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第319図 1	高台付坏 土師器	A [15.6] B 6.3 C 8.7 E 2.7	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く長い高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，端部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。高台部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 暗褐色 普通	P789　40% 床面 PL87
2	皿 土師器	A 10.5 B 2.3 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・パミス 橙色 普通	P1053　80% 竈内覆土中 PL87

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第319図3	刀子	(4.3)	1.8	1.1	−	(8.6)	竈前床面	M49 PL122

竈　北壁中央部に付設されていたと思われるが，遺存状態が悪く袖部等は残っていない。火床部は皿状に10cm程掘り窪められている。

竈土層解説

1　黄褐色　焼土大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　黄褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量
3　暗褐色　焼土大・中ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック少量
4　暗褐色　焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
5　黒褐色　焼土小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
6　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子少量
7　黒褐色　焼土大・中ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量
8　黒褐色　焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
9　暗褐色　焼土大ブロック・焼土粒子多量
10　黒褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック少量，ローム大ブロック微量
11　黒褐色　焼土中ブロック・ローム中・小ブロック少量
12　赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
13　暗褐色　焼土小ブロック・ローム粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2　黒　色　焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量
3　黒　色　焼土粒子少量，焼土大ブロック・ローム中ブロック微量
4　黒褐色　焼土中ブロック・ローム大・中ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片116点，須恵器片1点，緑釉陶器片1点が出土している。第319図1の土師器高台付坏は北西壁付近床面から正位の状態で，2の皿は竈内覆土中から，3の刀子は竈前床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀頃）と思われる。

第138号住居跡（第320図）

位置　調査区の中央部，E4g区。

規模と平面形　遺構の大部分がエリア外に延びており，規模及び平面形は不明である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は40cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

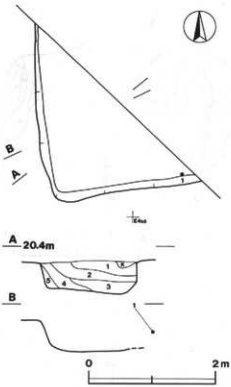
覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

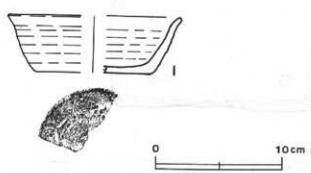
1　黒褐色　ローム大ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
3　黒褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　黒褐色　ローム大ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片98点，須恵器片6点，弥生土器片3点が出土している。第321図1の須恵器坏は南壁付近覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀初頭）と思われる。



第320図　第138号住居跡実測図



第321図　第138号住居跡出土遺物実測図

第138号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第321図 1	坏 須恵器	A［13.6］ B 4.6 C［9.1］	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部周縁ナデ。底部回転ヘラ削り調整。	スコリア 褐灰色 普通	P790　25% 覆土上層 PL87

第139号住居跡（第322図）

位置　調査区の中央部，E4i$_8$区。

規模と平面形　長軸3.41m，短軸3.27mの方形である。

主軸方向　N－3°－E

壁　壁高は60～70cmで，外傾してほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北壁を除いて壁溝が巡っている。全周するものと思われる。上幅約12cm，下幅約6cm，深さ約4cmで，断面形は逆台形である。

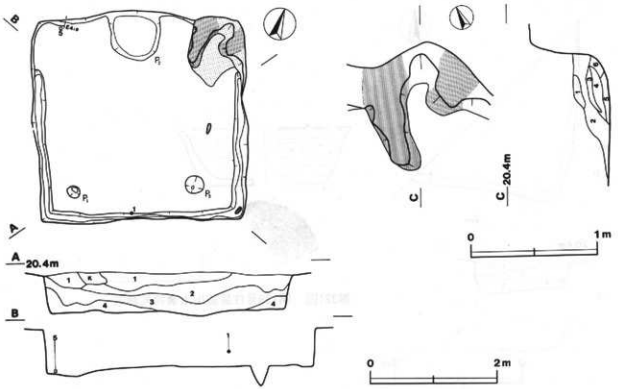
床　平坦で，出入り口と思われる部分に高まりが見られる。ほぼ全面が踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は径28cmの不整楕円形，深さ14cmで，出入り口ピットと思われる。P_2，P_3は径28～91cmの不整円形，深さ29～31cmで性格は不明である。

竈　北東コーナー部に付設され，砂粒まじりの橙色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，右袖部は残っていない。火床部は皿状に30cm程掘り窪められている。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　明　褐　色　粘土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
2　黄　褐　色　粘土粒子多量，灰中量，炭化物少量
3　黄　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量，炭化物少量
4　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰多量，焼土大ブロック少量
5　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・灰多量，ローム粒子・粘土粒子少量
6　褐　　色　焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・灰少量



第322図　第139号住居跡実測図

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック・ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・ローム大・中ブロック微量

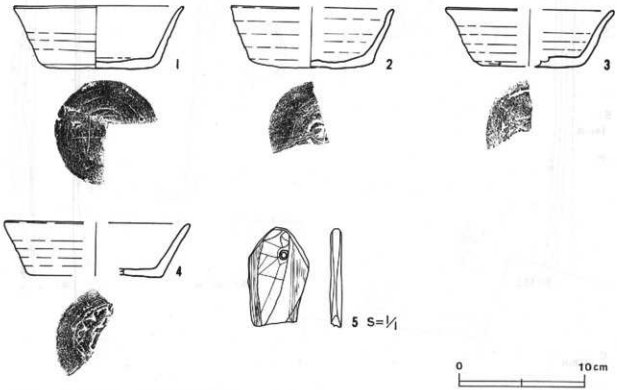
遺物　土師器片386点，須恵器片37点，弥生土器片２点，旧石器剝片１点が出土している。第323図１の須恵器坏は南壁覆土上層から，５の剝形模造品は北壁床面から，２～４の坏は覆土中からそれぞれ出土している。剝形模造品は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（８世紀後半）と思われる。

第139号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第323図 1	坏 須恵器	A 13.3 B 5.0 C 8.3	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	長石 褐灰色 普通	P791　40% 覆土上層　PL88 底部ヘラ記号あり
2	坏 須恵器	A [13.8] B 4.8 C [9.8]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石・石英 褐灰色 普通	P792　25% 覆土中　PL88 底部ヘラ記号あり
3	坏 須恵器	A [13.2] B 4.5 C [7.2]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後手持ちヘラナデ。二次底部面を残す。	長石・針状鉱物 褐灰色 普通	P793　20% 覆土中 PL88
4	坏 須恵器	A [14.5] B 4.3 C [10.3]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石・針状鉱物 褐灰色 普通	P794　20% 覆土中 PL88

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第323図5	剣形模造品	(2.6)	1.6	0.4	0.2	(2.1)	滑石	北壁際床面	Q180



第323図　第139号住居跡出土遺物実測図

第140号住居跡（第324図）

位置　調査区の中央部，F4a$_9$区。

重複関係　本跡は，第141-A号住居跡の東部を掘り込んでおり，第142号住居跡と第146-A号住居跡に掘り込まれていることから，第141-A号住居跡より新しく，第142号住居跡及び第146-A号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.16m，短軸6.06mの方形である。

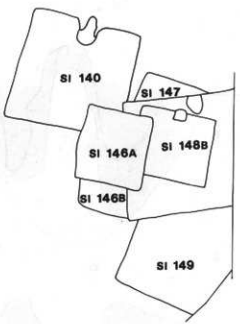
主軸方向　N－32°－W

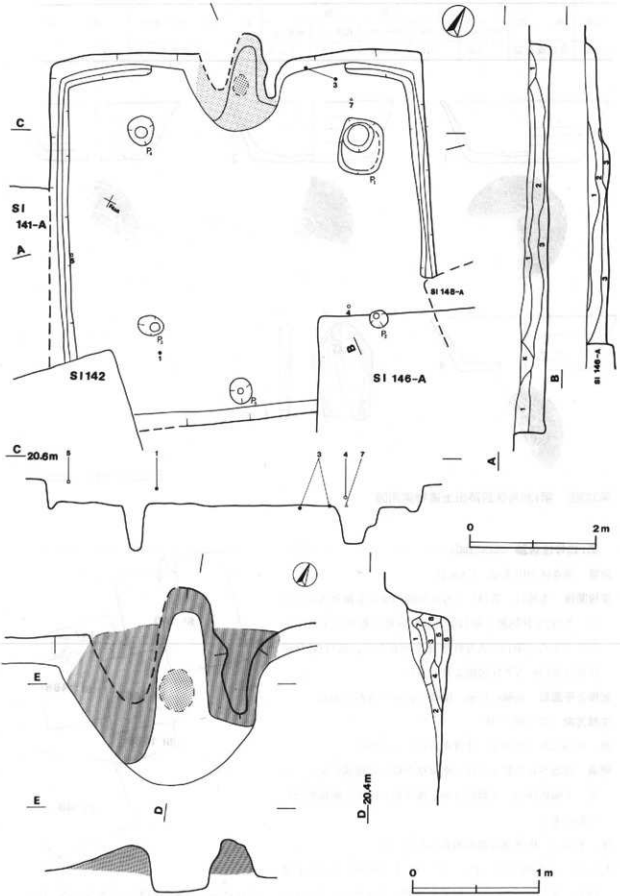
壁　壁高は26～33cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，南東壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約18cm，下幅約8cm，深さ約11cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径28～72cmの不整円形，深さ57～73cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径38cmの不整円形，深さ55cmで，出入り口ピットと思われる。





第324図　第140号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。砂粒混じりの白色粘土で構築されており，天井部は不明であるが両袖部は比較的良好に遺存している。火床部は皿状に9cm程掘り窪められている。煙道部は壁外へ平面形が四角形に掘り込まれ，壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黄　褐　色　粘土粒子多量，粘土小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
3　黄　褐　色　炭化物・炭化粒子・灰・粘土粒子多量，焼土中ブロック中量，焼土小ブロック少量，ローム中ブロック微量
4　明赤褐色　炭化粒子・ローム大・小ブロック・ローム粒子・灰多量
5　赤　褐　色　炭化粒子・ローム中・小ブロックローム粒子・灰多量
6　黄　褐　色　焼土大・小ブロック・焼土粒子多量
7　黒　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　黄　褐　色　ローム粒子中量，ローム大・小ブロック少量，炭化粒子微量

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黄　褐　色　ローム小ブロック，ローム粒子多量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片440点，須恵器片10点，灰釉陶器片3点，旧石器剥片4点，軽石1点が出土している。第325図1の土師器坏は南コーナー付近覆土上層から，3の甕は北西壁付近床面から，5の旧石器剥片は南西壁覆土上層から，4の土玉は東コーナー付近覆土中層から，6の旧石器剥片は竈内覆土中から，7の勾玉は北コーナー付近床面から，2の坏，8の鉄塊は覆土中からそれぞれ出土している。5，6の旧石器剥片は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀頃）と思われる。

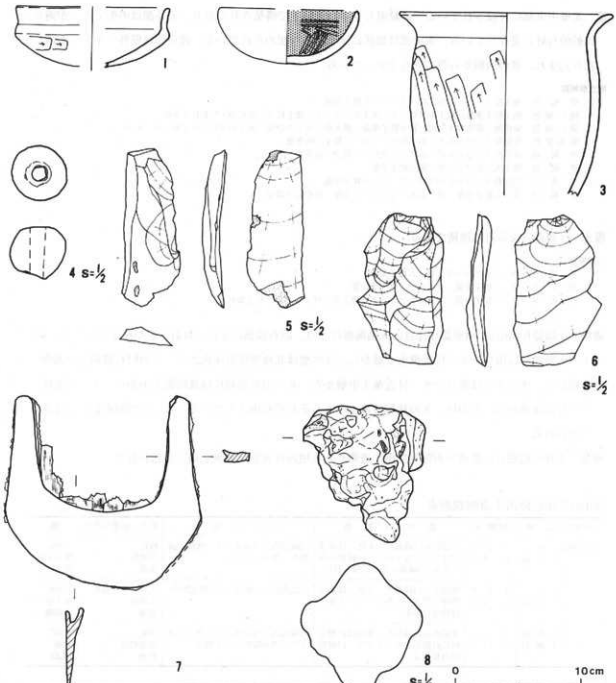
第140号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第325図1	坏 土師器	A［12.0］ B（4.7）	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り。	砂粒 黒褐色 普通	P795　40% 覆土上層 PL88
2	坏 土師器	A［10.8］ B　4.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	スコリア・長石 灰褐色 普通	P796　35% 覆土中　体部外面銅癬 PL88
3	小形甕 土師器	A　16.8 B（14.5）	体部から口縁部片。体部は内傾気味に直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦位のヘラ削り。	砂粒 浅黄橙色 普通	P797　20% 床面 PL88

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第325図4	土玉	2.7	2.9	-	0.7～0.8	20.1	東コーナー付近覆土中層	DP104

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第325図5	剥片	8.3	3.2	1.2	-	27.9	安山岩	南西壁付近覆土上層	Q181
6	剥片	8.0	4.7	1.2	-	28.9	頁岩	竈内覆土中	Q182

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第325図7	勾玉	15.4	15.5	0.2～1.1	-	341.8	北コーナー付近床面	M50　PL123
8	鉄滓	7.2	6.4	-	-	219.5	覆土中	M51



第325図　第140号住居跡出土遺物実測図

第141－A号住居跡（第326図）

位置　調査区の中央部，E4b₇区。

重複関係　本跡は，第141－B号住居跡の北東部を掘り込んでおり，北東部を第140号住居跡に掘り込まれ，第142号住居跡が本跡の床の上に床を構築していることから，第141－B号住居跡より新しく，第140号住居跡と第142号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する南西壁から推定すると，長軸3.94m，短軸3.81mの方形であると思われる。

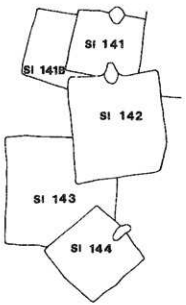
主軸方向　N－25°－W

床　廃絶後の攪乱が激しく，床の様子は確認できなかった。

竈　北壁中央部に付設され，白色粘土で構築されていたと思われるが，撹乱のため遺存状態が悪く，袖部付近の粘土と火床部にわずかに焼土が確認できたのみである。

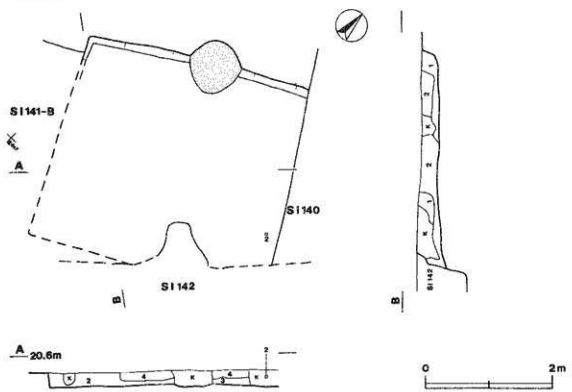
覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・粘土粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム大ブロック微量



遺物　土師器片62点，須恵器片4点が出土している。第327図1の土師器甕は覆土中から，2の砥石は北東壁付近覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期頃と思われる。

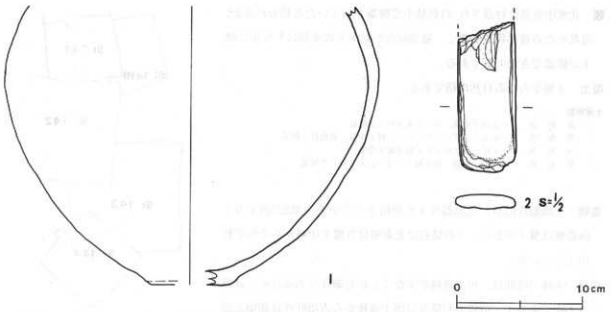


第326図　第141－A号住居跡実測図

第141－A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第327図 1	甕 土師器	B (22.2) C [6.2]	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英・砂粒 褐色 普通	P799 20% 覆土中 PL88

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第327図 2	砥石	(7.9)	3.1	(0.7)	－	(32.7)	凝灰岩	北東壁覆土中層	Q183 PL119



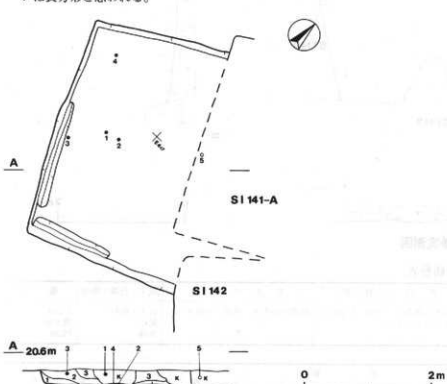
第327図　第141－A号住居跡出土遺物実測図

第141－B号住居跡（第328図）

位置　調査区の中央部，E4c$_7$区。

重複関係　本跡は，東部を第141－A号住居跡と第142号住居跡に掘り込まれていることから，第141－A号住居跡及び第142号住居跡よりも古い。

規模と平面形　北東壁が掘り込まれているため，遺存する南西壁から推定すると，一辺3.90m 程の方形あるいは長方形と思われる。



第328図　第141－B号住居跡実測図

主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下のうち，南西壁と南東壁の一部に壁溝が巡っている。上幅約16cm，下幅約６cmである。

床　撹乱が激しく，床の硬化面は部分的にしか捉えられなかった。

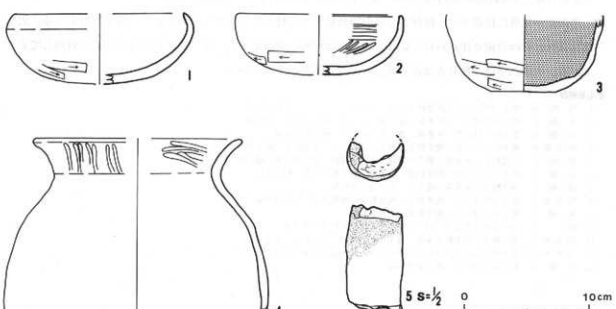
覆土　３層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム大・中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片47点が出土している。第329図１の土師器坏，５の転用羽口は中央部覆土中層から，２の坏は同下層から，３の坏は南西壁覆土中層から，４の甕は北西壁床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀）と思われる。



第329図　第141－Ｂ号住居跡出土遺物実測図

第141－Ｂ号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第329図 1	坏 土師器	A［13.4］ B（5.7）	底部から口縁部片。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	スコリア・石英・長石 黄橙色　普通	P800　40% 覆土中層 PL88
2	坏 土師器	A［12.8］ B（4.9）	底部から口縁部片。体部は内弯して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内面横ナデ後ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P801　35% 覆土下層 PL88
3	坏 土師器	B（6.1） C　5.1	底部から体部片。平底。体部は内弯して立ち上がる。	体部内面粗いナデ，外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 明赤褐色 普通	P802　30% 覆土中層 PL88
4	甕 土師器	A［16.2］ B（14.0）	体部から口縁部片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内面ヘラ磨き，外面横ナデ後緻位のヘラ磨き。体部内面ナデ，外面縦位の粗いナデ。	スコリア・礫・長石・砂粒 黒褐色　普通	P803　15% 床面 PL88

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備　考
第329図 5	転用羽口	（8.6）	4.4	－	－	(60.3)	中央部覆土中層	DP105　PL117

第142号住居跡（第330図）

位置　調査区の中央部，E4c$_4$区。

重複関係　本跡は，第141-B号住居跡，第141-A号住居跡及び第140号住居跡を掘り込んでいることから，第141-B号住居跡，第141-A号住居跡及び第140号住居跡の3軒より新しい。

規模と平面形　長軸5.80m，短軸4.96mの長方形である。

主軸方向　N－44°－W

壁　壁高は49cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北西壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約22cm，下幅約10cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，床面全体が踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径36～52cmの不整円形，深さ40～90cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径36cmの不整円形，深さ44cmで，出入り口ピットと思われる。

竈　北西壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土と芯材として使用した凝灰岩とで構築されている。火床部は皿状に17cm程掘り窪められている。煙道部は壁外へ68cm突出し，袖の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。火床部下部の掘り方は深さ約24cmと深く掘り込まれている。

竈土層解説

1	明褐色	焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
2	赤褐色	焼土小ブロック・灰多量，焼土中ブロック・粘土小ブロック少量
3	灰褐色	焼土小ブロック・灰多量，焼土中ブロック・粘土粒子少量
4	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土粒子，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・灰少量
5	黒褐色	炭化粒子・灰多量，焼土小ブロック・炭化物・黒色土少量，焼土中ブロック微量
6	赤褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・灰多量，焼土粒子・粘土粒子少量
7	赤褐色	焼土粒子・灰多量，焼土中・小ブロック少量
8	明赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰色多量，炭化物少量
9	赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・灰色多量
10	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・灰少量
11	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・灰少量
12	暗赤褐色	焼土中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
13	黄褐色	粘土小ブロック・焼土粒子少量

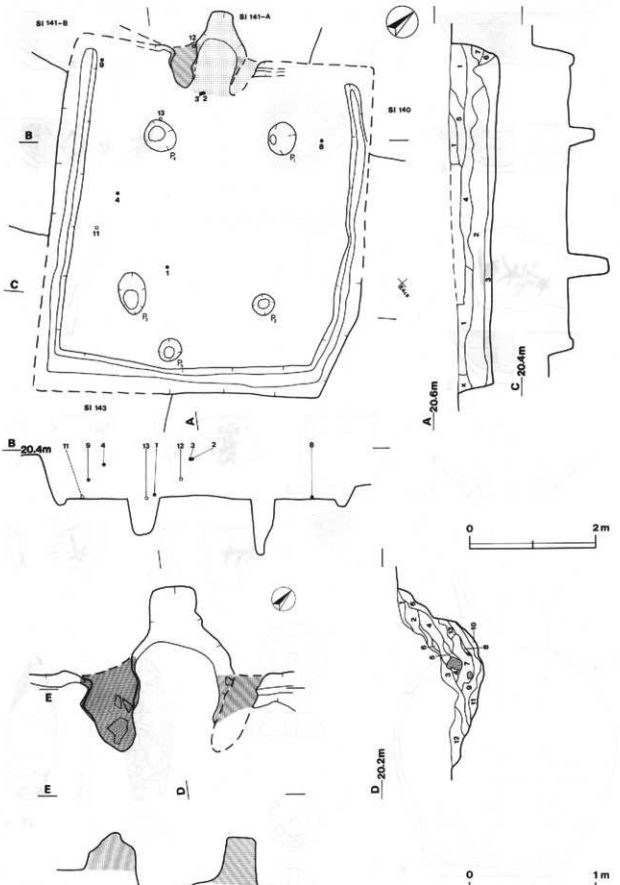
覆土　7層からなる自然堆積である。

土層解説

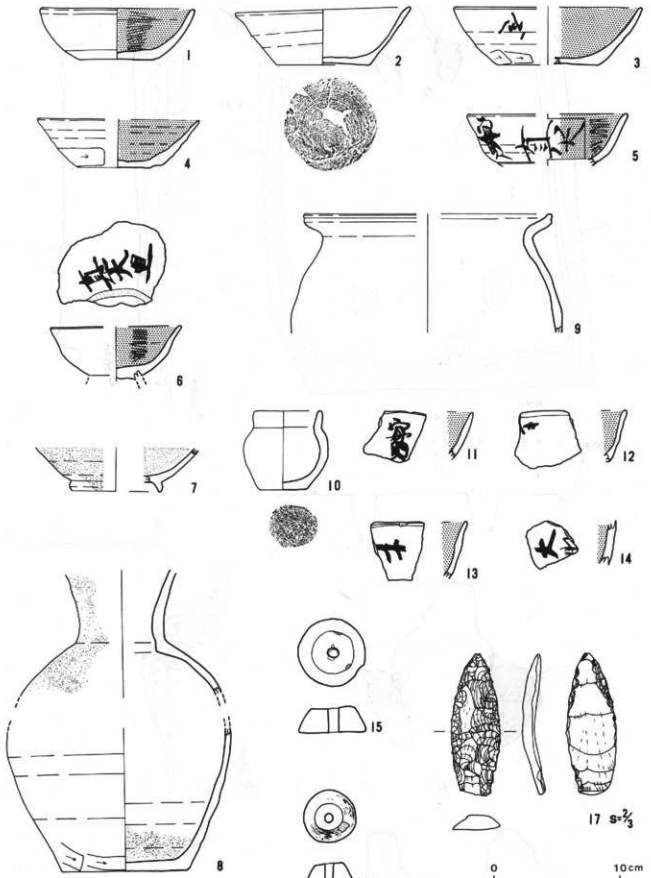
1	黒褐色	焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
2	褐色	ローム中・小ブロック多量，ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
3	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・ローム粒子少量
4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
5	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，粘土粒子少量
6	褐色	ローム大・小ブロック多量，ローム中ブロック中量，焼土小ブロック少量
7	黄褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量，焼土中ブロック・ローム大ブロック・ローム粒子少量・灰少量

遺物　土師器片1,109点，須恵器片109点，陶器片1点，支脚片1点が出土している。第331図1の土師器坏は中央部覆土下層から，2，3の坏，16の紡錘車は北西寄付近覆土上層から，4の坏は南西壁覆土覆土上層から，15の紡錘車は同覆土下層から，5の坏は竈覆土中から，8の須恵器長頸瓶は北コーナー床面から，9の土師器甕は西コーナー付近覆土上層から，6の土師器高台付坏，7の灰釉陶器高台付坏，10のミニチュア土器，16，17の石器は覆土中からそれぞれ出土している。17の尖頭器は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。



第330図　第142号住居跡実測図



第331図　第142号住居跡出土遺物実測図

第142号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第331図 1	坏 土師器	A 12.1 B 4.1 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ削り調整。体部内面黒色処理。	砂粒 暗褐色 普通	P804 90% 覆土下層 PL88
2	坏 上師器	A 13.6 B 4.7 C 7.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英・長石・雲母 鈍い橙色 普通	P805 70% 覆土上層 PL88
3	坏 上師器	A [14.7] B 4.7 C [7.9]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り調整。内面黒色処理。	スコリア 黒褐色 普通	P806 40% 覆土上層 PL88 体部外面墨書□
4	坏 上師器	A [12.8] B 3.9 C 5.5	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り調整。体部内面黒色処理。	石英・スコリア・雲母 黒色 普通	P807 30% 覆土上層 PL88
5	坏 上師器	A [12.6] B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部内面黒色処理。	長石 暗赤褐色 普通	P808 20% 竪穴内中央 体部外面墨書「資真大里」 PL88
6	高台付坏 土師器	A 10.2 B 4.2	高台部欠損。底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部内面黒色処理。	スコリア 暗褐褐色 普通	P814 20% PL88 覆土中 体部外面墨書「真大里」
7	高台付坏 灰釉陶器	B (3.5) D [7.0] E 0.9	高台部から体部片。三日月型高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に灰釉が施される。	細砂粒 オリーブ黄色 普通	P815 10% 覆土中
8	長頸瓶 須恵器	B (21.5) C 10.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内面ロクロナデ，外面上半ロクロナデ，下半横位のヘラ削り。	長石・礫 褐灰色 普通	P817 30% 床面 PL88
9	甕 土師器	A [19.6] B (9.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・長石・スコリア 明褐色 普通	P816 5% 覆土上層
10	ミニチュア土器 土師器	A 5.2 B 6.3 C 3.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P818 80% 覆土中 PL88

第331図11～14は土師器坏最書土器片である。

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第331図15	紡錘車	5.3	5.3	2.1	0.8～0.9	60.8	第4号住居跡下層	DP106 PL116

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第331図16	紡錘車	4.1	4.2	2.2	－	50.0	滑石	北西壁覆土上層	Q184 PL121
17	尖頭器	5.6	1.9	0.5	－	7.2	頁岩	北西壁床面	Q185 PL122

第143号住居跡（第332図）

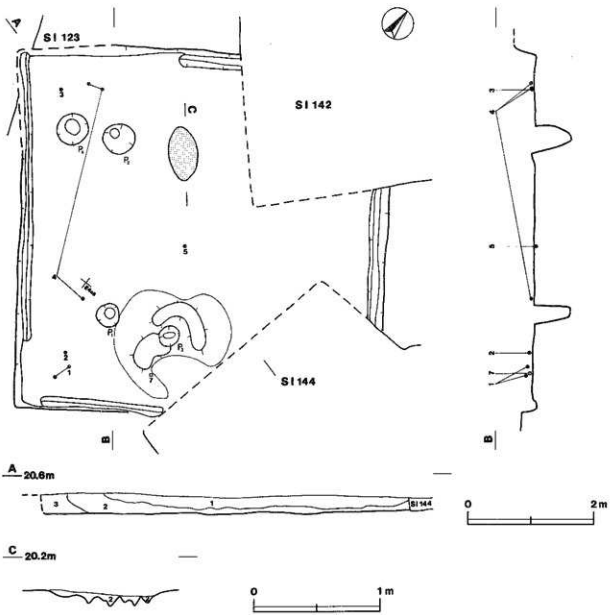
位置　調査区の中央部，E4d$_8$区。

重複関係　本跡は，第123号住居跡，第142号住居跡及び第144号住居跡にそれぞれ掘り込まれていることから，3軒の住居跡よりも古い。

規模と平面形　一辺5.80mの方形である。

主軸方向　N－37°－W

壁　壁高は19～23cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。



第332図　第143号住居跡実測図

壁溝　確認された壁下には，北西壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約12cm，下幅約６cm，深さ約７cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，床面全体が踏み固められている。入り口部に馬蹄状の高まりが見られる。

ピット　４か所（P_1～P_4）。P_1，P_2は，径36～48cmの不整円形，深さ57～59cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_3は径36cmの不整円形，深さ44cmで，出入り口ピットと思われる。P_4は径52cm，深さ13cmの不整円形で，性格は不明である。

炉　中央から北西壁寄りに位置し，長径86cm，短径46cmの楕円形で，床面を10cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

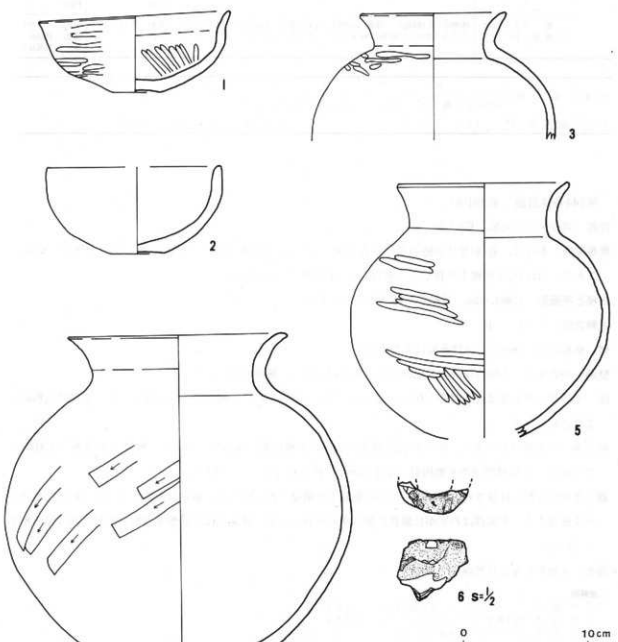
炉土層解説
1　オレンジ色　焼土大ブロック多量
2　暗　褐　色　焼土中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土　３層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・ローム中ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片466点，須恵器片35点，陶磁器片２点が出土している。第333図１の土師器坏は南コーナー付近中層から，２の坏は正位の状態で同覆土下層から，３の土師器壺は南西壁付近床面から，４の甕は散在した状態で床面から，５の甕は中央部床面から，６の転用羽口は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀後半）と思われる。



第333図　第143号住居跡出土遺物実測図

第143号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第333図 1	坏 土師器	A 15.2 B 6.5 C 3.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。内面に鏡い傾を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	パミス・礫 暗赤褐色 普通	P819 70% 覆土中層 PL88
2	坏 土師器	A [13.7] B 6.9 C 4.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り。	礫・砂粒 暗赤褐色 普通	P820 60% 覆土下層 PL88
3	甕 土師器	A 11.4 B (10.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P823 30% 床面 PL88
4	甕 土師器	A 17.3 B (25.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ→ヘラ磨き。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P821 50% 床面 PL89
5	甕 土師器	A 13.4 B (20.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面磨き，体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。	長石・雲母 黒色 普通	P822 80% 床面 PL89 体部外面に煤付着

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第333図 6	転用羽口	(3.2)	2.5	-	-	(11.7)	覆土中	DP107 PL117

第144号住居跡（第334図）

位置 調査区の中央部，E4d$_4$区。

重複関係 本跡は，第143号住居跡の東部を掘り込んでおり，東部を第145-A号住居跡に掘り込まれていることから，第143号住居跡より新しく，第145-A号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸4.40m，短軸3.80mの長方形である。

主軸方向 N－12°－E

壁 壁高は14～28cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約18cm，下幅約8cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。入り口ピットの左右に長軸約80cm，短軸約55cmの不整楕円形の高まりが見られる。

ピット 5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径48～68cmの不整円形，深さ30～34cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径27cmの不整円形，深さ25cmで，出入り口ピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，粘土粒子と焼土のみを確認する。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は平面形を方形に壁外へ掘り込み構築している。

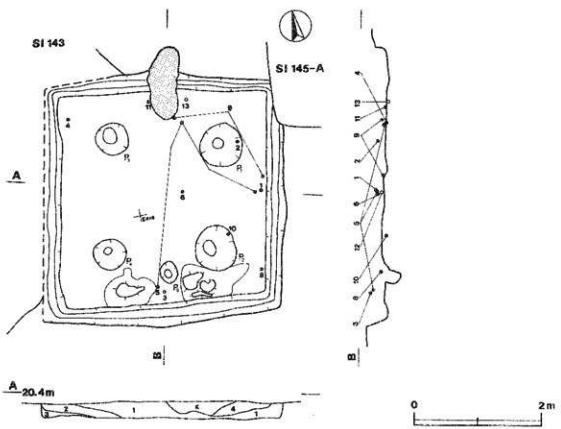
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説
1 黒褐色 ローム小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量
2 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 暗褐色 焼土大ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 明赤褐色 焼土大・小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子少量

遺物 土師器片1,023点，須恵器片7点，陶器片1点が出土している。第335・336図1，2の坏は東壁付近覆土中層から，8の高坏，12の紡錘車は同床面から，10の小形甕は同覆土下層から，3の坏は南壁付近覆土上

層から，4の坏は北西コーナー床面から，5の坏は散在した状態で床面から，9の甕は同状態で覆土下層から，6の坏は中央部覆土中層から，11の瓶，13の支脚は北壁付近床面から，7の鉢は覆土中からそれぞれ出土している。

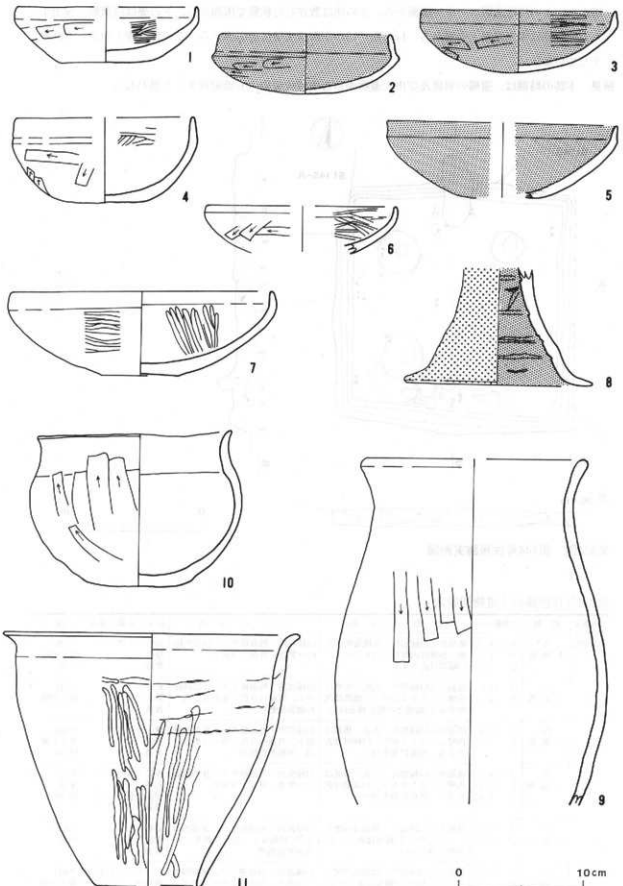
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。



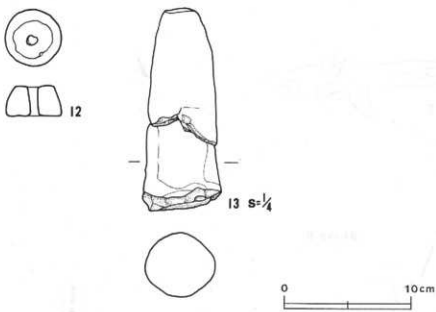
第334図　第144号住居跡実測図

第144号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第335図 1	坏 土師器	A [14.4] B 4.4 C 7.1	底部から口縁部片。丸底気味の平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・スコリア 橙色 普通	P828 90% 覆土中層 PL89
2	坏 土師器	A 13.6 B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後磨き。内・外面黒色処理。	長石 黒色 普通	P827 85% 覆土中層
3	坏 土師器	A 15.4 B 4.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	雲・スコリア 黒色 普通	P828 70% 覆土下層 PL89
4	坏 土師器	A [14.0] B 5.3 C 4.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	砂粒・スコリア・石英 明赤褐色 普通	P829 60% 床面 PL89
5	坏 土師器	A [18.3] B (6.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ→部ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒 黒色 普通	P830 40% 床面
6	坏 土師器	A [15.0] B (3.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に鋭い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・長石 黄褐色 普通	P831 25% 覆土中層 PL89



第335図　第144号住居跡出土遺物実測図(1)



第336図　第144号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	鉢 土師器	A 20.8 B 6.9 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面横位のヘラ磨き。	石英・礫 赤褐色 普通	P825　98% 覆土中 PL88
8	高　坏 土師器	B (9.3) D 14.5	脚部片。脚部は「ハ」の字状に大きく開く。	脚部内面ヘラ削り，外面縦位のヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。脚部内面黒色処理，外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P833　40% 覆土下層 PL89
9	甕 土師器	A [17.4] B (27.5)	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦位のヘラ削り一部ヘラ磨き。	砂粒 暗褐色 普通	P834　30% 覆土下層 PL89
10	小形甕 土師器	A 15.3 B 12.5 C 8.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面粗いヘラナデ，外面ヘラ削り。	長石・スコリア・雲母 鈍い黄褐色 普通	P832　95% 床面 PL89
11	甕 土師器	A 23.4 B 20.2 C [8.0]	底部一部欠損。無底式。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半ナデ，下半ヘラ削り後磨き，外面上半ヘラ磨き，下半ヘラ削り。	スコリア・長石 橙色 普通	P835　95% 床面 PL89

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第336図12	砧　錘　車	4.5	4.4	2.4	0.5	45.4	覆　土　中	DP108　PL115
13	支　脚	(21.1)	8.1	6.7	−	(1200.2)	覆　土　中	DP109　PL117

第145−A号住居跡（第337図）

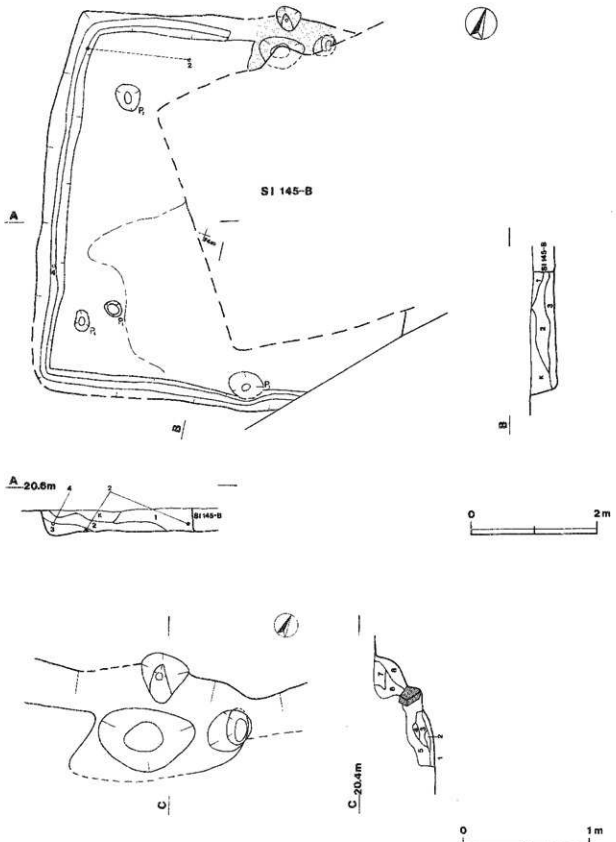
位置　調査区の中央部，F4c$_5$区。

重複関係　本跡は，第145−C号住居跡の南西部を掘り込んでおり，東部を第145−B号住居跡に掘り込まれていることから，第145−C号住居跡より新しく，第145−B号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.10m，短軸5.86mの方形である。

主軸方向　N−13°−W

壁　壁高は26〜33cmで，外傾して立ち上がる。



第337図　第145・A号住居跡実測図

壁溝　確認された壁下には，すべて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約22cm，下幅約８cm，深さ約11cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，ほぼ全面が踏み固められている。

ピット　４か所（P_1～P_4）。P_1，P_2は，径30～42cmの不整円形で，配置や規模から主柱穴と思われる。P_3は径52cmの不整円形で，出入り口ピットと思われる。P_4は径28cmの不整楕円形で，性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設され，山砂，白色粘土及び凝灰岩の切石とで構築されている。両袖部内には縦12cm，横10cm，長さ12～25cmの凝灰岩の切石が，横位の状態で埋め込まれている。火床部は皿状に掘り窪められており，煙道部は壁外へ19cm突出し，壁の内側からゆるやかに立ち上がっている。

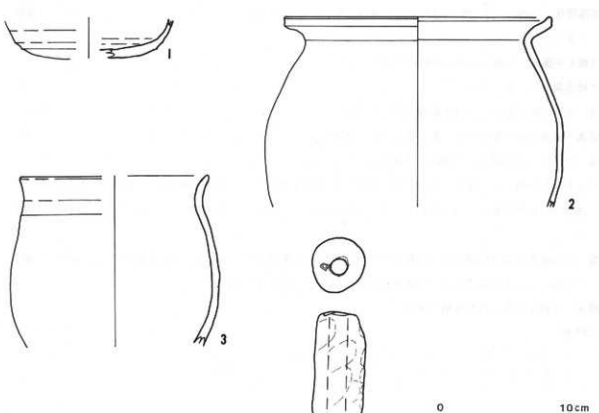
竈土層解説

1　赤　褐　色　焼土大ブロック多量
2　灰オリーブ色　灰多量
3　灰　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土大ブロック微量
4　赤　褐　色　焼土大ブロック多量
5　褐　　色　焼土小ブロック・灰中量，焼土粒子少量，焼土大ブロック微量
6　褐　　色　焼土中・小ブロック・焼土粒子多量，粘土粒子少量
7　褐　　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
8　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土大・小ブロック微量

覆土　３層からなる自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
3　黒　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム大・小ブロック・ローム粒子少量



第338図　第145-A号住居跡出土遺物実測図

第145-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第338図1	坏 須恵器	B (3.2) C (7.8)	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ちあがる。体部下位に段を持つ。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P836 20% 覆土中
2	甕 土師器	A 20.8 B 15.4	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面調整のヘラナデ。	長石・スコリア・砂粒 明赤褐色 普通	P837 15% 覆土中層 PL89
3	甕 土師器	A (14.7 B (13.6)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	微・スコリア・長石・石英 赤褐色 普通	P838 20% 床面 PL89

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第338図4	管状土錘	9.1	–	4.4	1.5～1.8	148.1	西壁付近中層	DP116 PL116

遺物　土師器片322点，須恵器片24点が出土している。第338図2の土師器甕は北壁付近覆土中層から，3の甕は北東コーナー付近床面から，4の管状土錘は西壁付近覆土中層から，1の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（8世紀）と思われる。

第145-B号住居跡（第339図）

位置　調査区の中央部，F4c₀区。

重複関係　本跡は，第145-A号住居跡の東部と第145-C号住居跡北西部を掘り込んでいることから，両遺構より新しい。

規模と平面形　長軸4.78m，短軸4.20mの方形である。

主軸方向　N－40°－W

壁　壁高は32～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北西壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約16cm，下幅約8cmである。

床　コーナー部を除き，全面的に踏み固められている。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1，P_2は，径32～42cmの不整円形で，配置や規模から主柱穴と思われる。P_3は径32cmの不整円形で，出入り口ピットと思われる。P_4は径14cm，深さ72cmの不整円形で，性格は不明である。

竈　北西壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部の一部と焼土が残っているのみである。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。

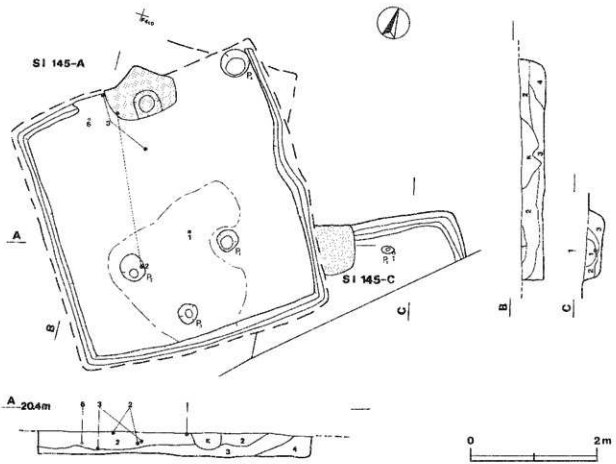
覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム中ブロック中量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量

遺物　土師器片115点，須恵器片17点，凹石器剥片1点が出土している。第340図1の土師器坏は中央部覆土中層から，2の坏は散在した状態で覆土中層から，3の須恵器甕は竈前付近覆土下層から，4の不明鉄製品は

北西壁付近床面から，3の紡錘車は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

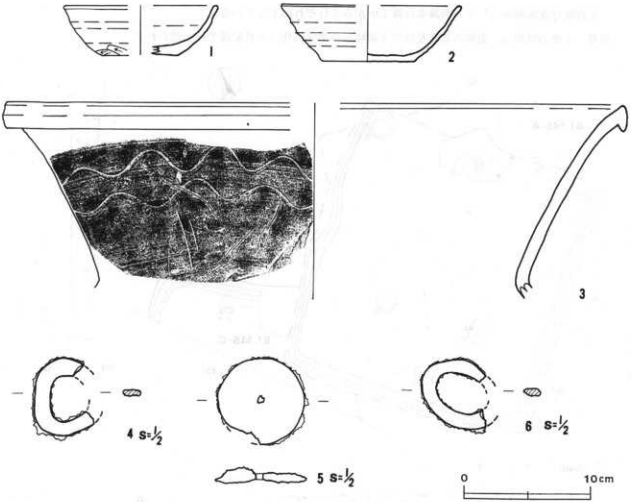


第339図　第145-B・145-C号住居跡実測図

第145-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第340図 1	坏 上師器	A 12.0 B 4.0 C 6.0	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り調整。体部内面黒色処理。	長石・石英 褐色 普通	P840　40% 覆土中層 PL89
2	坏 須恵器	A 14.1 B 4.5 C 7.3	体部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後手持ちヘラナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰褐色 普通	P839　60% 覆土中層 PL89
3	紡錘車 須恵器	A 49.0 B (15.4)	口縁部片。口縁部は外反し，口縁端部外面に断面三角形の縁帯が巡る。	口縁部内面ナデ，外面横ナデ。口縁端部外面に2条の凹線による波状文が施される。	雲母・長石・スコリア 灰色 普通	P841　10% 覆土下層 PL89

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第340図 4	不明鉄製品	4.3	3.2	0.3	-	(8.7)	北西壁付近床面	M52
5	鉄製紡錘車	4.7	4.8	0.9	0.4	(14.2)	覆土中	M53　PL123
6	不明鉄製品	4.0	3.4	0.5	-	(7.4)	北西壁付近床面	M54



第340図　第145-B号住居跡出土遺物実測図

第145-C号住居跡（第339図）

位置　調査区の中央部，F5c₁区。

重複関係　本跡は，南西部を第145-B号住居跡に掘り込まれていることから，第145-B号住居跡よりも古い。

規模と平面形　大部分がエリア外に延びているため，竈が北西壁中央にあるとすれば，一辺4.08m 程の方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－34°－W

壁　壁高は25cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，壁溝が巡っており，上幅約14cm，下幅約 8 cmである。

床　入り口部付近を中心に踏み固められている。

ピット　P_1は，径14cmの不整円形で，性格は不明である。

竈　北西壁中央部に付設され，山砂と白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，左袖部は残っていない。火床部は皿状に掘り窪められ，焼土が散乱している。煙道部は，壁外へわずかに突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がっている。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・ローム大・小ブロック微量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片20点，須恵器片２点が出土している。

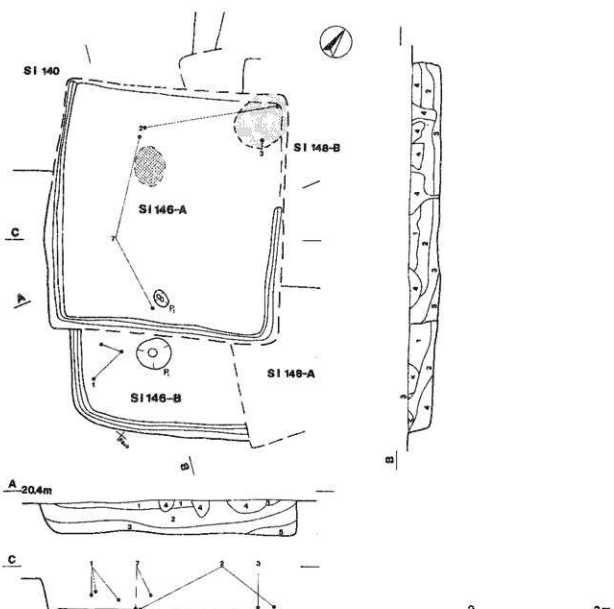
所見 本跡は出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細な時期は不明であるが，第145－A号住居跡，第145－B号住居跡との重複関係及び遺構の形態から，古墳時代後期（６～７世紀）頃と思われる。

第146 A号住居跡（第341図）

位置 調査区の中央部，F4b$_3$区。

重複関係 本跡は，第140，148－A，148－B，146－B号住居跡をそれぞれ掘り込んでいることから，４軒のいずれの住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.90m，短軸3.78mの方形である。



第341図 第146－A・146－B号住居跡実測図

主軸方向　N－8°－E

壁　壁高は50cmで，外傾してほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北西壁から北東壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約14cm，下幅約4cm，深さ約7cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，出入り口部を中心に踏み固められている。

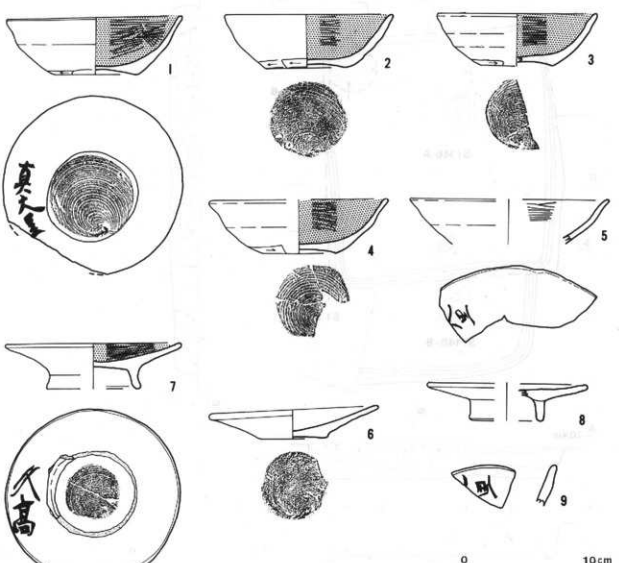
ピット　P_1は，径28cmの不整円形，深さ20.0cmで，出入り口ピットと思われる。

竈　北コーナー部に付設されていたと思われるが，遺存状態が悪く，粘土粒子と焼土を確認したのみで，袖部等は残っていない。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム大・中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム大・中ブロック・ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム大・中ブロック中量，ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ローム大ブロック多量，ローム大ブロック・ローム粒子中量



第342図　第146-A号住居跡出土遺物実測図

第146-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第342図1	坏 土師器	A 13.7 B 4.7 C 6.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	スコリア・長石 鈍い褐色 普通	P842 90% 床面 体部外面墨書「真大里」 PL90
2	坏 上師器	A 13.2 B 4.2 C 6.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転糸切り後ナデ調整。体部内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P843 70% 床面
3	坏 上師器	A 12.5 B 4.1 C [5.7]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	スコリア・長石 橙色 普通	P844 50% 覆土下層 PL90
4	坏 土師器	A [13.8] B 4.2 C 5.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、そのままは縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転糸切り後黒漆調整。体部内面黒色処理。	スコリア・長石 橙色 普通	P845 50% 覆土中 PL90
5	坏 土師器	A [15.8] B [3.4]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面横ナデ。	石英・長石 普通	P846 20% 床面 体部外面墨書「大里」 PL90
6	皿 土師器	A 13.0 B 2.6 C 5.3	底部から口縁部片。突出気味の平底。体部は直線的に外傾する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	礫・長石 赤褐色 普通	P847 80% 覆土中 PL90
7	高台付皿 土師器	A 13.7 B 3.6 D [7.3] E 1.3	高台部から口縁部片。ハの字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	体部内面ヘラ磨き、外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。体部内面黒色処理。	雲母 黒色 普通	P848 90% 床面 体部外面墨書「久万」 PL90
8	高台付皿 土師器	A [12.5] B 3.9 D [5.6] E 1.7	高台部から口縁部片。直立気味に開く高台が付く。体部は直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面ロクロナデ。底部切り離し後高台貼り付け。体部内面黒色処理。	スコリア・長石 黒褐色 普通	P849 30% 覆土中 PL90

第342図9は土師器坏甲青土器片である。

遺物　土師器片435点，須恵器片29点，灰釉陶器片1点が出土している。第342図3の坏は，北コーナー付近覆土下層から，2の坏と8の高台付皿は北西壁付近床面から，1の土師器坏は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。

第146-B号住居跡（第341図）

位置　調査区の中央部，F4b_1区。

重複関係　本跡は，第146-A，148-A号住居跡に掘り込まれていることから，2軒の住居跡よりも古い。

規模と平面形　3軒の住居跡によって，本跡の壁がすべて途中まで掘り込まれているため，規模及び平面形は不明である。

主軸方向　N－36°－W

壁　壁高は34cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，すべて壁溝が巡っている。上幅約12cm，下幅約6cm，深さ約9cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

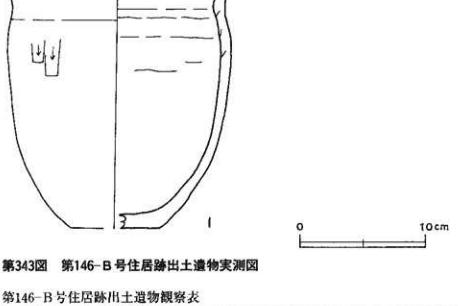
ピット　P_1は，径52cmの不整円形，深さ61cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
4 黒 色 ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

遺物 土師器片112点，須恵器片４点が出土している。第343図１の土師器甕は，南コーナー部覆土中層から出土している。

所見 本跡は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細な時期は不明であるが，遺構の形態及び重複関係から古墳時代後期（６世紀～７世紀）以前に廃絶されたと思われる。



第343図 第146-B号住居跡出土遺物実測図

第146-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第343図 1	甕 土師器	A 18.1 B 19.5 C［6.9］	底部から口縁部片。平底。体部は内湾気味に立ち上がり，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦位のヘラ削り。体部内面に輪積み痕を残す。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P851 60% 覆土中層 PL90

第147号住居跡（第344図）

位置 調査区の中央部，F4a$_5$区。

重複関係 本跡は，南東部を第148-A号住居跡に掘り込まれていることから，第148-A号住居跡よりも古い。

規模と平面形 遺構の大部分を第148-A号住居跡によって掘り込まれ，遺存する壁がないため，規模及び平面形は不明である。

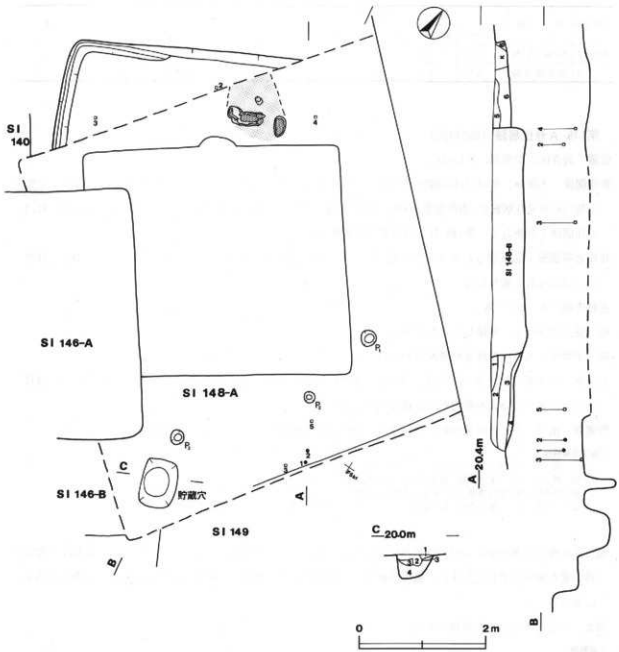
壁 壁高は35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。確認された壁下の内，北西コーナー周囲に壁溝が巡っている。上幅約16cm，下幅約６cmで，断面形はU字形である。

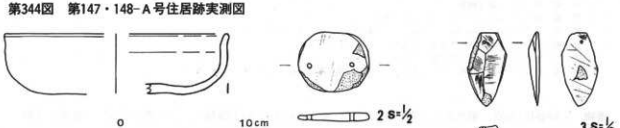
床 平坦である。

遺物 土師器片580点，須恵器片17点，灰釉陶器片１点が出土している。第345図２有孔円板は北西壁付近覆土中層から，３の剥形模造品は南西壁覆土中床面から，１の土師器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀）と思われる。



第344図　第147・148－A号住居跡実測図



第345図　第147号住居跡出土遺物実測図

第147号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第345図 1	坏 土師器	A［17.4］ B（4.9）	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。端部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P852　25% 覆土中 PL91

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第343図2	石孔円板	3.2	7.4	0.4	0.2	7.9	滑石	北側寄り覆土中層	Q192
3	剥形模造品	3.9	2.1	0.6	−	4.5	滑石	南西隅付近覆土中	Q193

第148 A号住居跡（第344図）

位置 調査区の中央部，F4a$_{11}$区。

重複関係 本跡は，第147号住居跡，第146−B号住居跡及び第149号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり，中央部を第148−B号住居跡に，南西部を第146−A号住居跡にそれぞれ掘り込まれていることから，第147，146−B，149号住居跡より新しく，第148−B，146−B号住居跡よりも古い。

規模と平面形 北東部分がエリア外に延びているため，遺存する南西壁で推定すると，一辺6.14mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N−55°−W

壁 壁高は36cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，入り口部付近が踏み固められている。

ピット 3か所（P_1〜P_3）。P_1は，径24cmの不整円形で，配置や規模から主柱穴と思われる。P_2，P_3は径18〜22cm，深さ7cmの不整円形で性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナーに付設され，長径78cm，短径58cmの楕円形で，深さは76cm，断面形は逆台形である。

貯蔵穴土層解説
1 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
3 鈍い赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量
4 オリーブ褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

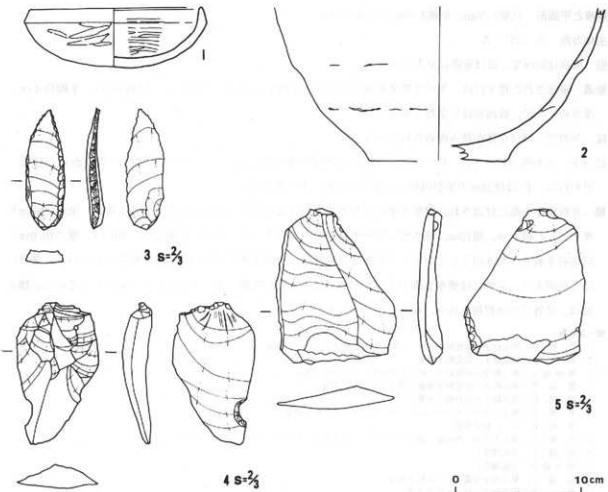
竈 北西壁中央部の壁からやや離れた位置に付設されていたと思われる。第148−B号住居跡の竈構築の際に本跡の竈が掘り込まれてしまい，竈構築材として使用されたと思われる凝灰岩の切石と粘土等が散在するのみである。

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説
1 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 黒褐色 ローム中・小ブロック中量，ローム粒子・粘土中ブロック少量，ローム大ブロック微量
4 暗褐色 ローム大ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量
5 黒色 ローム小ブロック少量
6 黒褐色 ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，炭化粒子微量

遺物 土師器片148点，須恵器片1点が出土している。第346図1の土師器坏，2の甕は南東壁付近覆土上層から，3の尖頭器，5の剥片は同覆土下層から，4の剥片は北西壁付近覆土中層からそれぞれ出土している。3〜5の石器は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀）と思われる。



第346図　第148-A号住居跡出土遺物実測図

第148-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第346図 1	坏 土師器	A 13.5 B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。	スコリア・長石 暗褐色 普通	P853 90% 覆土上層 PL91
2	甕 土師器	B (12.3) C [10.4]	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラナデ，外面ナデ一部ヘラ磨き。体部外面に輪積み痕を残す。	スコリア・砂粒 暗褐色 普通	P854 15% 覆土上層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第346図 3	尖頭器	4.7	1.5	0.5	−	3.7	頁岩	前期壁径近覆土下層	Q194 PL122
4	剥片	5.7	3.2	1.0	−	12.4	頁岩	北西壁径近覆土中層	Q195
5	剥片	6.1	4.7	0.9	−	19.9	頁岩	南東壁径近覆土下層	Q196

第148-B号住居跡（第347図）

位置　調査区の中央部，F4a区。

重複関係　本跡は，第148-A号住居跡を掘り込んでおり，南西部を第146-A号住居跡に掘り込まれていることから，第148-A号住居跡より新しく，第146-A号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸4.06m，短軸3.98mの方形である。

主軸方向　N－33°－W

壁　壁高は52cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，すべて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約14cm，下幅約4cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，ほぼ全体が踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径22～56cmの不整円形，深さ28～78cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径24cmの不整円形で，出入り口ピットと思われる。

竈　北西壁中央部に付設され，竈等が架けられたままのほぼ完全な形で確認する。両袖先端に，床面に6cm程埋め込んだ縦9cm，横12cm，高さ21～25cmの凝灰岩の切石を立て，その上に縦19cm，横67cm，厚さ10.0cmの同切石を載せ，焚き口としている。天井部及び袖部は，山砂粒まじりの白色粘土で構築されている。架け口は2か所あり，左側には竈が支脚の上に，右側には小形甕が支脚を用いずにそれぞれ架けられている。煙道部は，壁外に40cm程掘り込み，ゆるやかに立ち上がっている。

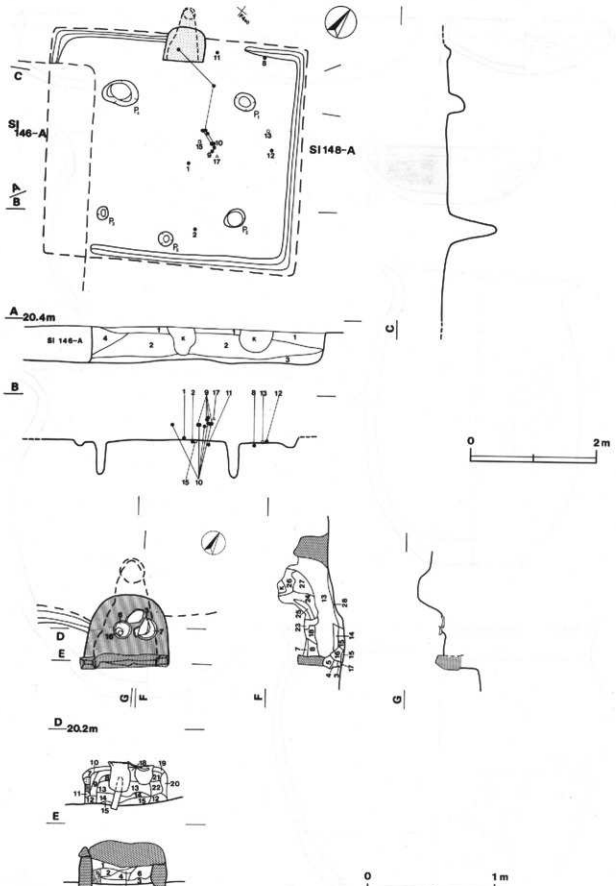
竈土層解説

1	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量	
2	褐色	焼土粒子，炭化粒子微量	
3	褐暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量	
4	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量	
5	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	
6	黒褐色	焼土小ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量	
7	黒褐色	ローム粒子少量	
8	黒褐色	焼土大ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック少量	
9	赤褐色	含有物なし	
10	暗灰黄色	含有物なし	
11	暗褐色	粘土粒子少量，ローム粒子微量	
12	褐色	炭化粒子・ローム粒子少量	
13	黒褐色	焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・凝灰岩大ブロック微量	
14	暗褐色	灰色中量，ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量	
15	暗色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック・黒色土粒子微量	
16	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック微量	
17	赤褐色	焼土大・中ブロック中量	
18	黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	
19	明褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土大ブロック少量	
20	黒褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量	
21	黒褐色	焼土中・小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	
22	赤褐色	焼土中・小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	
23	黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量	
24	赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子少量	
25	暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量，粘土中ブロック微量	
26	黒褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	
27	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土大ブロック微量	
28	明褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量，焼土大ブロック微量	

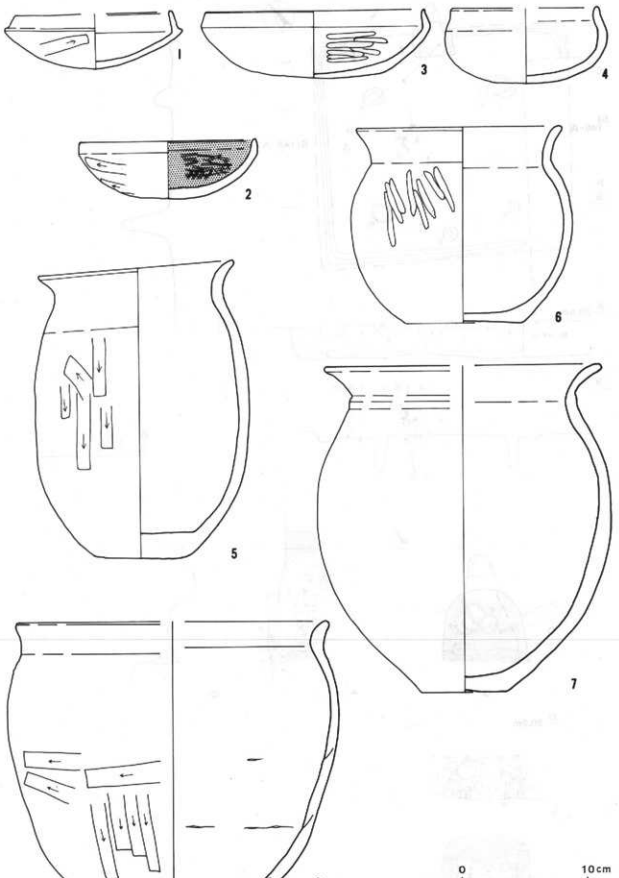
覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

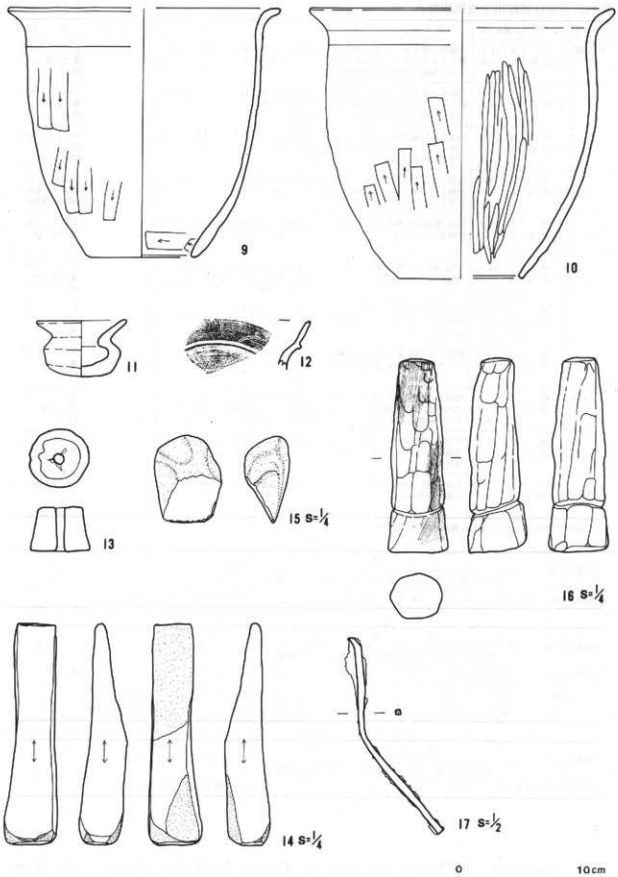
1	黒褐色	ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量	
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量	
3	黒褐色	ローム大ブロック中量，炭化粒子・粘土大ブロック微量	
4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中ブロック微量	



第347図　第148-B号住居跡実測図



第348図　第148-B号住居跡出土遺物実測図(1)



第349図　第148-B号住居跡出土遺物実測図(2)

第148-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第348図 1	坏 土師器	A [12.4] B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	パミス・雲母・砂粒 鈍い褐色 普通	P855 95% 覆土下層 PL90
2	坏 土師器	A 13.8 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に鋭い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内面黒色処理。	石英・長石 暗褐色 普通	P856 95% 覆土下層 PL90
3	坏 土師器	A 17.4 B 5.4 C 9.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後一部ナデ。	礫・スコリア 明褐色 普通	P857 90% 竈内覆土中 PL90
4	坏 土師器	A [11.4] B 6.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。内面に鋭い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英 赤褐色 普通	P858 40% 竈内覆中央 底部ほぼ残存あり PL90
5	甕 土師器	A 15.4 B 23.7 C 6.7	平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P859 98% 竈内覆土中 PL90
6	甕 土師器	A 16.1 B 15.5 C 9.2	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は，外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後磨き。底部ヘラ削り調整。	砂粒・スコリア 赤褐色 普通	P860 98% 竈内覆土中 PL90
7	甕 土師器	A [22.6] B 25.9 C 6.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ一部ヘラ磨き。	砂粒・石英 褐色 普通	P861 40% 床面 PL90
8	甕 土師器	A [24.4] B (21.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	礫・長石 明褐色 普通	P862 30% 覆土上層 PL91
第349図 9	鉢 土師器	A [21.4] B 19.8 C 8.4	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎気味に直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面丁寧なナデ，孔底部ヘラ削り，外面縦位のヘラ削り。	礫・スコリア・長石 明褐色 普通	P863 50% 覆土上層 PL91
10	鉢 土師器	A [23.8] B 21.4	底部から口縁部片。無底式。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面縦位のヘラ削り。	石英・砂粒 黒色 普通	P864 30% 覆土下層 PL91
11	ミニチュア土器 土師器	A 7.0 B 4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	砂粒 黒色 普通	P865 100% 床面 PL91

第349図12は須恵器甕で，頸部に櫛描波文が施される。

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第349図13	紡錘車	4.6	4.6	3.5	0.6	78.0	北東壁付近床面	DP111 PL115

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第349図14	砥石	23.4	5.6	3.8	−	550.2	安山岩	覆土中	Q197 PL120
15	敲石	9.1	7.1	4.7	−	316	安山岩	中央部床面	Q198
16	支脚	20.4	6.2	4.8	−	344.7	凝灰岩	竈内覆土中	Q199

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第349図17	不明鉄製品	(11.5)	1.1	0.3	−	(9.8)	中央部覆土上層	M55 PL124

遺物　土師器片370点，須恵器片6点，弥生土器片1点，軽石1点，山石器剥片3点が出土している。第348・349図1の土師器坏は中央部覆土下層から，15の石器は同床面から，17の不明鉄製品は同覆土上層から，2の坏は南東壁付近覆土下層から，5，6の甕は竈に掛けられた状態で，3の坏は6の甕の口縁部上に乗せら

れて，16の支脚は竈内覆土中から，7の甕は北コーナー付近床面から，9の甑は散在した状態で覆土上層から，10の甑は竈前覆土下層から，8の甕，11の手捏土器，13の紡錘車は北東壁付近床面から，4の坏，14の砥石は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第149号住居跡（第350図）

位置　調査区の中央部，F5b$_1$区。

重複関係　本跡は，第146-B号住居跡の南東部を掘り込んでおり，北部を第148-A号住居跡に掘り込まれていることから，第146-B号住居跡より新しく，第148-A号住居跡よりも古い。

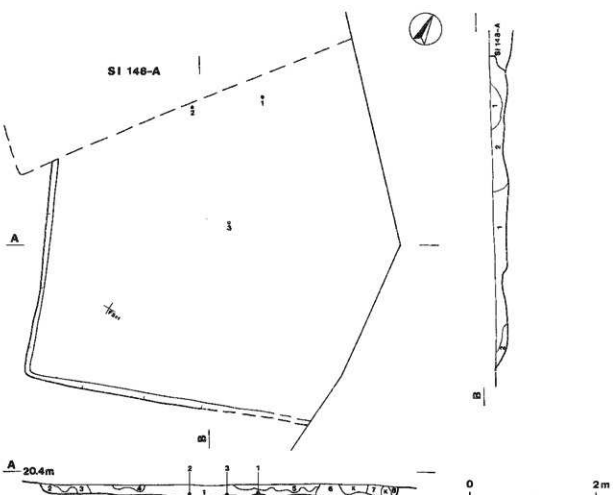
規模と平面形　遺構がエリア外に延び，さらに第148-A号住居跡に掘り込まれているため，遺存する一辺がなく，規模及び平面形は不明である。

主軸方向　N－35°－W

壁　壁高は15～17cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦ではあるが，廃絶後の撹乱が激しく，床の様子は捉えられない。

覆土　8層からなる自然堆積である。



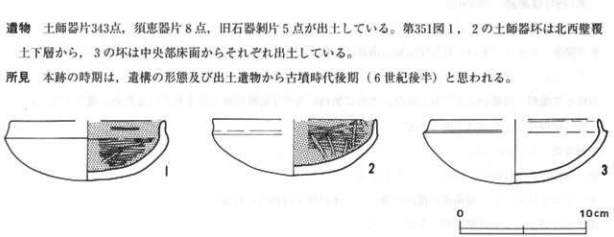
第350図　第149号住居跡実測図

土層解説

1 黒 褐 色 ローム極大ブロック少量，ローム粒子微量
2 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
3 黒 褐 色 ローム大・小ブロック・ローム粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子微量
5 暗 褐 色 焼土粒子・ローム粒子微量
6 黒 褐 色 焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子微量
7 黒 褐 色 焼土粒子・ローム粒子微量
8 黒 褐 色 ローム粒子少量

遺物 土師器片343点，須恵器片８点，旧石器剥片５点が出土している。第351図１，２の土師器坏は北西壁覆土下層から，３の坏は中央部床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半）と思われる。



第351図 第149号住居跡出土遺物実測図

第149号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第351図 1	坏 土師器	A［12.4］ B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立し，外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラナデ。内面黒色処理。	スコリア・長石 暗褐色 普通	P866 90% 覆土下層 PL91
2	坏 土師器	A［13.0］ B 4.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面磨き。内面黒色処理。	スコリア 暗褐色 普通	P867 60% 覆土下層 PL91
3	坏 土師器	A［13.4］ B 5.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	スコリア・長石 赤褐色 普通	P868 50% 床面 PL91

第150－A号住居跡（第352図）

位置 調査区の中央部，E4c$_5$区。

重複関係 本跡は，第151号住居跡と第150－B号住居跡を掘り込んでいることから，第151号住居跡，第150－B号住居跡より新しい。

規模と平面形 遺存する東壁から推定すると，一辺3.45mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N－73°－E

壁 壁高は33～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

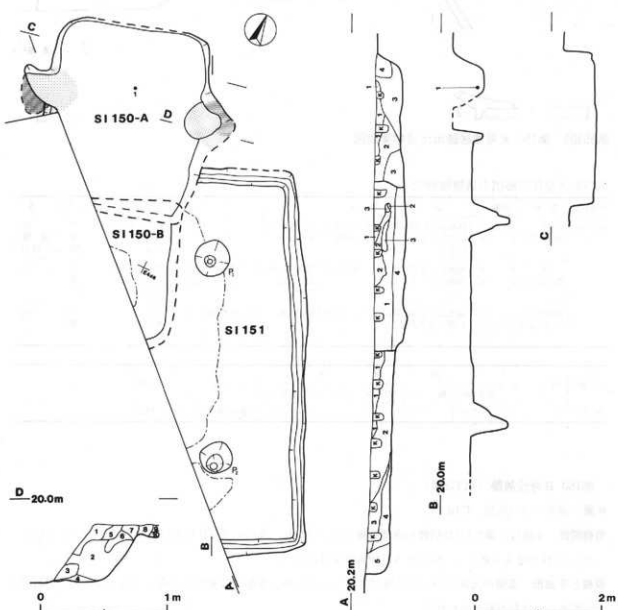
床 平坦で，全体的に軟らかい。

竈 ２か所。竈１は，北東壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く，焼土，粘土ブロック及び粘土粒子をわずかに確認したのみで，袖部等は残っていない。火床部は，わずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は，壁外へ50.0cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。竈２に比べ焼土の量等が貧弱なのは，短期間の使用のためとも考えられる。

竈土層解説

1 黒 褐 色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 黒 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土大ブロック・ローム小ブロック微量
3 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土大ブロック微量
4 黒 褐 色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・灰少量
5 黒 褐 色 粘土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
6 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
7 暗 褐 色 ローム粒子中量
8 暗 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
9 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
10 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

竈2は，北西隅中央部に付設されている。大部分がエリア外のため詳細は不明であるが，焼土，粘土ブロック等が確認でき，焼土の量等から長期間使用されていたと思われる。



第352図　第150-A・150-B・151号住居跡実測図

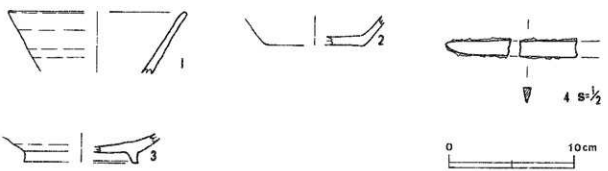
覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　明赤褐色　ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量
4　鈍い橙色　粘土大ブロック多量

遺物　土師器片13点，須恵器片3点が出土している。第353図1の須恵器坏は中央部覆土中層から，2の須恵器坏及び3の須恵器高台付坏は覆土中から，4の刀子は竈覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも覆土中の遺物であるため，詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀頃）と思われる。



第353図　第150－A号住居跡出土遺物実測図

第150－A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第353図 1	坏 須恵器	A（14.1） B（5.4）	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P869　25% 覆土中層　酸化 焼成　PL91
2	坏 須恵器	B（2.4） C（7.6）	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P870　15% 覆土中
3	高台付坏 須恵器	B（2.4） D（9.0） E　0.9	高台部から底部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り調整後高台貼り付け。	長石 褐灰色 普通	P871　10% 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第353図 4	刀子	（7.0）	1.2	0.4	－	（6.0）	竈内覆土中	M56　PL122

第150－B号住居跡（第352図）

位置　調査区の中央部，E4d$_6$区。

重複関係　本跡は，第151号住居跡の西部を掘り込んでおり，第150－A号住居跡に掘り込まれていることから，第151号住居跡より新しく，第150－A号住居跡より古い。

規模と平面形　遺構の大部分がエリア外に延びているため，遺存する東壁から推定すると，一辺2.37m程の方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－20°－W

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

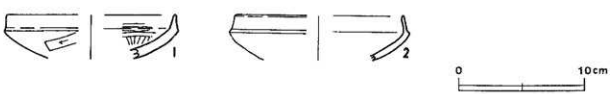
竈　本跡の時期からみて，竈が付設されていると思われるが，エリア外に延びているため確認されていない。

覆土　4層からなる自然堆積，第4層のみ人為堆積である。

土層解説
1　褐　暗　褐　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量
2　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　明　赤　褐　色　焼土粒子多量
4　暗　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片190点，須恵器片8点が出土している。第354図1，2の土師器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半頃）と思われる。



第354図　第150－B号住居跡出土遺物実測図

第150－B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第354図1	坏 土師器	A［13.4］ B（3.5）	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は短く直立する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	石英・スコリア 灰黄褐色 普通	P872 覆土中 15%
2	坏 土師器	A［13.0］ B（3.5）	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は短く内傾する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	スコリア 鈍い黄橙色 普通	P873 覆土中 15%

第151号住居跡（第352図）

位置　調査区の中央部，E4d区。

重複関係　本跡は，北西部を第150－A号住居跡と第150－B号住居跡に掘り込まれていることから，第150－A号住居跡及び第150－B号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する北東壁から推定すると，一辺6.12m程の方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－28°－W

壁　壁高は33cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，すべて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約17cm，下幅約8cm，深さ約14cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，主柱穴の内側部分が踏み固められている。

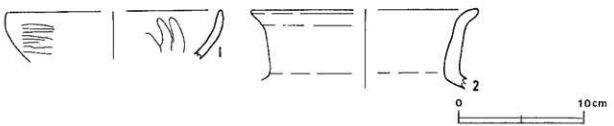
ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1，P_2は，径51～59cmの不整円形，深さ58～62cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子・黒色土中ブロック中量，ローム大ブロック少量
3 極暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
4 黒 褐 色 ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
5 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物 土師器片275点，須恵器片１点が出土している。第355図１の土師器坏，２の土師器甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，細片が多くしかも覆土中の遺物のため，詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期～後期（５世紀～６世紀頃）と思われる。



第355図　第151号住居跡出土遺物実測図

第151号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第355図 1	坏 土師器	A［16.9］ B（3.9）	体部から口縁部片。体部は内弯して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面横位のヘラ磨き。	長石 鈍い黄橙色 普通	P874 10% 覆土中
2	甕 土師器	A［17.8］ B（6.2）	口縁部片。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面ヘラ磨き，外面縦位のナデ。	スコリア・石英 暗褐色 普通	P875 5% 覆土中 PL91

第152号住居跡（第356図）

位置 調査区の中央部，E4b₇区。

重複関係 本跡は，西部を第163号土坑に掘り込まれていることから，第163号土坑よりも古い。

規模と平面形 長軸2.85m，短軸2.56mの方形である。

主軸方向 N－79°－E

壁 壁高は５cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，全体的に軟らかい。

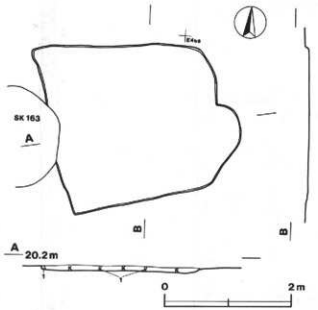
竈 東壁中央部に薄い焼土が確認されており，その位置に竈付設の可能性がある。しかし，粘土粒子等が確認されていないことや，出土遺物等から考えると確定はできない。

覆土 １層からなる自然堆積である。

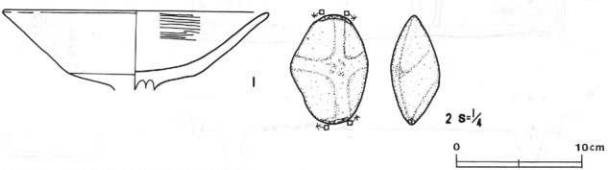
土層解説
1 褐 色 ローム粒子多量

遺物 土師器片31点が出土している。第357図１の土師器坏は覆土中から出土しているが，流れ込みの可能性も否定できない。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細は不明である。



第356図　第152号住居跡実測図



第357図　第152号住居跡出土遺物実測図

第152号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第357図 1	高　坏 上　部　器	A　20.8 B（6.3）	坏部片。坏部は下位に稜を持ち，直線的に外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁端部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面粗いハケナデ。	礫・長石 赤褐色 普通	P876　40% 床面 PL91

図版番号	種　別	計　測　値					石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第357図2	敲　石	11.4	8.0	5.1	－	431.6	安　山　岩	覆　土　中	Q200

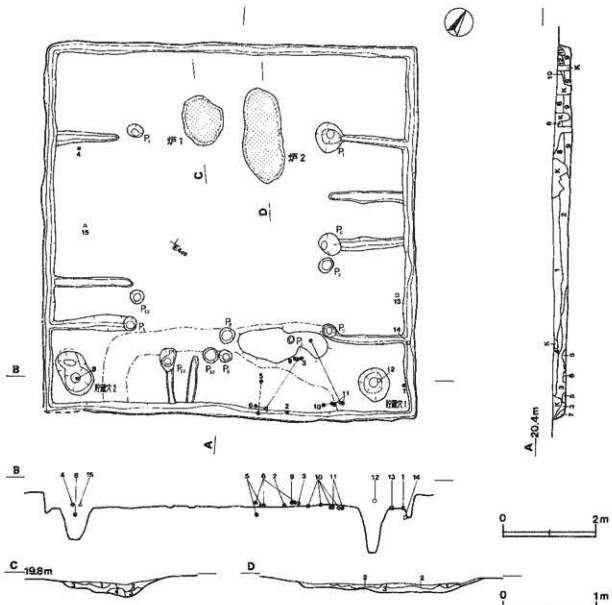
第153－A号住居跡（第358図）

位置　調査区の中央部，E4c$_9$区。

規模と平面形　長軸7.93m，短軸7.90mの方形である。

主軸方向　N－35°－W

壁　壁高は5～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。



第358図　第153－A号住居跡実測図

壁溝　全周する。上幅約18cm，下幅約９cm，深さ約13cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，全体的に踏み固められている。出入り口ピット周囲は硬化し，高まりを形成している。北東壁から４条，南西壁から３条，南東壁から２条の溝が中央に向かって延びている。上幅約13～34cm，下幅約９～16cm，深さ約６～17cm，長さ63～166cmで，断面形はU字形である。

ピット　12か所（P_1～P_{12}）。P_1～P_4は，径39～64cmの不整円形，深さ57～75cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径16cmの不整円形，深さ17cmで，出入り口ピットと思われる。P_6は径32cm，深さ52cmの不整円形で主柱穴の中間に位置しており，柱穴の可能性がある。P_7，P_8は径36～46cmの不整円形，深さ27cmで，壁から中央に延びる溝の端に位置していることから，この溝に伴う性格のピットの可能性がある。P_9～P_{12}は径26～33cmの不整円形，深さ18～37cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は東コーナーに付設され，径68cmの円形で，深さは95cm，断面形は逆台形である。貯蔵穴２は南コーナーに付設され，長径104cm，短径62cmの不整楕円形，深さは66cmで，断面形は逆台形である。

炉　2か所。炉1は，中央部から北西寄りに位置し，長径104cm，短径84cmの楕円形で，床面を17cm掘り窪めた地床炉である。炉床は，赤変硬化している。

炉1・2土層解説

1	赤	褐	色	焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土大ブロック少量
2	赤	褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
3	黒		色	ローム大ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
4	赤		色	ローム粒子多量，ローム大・中ブロック中量

炉2は，炉1の東隣に位置し，長径196cm，短径79cmの楕円形で，床面を9cm掘り窪めた地床炉である。炉床は，赤変硬化している。中央がややくびれる形状から，本来2基の炉が存在した可能性もある。

覆土　12層からなる自然堆積である。

土層解説

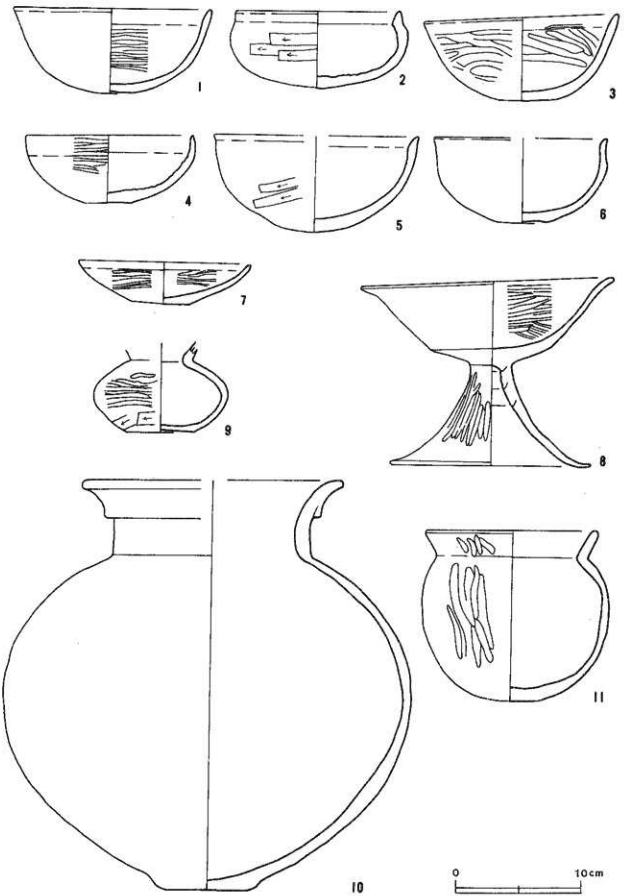
1	黒		色	ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
2	黒	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3	黒	褐	色	ローム大ブロック・ローム粒子少量
4	黒		色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
5	黒	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック微量
6	黒		色	ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
7	黒	褐	色	炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量
8	黒	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
9	黒	褐	色	ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
10	黒		色	ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
11	黒		色	ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
12	黒	褐	色	炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片1，483点，須恵器片8点，縄文土器片1点，弥生土器片6点，軽石5点が出土している。第359・360図1の土師器坏は東コーナー付近覆土下層から，12の土玉は同覆土上層から，2，5の坏，10の壺，11の小形甕は南東壁付近覆土下層から，3，6の坏，9の壺は同覆土中層から，4の坏，15の鋤先は南西壁覆土下層から，7の坏は炉内覆土中から，8の高坏は南コーナー付近床面から横位の状態で，13の紡錘車は北東壁付近覆土下層から，14の有孔円板は同床面から，それぞれ出土している。

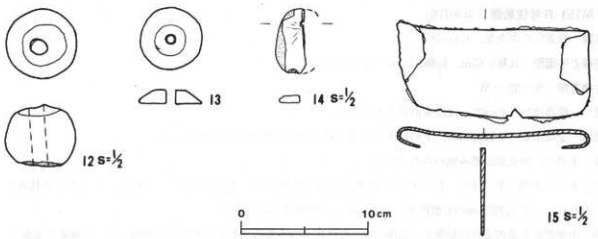
所見　本跡は，第153-B号住居跡（旧住居跡）の床面を約10cm埋め戻し，四方に100～105cm拡張して住居を再構築している。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀中葉）と思われる。

第153-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第359図1	坏 土師器	A 15.6 B 6.7 C 3.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。内面に丁寧に横ナデ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。	スコリア・パミス・長石 明褐色 普通	P877　95% 覆土下層 PL91
2	坏 土師器	A 12.9 B 6.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。内面に丁寧に横ナデ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後磨き。	スコリア・長石 赤褐色 普通	P878　90% 覆土下層　体落 内面剥離　PL91
3	坏 土師器	A 15.3 B 7.0 C 3.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ後ヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	スコリア・砂粒・長石 明褐色 普通	P879　80% 覆土中層 PL91
4	坏 土師器	A 13.3 B (5.5) C 3.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内面ナデ，外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	長石・パミス 明赤褐色 普通	P880　80% 覆土下層　体落 内面剥離　PL91
5	坏 土師器	A (16.2) B 7.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎してやや上がり，そのまま口縁端部に至る。内面に横を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	砂粒・スコリア・長石 赤褐色　普通	P881　70% 覆土下層 PL91



第359図　第153-A号住居跡出土遺物実測図(1)



第360図　第153-A号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	坏 土師器	A [13.7] B 6.7 C 4.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ後磨き。体部内面磨き，外面ヘラ削り後磨き。	スコリア・雲母・石英 橙色 普通	P882　60% 覆土中層 PL92
7	坏 土師器	A 13.6 B 3.4 C 4.8	底部から口縁部片。平底。体部は緩く内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	スコリア 明褐色 普通	P884　80% 炉内覆土中 PL92
8	高坏 土師器	A 19.8 B 15.0 D 13.9 E 8.0	脚部から口縁片。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開く。坏部は下位に稜を持ち，外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。脚部内面に輪積み痕を残す，外面縦位のヘラ磨き。	礫・長石 赤褐色 普通	P883　98% 床面 PL92
9	壺 土師器	B (7.0) C 5.2	底部から体部片。平底。体部はつぶれた算盤玉状である。	体部内面ナデ，外面上半ナデ→ヘラ磨き，下半ヘラ削り後ナデ。	スコリア・礫・長石 普通	P892　70% 覆土中層 PL92
10	壺 土師器	A [20.4] B 32.8 C 6.5	底部から口縁部片。平底。体部は球形状で，最大径を中位に持つ。口縁部は外反し，複合口縁を呈する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・スコリア 橙色 普通	P894　60% 覆土下層 PL92
11	小形甕 土師器	A 13.2 B 13.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面ヘラ磨き。体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。	砂粒 黒色 普通	P895　70% 覆土下層 PL92

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第359図12	土玉	3.2	3.7	3.7	0.8	42.5	東コーナー覆土上層	DP113

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第359図13	紡錘車	5.0	5.0	1.1	0.7	36.5	滑石	北東壁付近覆土下層	Q201　PL121
14	有孔円板	3.4	(1.6)	0.4	−	(3.3)	滑石	北東壁付近床面	Q203

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第359図15	鋤先	10.2	5.5	1.1	−	48.6	中央部付近覆土上層	M57

第153-B号住居跡（第361図）

位置　調査区の中央部，E4c₉区。

規模と平面形　長軸5.65m，短軸5.53mの方形である。

主軸方向　N－33°－W

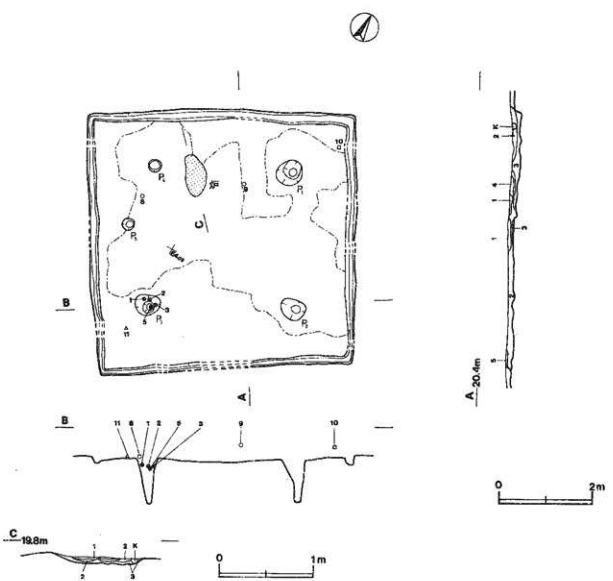
壁　壁高は29～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約14cm，下幅約8cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径26～52cmの不整円形，深さ83～94cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径25cmの不整円形，深さ63cmで，性格は不明である。

炉　中央部から北西よりに位置し，長径87cm，短径45cmの不整楕円形で，床面を6cm掘り窪めた地床炉である。炉床は，赤変硬化している。



第361図　第153-B号住居跡実測図

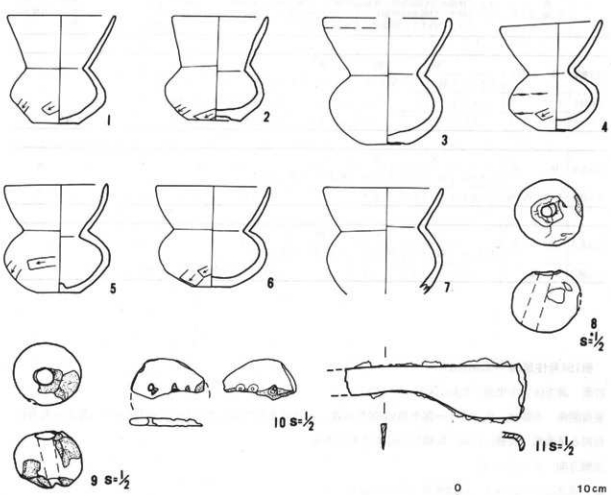
炉土層解説
1 灰 褐 色 焼土小ブロック・灰中量
2 明 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子中量
3 褐 色 ローム粒子中量

覆土 5層からなる人為堆積である。(埋め戻した土層)

土層解説
1 黄 褐 色 ローム極大・大・中ブロック・ローム粒子中量
2 黒 色 ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
3 褐 色 ローム極大・小ブロック・ローム粒子中量
4 黒 褐 色 ローム大・小ブロック・ローム粒子少量，ローム極大ブロック微量
5 黒 褐 色 ローム大ブロック・ローム粒子少量

遺物 第362図1～7の土師器坩は同一ピット内（P_3）覆土中からまとまった状態で，8の土玉は南西壁付近覆土下層から，11の鎌は同覆土下層から，9の土玉は中央部覆土上層から，10の有孔円板は北コーナー付近覆土中層からそれぞれ出土している。ピット内から出土した7個の坩は，拡張前住居跡の柱穴内覆土下層から，すべてがほぼ完形の状態で出土していることから，住居拡張に伴う祭祀等の可能性も考えられる。

所見 本跡は，遺構の形態から，第153-A号住居跡の住居拡張前の住居跡（旧住居跡）と考えられる。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と思われる。



第362図 第153-B号住居跡出土遺物実測図

第153-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第362図 1	坩 土師器	A 8.5 B 8.7 C 3.6	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で、口縁部は外傾して立ち上がり、そのまま端部に至る。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面横ナデ、外面ナデ。体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ削り。	スコリア・砂粒 鈍い橙褐色 普通	P885 98% ピット内覆土中 PL92
2	坩 土師器	A 7.5 B 8.4 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で、口縁部は外傾してやや立ち上がり、そのまま端部に至る。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面横ナデ、外面ナデ。体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ削り。	礫 黄褐色 普通	P886 95% ピット内覆土中 PL92
3	坩 土師器	A [9.8] B 10.8 C 3.1	口縁部一部欠損。平底。体部は球形状で、口縁部は外傾してやや上がり、端部は真立する。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面ヘラ磨き、外面縦位のハケナデ。体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ削り後ナデ。	石英・パミス・スコリア 赤色 普通	P887 95% ピット内覆土中 PL92
4	坩 土師器	A 8.0 B 8.8 C 2.7	口縁部一部欠損。平底。体部は鉢盤玉状で、口縁部は外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面横ナデ、外面ナデ。体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ削り。口縁部と体部の境に接合痕を残す。	パミス・スコリア 赤褐色 普通	P888 95% ピット内覆土中 PL92
5	坩 土師器	A 8.0 B 8.6 C 3.2	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で、口縁部はわずかに内彎気味に外傾して立ち上がり、端部は直立する。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面横ナデ、外面縦位のハケナデ。体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ削り。	スコリア・石英 極暗赤褐色 普通	P889 90% ピット内覆土中 PL92
6	坩 土師器	A 8.9 B 8.0 C 3.0	口縁部一部欠損。平底。体部はつぶれた算盤玉状で、口縁部はわずかに内彎気味に立ち上がり、端部は真立する。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面横ナデ、外面ナデ。体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ削り。	石英・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P890 90% ピット内覆上中 PL92
7	坩 土師器	A 9.4 B (8.5)	体部から口縁部片。体部は算盤玉状で、口縁部は外傾してやや立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面横ナデ、外面ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・スコリア 橙色 普通	P891 70% ピット内覆土中 PL92

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第362図8	土玉	3.3	3.6	3.5	0.8~0.9	38.7	調査区中北部より	DP112
9	土玉	3.0	3.6	3.3	0.7~1.0	27.7	中央部付近覆土上層	DP114

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第362図10	有孔円板	(3.1)	3.9	0.4	-	(4.5)	滑石	北コーナー覆土中位	Q202

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第362図11	鏃	(9.7)	3.4	0.2	-	(23.5)	中央部付近覆土下層	M38 PL123

第154号住居跡（第363図）

位置　調査区の中央部，E4e₈区。

重複関係　本跡は，南コーナー部を第155号住居跡に掘り込まれていることから，第155号住居跡よりも古い。

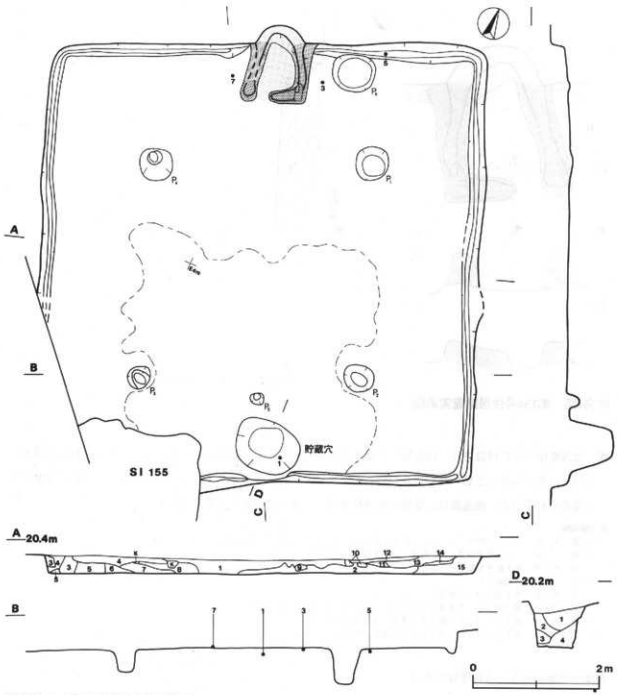
規模と平面形　長軸7.10m，短軸7.00mの方形である。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は20～28cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，すべて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約19cm，下幅約6cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，入り口部から中央部にかけて踏み固められている。



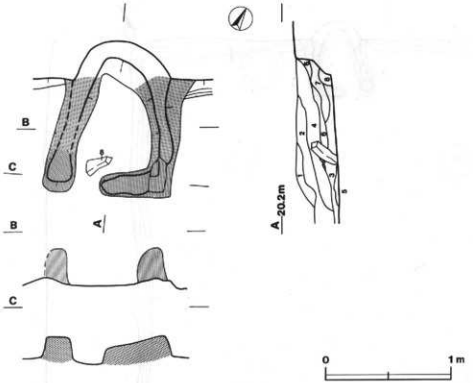
第363図　第154号住居跡実測図

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は，径33～52cmの不整円形，深さ35～55cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径20.0cmの不整円形，深さ21cmで，出入り口ピットと思われる。P_6は径57cm，深さ35cmの不整円形で性格は不明である。

貯蔵穴　入り口部に付設され，長径107cm，短径78cmの楕円形で，深さは66cm，断面形は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大・中ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量
4　黄　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック微量



第364図　第154号住居跡竈実測図

竈　北西壁中央部に付設され，白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されている。竈先端に凝灰岩の切石を立て，その上に架けられたと思われる横長の切石が崩落した状態で確認されている。火床部は，わずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は，壁外へ26cm程突出し，壁の内側から外傾して立ち上がっている。

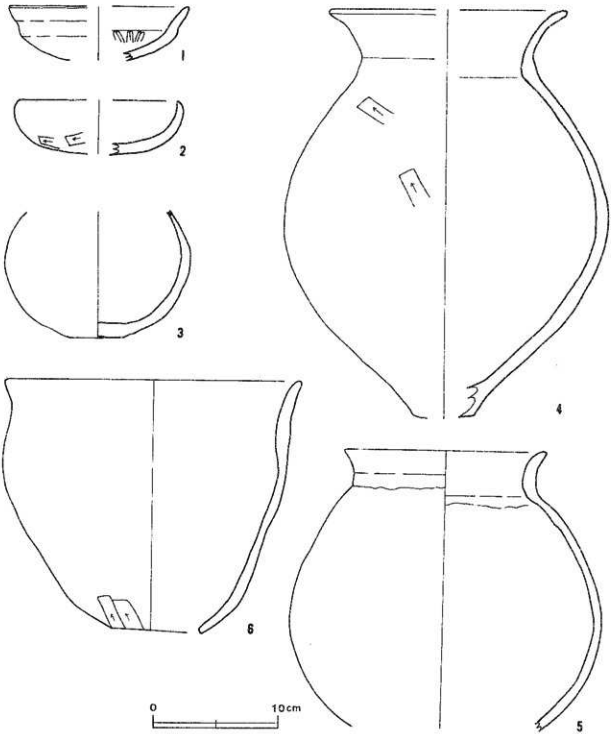
竈土層解説

1	黄	褐	色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土大ブロック少量，炭化粒子微量
2	褐		色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土大ブロック少量
3	黒	褐	色　焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土大・中ブロック微量
4	黄		色　（凝灰岩）
5	赤	褐	色　焼土大ブロック多量
6	暗赤	褐	色　焼土中ブロック多量，焼土小ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子・灰少量
7	赤	褐	色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子中量
8	明赤	褐	色　焼土小ブロック・焼土粒子・灰多量，焼土中ブロック少量

覆土　15層からなる人為堆積である。

土層解説

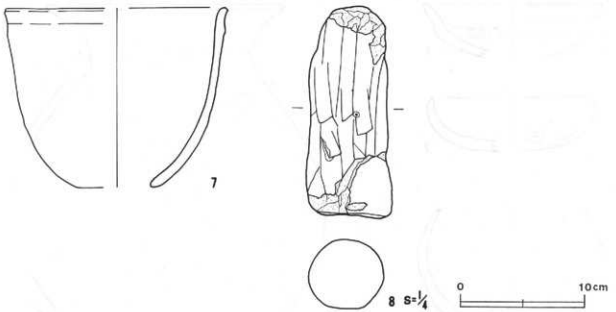
1	黒	褐	色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大・中・小ブロック少量
2	褐		色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・粘土粒子少量
3	灰黄	褐	色　ローム粒子多量，ローム大・小ブロック少量
4	黒	褐	色　ローム粒子中量
5	黒	褐	色　ローム粒子中量，ローム大ブロック微量
6	暗	褐	色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
7	暗	褐	色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
8	黒	褐	色　ローム大ブロック，ローム粒子少量
9	暗	褐	色　ローム大ブロック・ローム粒子中量
10	黒	褐	色　ローム粒子中量
11	暗	褐	色　ローム大ブロック・ローム粒子中量
12	黒		色　ローム大ブロック・ローム粒子少量
13	黒	褐	色　ローム大・中ブロック・ローム粒子多量
14	黒	褐	色　ローム大ブロック・ローム粒子多量
15	褐		色　ローム大・中ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量



第365図　第154号住居跡出土遺物実測図(1)

第154号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第365図 1	坏 土師器	A〔11.1〕 B〔4.3〕	底部から口縁部片。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外傾する。外面に稜を持つ。	口縁部内面横位のヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。	砂粒 橙色 普通	P896 20% 貯蔵穴内覆土中
2	坏 土師器	A〔12.6〕 B〔4.3〕	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は短く内傾する。	口縁部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・スコリア 橙色 普通	P897 20% 覆土中



第366図　第154号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	壺 土師器	B (10.0) C 4.5	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	スコリア 暗褐色 普通	P898 40% 床面 PL92
4	甕 土師器	A [18.6] B 32.4 C 4.8	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P899 50% 竈内覆土中 PL92
5	甕 土師器	A 15.7 B (22.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部と体部との境に接合痕を残す。	砂粒・長石・石英 極暗赤褐色 普通	P900 40% 床面 PL92
6	甕 土師器	A 23.0 B 20.0 C 7.0	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り一部ヘラ磨き。	スコリア・砂粒・礫 暗赤褐色 普通	P901 70% 覆土中 PL92
第366図 7	瓶 土師器	A [17.3] B 14.2 C [5.1]	底部から口縁部片。単孔式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁端部がわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。孔周囲粗いヘラナデ。	石英・砂粒・スコリア 赤褐色 普通	P902 25% 床面 PL92

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第366図8	支脚	22.1	9.0	7.1	−	783.6	凝灰岩	竈内覆土中　PL121

遺物　土師器片311点，須恵器片10点，弥生土器片１点が出土している。第365・366図１の土師器坏は貯蔵穴内覆土中から，３の壺は逆位で，７の瓶はつぶれた状態で竈横床面から，４の甕，８の支脚は竈内覆土中から，５の甕は北西壁床面から，２の坏，６の瓶は覆土中からそれぞれ出土している。

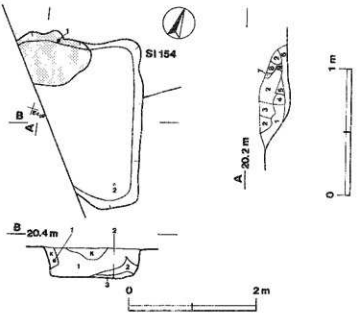
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀前半）と思われる。

第155号住居跡（第367図）

位置　調査区の中央部，E4f₄区。

重複関係　本跡は，第154号住居跡の南西部を掘り込んでいることから，第154号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　遺存する北東壁から推定すると，一辺2.7m 程の方形あるいは長方形と思われる。



第367図　第155号住居跡実測図

主軸方向　N－24°－W

壁　壁高は44cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

竈　北西壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されている。遺存状態が悪く，竈を構築していたと思われる粘土とわずかな焼土を確認する。火床部は，わずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　褐い黄褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量
2　黄　褐　色　含有物なし
3　灰黄褐色　ローム小ブロック・粘土粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
5　暗　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　黒　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
7　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子少量
8　黒　褐　色　含有物なし
9　暗　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック微量

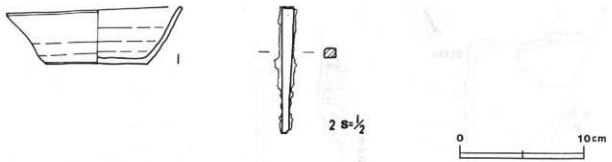
覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，ローム極大ブロック少量。
2　黒　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム大・中ブロック多量，ローム粒子少量

遺物　土師器片103点，須恵器片2点，弥生土器片1点が出土している。第368図1の須恵器坏は竈内覆土中から，2の鉄は東コーナー床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（8世紀末～9世紀初頭）と思われる。



第368図　第155号住居跡出土遺物実測図

第155号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第368図 1	坏 須恵器	A 13.8 B 4.6 C 8.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り調整。	長石 褐灰色 普通	P903　80% 覆土中層 PL93

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第368図 2	刻	(6.7)	1.1	0.5	−	(7.2)	東コーナー床直	M59　PL124

第156号住居跡（第369図）

位置　調査区の中央部，E4e₀区。

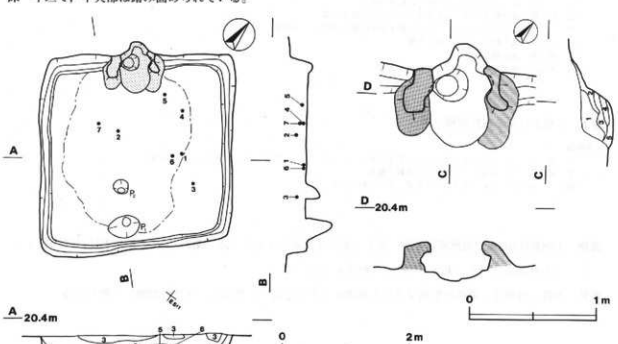
規模と平面形　長軸3.37m，短軸3.06mの方形である。

主軸方向　N－42°－W

壁　壁高は30～31cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約9cm，下幅約6cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。



第369図　第156号住居跡実測図

ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1は，径36cmの不整円形，深さ42cmで，出入り口ピットと思われる。P_2は径24cmの不整円形，深さ25cmで，性格は不明である。

竈　北西壁中央部に付設され，山砂，白色粘土及び芯材として使用した凝灰岩の切石とで袖部が構築されている。火床部は，皿状に11cm程掘り窪められている。煙道部は，壁外へ19cm程突出し，壁の内側から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，焼土中ブロック・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　炭多量，焼土小ブロック中量・焼土粒子・粘土粒子少量
4　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭多量，炭化粒子中量，焼土中ブロック少量
5　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭多量，炭化粒子中量，焼土中ブロック少量

覆土　7層からなる人為堆積である。

土層解説

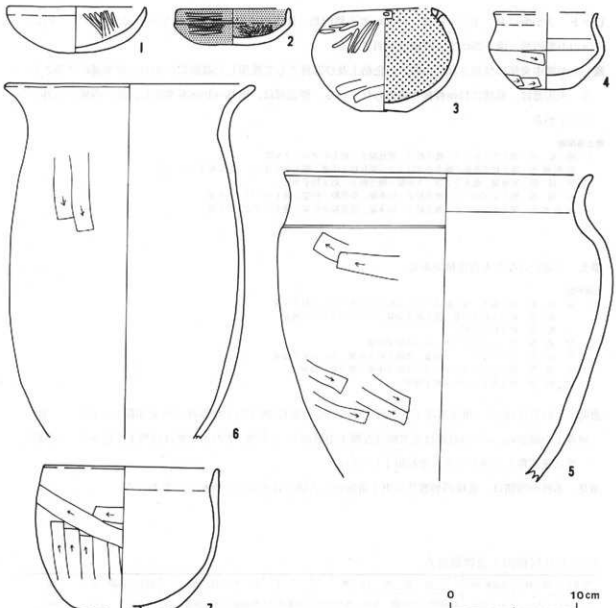
1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
3　黒　褐　色　炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，黒色土粒子中量，ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　焼土粒子・ローム粒子微量

遺物　土師器片125点，須恵器片1点が出土している。第370図1の土師器坏は中央部覆土下層から，2の坏は同覆土中層から，3の小形壺は北東壁付近覆土中層から，6の甕，7の小形甕は同覆土下層から，4小形壺，5の甕は竈前覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀）と思われる。

第156号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第370図 1	坏 土師器	A 10.8 B 3.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・長石 黄褐色 普通	P904　98% 覆土下層 PL93
2	坏 土師器	A 8.8 B 2.9 C 3.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。内・外面黒色処理。	スコリア 黒色 普通	P905　98% 覆土中層 PL92
3	小形壺 土師器	A 7.3 B 8.2 C 3.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部に1対の孔が穿たれる。	口縁部及び体部内面ヘラ．外面上半ヘラ磨き，下半ヘラ削り。体部内面赤彩。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P906　98% 覆土中層 PL93
4	小形壺 土師器	A［8.2］ B 6.2 C 4.4	底部から口縁部片。平底。体部は算盤玉状で，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上半ナデ，下半粗いヘラ削り。	砂粒・礫 灰褐色 普通	P907　90% 覆土下層 PL93
5	甕 土師器	A 24.5 B (24.3)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後磨き。	長石・スコリア 黄褐色 普通	P908　50% 覆土下層 PL93
6	甕 土師器	A 19.7 B (28.0)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ．体部内面ナデ，外面縦位のヘラ削り。	長石・スコリア 褐色 普通	P909　50% 覆土下層 PL93
7	小形甕 土師器	A 13.6 B 11.7 C［7.5］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英・スコリア・長石 黒色 普通	P910　40% 覆土下層 PL93



第370図　第156号住居跡出土遺物実測図

第157号住居跡（第371図）

位置　調査区の中央部，E4g₀区。

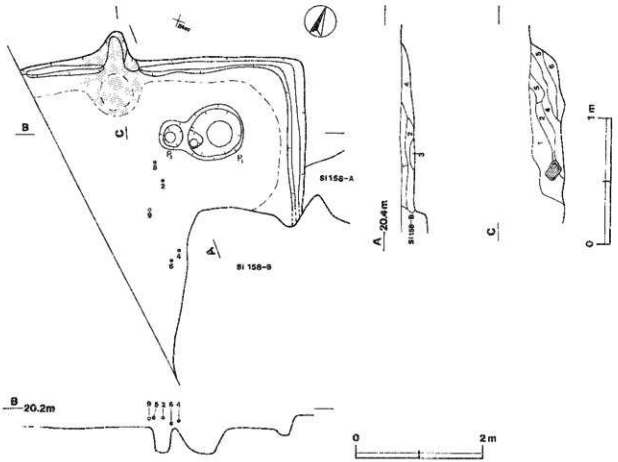
重複関係　本跡は，第158-A号住居跡の北西部を掘り込んでおり，北西部を第158-B号住居跡に掘り込まれていることから，第158-A号住居跡より新しく，第158-B号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する北東壁から推定すると，一辺4.0m程の方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－23°－W

壁　壁高は24cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，すべて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約18cm，下幅約9cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。



第371図　第157号住居跡実測図

床　平坦で，壊際を除き踏み固められている。

ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1は，径89cmの不整円形，深さ43cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_2は径28cmの不整円形，深さ39cmで，性格は不明である。

竈　北西壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は残っていない。火床部は，22cm程皿状に掘り窪められ，中から焼土層が確認されている。煙道部は，壁外へ49.0cm程四角に掘り込み，その中に壁の内側から外傾して立ち上がる煙道を構築している。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　鈍い黄褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　極暗赤褐色　ローム小ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・灰多量，炭化粒子・粘土粒子少量
5　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子少量

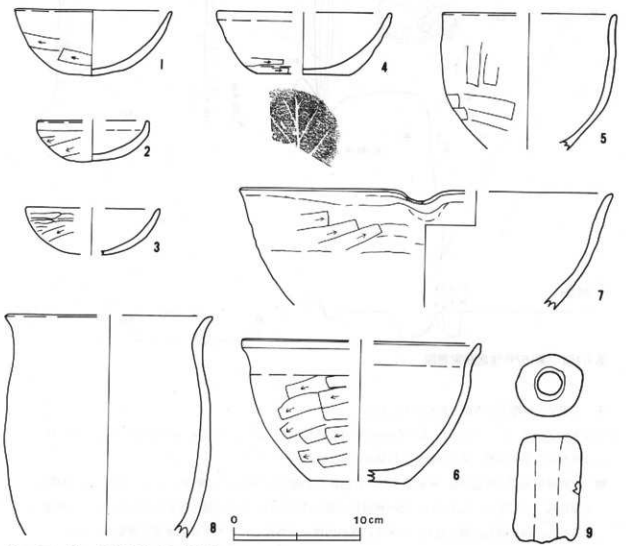
覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
4　褐　色　焼土粒子・粘土粒子多量，焼土小ブロック・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片738点，須恵器片14点，不明鉄製品片５点が出土している。第372図２，４の土師器坏，５の椀，９の管状土錘は中央部覆土下層から，７の甕は同床面から，１，３の坏，８の甕，６の小形甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（７世紀）と思われる。



第372図　第157号住居跡出土遺物実測図

第157号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第372図 1	坏 土師器	A 12.4 B 5.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	スコリア・石英 赤褐赤褐色 普通	P911　85% 覆土中 PL93
2	坏 土師器	A［8.6］ B 3.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 暗褐色 普通	P912　50% 覆土下層 PL93
3	坏 土師器	A［10.5］ B（3.7）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ナデ，外面ヘラ削り一部ヘラ磨き。	石英・スコリア 褐色 普通	P913　40% 覆土中 PL93

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	坏 土師器	A [13.8] B 4.9 C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ちあがり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ナデ一部ヘラ削り。	スコリア・石英・パミス 褐暗褐色 普通	P914 40% 覆土下層 底部に木葉痕あり
5	鉢 土師器	A [13.7] B 10.8	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	スコリア・長石・石英 赤褐色 普通	P915 30% 覆土下層
6	小形壺 土師器	A [18.7] B 11.2 C [7.6]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面横位のヘラ削り。	砂粒 褐色 普通	P916 30% 覆土中 PL93
7	甕 土師器	A [29.8] B (9.2)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。口縁部に片口が付く。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	砂粒・スコリア・石石 明褐色 普通	P917 20% 床面 PL93
8	甕 土師器	A [16.4] B (17.4)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・砂粒 鈍い黄橙色 普通	P918 30% 覆土中 PL93

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第372図9	管状土錘	8.5	5.2	4.9	1.8	202.9	中央部付近覆土下層	DP115 PL116

第158-A号住居跡（第373図）

位置　調査区の中央部，E5g$_1$区。

重複関係　本跡は，第157号住居跡，第159号住居跡及び第158-B号住居跡にそれぞれ掘り込まれていることから，3軒の住居跡よりも古い。

規模と平面形　コーナー部が遺存する南西壁から推定すると，一辺6.79m程の方形あるいは長方形であると思われる。

主軸方向　N－49°－W

壁　壁高は9cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

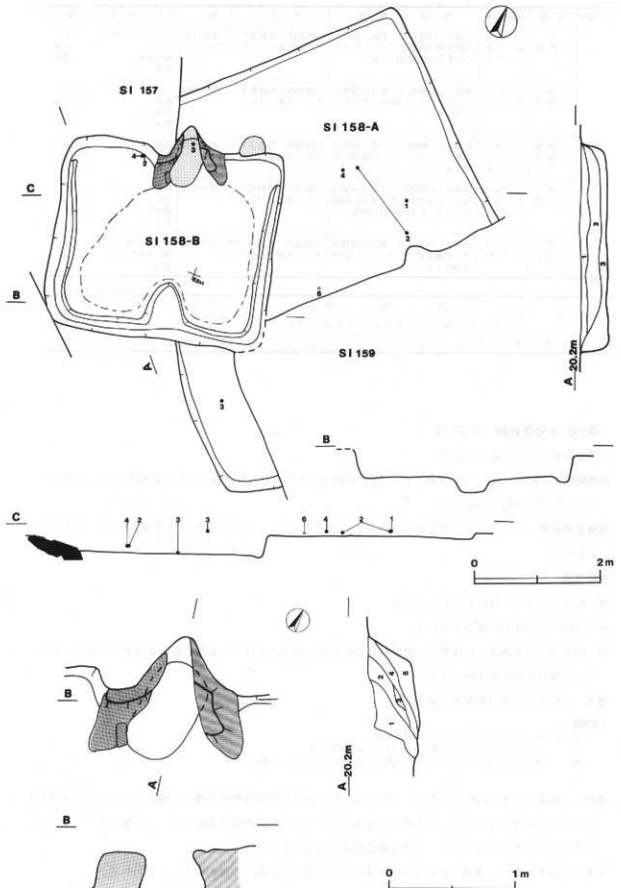
炉　中央部から北西よりに位置し，第158-B号住居跡に掘り込まれているため形状等は不明である。床面をわずかに掘り窪めた地床炉である。

覆土　3層からなる自然堆積である。

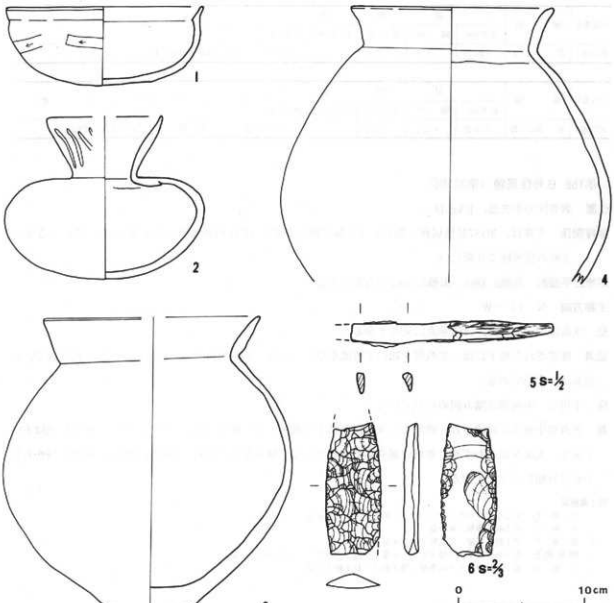
土層解説
1　明褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム大ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片150点が出土している。第374図1の土師器坏は北東壁付近覆土下層から，2の坩は中央部付近に散在した状態で床面から，4の甕は同床面から，5の刀子は中央部床面から，3の甕は南コーナー付近床面からそれぞれ出土している。6の尖頭器は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。



第373図　第158-A・158-B号住居跡実測図



第374図　第158－A号住居跡出土遺物実測図

第158－A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第374図 1	坏 土師器	A 15.7 B 6.2	底部から口縁部片。平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・パミス 赤褐色 普通	P919　70% 覆土下層 PL93
2	壺 土師器	A［9.0］ B 12.9	底部から口縁部片。丸底。体部はつぶれた球形状で，口縁部は外傾し，端部は直立する。	口縁端部内・外面横ナデ。口縁部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。体部内面ナデ，外面上半ヘラ磨き，下半ヘラ削り後ヘラ磨き。	スコリア・石英 褐色 普通	P920　50% 床面 PL93
3	甕 土師器	A［17.1］ B 23.3 C 6.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，ナデー部外面ヘラ削り。	砂粒・礫 鈍い赤褐色 普通	P921　80% 床面 PL93
4	甕 土師器	A 16.1 B 21.8	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	砂粒・長石 暗褐色 普通	P922　35% 床面 PL93

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第374図5	刀子	(10.7)	1.2	0.4	−	(15.6)	中央部竪穴床面	M60 PL122

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第374図6	尖頭器	(5.2)	2.2	0.5	−	(8.9)	頁岩	覆土中	Q205 PL122

第158−B号住居跡（第373図）

位置 調査区の中央部，E4g$_0$区。

重複関係 本跡は，第157号住居跡，第158−A号住居跡及び第159号住居跡をそれぞれ掘り込んでいることから，3軒の住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸3.48m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向 N−14°−W

壁 壁高は33〜35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には，北西壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約14cm，下幅約10cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。

竈 北西壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土と凝灰岩とで構築されているが，残りが悪く形状は不明である。火床部は，わずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は，壁外へ45cm程突出し，壁の内側から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1 明褐色 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
2 黄褐色 粘土粒子多量，灰中量
3 黒褐色 焼土粒子多量，炭化粒子・灰少量
4 明赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・灰多量，焼土中ブロック・粘土粒子少量
5 黒褐色 焼土小ブロック・灰多量，焼土粒子・粘土粒子少量

覆土 4層からなる自然堆積である。

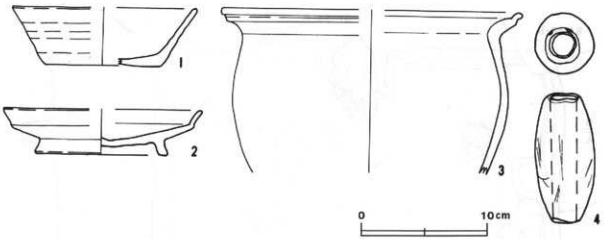
土層解説
1 黒褐色 焼土小ブロック，ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・ローム中ブロック微量
4 暗褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック・粘土大ブロック中量，ローム中ブロック微量

遺物 土師器片33点，須恵器片11点が出土している。第375図2の須恵器壺，4の管状土錘は竈前覆土中層から，3の土師器甕は竈内覆土中から，1の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第158−B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第375図1	坏 須恵器	A［14.5］ B 4.6 C［9.0］	底部からLI緩傾斜。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石・針状鉱物 灰白色 普通	P923 20% 覆土中 PL93



第375図　第158－B号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	壺 須恵器	A［15.6］ B　3.6 D　10.3 E　1.3	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾し，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後高台張り付け。	長石・針状鉱物 褐灰色 普通	P924　60% 覆土中層 PL93
3	甕 土師器	A［23.4］ B（12.9）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反し，端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・砂粒 暗褐色 普通	P925　5% 竈内覆土中 PL93

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第375図4	管状土錘	10.2	4.7	4.8	1.7～2.1	190.5	竈前覆土中層	DP116

第159号住居跡（第376図）

位置　調査区の中央部，E5h$_2$区。

重複関係　本跡は，第158－A号住居跡の南東部を掘り込んでおり，南東部の床上に第160号住居跡が床を構築し，第158－B号住居跡に西コーナーの一部を掘り込まれていることから，第158－A号住居跡より新しく，第158－B号住居跡と第160号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.51m，短軸6.27mの方形である。

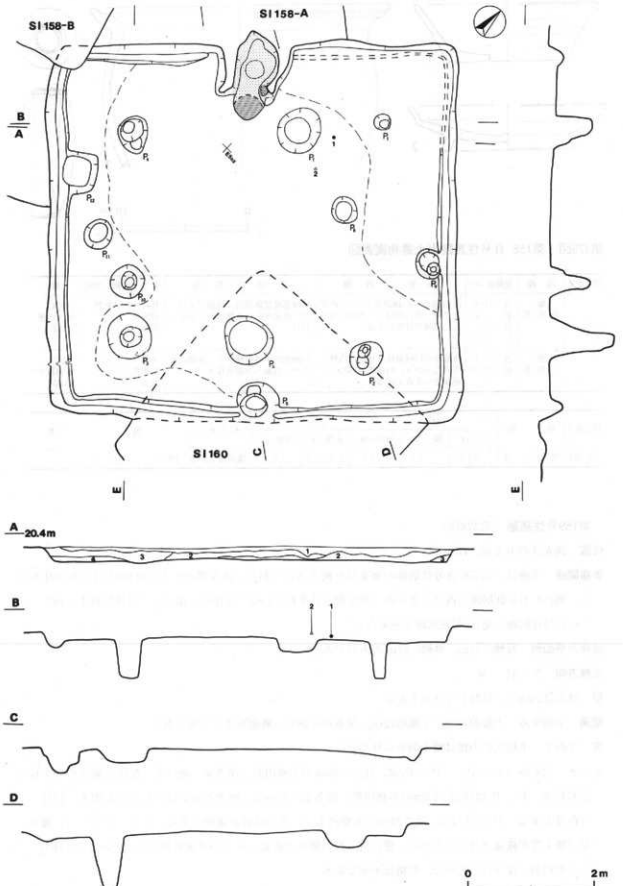
主軸方向　N－44°－W

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

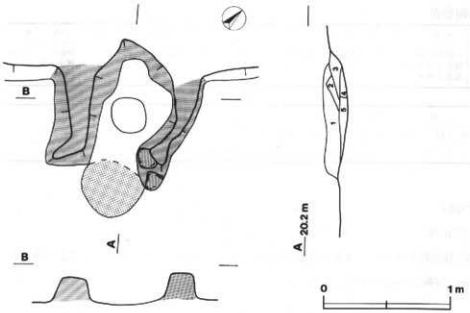
壁溝　全周する。上幅約18cm，下幅約12cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，主柱穴の内側は踏み固められている。

ピット　12か所（P$_1$～P$_{12}$）。P$_1$～P$_4$は，径24～69cmの不整円形，深さ58～86cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_5$，P$_6$は径52～74cmの不整円形，深さ22～32cmで，両者あるいはどちらかが出入り口ピットの可能性がある。P$_7$は径74cm，深さ24cmの不整円形で，その位置が竈横であることと，ピット内に竈材，灰及び焼土等が確認されたことから，竈に何らかの関係のあるピットの可能性がある。P$_8$～P$_{12}$は径41～51cmの不整円形，深さ17～62cmで，性格は不明である。



第376図　第159号住居跡実測図



第377図　第159号住居跡竈実測図

竈　北西壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土と凝灰岩とで構築されており，袖部がわずかに遺存している。火床部は，皿状に6㎝程掘り窪められている。煙道部は，壁外へ約33㎝突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　赤　褐　色　焼土小ブロック多量，焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　灰色多量，焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　明赤褐色　炭化粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土ローム焼土・ローム粒子・粘土粒子少量
4　黄　褐　色　焼土小ブロック・粘土粒子多量，灰中量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，灰・粘土粒子少量

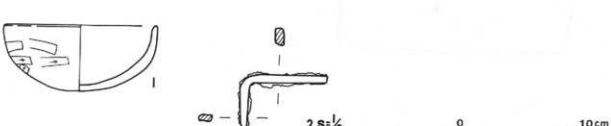
覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量

遺物　土師器片317点が出土している。第378図1の土師器坏，2の鎌は北西壁付近覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6～7世紀）と思われる。



第378図　第159号住居跡出土遺物実測図

第159号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第378図1	坏 上師器	A 11.9 B 5.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内湾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P926 95% 覆土下層 PL93

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第378図2	錘	－	(0.9)	0.5	－	(9.3)	北西寄付近覆土下層	M61

第160号住居跡（第379図）

位置　調査区の中央部，E5h₁区。

重複関係　本跡は，第159号住居跡の床の上に本跡の床面を構築していることから，第159号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸3.72m，短軸3.65mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は4～13cmで，外傾して立ち上がる。

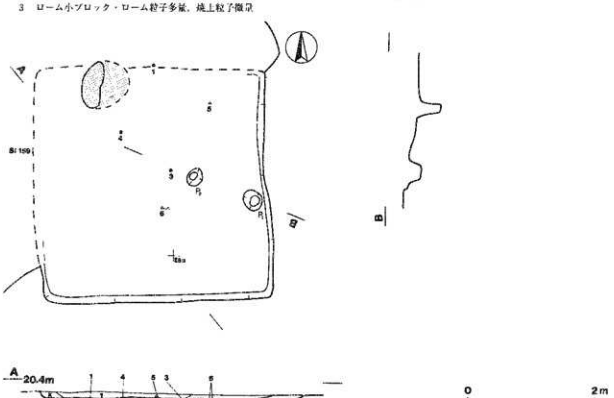
床　廃絶後の風化が激しく，床の様子は捉えられなかった。

ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1，P_2は，径29～31cmの不整円形，深さ19～38cmで，性格は不明である。

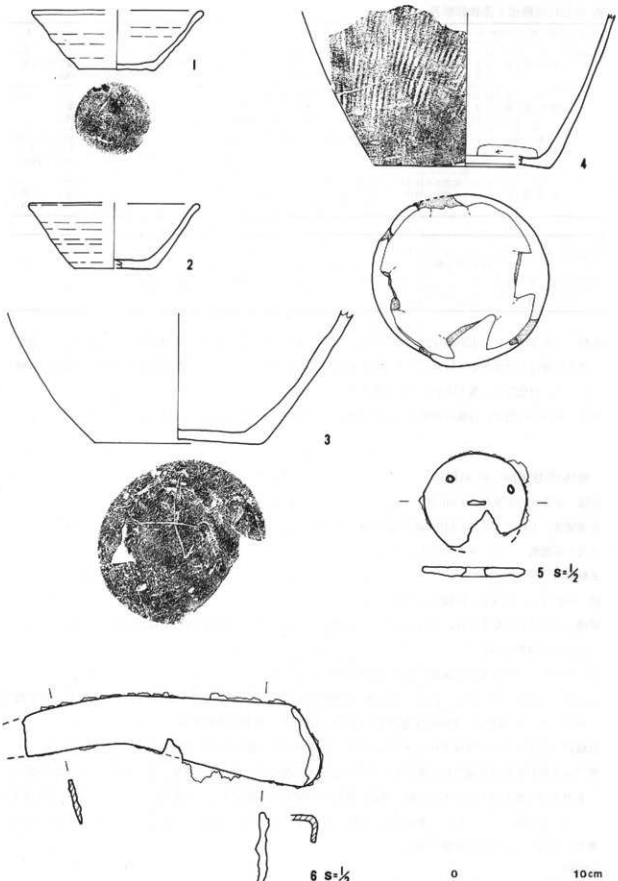
竈　北壁中央部に，わずかに焼土と粘土粒子が確認されており，竈付設の可能性があるが，攪乱がひどく遺存状態が悪いため確定はできない。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子少量，ローム中ブロック・粘土粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子・ローム中ブロック少量，炭化物微量
3　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子微量



第379図　第160号住居跡実測図



第380図　第160号住居跡出土遺物実測図

第160号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第380図1	坏 須恵器	A [13.5] B 4.8 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	石英・長石・鉄状鉱物 褐灰色　普通	P927　45% 遺内覆土下層 PL93
2	坏 須恵器	A [13.4] B 3.2 C [6.1]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的にやや上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ調整。底部周縁ナデ。	長石・鉄状鉱物 黒褐色 普通	P928　25% 覆土中 PL93
3	甕 須恵器	B (10.7) C 13.1	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラナデ。	長石・石英 灰色 普通	P929　20% 竈土下層　底部にヘラ記号あり　PL93
4	甕 須恵器	B (12.3) C 13.8	底部から体部片。5孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面当て具痕，外面ヨコナデ。底部回転ヘラ削り。	雲母・長石・スコリア 褐色　普通	P930　30% 竈上下層　酸化炎　焼成　PL92

図版番号	種別	計測値					胎土・他点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第380図5	紡錘車	−	(5.5)	0.5	0.2	(23.3)	北壁付近覆土中層	M62　PL124
6	鎌	(15.9)	4.5	0.5〜0.7		(64.0)	竈北壁覆土下層	M63　PL124

遺物　土師器片21点，須恵器片42点が出土している。第380図1の須恵器坏は竈内覆土下層から，3の須恵器甕6の鎌は中央部覆土下層から，4の須恵器甕は竈前覆土下層から，5の鉄製紡錘車は北壁付近覆土中層から，2の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第161号住居跡（第381図）

位置　調査区の中央部，E5h₁区。

重複関係　本跡は，第160号住居跡の東壁の一部を掘り込んでいることから，第160号住居跡より新しい。

規模と平面形　一辺2.86mの方形である。

主軸方向　N−58°−E

壁　壁高は9〜11cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北西壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約12cm，下幅約7cm，深さ約8cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，入り口部から竈前にかけて踏み固められている。

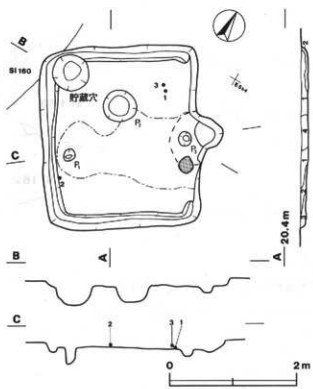
ピット　3か所（P_1〜P_3）。P_1は，径18cmの不整円形，深さ27cmで，配置や規模から出入り口ピットと思われる。P_2，P_3は径24〜48cmの不整円形，深さ9〜25cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　西コーナーに付設され，径58cmの円形，深さ30.0cm，断面形はU字形である。

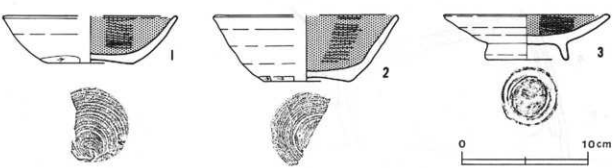
竈　北東壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されている。遺存状態が悪く，竈中央部で焼土層とその下に灰層，袖部で凝灰岩の切石とを確認する。火床部は，ほとんど掘り込みは見られず，床と同レベルである。煙道部は，壁外へ約38cm突出し，壁の内傾からゆるやかに外傾して立ち上がる。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
4　明赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量



第381図　第161号住居跡実測図



第382図　第161号住居跡出土遺物実測図

第161号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第382図 1	坏 土師器	A [13.6] B 3.7 C 6.5	底部から口縁部片。平底。体部は内湾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	長石・礫 黒色 普通	P931 床面 PL84 50%
2	坏 土師器	A [14.4] B 5.1 C 6.6	底部から口縁部片。平底。体部は内湾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	スコリア・砂粒 黒褐色 普通	P932 床面 PL84 40%
3	高台付皿 土師器	A 13.1 B 4.6 D 6.4 E 1.6	口縁部一部欠損。直線的に開く高台が付く。体部は下位に稜を持ち，外傾して直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。体部内面黒色処理。	スコリア・長石 黒褐色 普通	P933 覆土下層 PL84 98%

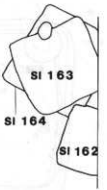
遺物　土師器片92点，須恵器片６点が出土している。第382図１の土師器坏は北コーナー付近床面から，２の土師器坏は南西壁付近床面から，３の高台付皿は北コーナー付近覆土下層から正位の状態でそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。

第162号住居跡（第383図）

位置　調査区の中央部，E5i区。

重複関係　本跡は，第164号住居跡を掘り込んでいるところから，第164号住居跡より新しい。



規模と平面形　遺存する北西壁から推定すると，一辺3.47mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－31°－W

壁　壁高は18～22cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北東壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約13cm，下幅約8cm，深さ約4cmで，断面形はU字形ある。

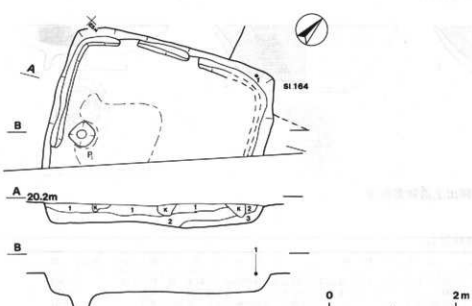
床　平坦で，入り口部から中央部にかけて踏み固められている。

ピット　P_1は，径36cmの不整円形，深さ33cmで，配置や規模から出入り口ピットと思われる。

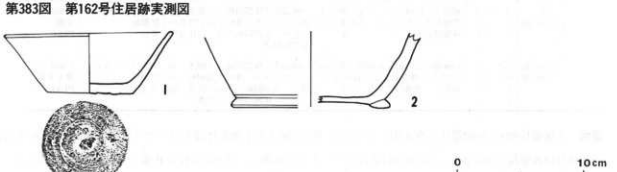
竈　遺物等から判断して竈の存在が考えられるが，エリア外に延びているため確認されていない。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量



第383図　第162号住居跡実測図



第384図　第162号住居跡出土遺物実測図

第162号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第384図1	坏 須恵器	A 13.3 B 4.6 C 6.9	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後無調整。 底部周縁ナデ。	礫・長石 褐灰色 普通	P934 98% 覆土中層 PL94
2	長頸瓶 須恵器	B (6.0) C [12.2]	高台部から体部片。台形状の短い高台が付く。体部は内湾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部切り離し後高台張り付け。	砂粒 褐灰色 普通	P935 5% 覆土中 PL94

遺物　土師器片183点，須恵器片41点が出土している。第384図1の須恵器坏は北コーナー付近覆土中層から，2の須恵器長頸瓶は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第163号住居跡（第385図）

位置　調査区の中央部，E5h$_1$区。

重複関係　本跡は，第164号住居跡を掘り込んでいることから，第164号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸4.58m，短軸4.46mの方形である。

主軸方向　N－18°－E

壁　壁高は17～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下のうち，東壁に認められる。上幅約15cm，下幅約5cm，深さ約4cmである。

床　平坦で，入り口部と竈前付近が踏み固められている。

ピット　4か所（P$_1$～P$_4$）。P$_1$～P$_4$は，径32～43cmの不整円形，深さ41～54cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されている。袖部の先端には，左右で同一個体の土器を補強材として使用している。火床部は，わずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は，壁外へ約64cm突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

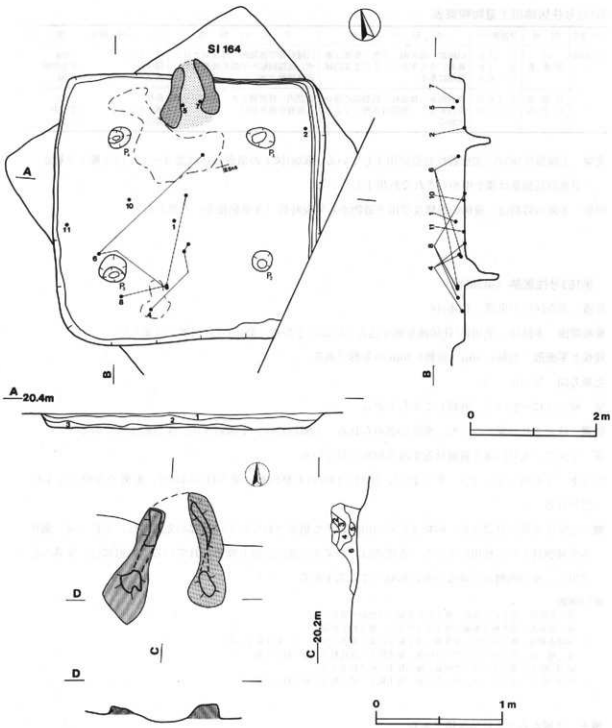
竈土層解説
1　鈍い黄褐色　粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　鈍い赤褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量
3　極暗赤褐色　焼土小ブロック多量，焼土粒子中量，焼土中ブロック・粘土粒子少量
4　赤　褐　色　焼土中・小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量
6　暗赤褐色　焼土中・小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片246点，須恵器片2点が出土している。第386・387図1の土師器坏は中央部覆土中層から，10の甕，11の手捏土器は同床面から，2の坏は東コーナー付近床面から，4と8の甕は中央部から南西壁付近床面に散在した状態で，5と7の甕は竈内覆土中から，6の甕は住居内覆土下層に散在した状態で，9の甕は覆土中からそれぞれ出土している。

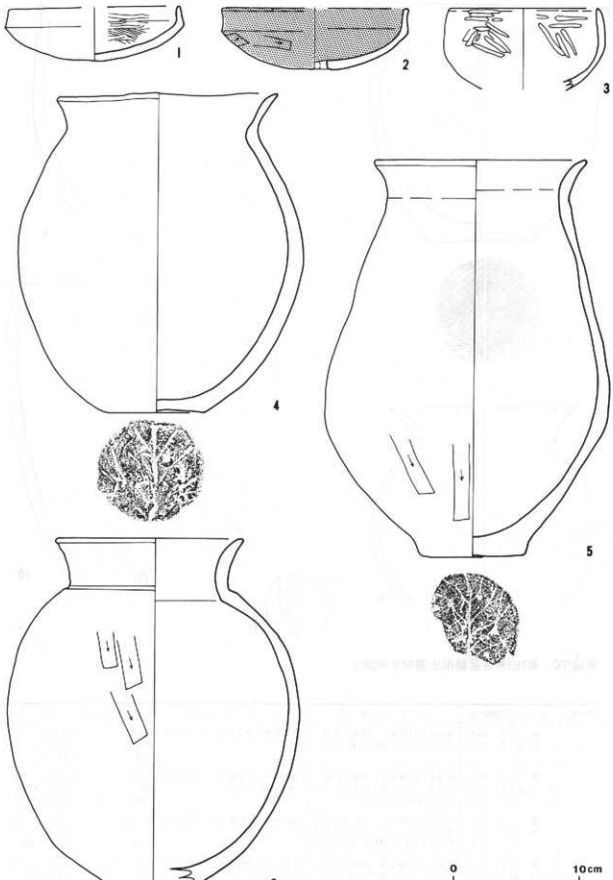
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



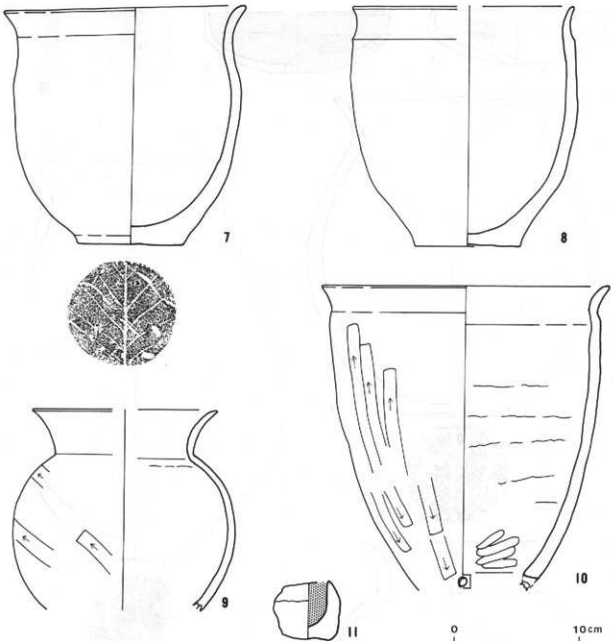
第385図　第163号住居跡実測図

第163号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第386図 1	坏 土師器	A [13.5] B 4.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内面横位のヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。	砂粒・スコリア 黒褐色 普通	P936　50% 覆土中層 PL94
2	坏 土師器	A [14.4] B 4.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・スコリア 黒褐色 普通	P937　40% 床面 PL94



第386図　第163号住居跡出土遺物実測図(1)



第387図　第163号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	椀 土師器	A 11.8 B（6.5）	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。	砂粒 暗赤褐色 普通	P938　25% 覆土中 PL94
4	甕 土師器	A 17.1 B 25.2 C 7.9	底部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	スコリア・長石・砂粒 黒褐色　普通	P939　95% 軍面　底部に木葉痕あり　PL94
5	甕 土師器	A 16.5 B 31.5 C 8.5	底部から口縁部片。平底。体部は内湾して立ち上がり，最大径を中位やや下に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ→部ヘラ削り。	礫・長石 鈍い赤褐色 普通	P940　70% 竪穴覆土中　底部に木葉痕あり　PL94
6	甕 土師器	A 14.5 B (28.0) C［7.0］	底部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り一部磨き。	長石・礫 橙色 普通	P941　50% 覆土下層 PL94

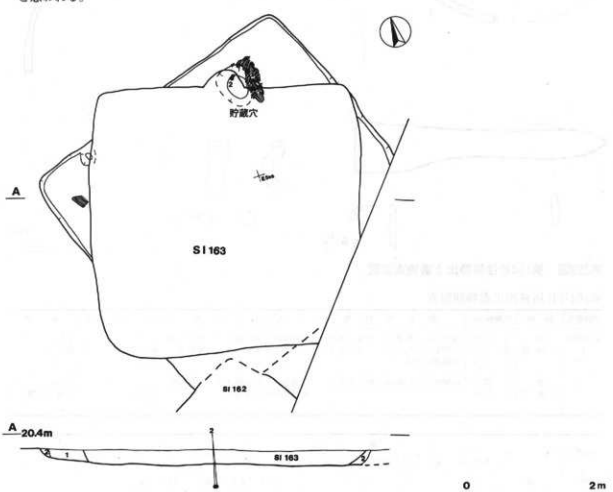
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第387図 7	甕 土師器	A 19.1 B 19.1 C 8.4	底部から口縁部片。平底。体部は内湾気味に直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・スコリア 明赤褐色 普通	P942 60% 竈内置土中 体部 外面煤付着 PL94
8	甕 土師器	A［17.4］ B 19.1 C 8.2［	底部から口縁部片。平底。体部は内湾気味に直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・長石 鈍い橙色 普通	P943 50% 床面 体部外面 煤付着 PL94
9	甕 土師器	A［14.0］ B（15.9）	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P944 50% 覆土中 PL94
10	甕 土師器	A 23.0 B（24.2）	底部から口縁部片。無底式。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面縦位のヘラ削り。	長石・スコリア・雲母 暗赤褐色 普通	P945 90% 床面 PL94
11	手捏土器 土師器	A 3.6 B 4.6 C 4.2	平底。体部は肉厚で直線的に立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ナデ後磨き。内面黒色処理。	砂粒・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P946 100% 床面

第164号住居跡（第388図）

位置　調査区の中央部，E5g$_4$区。

重複関係　本跡は，中央部を第163号住居跡に掘り込まれていることから，第163号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する北東コーナーと北西コーナーから推定すると，一辺4.77m程の方形あるいは長方形と思われる。



第388図　第164号住居跡実測図

主軸方向　N－17°－W

壁　壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下のうち，西壁の一部に認められる。上幅約9cm，下幅約5cmである。

床　大部分が掘り込まれているため，詳細は不明であるが，確認できた範囲は平坦である。

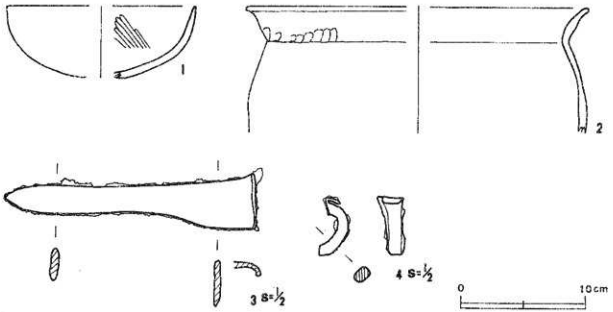
貯蔵穴　北東コーナーに付設され，長径68cm，短径52cmの楕円形，深さは48cmで，断面形は逆台形である。貯蔵穴上面からは，燃えて炭化した茅が出土している。

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　土師器片202点，炭化材4点が出土している。第389図1の土師器坏は覆土中から，2の甕は貯蔵穴内底面にやや傾いた状態で，3の縁は貯蔵穴内覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細は不明であるが，第163号住居跡との重複関係や出土遺物から古墳時代中期（5世紀頃）と思われる。



第389図　第164号住居跡出土遺物実測図

第164号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	坏 土師器	A［14.8］ B 5.7 C［3.8］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ，体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。	スコリア 橙褐赤褐色 普通	P947　30% 覆土中
2	甕 土師器	A［27.0］ B［10.0］	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ，口縁部外面に指頭圧痕を残す。	スコリア・長石 黒褐色 普通	P548　5% 貯蔵穴内覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第389図 3	鎌	13.5	3.3	0.4	－	28.1	貯蔵穴内覆土中	M64　PL124
4	不明鉄製品	(3.0)	－	(0.8)	－	(5.6)	西壁際床直上下層	M65　PL124

茨城県教育財団文化財調査報告第128集
一般国道６号東水戸道路改築工
事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

三反田下高井遺跡
（上巻）

平成10（1998）年３月16日 印刷
平成10（1998）年３月20日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和１丁目356番の2
ＴＥＬ 029－225－6587

印刷 有限会社 川田プリント
〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6番53号
ＴＥＬ 029－253－5551㈹